

常磐自動車道  
相馬工事

かやぐらばし（下部工）

設 計 図

令和6年11月

1	本線土工
2	相馬IC土工
3	函渠工
4	宇多川橋（下部工）
5	馬藩沢橋（下部工）
6-1	信田橋（下部工）
6-2	信田橋（上部工）
7-1	黒木橋（下部工）
7-2	黒木橋（上部工）
8	かやぐらばし（下部工）
9	大野台希望の橋(下部工)
10	附帯工
11	詳細図
12	参考図
13	契約参考図書

東日本高速道路株式会社 東北支社  
いわき工事事務所

図面目次（かやぐらばし（下部工））

図面番号	図 面 名	図面番号	図 面 名
1	かやぐらばし 下部工数量総括表	73	かやぐらばし P1大型土のう配置図
2 ～ 3	かやぐらばし 橋梁一般図(1)～(2)	74	かやぐらばし A1橋台 既設補強土壁撤去図
4	かやぐらばし 下部工座標図	75	かやぐらばし A2橋台 既設補強土壁撤去図
5 ～ 6	かやぐらばし A1橋台 構造一般図(1)～(2)		
7 ～ 19	かやぐらばし A1橋台 配筋図(1)～(13)		
20	かやぐらばし A1橋台 踏掛版配筋図		
21 ～ 22	かやぐらばし A1橋台 深礎杭配筋図(1)～(2)		
23	かやぐらばし A1橋台 深礎杭土留工図		
24	かやぐらばし A1橋台 裏込め工排水工詳細図		
25	かやぐらばし P1橋脚 構造一般図		
26 ～ 30	かやぐらばし P1橋脚 配筋図(1)～(5)		
31 ～ 32	かやぐらばし A2橋台 構造一般図(1)～(2)		
33 ～ 45	かやぐらばし A2橋台 配筋図(1)～(13)		
46	かやぐらばし A2橋台 踏掛版配筋図		
47 ～ 48	かやぐらばし A2橋台 深礎杭配筋図(1)～(2)		
49	かやぐらばし A2橋台 深礎杭土留め工図		
50	かやぐらばし A2橋台 裏込め工排水工詳細図		
51	かやぐらばし L型擁壁一般図		
52 ～ 64	かやぐらばし L型擁壁配筋図(1)～(13)		
65	かやぐらばし A2橋台 重力式擁壁一般図		
66 ～ 67	かやぐらばし A1橋台 土留工構造図(1)～(2)		
68	かやぐらばし A1橋台 横矢板詳細図		
69 ～ 71	かやぐらばし A2橋台 土留工構造図(1)～(3)		
72	かやぐらばし A2橋台 横矢板詳細図		

下部工数量総括表

項目	細目	規格寸法	単位	A1	P1	A2	合 計	備 考	
構造物掘削	普通部		m <sup>3</sup>	－	633.1	－	633.1	埋戻し 454.2m <sup>3</sup>	
	特殊部A9		〃	1378.1	－	－	1378.1	埋戻し 371.0m <sup>3</sup>	
	特殊部A10		〃	－	－	10266.3	10266.3	埋戻し 521.5m <sup>3</sup>	
基礎材	B	RC-40	m <sup>3</sup>	11.2	－	11.2	22.4		
裏込め材(土工)	裏込め工B		m <sup>3</sup>	509.0	－	1050.4	1559.4	(一次施工)	
地下排水工	Du-Pφ0.15,0.50,0.50		m	7.7	－	9.2	16.9		
基礎杭	場所打ちコンクリート杭	(人力掘削、φ3000)	m	22.0	－	34.0	56.0		
	埋設ライナープレート	(φ3000,t=2.7mm)	m	22.0	－	34.0	56.0		
	裏込めグラウト		m <sup>3</sup>	19.4	－	31.2	50.6		
コンクリート	A1-3	σck=30N/mm <sup>2</sup>	下部工	m <sup>3</sup>	322.9	181.6	388.8	893.3	
	B2-1	σck=24N/mm <sup>2</sup>	下部工	〃	302.1	159.0	302.1	763.2	
		σck=24N/mm <sup>2</sup>	杭 体	m <sup>3</sup>	155.5	－	240.3	395.8	
		計		m <sup>3</sup>	457.6	159.0	542.4	1159.0	
	D1-1	σck=18N/mm <sup>2</sup>	下部工	〃	5.6	7.6	5.6	18.8	
	C		下部工施工	m <sup>2</sup>	585.0	253.3	724.9	1563.2	
型わく	D		〃	3.5	3.5	3.5	10.5		
鉄筋	A	下部工	D13	t	－	－	－	－	SD345
			D16～D25	〃	2.446	6.733	1.717	10.896	
			D29～D32	〃	2.625	2.261	9.032	13.918	
			D35	〃	6.357	－	－	6.357	
			小計	〃	11.428	8.994	10.749	31.171	
		基礎杭	D16～D25	〃	11.804	－	12.881	24.685	
			D29～D32	〃	1.504	－	5.920	7.424	
			小計	〃	13.308	0.000	18.801	32.109	
			合計	〃	24.736	8.994	29.550	63.280	
	A(E)	下部工	D13	t	0.864	－	1.003	1.867	
			D16～D25	〃	10.550	－	7.025	17.575	
			D29～D32	〃	8.291	－	14.002	22.293	
			D35	〃	3.380	－	6.772	10.152	
			D41	〃	－	－	6.812	6.812	
			小計	〃	23.085	－	35.614	58.699	
	B	下部工	D29～D32	〃	－	1.183	3.439	4.622	
			D35	〃	4.138	7.513	－	11.651	
			D51	〃	－	18.020	－	18.020	
			小計	〃	4.138	26.716	3.439	34.293	
		機械式継手	普通鉄筋	箇所	38	185	38	261	
	B(E)	下部工	D29～D32	t	0.956	－	2.562	3.518	
			D35	〃	－	－	0.676	0.676	
			小計	〃	0.956	－	3.238	4.194	
		機械式継手	エポキシ樹脂鉄筋	箇所	13	－	37	50	
	C	下部工	D16～D25	t	1.473	3.286	1.537	6.296	
			小計	〃	1.473	3.286	1.537	6.296	
		基礎杭	D16～D25	〃	0.599	－	3.418	4.017	
			合計	〃	2.072	3.286	4.955	10.313	
		機械式定着加工(下部工)	普通鉄筋	箇所	231	460	239	930	
		機械式定着加工(基礎工)	普通鉄筋	箇所	64	－	392	456	
	C(E)	下部工	D13	t	0.279	－	0.316	0.595	
			D16～D25	〃	2.006	－	2.159	4.165	
			小計	〃	2.285	－	2.475	4.760	
		鉄筋質量合計	〃	43.365	38.996	57.052	139.413		
		機械式定着加工(下部工)	エポキシ樹脂鉄筋	箇所	688	－	754	1442	

附帯工数量総括表

項目	細目	規格寸法	単位	数 量				備 考
				L1	L2	重力式擁壁	合 計	
基礎材	B	RC-40	m <sup>3</sup>	-	-	1.1	1.1	
コンクリート	A1-3		m <sup>3</sup>	233.0	83.5	-	316.5	
	B2-1		m <sup>3</sup>	267.0	212.0	-	479.0	
	C2-1		m <sup>3</sup>	-	-	9.3	9.3	
	D1-1		m <sup>3</sup>	16.9	13.5	-	30.4	
型 わ く	C		m <sup>2</sup>	399.2	162.2	25.9	587.3	
	D		m <sup>2</sup>	5.2	3.3	-	8.5	
鉄 筋	A	D 13	t	0.864	0.708	-	1.572	SD345
		D16～D25	t	1.854	2.614	-	4.468	
		D29～D32	t	6.266	-	-	6.266	
		合 計	t	8.984	3.322	-	12.306	
	A (E)	D 13	t	0.176	-	-	0.176	
		D16～D25	t	1.697	2.418	-	4.115	
		D29～D32	t	15.414	-	-	15.414	
		合 計	t	17.287	2.418	-	19.705	
	B	D 13	t	-	-	-	-	
		D16～D25	t	-	3.651	-	3.651	
		D29～D32	t	18.908	-	-	18.908	
		合 計	t	18.908	3.651	-	22.559	
	C (E)	機械式継手	箇所	209	82	-	291	
		D13	t	0.881	0.322	-	1.203	
		機械式鉄筋定着加工数	箇所	544	199	-	743	
		透水マットA	m <sup>2</sup>	-	-	-	24.7	
裏面排水工	透水マットA		m <sup>2</sup>	-	-	-	24.7	B=400
転落防止柵工	A		m	-	-	-	26.7	
工事用道路工	耐候性大型土のう 設置・撤去		袋	-	-	-	12.0	

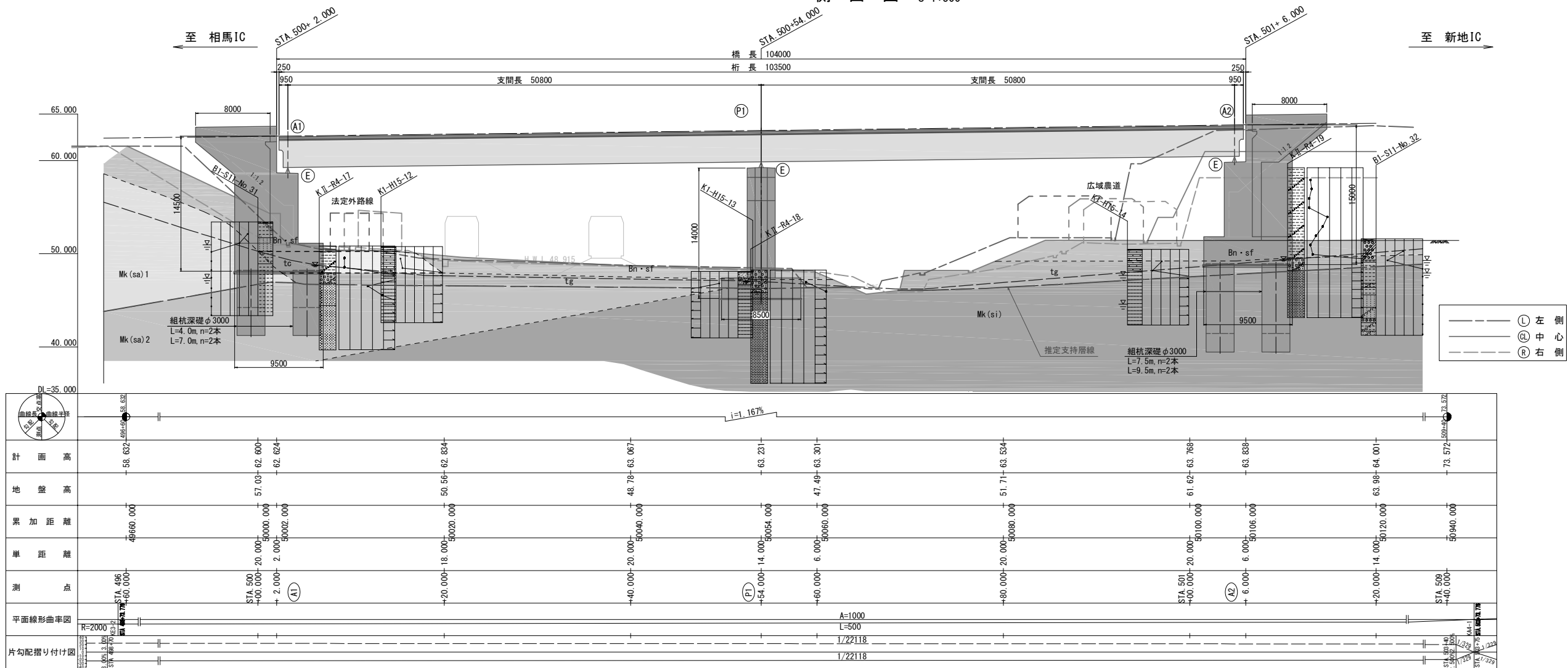
仮設工数量総括表

工種	項目	種別	区分	単位	数量			
					A1橋台	P1橋脚	A2橋台	合計
構造物取壊し工	帯補強土壁撤去工	補強土壁	-	m <sup>2</sup>	61.0	-	205.7	266.7

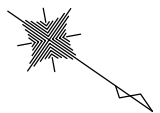
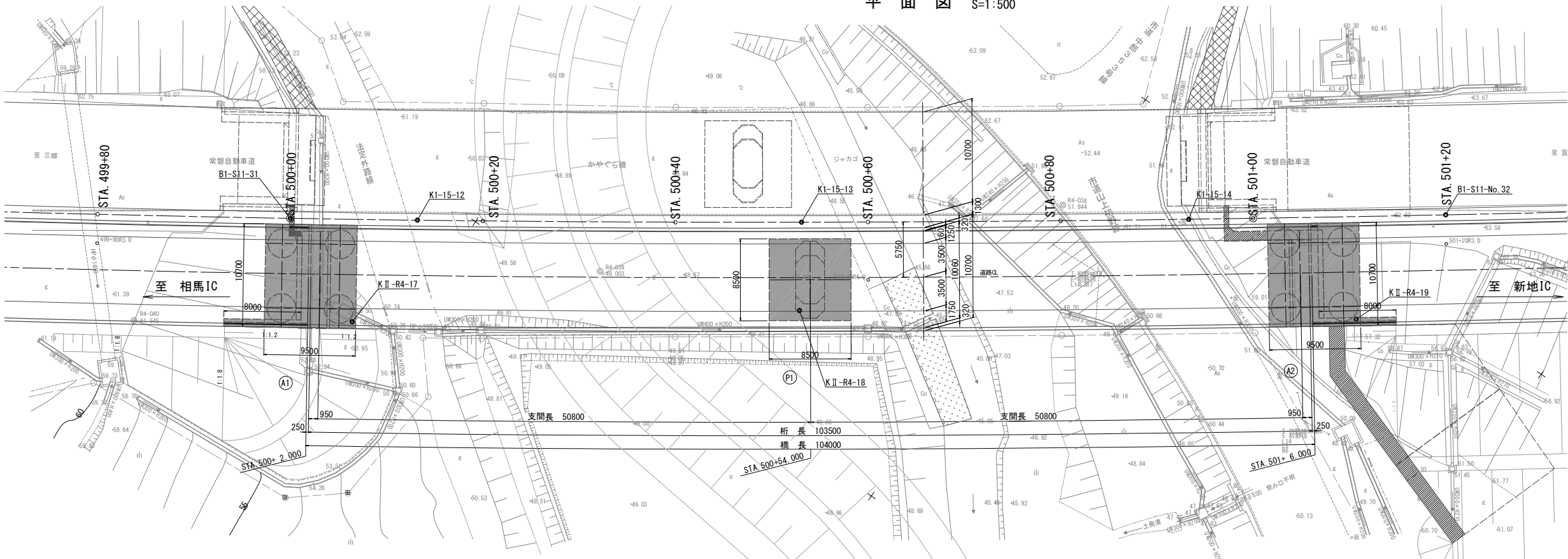
常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし 下部工数量総括表		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 い わ き 工 事 事 務 所		

かやぐらばし 橋梁一般図(1)

側面図 S=1:500

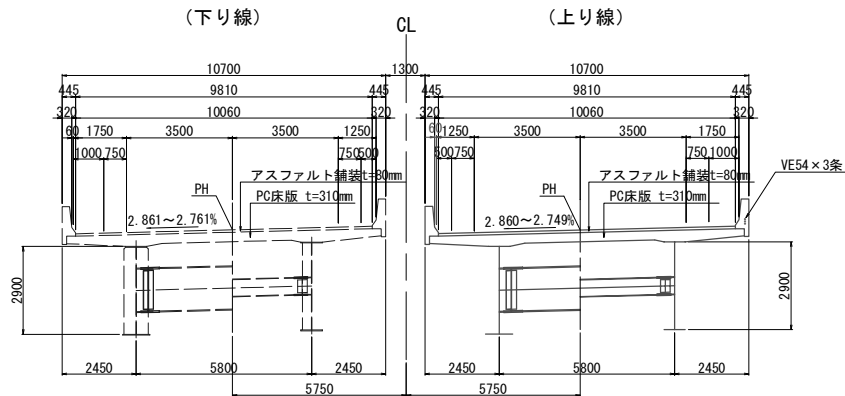


平面図 S=1:500



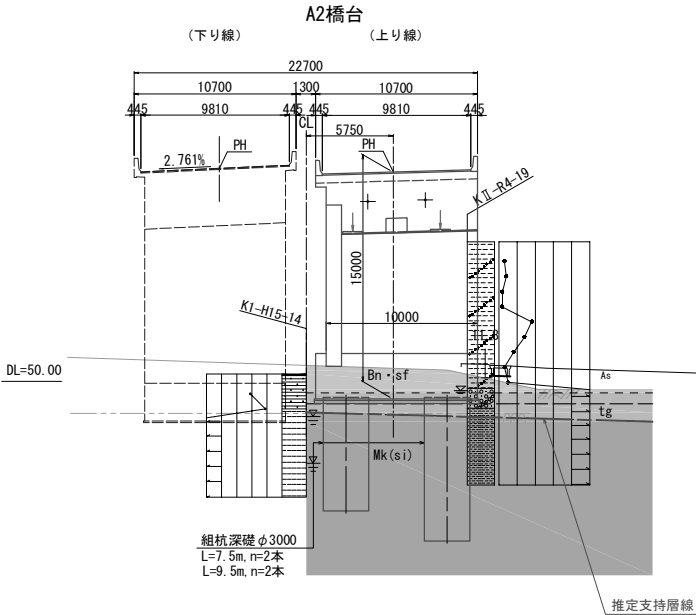
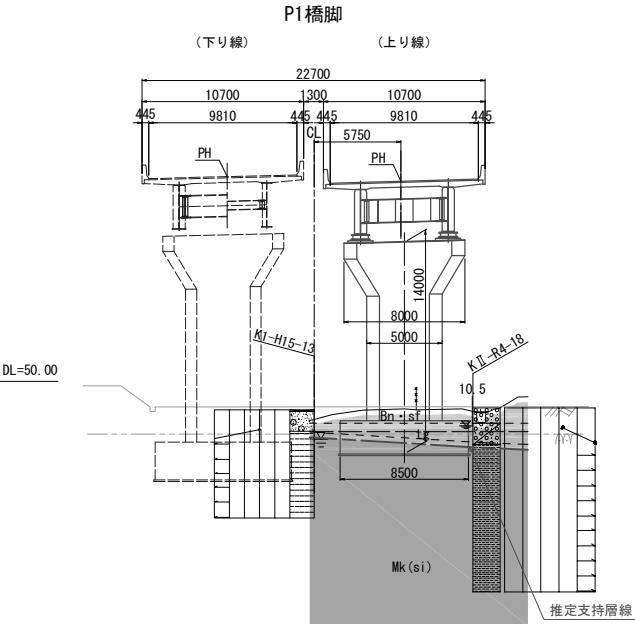
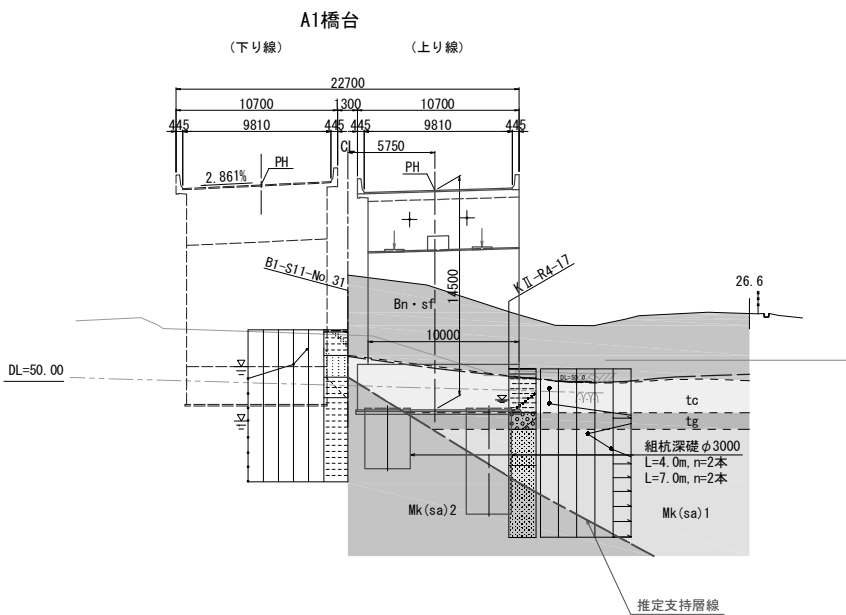
常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし 橋梁一般図(1)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

標準横断面図 S=1:250

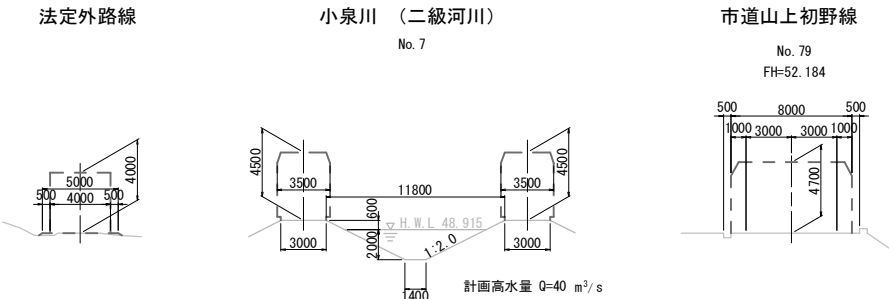


設計条件			
道路規格	第1種2級B規格	設計速度	V=100 km/h
計画交通量	大型車 3,067台 (2方向・台/日)		
活荷重	B活荷重	雪荷重	考慮しない
橋長	L=104,000 m	桁長	L=103,500 m
支間長	L= 50.800 m + 50.800 m		
有効幅員	W= 9.810 m		
縦断勾配	1.167 ‰		
平面線形	A= 1000 m		
横断勾配	2.860~2.749 ‰		
斜角	90° -00' -00"		
重要度区分	B種の橋		
地域区分	A2地域(福島県相馬市)		
設計水平震度	水平震度 KH = 0.20		
地盤種別	I種地盤		
支持層	A1:極細粒砂岩(Mk(sa)2) P1,A2:シルト岩(Mk(si))		
上部工	上部工形式	鋼2径間PC床版連続合成2主桁桁橋	
	架設工法	トラックレーンベント架設	
	舗装	アスファルト舗装 t= 80 mm	
	支承	免震支承	
	高欄形式	フロリダ型壁高欄S8種	
下部工	コンクリート	床版 $\sigma_{ck} = 40 \text{ N/mm}^2$ 地覆、壁高欄 $\sigma_{ck} = 30 \text{ N/mm}^2$	
	鉄筋	材質 SD345	
	PC鋼材	SNPR19L, 1S28.6	
	鋼材	SM520, SM490Y, SM400, SS400, S10T	
下部工	下部工形式	A1: 逆T式橋台 P1: 張出し橋脚 A2: 逆T式橋台	
	コンクリート	躯体 $\sigma_{ck} = 30 \text{ N/mm}^2$ フーチング $\sigma_{ck} = 24 \text{ N/mm}^2$	
	鉄筋	材質 SD345	
	基礎形式	A1:組杭基礎 P1:直接基礎 A2:組杭基礎	
適用基準		道路橋示方書・同解説 I～V (日本道路協会) 平成29年11月 設計要領第二集 (東日本高速道路株式会社) 平成28年 6月	

下部工正面図 S=1:500



交差条件 S=1:500



常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし 橋梁一般図(2)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

A1橋台座標

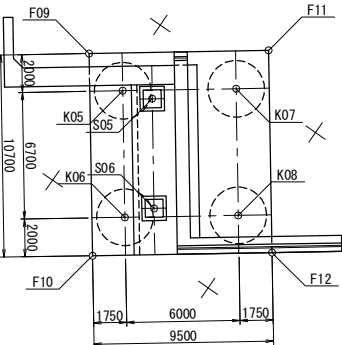
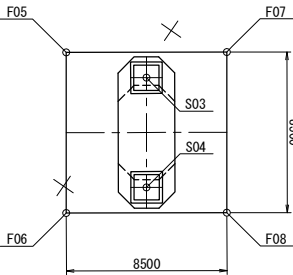
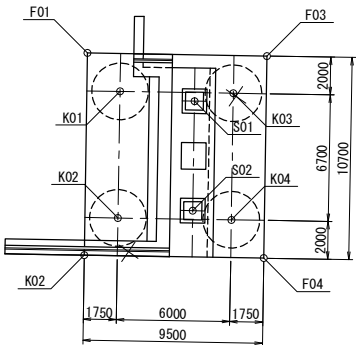
		x	y
支 承	S01	201.488.3370	92.311.4562
	S02	201.491.5609	92.316.2777
フーチング	F01	201.482.2370	92.312.5881
	F02	201.488.1846	92.321.4829
	F03	201.490.1342	92.307.3076
	F04	201.496.0818	92.316.2023
深礎杭	K01	201.484.8034	92.313.2780
	K02	201.488.5276	92.318.8476
	K03	201.489.7911	92.309.9429
	K04	201.493.5153	92.315.5125

P1橋脚座標

		x	y
支 承	S03	201.530.3432	92.282.7916
	S04	201.533.6533	92.287.5543
フーチング	F05	201.526.0829	92.284.1085
	F06	201.530.9338	92.291.0883
	F07	201.533.0627	92.279.2575
	F08	201.537.9137	92.286.2373

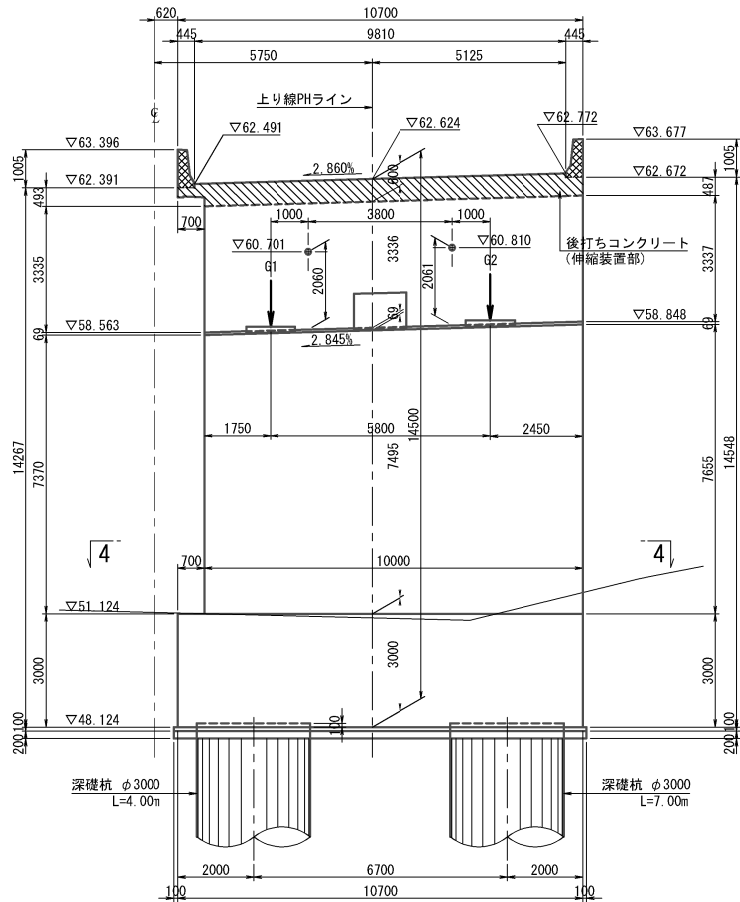
A2橋台座標

		x	y
支 承	S05	201.571.8716	92.253.4530
	S06	201.575.2541	92.258.1646
フーチング	F09	201.567.7622	92.253.3874
	F10	201.574.0022	92.262.0795
	F11	201.575.4795	92.247.8472
	F12	201.581.7195	92.256.5393
深礎杭	K05	201.570.3502	92.253.9915
	K06	201.574.2575	92.259.4342
	K07	201.575.2242	92.250.4925
	K08	201.579.1315	92.255.9351

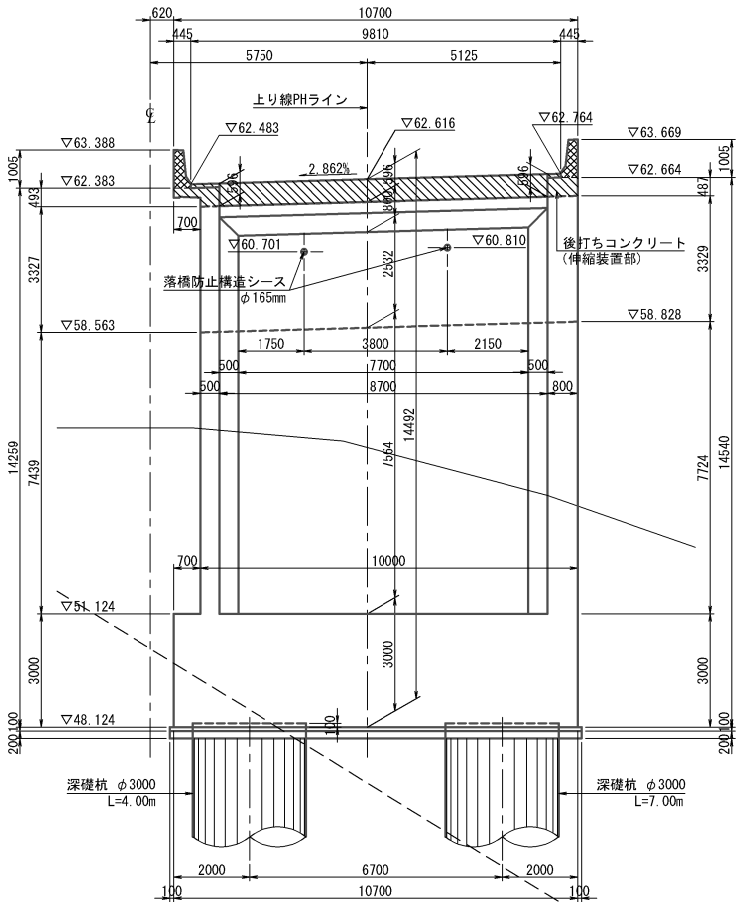


常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし 下部工座標図		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 い わ き 工 事 事 務 所		

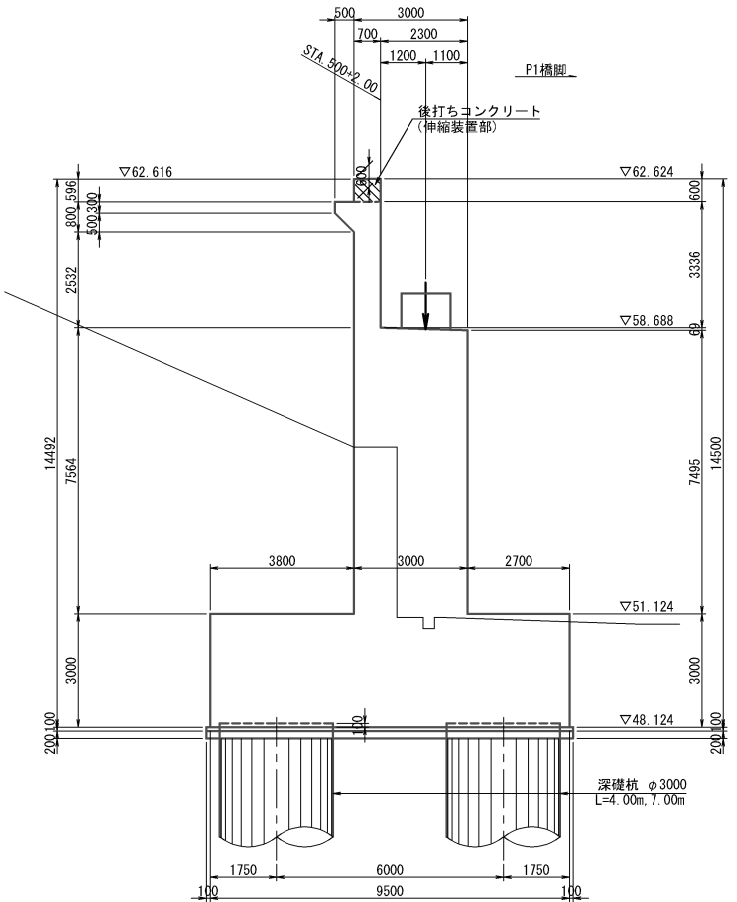
正面図(1-1)



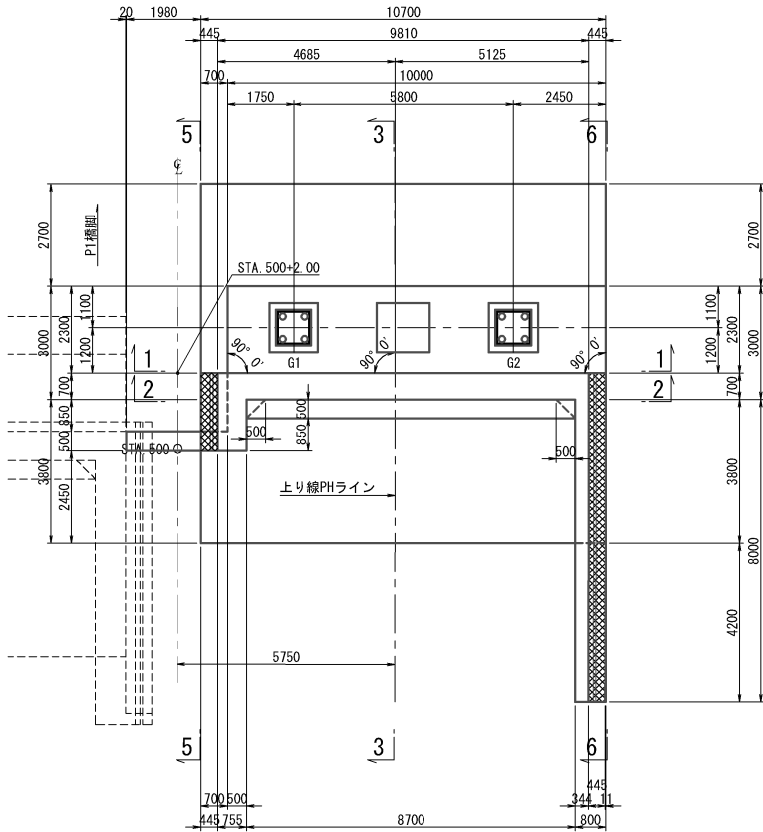
背面図(2-2)



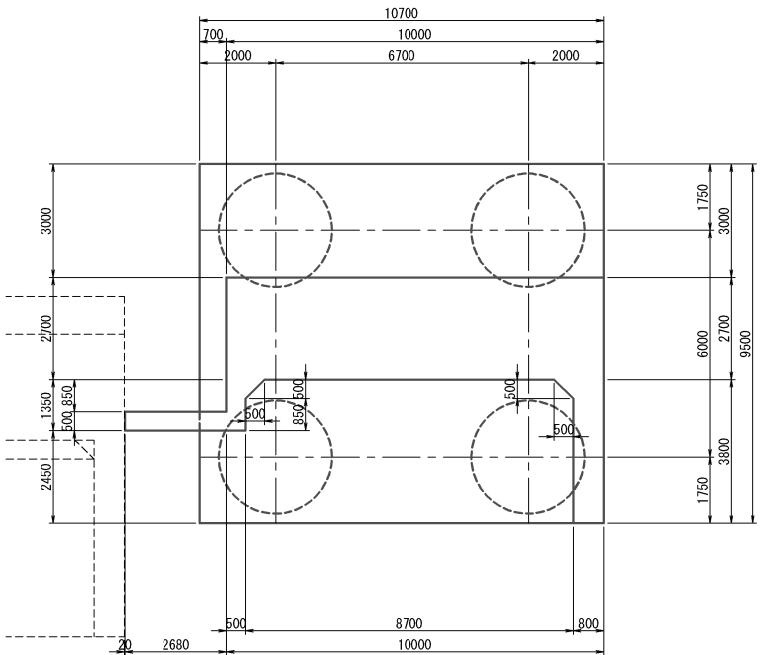
3 - 3



平面図



杭配置図(4-4)

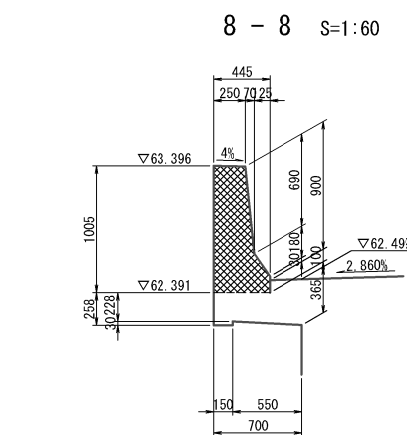
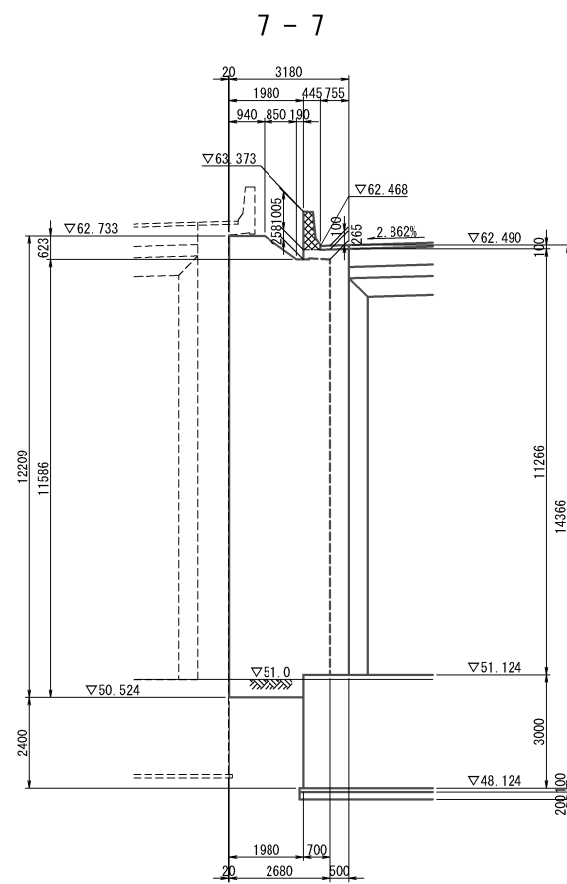
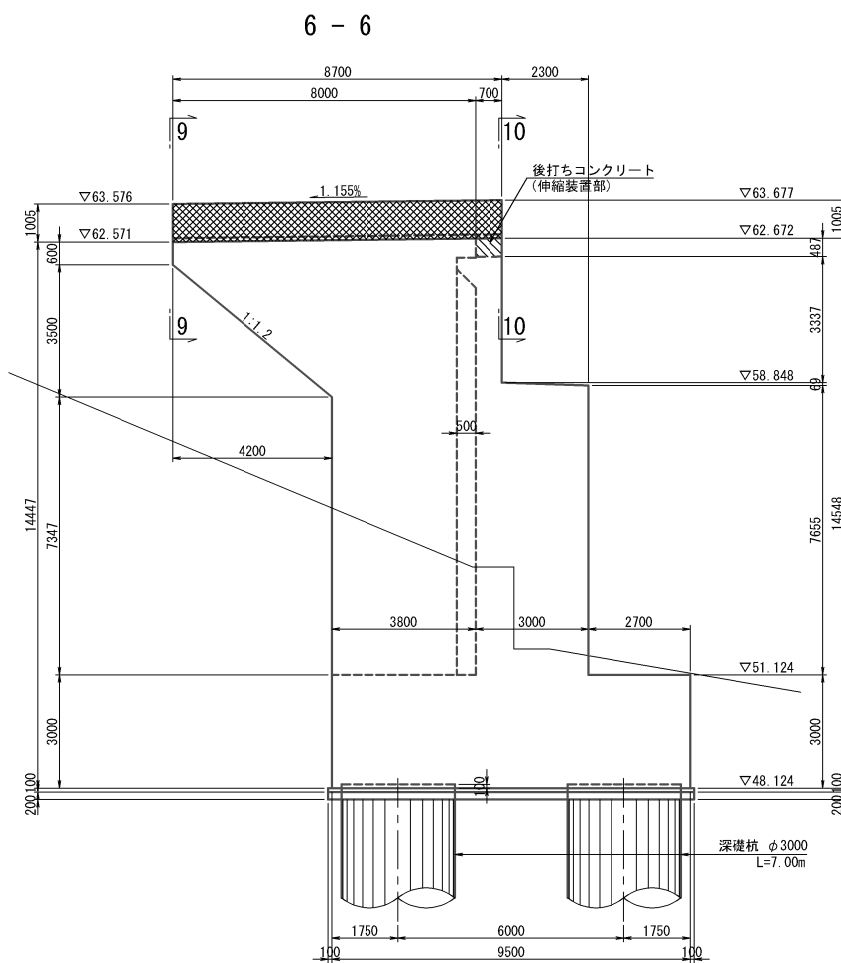
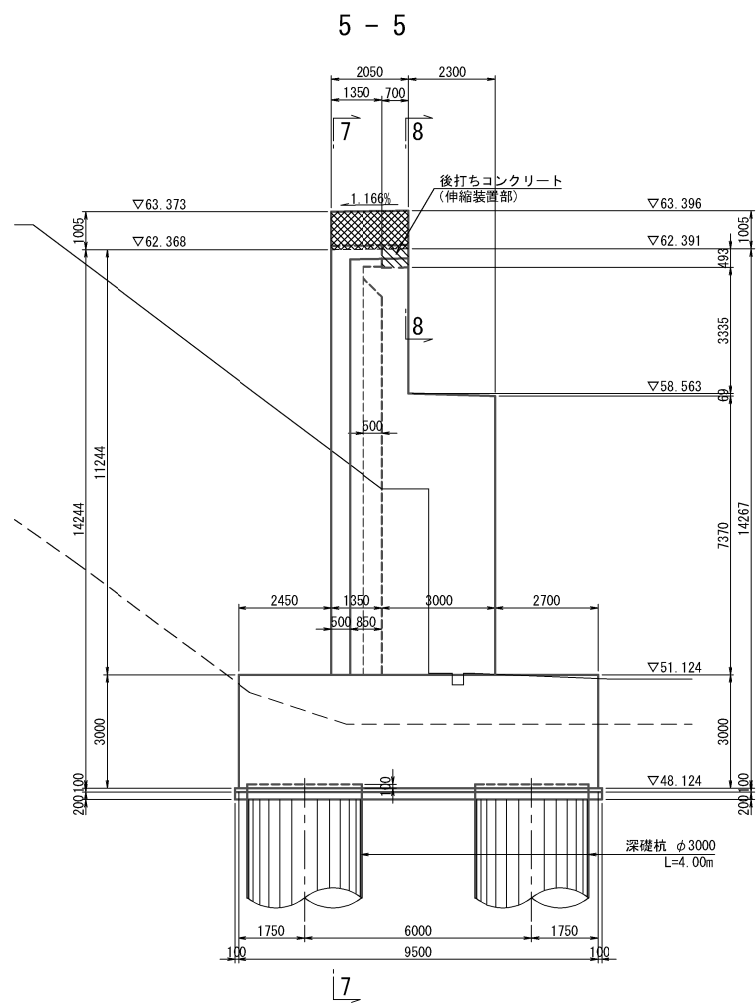


設計条件

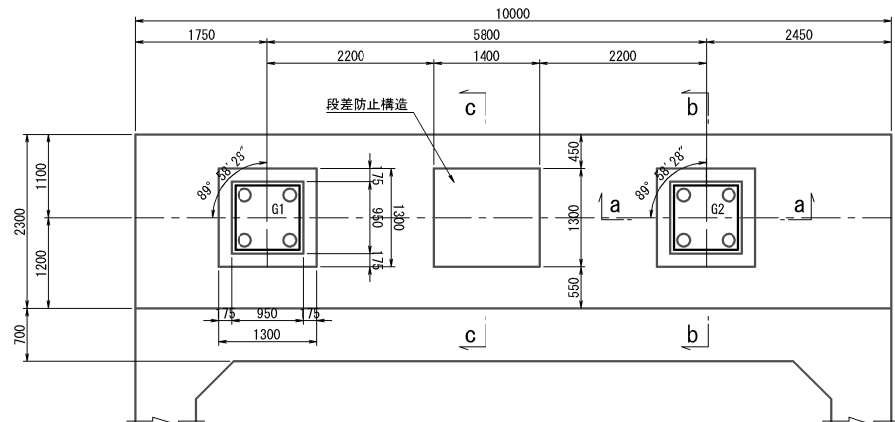
道 路 規 格	第1種 2級 B規格			
重 要 度 区 分	B種の橋			
活 荷 重	B活荷重			
地 域 区 分	A2地区			
地 盤 種 別	I 種地盤			
斜 角	∠R(支承設置角: 89° 58' 28")			
適 用 示 方 書	道路橋示方書・同解説 社) 日本道路協会(平成29年11月) 設計要領第二集 東日本高速道路株式会社(平成28年6月)			
設 計 標 準 水 度	レベル1	レベル2-Ⅰ	レベル2-Ⅱ	
	橋軸方向	0.20	0.83	0.85
	直角方向	0.20	0.84	0.85
下 部 構 造	形 式	逆T式		
	基 礎	組杭深礎基礎φ3000		
	材 料	コンクリート 躯体: σ <sub>ck</sub> =30N/mm <sup>2</sup> 、底版: 深礎: σ <sub>ck</sub> =24N/mm <sup>2</sup> 鉄 筋 SD345		
	支持地盤	極細粒砂岩 (Mk (sa) 2層)		

・ 本図で示す標高はすべてT P表示とする。  
・ 図で示すハッチング部は、上部施工とする。

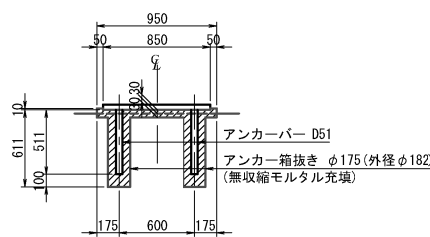
常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし	A1橋台構造一般図(1)	
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



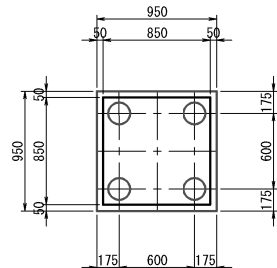
橋座面展開図 S=1:100



支承箱抜き詳細図 S=1:60

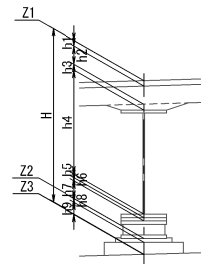


平面図

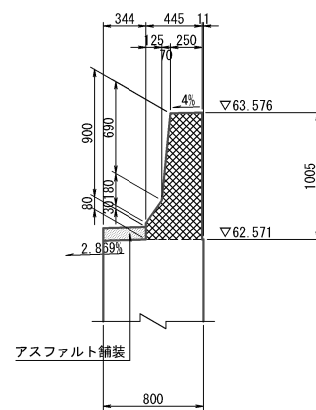


構造高表

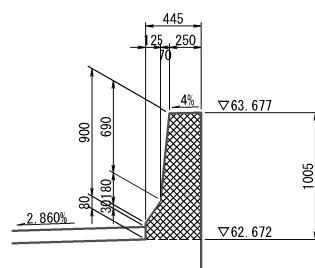
	G1	G2
路面標高	Z1 62.561	62.727
舗装厚	h1 0.080	0.080
床版厚	h2 0.310	0.310
ハンチ高	h3 0.100	0.100
主桁高	h4 2.900	2.900
下フランジ厚	h5 0.026	0.026
支承高	h7 0.373	0.373
沓座面標高	Z2 58.747	58.912
沓座モルタル厚	h8 0.030	0.030
台座コンクリート高	h9 0.140	0.140
構造高合計	H 3.986	3.986
下部工天端標高	Z3 58.575	58.741



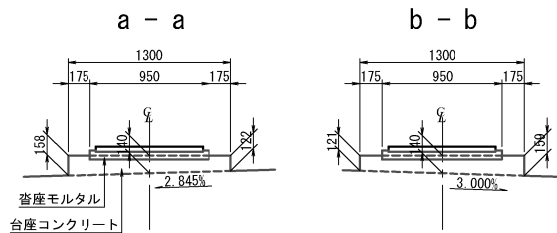
9 - 9 S=1:60



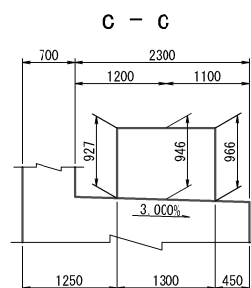
10 - 10 S=1:60



台座コンクリート詳細図 S=1:60



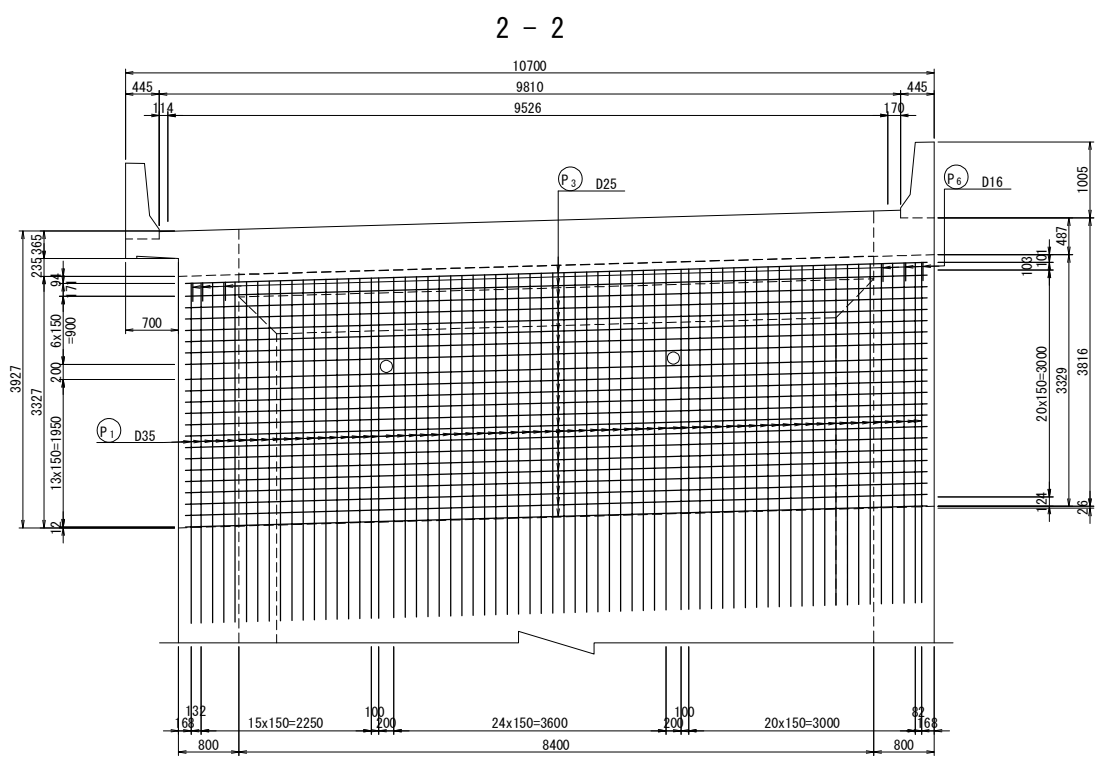
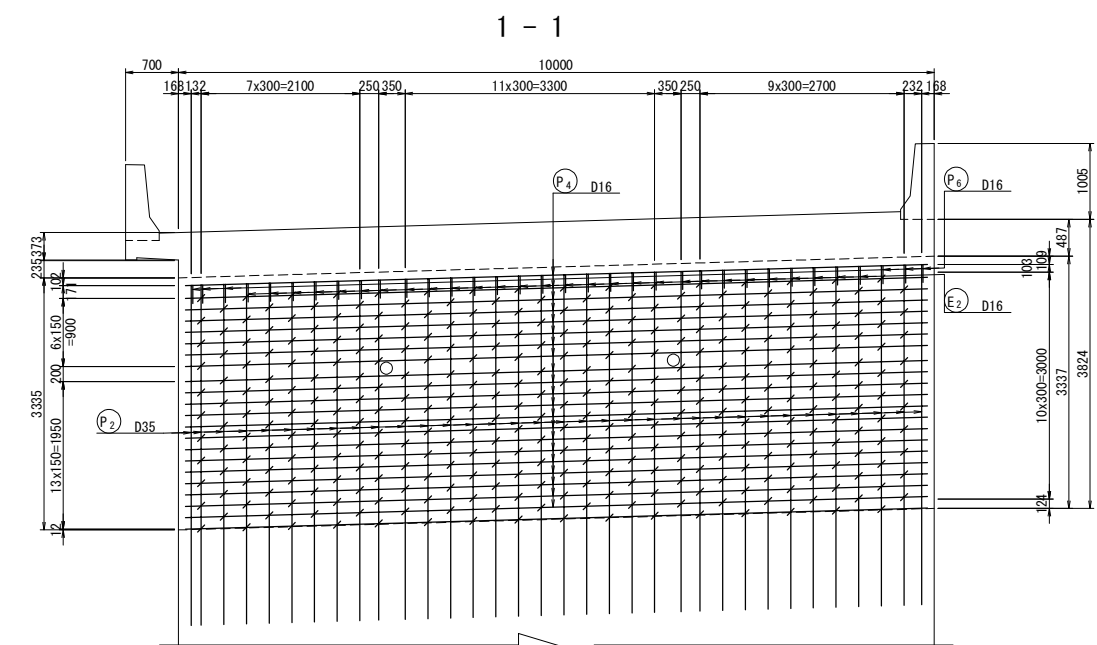
段差防止構造詳細図 S=1:100



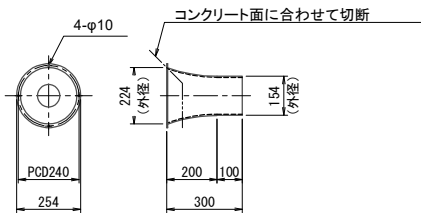
・本図で示す標高はすべてT P表示とする。  
・図で示すハッチング部は、上部工施工とする。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台構造一般図(2)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

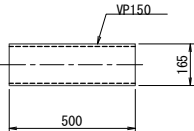




偏向ダクト S=1:30

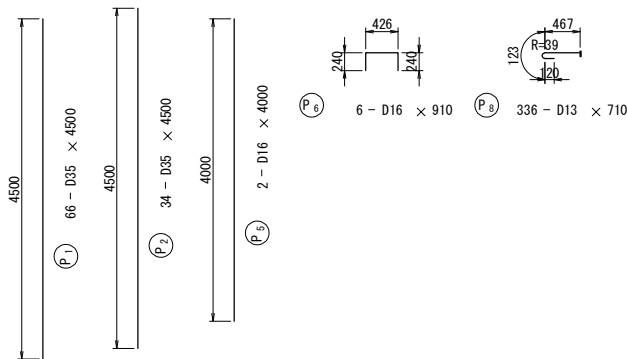
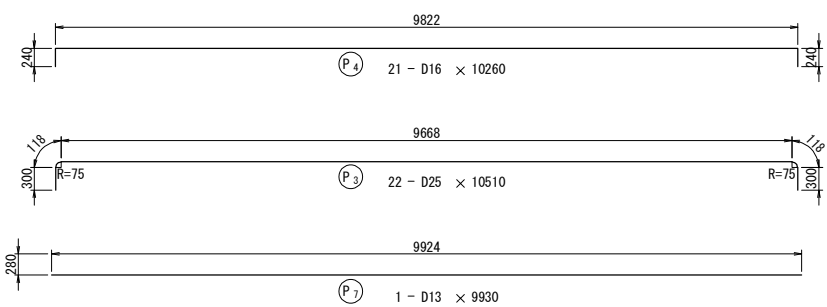
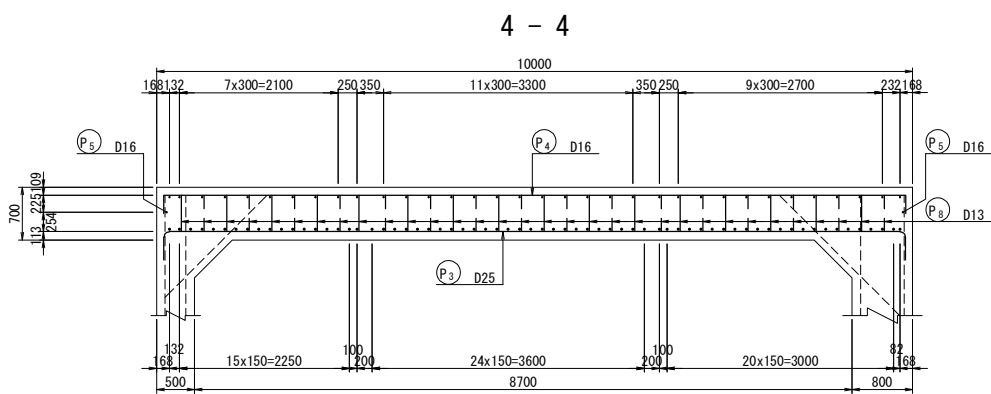
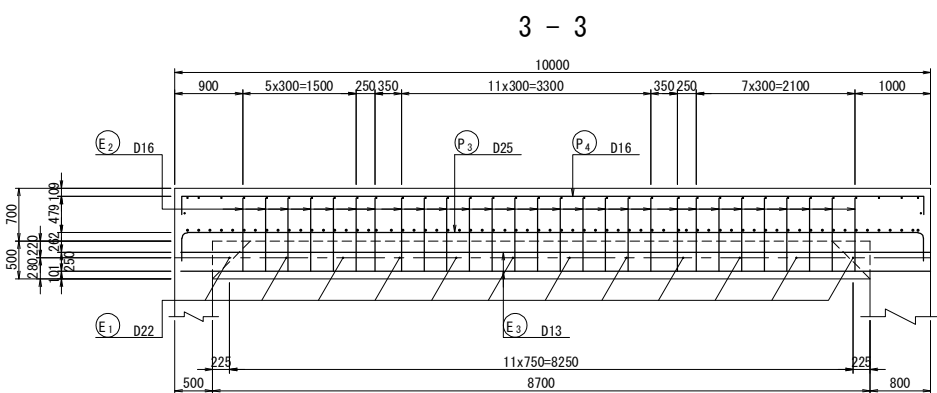


シース S=1:30

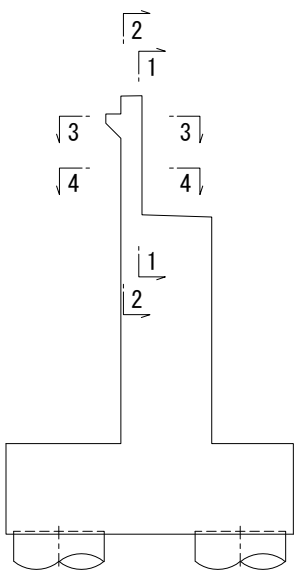
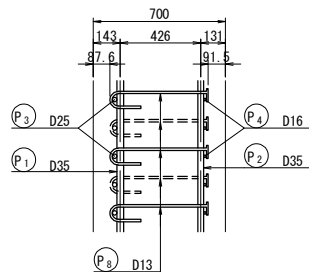


落橋防止構造 材料表(1本当たり)

項目	規格・寸法	単位	数量	摘要
① 偏向ダクト	φ254×300	個	1	ポリエチレン
② シース(下部工側)	φ165×500	本	1	VP150



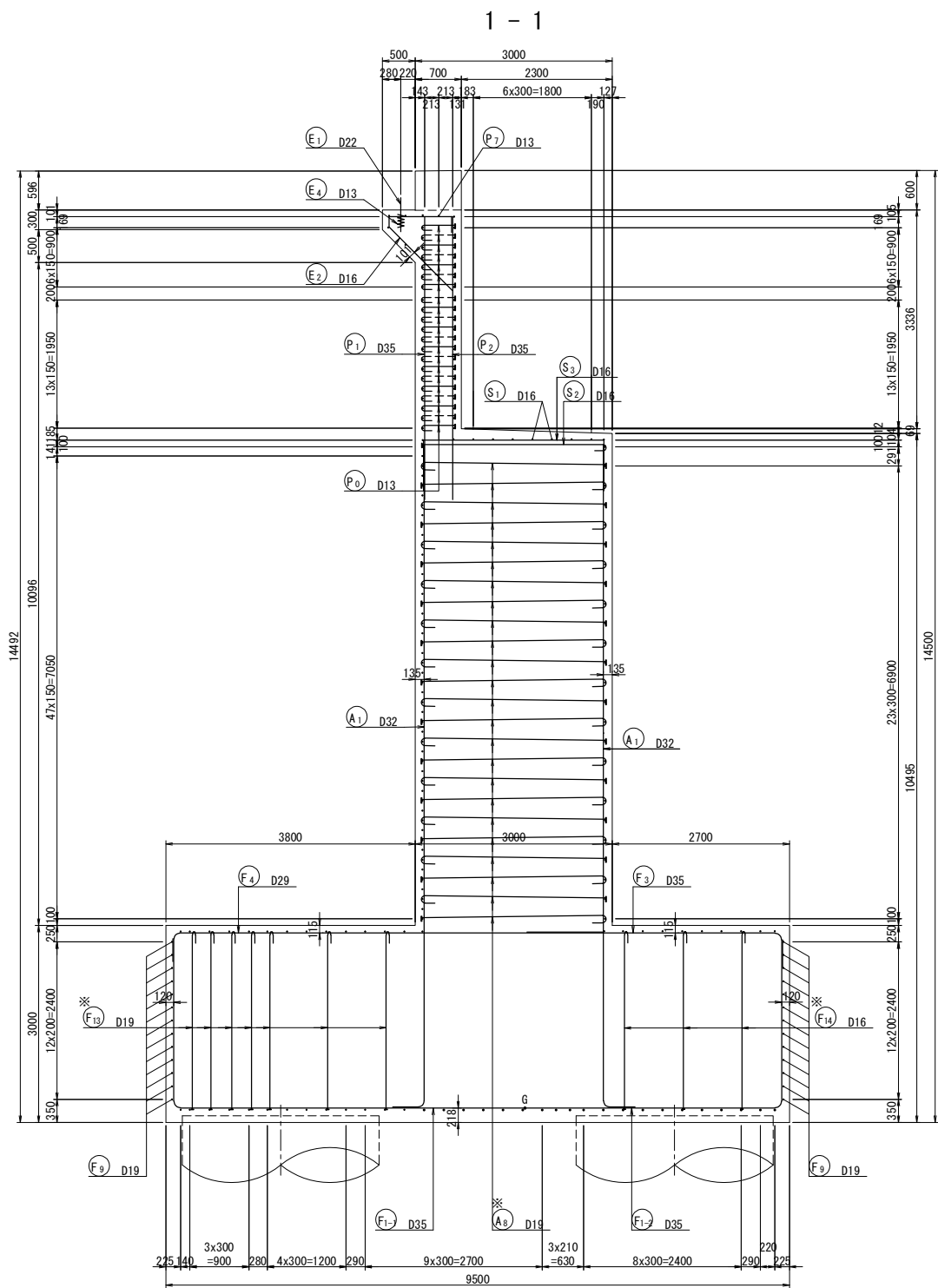
かぶり詳細図 S=1:40



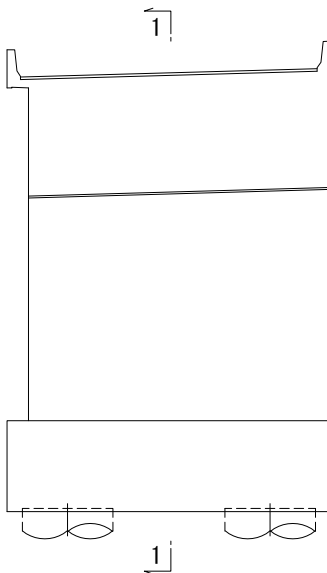
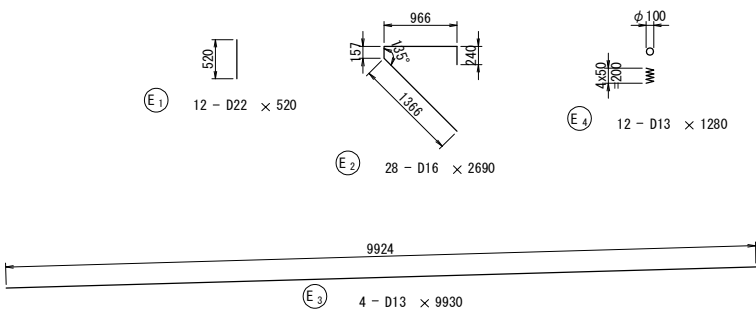
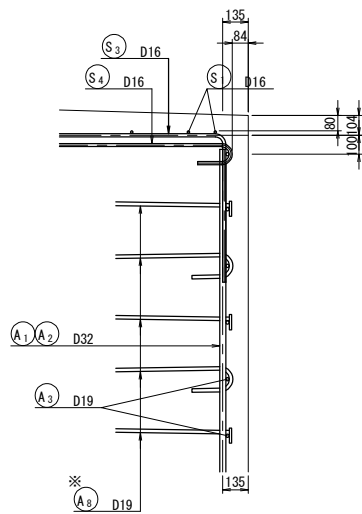
特記事項

- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
  - ・道路橋示方書・同解説 (H29.11日本道路協会)
  - ・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は構束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 詳細図に示す定着体はHead-bar工法であるが、他工法の採用を否定するものではない。
- 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。
- ☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
- Kは機械式継手を示す。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし	A1橋台配筋図(1)	
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



かぶり詳細図 S=1:40



特記事項

1) 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。  
・道路標示方書 同解説 (H29.11日本道路協会)  
・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。

2) 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。

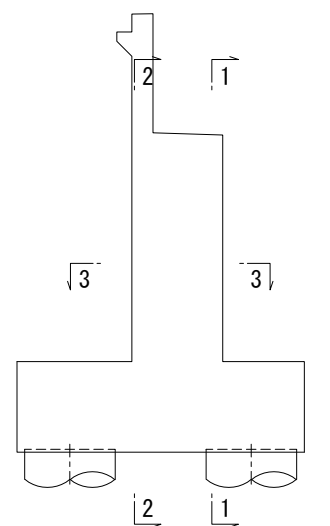
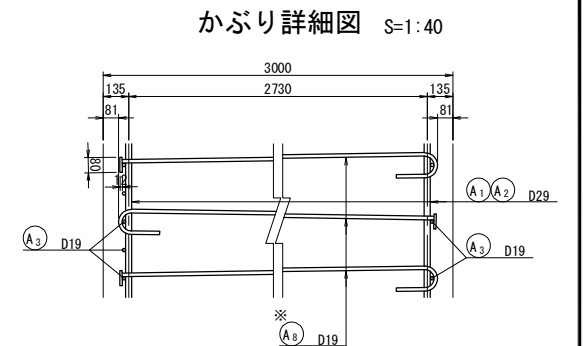
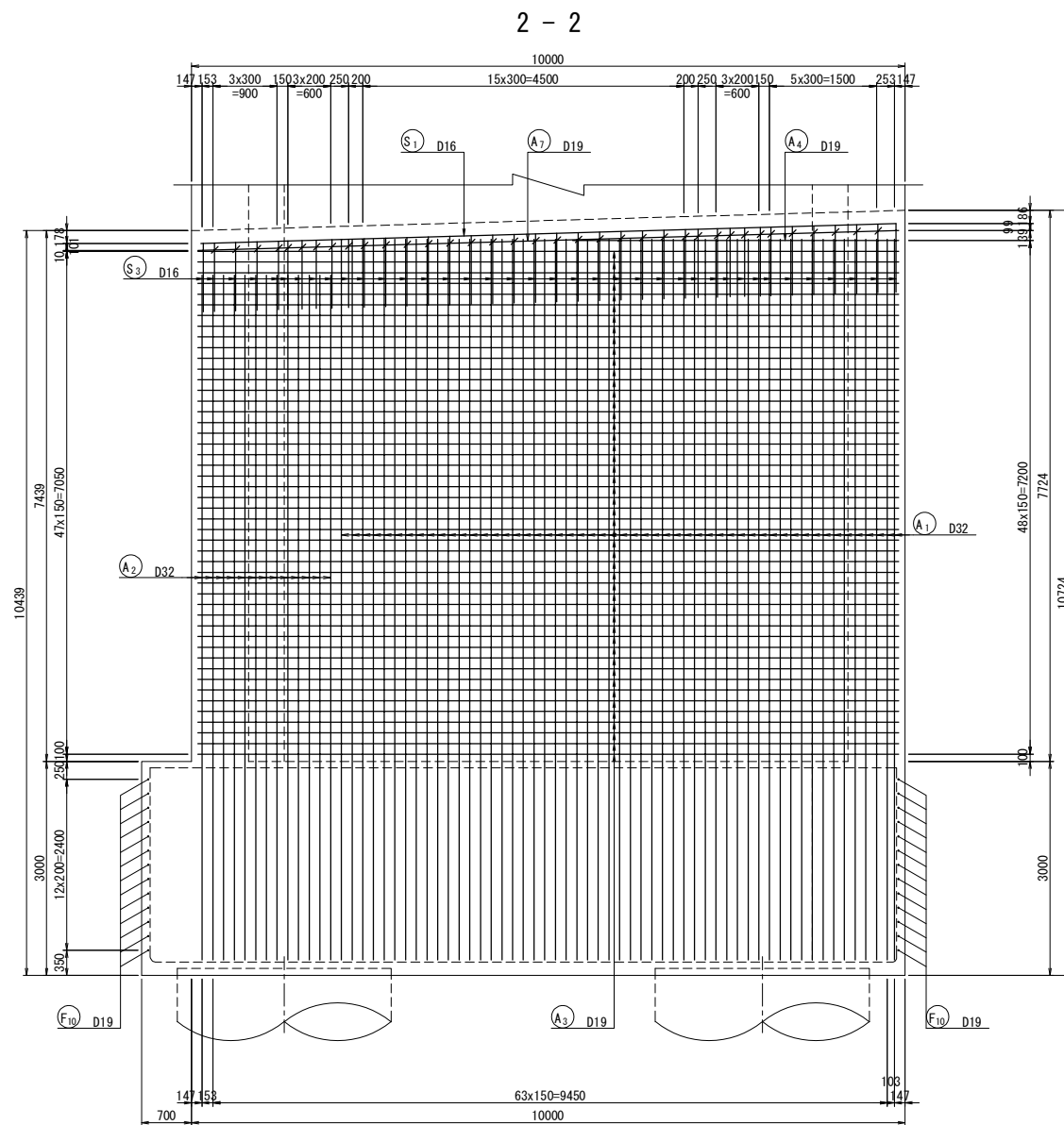
3) 詳細図に示す定着体はHead-bar工法であるが、他工法の採用を否定するものではない。

4) 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。

5) ☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエボキン鉄筋を示す。

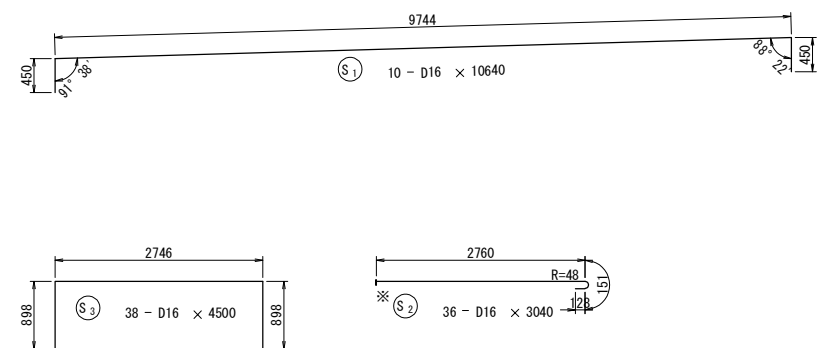
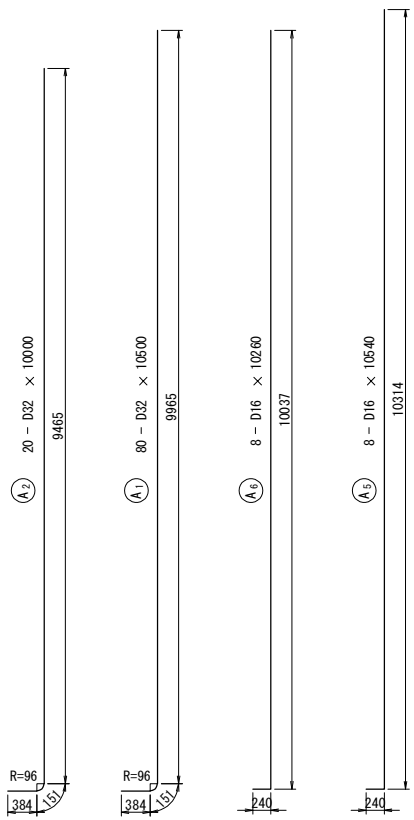
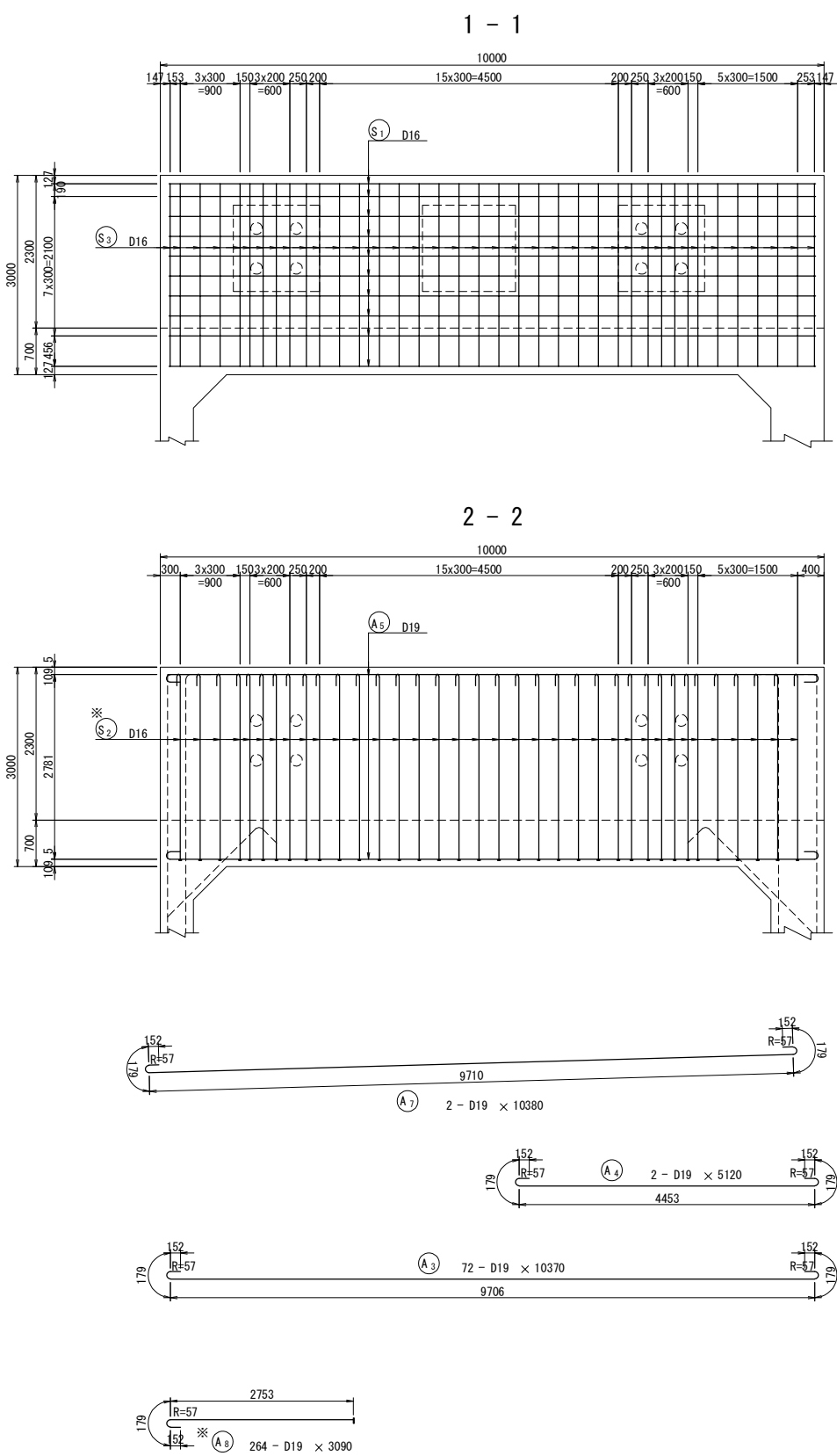
6) K は機械式継手を示す。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし		
	A1橋台配筋図(2)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

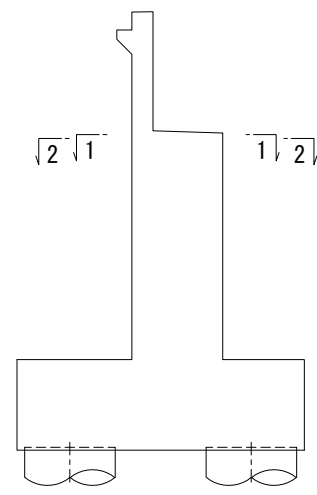
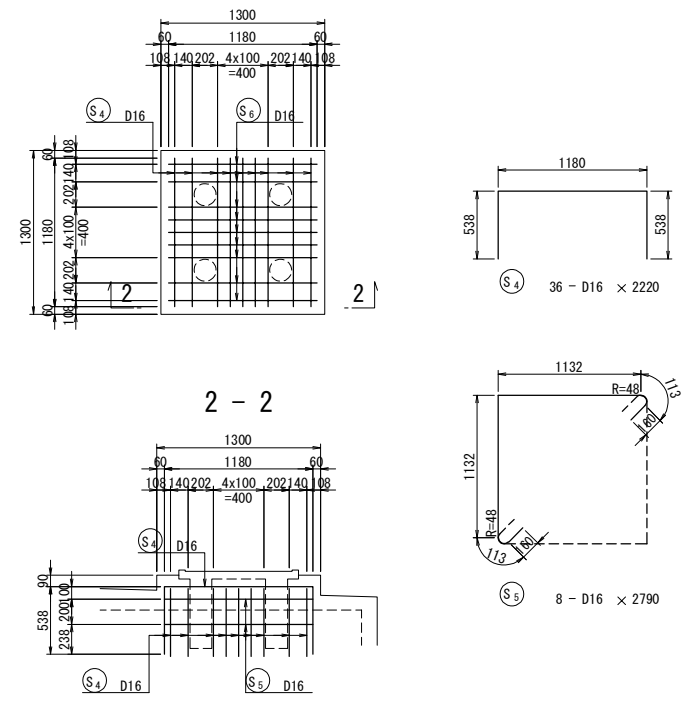


- 1) 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すこと。  
適用にあたっては下記の基本等を満足すること。  
・道路指示方向・同敷設( H29.11日本道路協会)  
・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン( H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
また、中間鉄筋に本定着体を用いる場合は構束束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 2) 機械式鉄筋定着工法の採用においては、  
監督官より使用鉄筋の性能に施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。  
詳細図に示す定着体はHead-B工法であるが、他工法の採用を否認するものではない。  
機械式鉄筋定着工法は、使用製品の製品と施工方法、管理方法を発注者に確認してから工事を実施すること。
- 5) ※印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
- 6) Kは機械式継手を示す。

常盤自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台配筋図(3)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



台座コンクリート補強図 S=1:60



特記事項

1) 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。  
・道路橋示方書 同解説 (H29.11日本道路協会)  
・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は構束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。

2) 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。

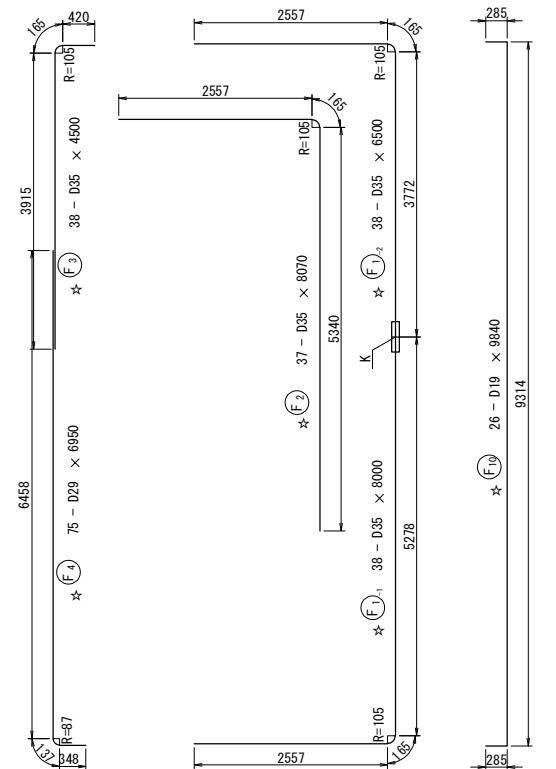
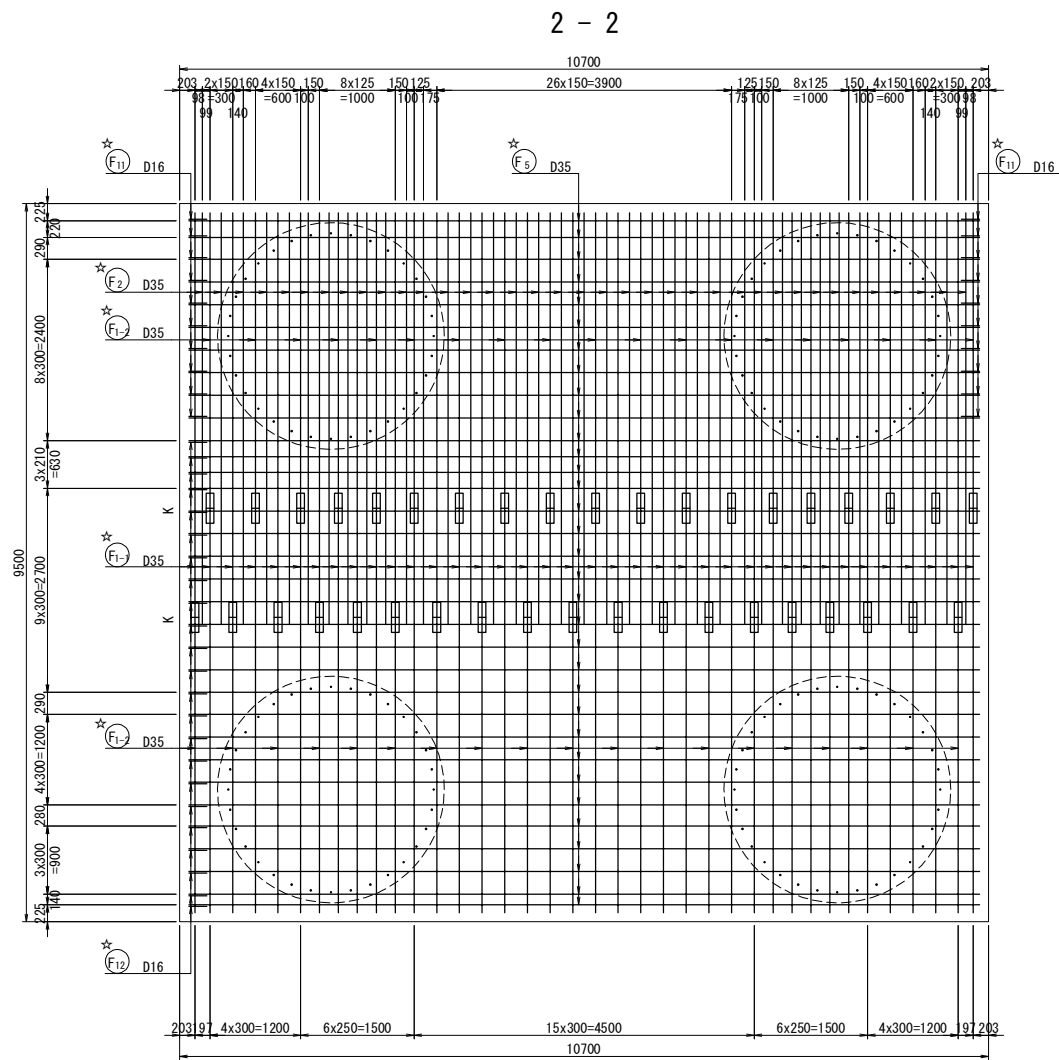
3) 詳細図に示す定着体はHead-bar工法であるが、他工法の採用を否定するものではない。

4) 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。

5) ☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。

6) K は機械式継手を示す。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台配筋図(4)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		



Technical drawing of a 1000mm wide door with various options. The drawing shows a base door (F1) and several optional configurations (F2-F9). Options include different handle heights (118, 165, 285mm), handle types (F2, F3, F4, F5, F6, F7, F8, F9), and handle finishes (F10, F11, F12). Dimensions for door height, width, and handle offset are provided for each option.

**Base Door (F1):** 1000mm wide, 2040mm high. Handle offset: 118mm. Handle type: F1.

**Option F2:** 1000mm wide, 2040mm high. Handle offset: 118mm. Handle type: F2.

**Option F3:** 1000mm wide, 2040mm high. Handle offset: 118mm. Handle type: F3.

**Option F4:** 1000mm wide, 2040mm high. Handle offset: 118mm. Handle type: F4.

**Option F5:** 1000mm wide, 2040mm high. Handle offset: 118mm. Handle type: F5.

**Option F6:** 1000mm wide, 2040mm high. Handle offset: 118mm. Handle type: F6.

**Option F7:** 1000mm wide, 2040mm high. Handle offset: 118mm. Handle type: F7.

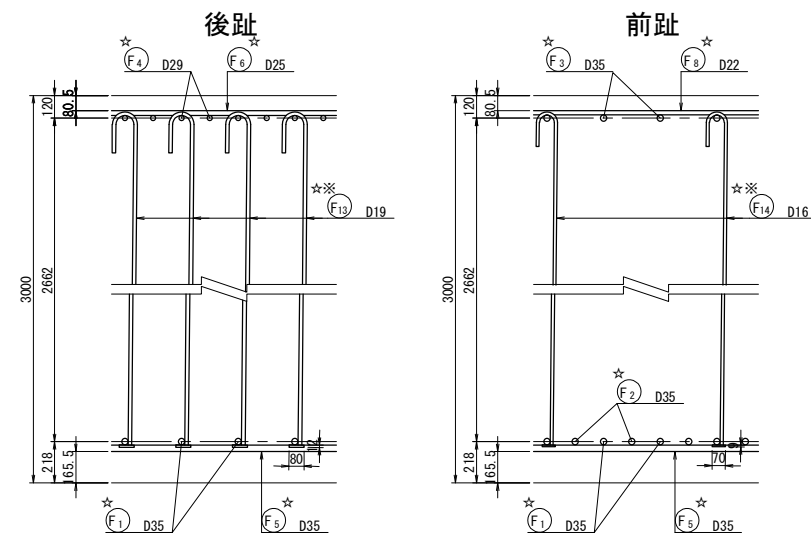
**Option F8:** 1000mm wide, 2040mm high. Handle offset: 118mm. Handle type: F8.

**Option F9:** 1000mm wide, 2040mm high. Handle offset: 118mm. Handle type: F9.

**Option F10:** 1000mm wide, 2040mm high. Handle offset: 118mm. Handle type: F10.

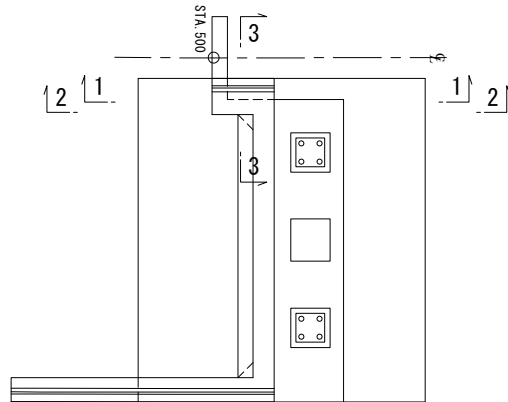
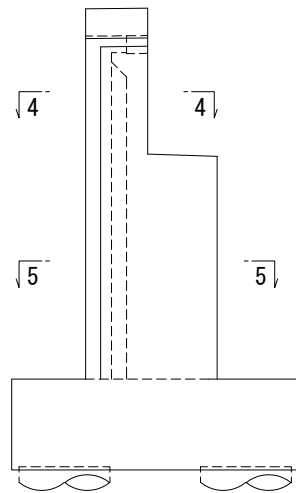
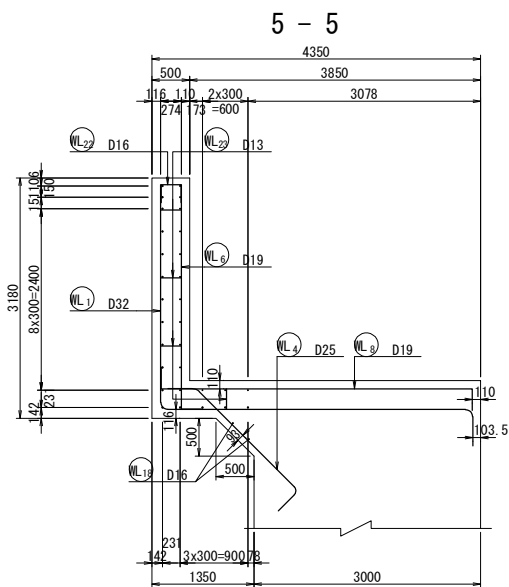
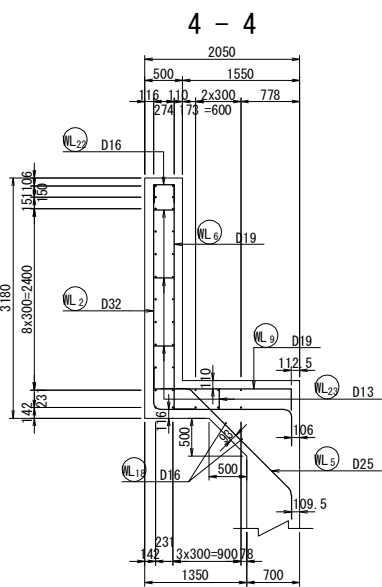
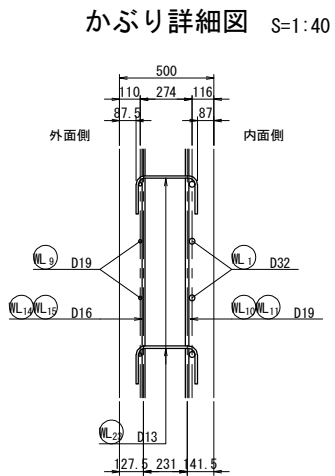
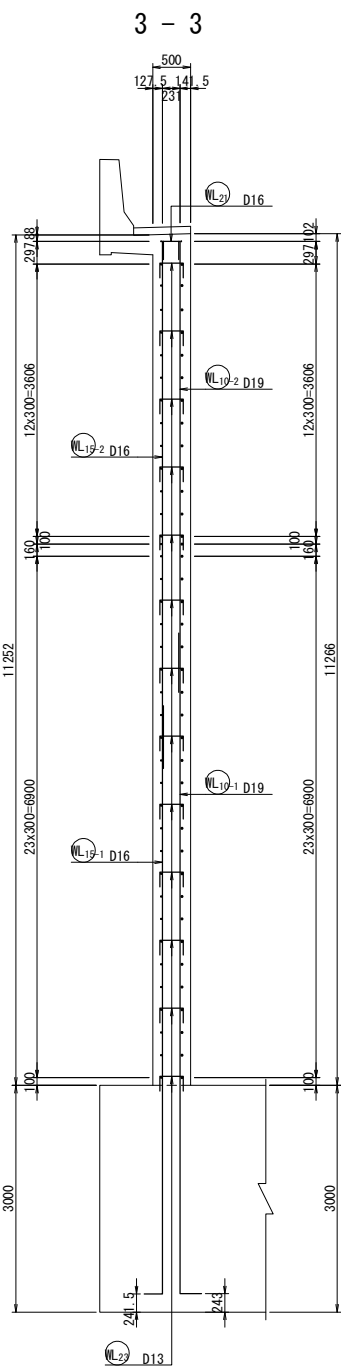
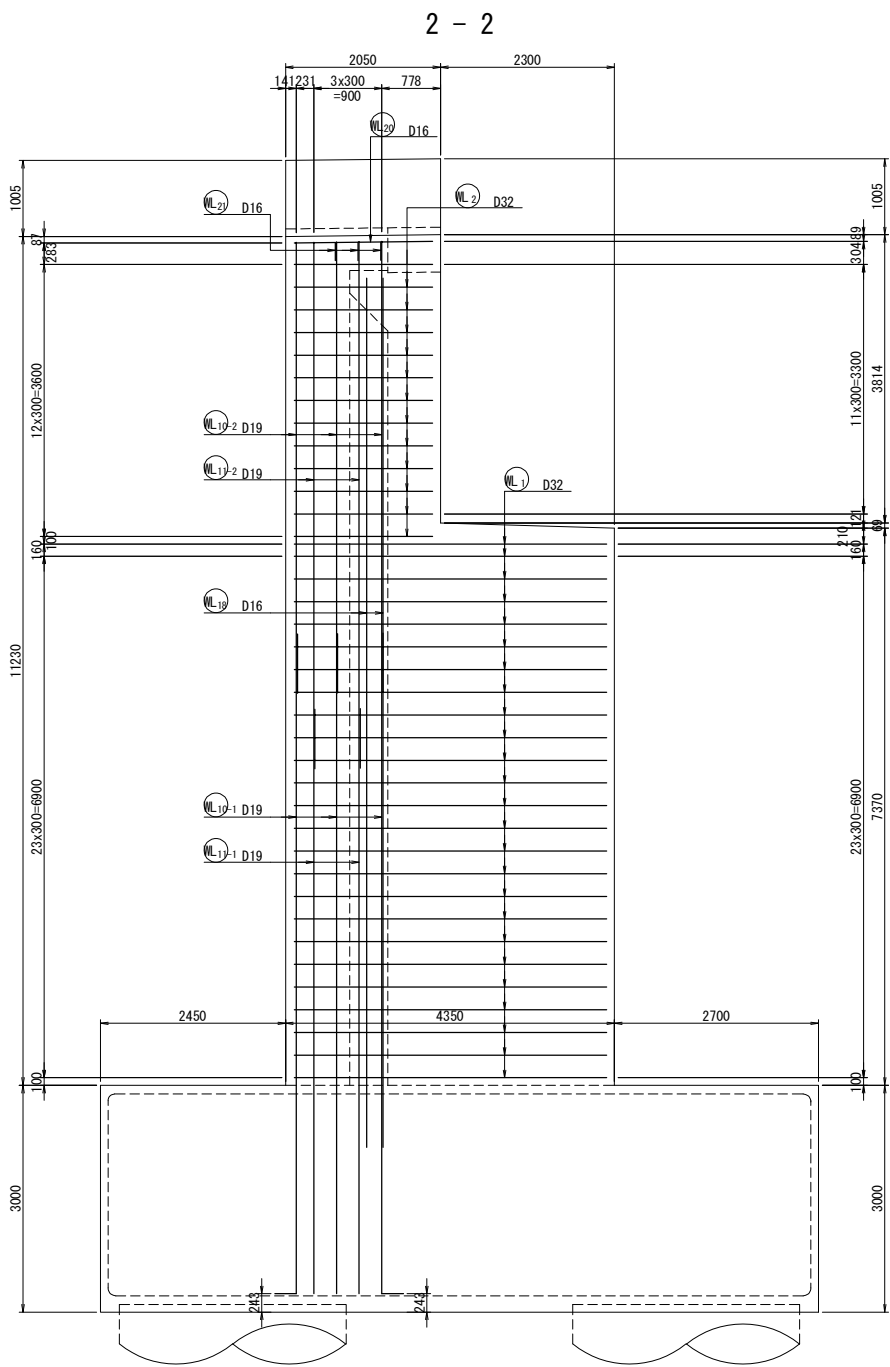
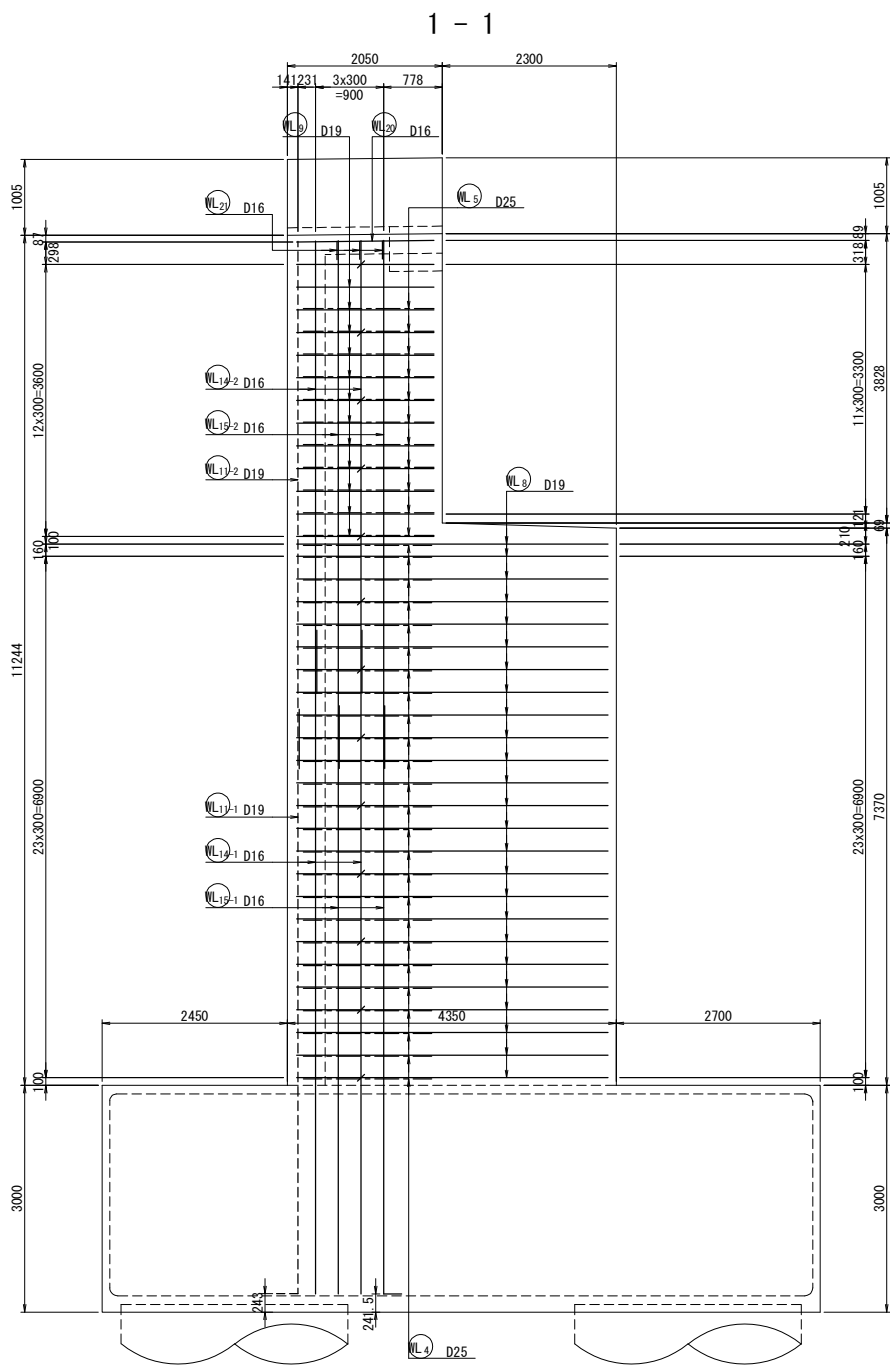
**Option F11:** 1000mm wide, 2040mm high. Handle offset: 118mm. Handle type: F11.

**Option F12:** 1000mm wide, 2040mm high. Handle offset: 118mm. Handle type: F12.

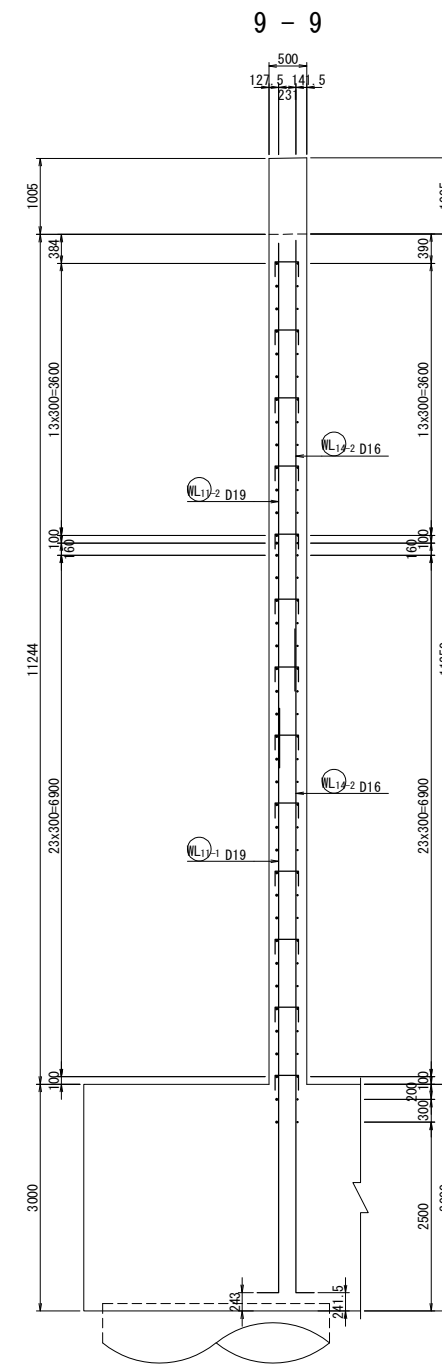
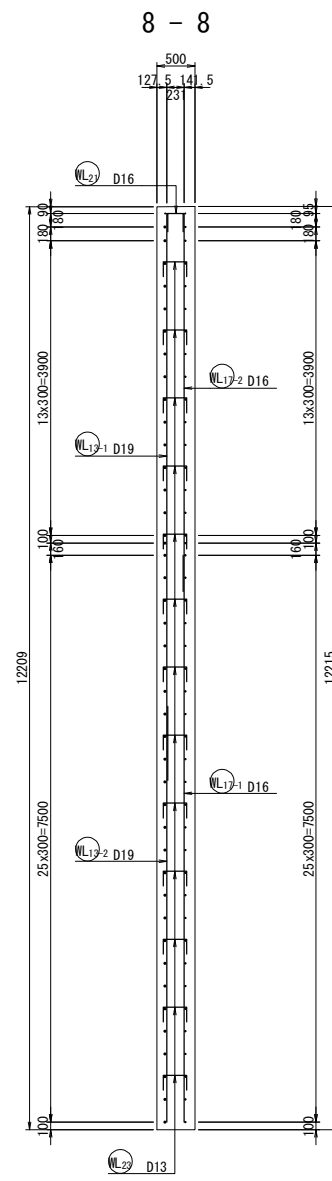
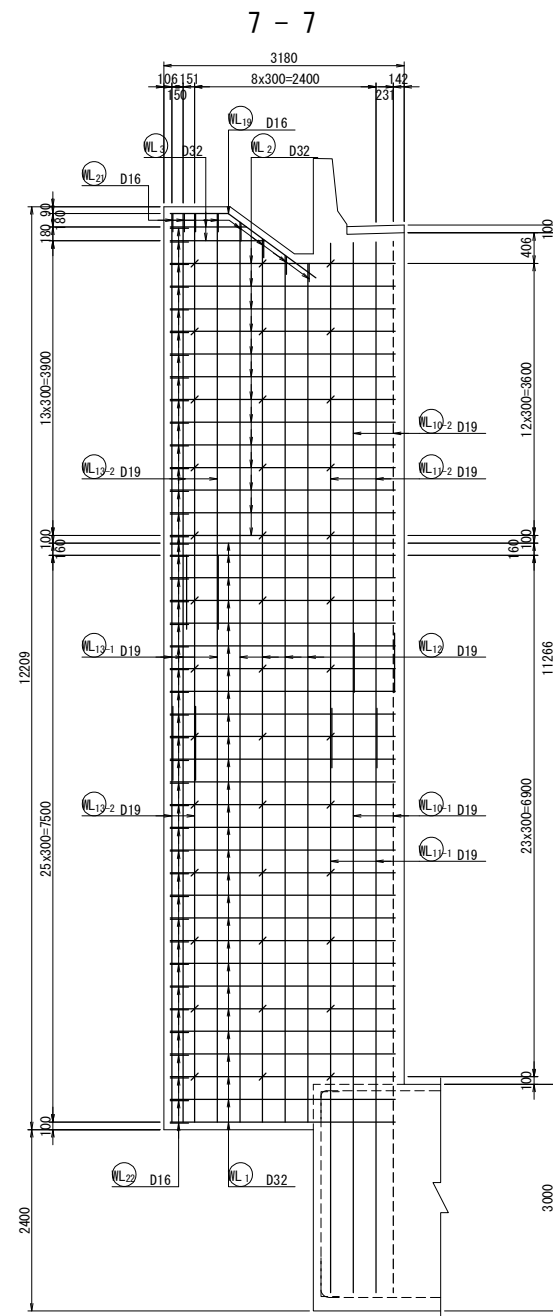
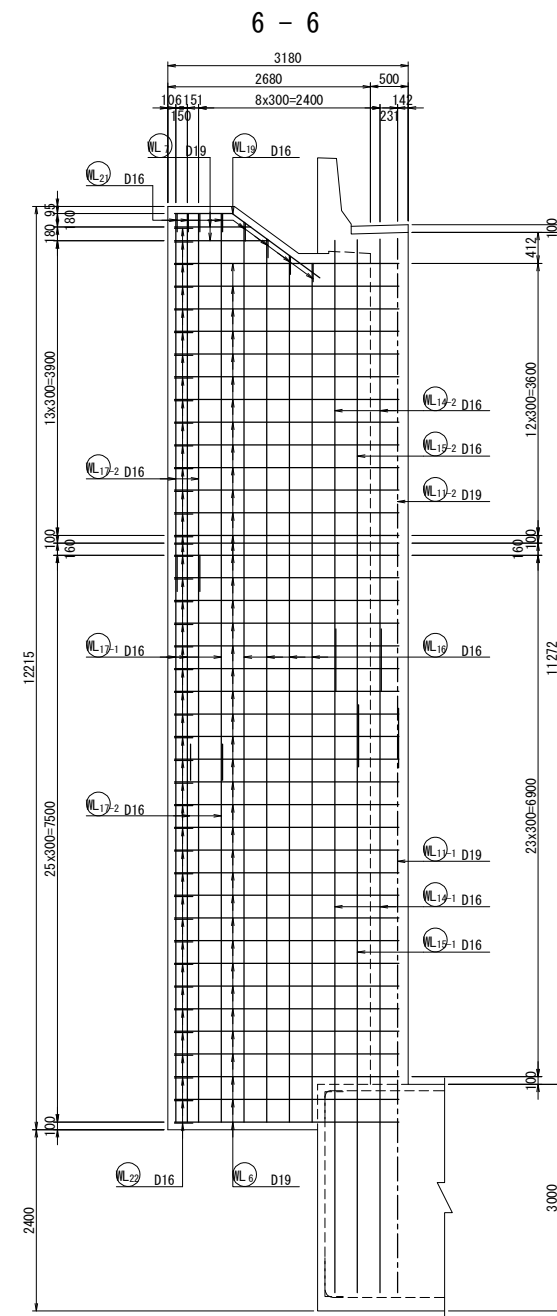


- 1) 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
  - ・道路橋示方書 同解説 (H29.11日本道路協会)
  - ・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は橋束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 2) 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より採用鉄筋の性能と施工法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 3) 詳細図に示す定着体はhead-bar工法であるが、他工法の採用を否定するものではない。
- 4) 機械式定着体は、使用製品の製品と施工法、管理方法を発注者に確認してから工事を実施すること。
- 5) ☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
- 6) K は機械式継手を示す。

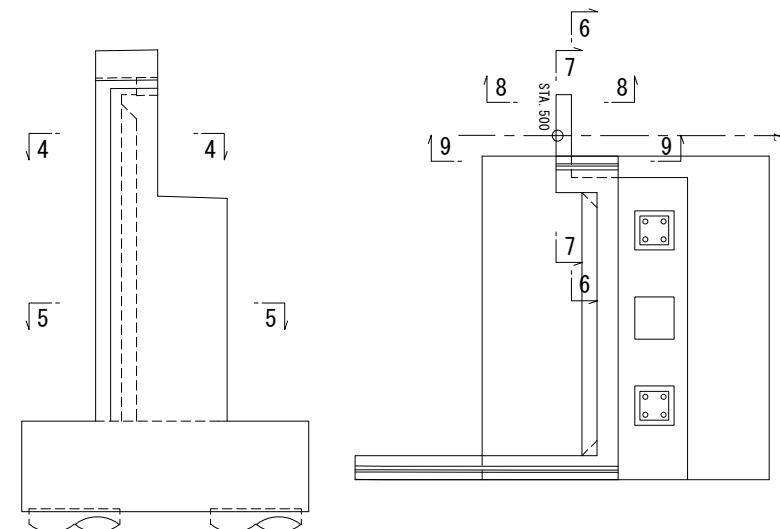
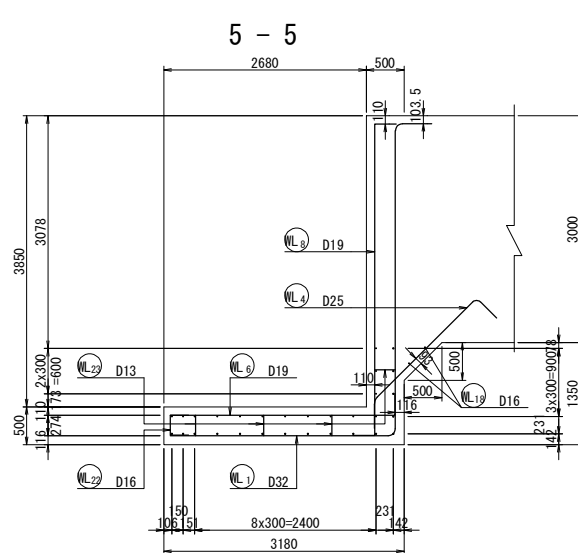
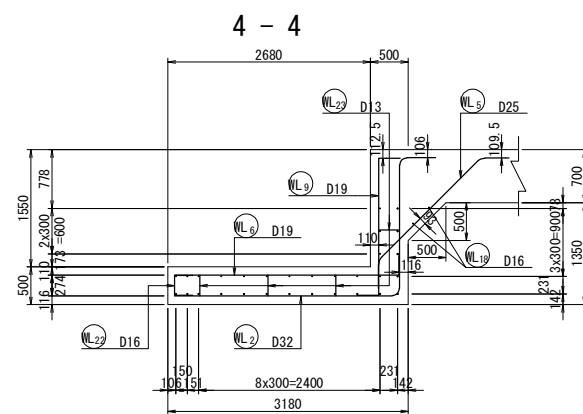
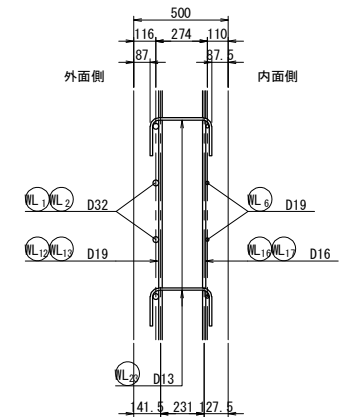
常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台配筋図 (5)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



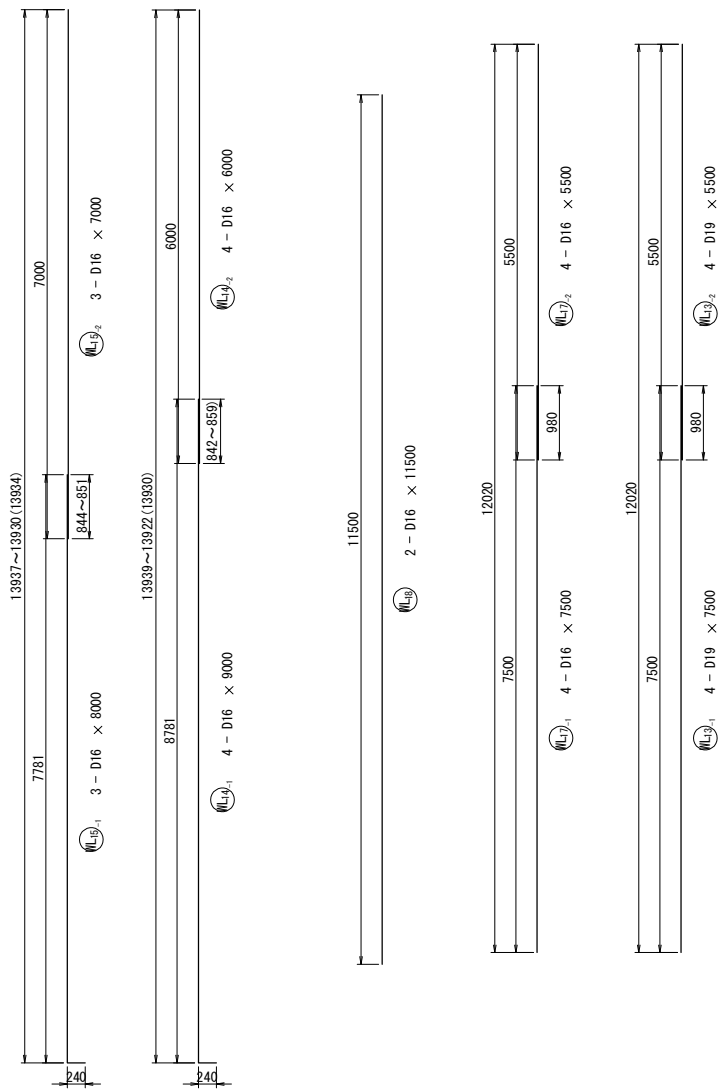
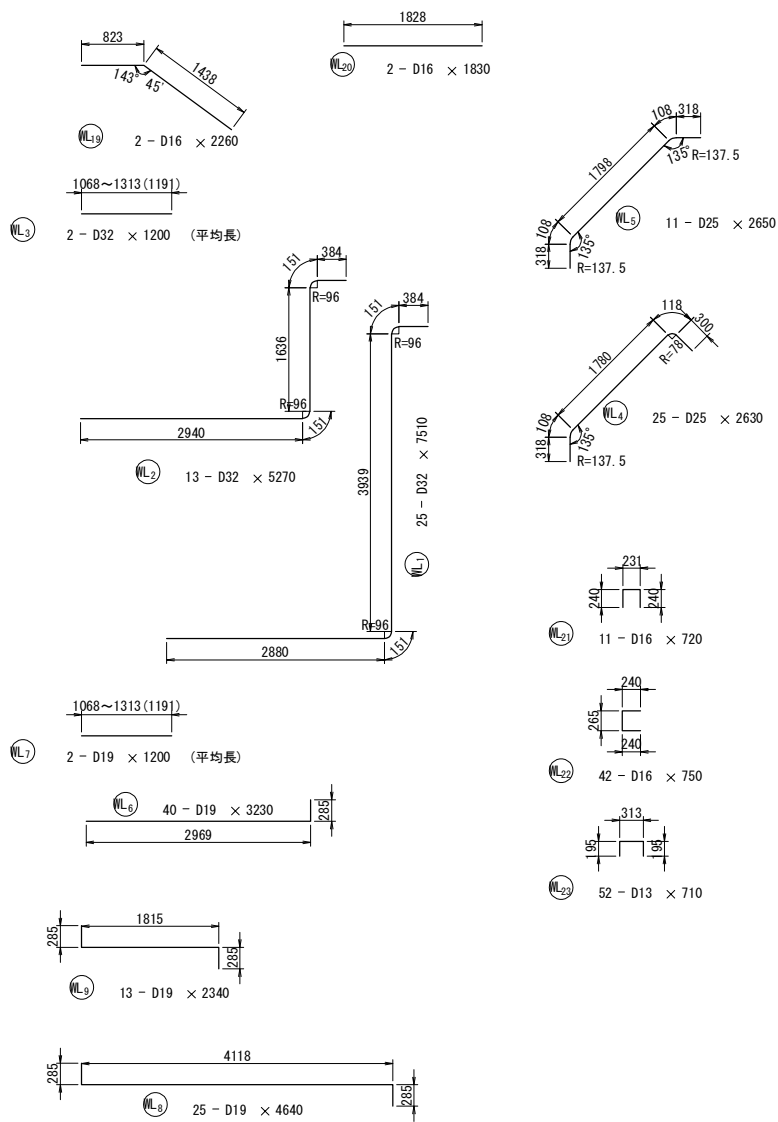
常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台配筋図(6)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		



かぶり詳細図 S=1:40

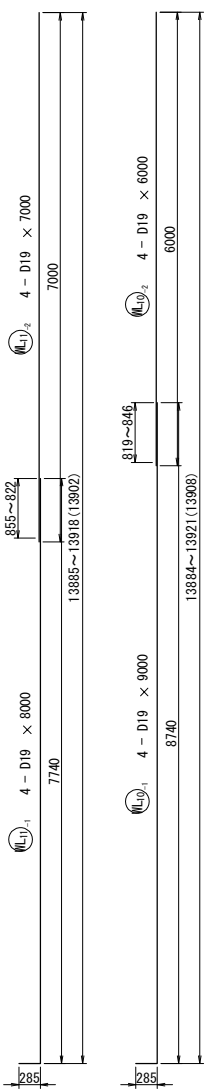


常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台配筋図(7)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		



4 - D19 × 11610 (平均長)				
記号	径	本数	a	L
12 -1	D19	1	11905	11910
12 -2	"	1	11685	11690
12 -3	"	1	11465	11470
12 -4	"	1	11360	11360
平均		4		11610

4 - D16 × 11610 (平均長)				
記号	径	本数	a	L
16 -1	D16	1	11905	11910
16 -2	"	1	11685	11690
16 -3	"	1	11465	11470
16 -4	"	1	11360	11360
平均		4		11610



特記事項

1) 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。  
・道路橋示方書 同解説 (H29.11日本道路協会)  
・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は構束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。

2) 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。

3) 詳細図に示す定着体はHead-bar工法であるが、他工法の採用を否定するものではない。

4) 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。

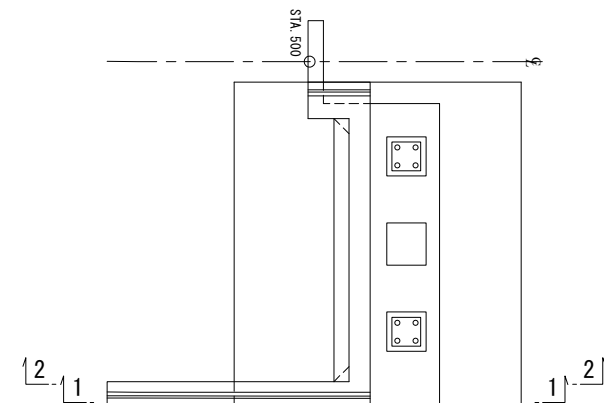
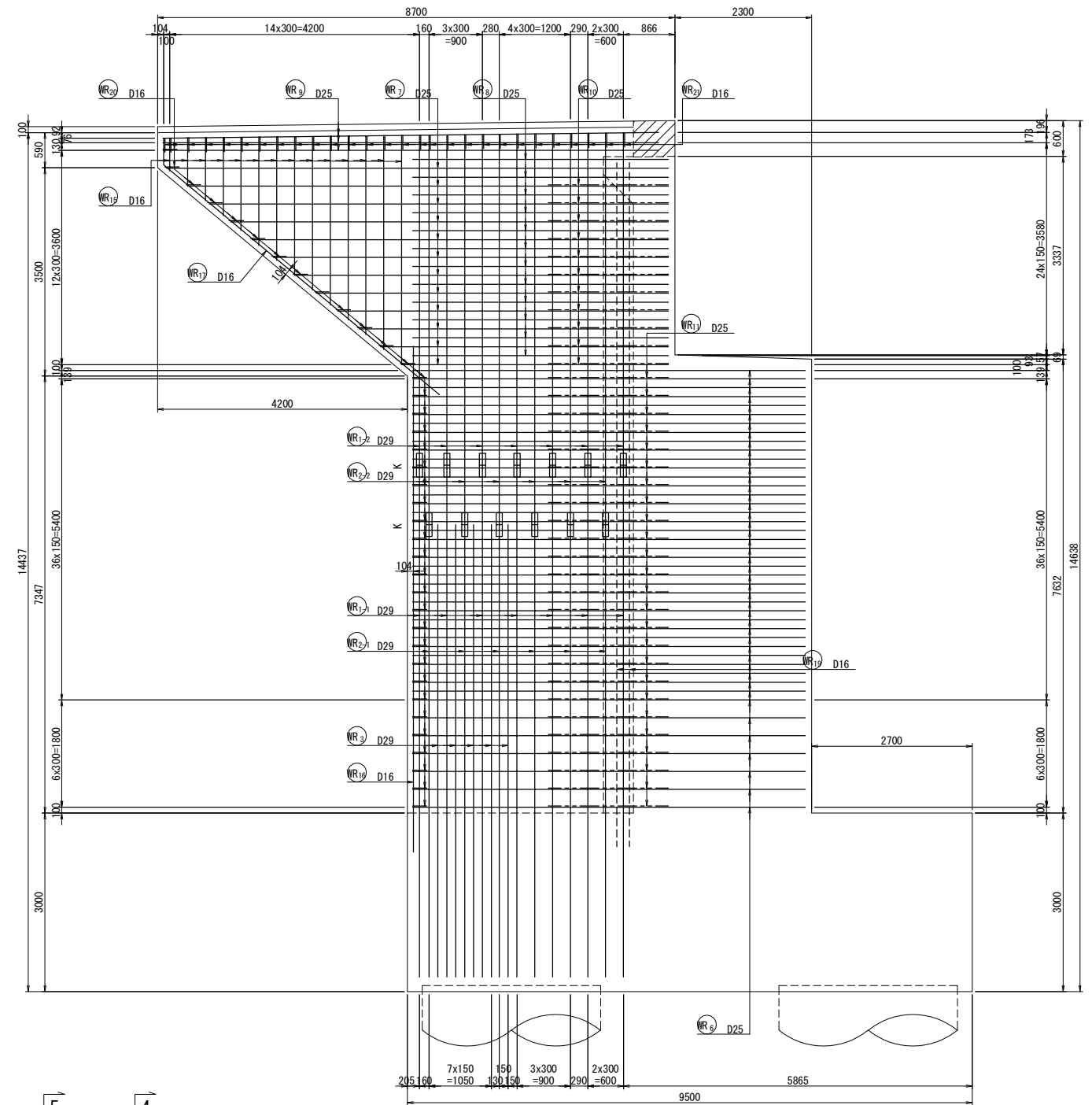
5) ☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。

6) K は機械式継手を示す。

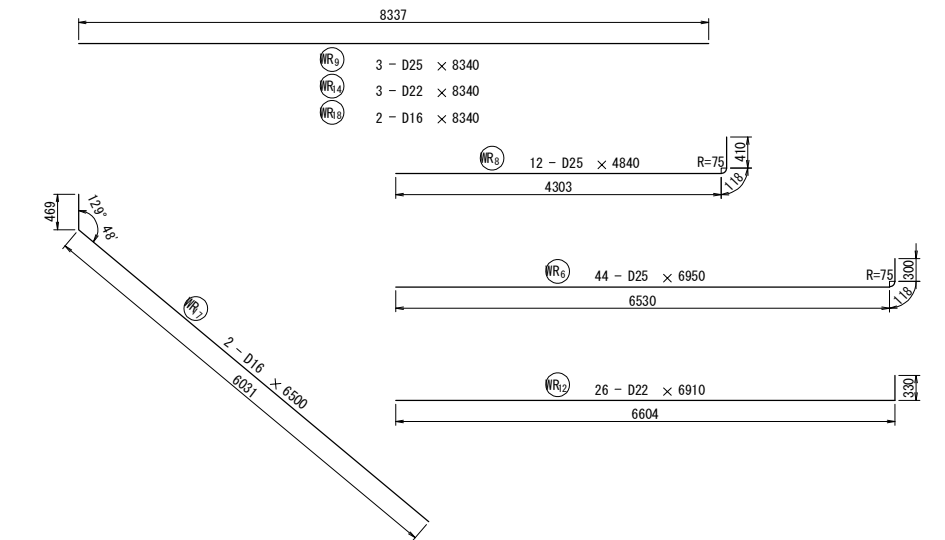
常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし		
	A1橋台配筋図(8)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 い わ き 工 事 事 務 所		



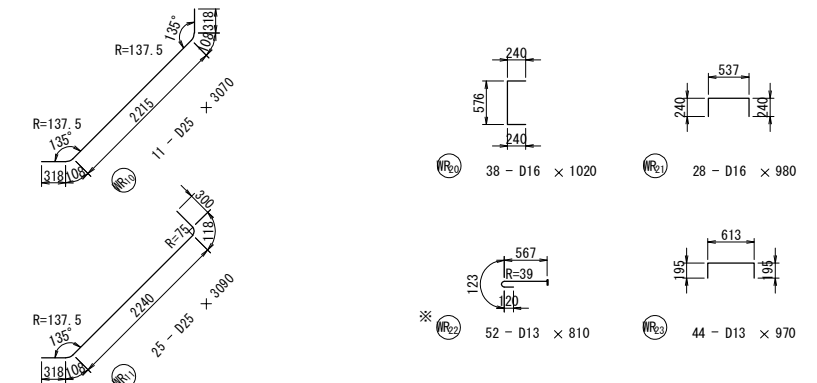
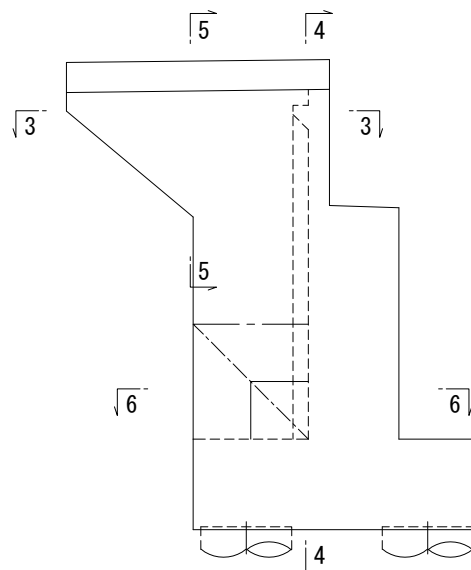
2 - 2



常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台配筋図 (9)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



<p>            12 - D25 × 6920 (平均長)         </p>	<p>            12 - D22 × 6770 (平均長)         </p>	<p>            28 - D16 × 2210 (平均長)         </p>
<p>記号 径 本数 a L</p>	<p>記号 径 本数 a L</p>	<p>記号 径 本数 a L</p>
<p>7 - 1 D25 1 8368 8900</p>	<p>13 - 1 D22 1 8441 8750</p>	<p>15 - 1 D16 2 555 570</p>
<p>7 - 2 " 1 8008 8540</p>	<p>13 - 2 " 1 8081 8390</p>	<p>15 - 2 " 2 808 810</p>
<p>7 - 3 " 1 7648 8180</p>	<p>13 - 3 " 1 7721 8030</p>	<p>15 - 3 " 2 1062 1070</p>
<p>7 - 4 " 1 7288 7820</p>	<p>13 - 4 " 1 7361 7670</p>	<p>15 - 4 " 2 1315 1320</p>
<p>7 - 5 " 1 6928 7460</p>	<p>13 - 5 " 1 7001 7310</p>	<p>15 - 5 " 2 1569 1570</p>
<p>7 - 6 " 1 6568 7100</p>	<p>13 - 6 " 1 6641 6950</p>	<p>15 - 6 " 2 1822 1830</p>
<p>7 - 7 " 1 6208 6740</p>	<p>13 - 7 " 1 6281 6590</p>	<p>15 - 7 " 2 2076 2080</p>
<p>7 - 8 " 1 5848 6380</p>	<p>13 - 8 " 1 5921 6230</p>	<p>15 - 8 " 2 2329 2330</p>
<p>7 - 9 " 1 5488 6020</p>	<p>13 - 9 " 1 5561 5870</p>	<p>15 - 9 " 2 2583 2590</p>
<p>7 - 10 " 1 5128 5660</p>	<p>13 - 10 " 1 5201 5510</p>	<p>15 - 10 " 2 2836 2840</p>
<p>7 - 11 " 1 4768 5300</p>	<p>13 - 11 " 1 4841 5150</p>	<p>15 - 11 " 2 3090 3090</p>
<p>7 - 12 " 1 4408 4940</p>	<p>13 - 12 " 1 4481 4790</p>	<p>15 - 12 " 2 3343 3350</p>
<p>平均 12 6920</p>	<p>平均 12 6770</p>	<p>平均 28 2210</p>



特記事項

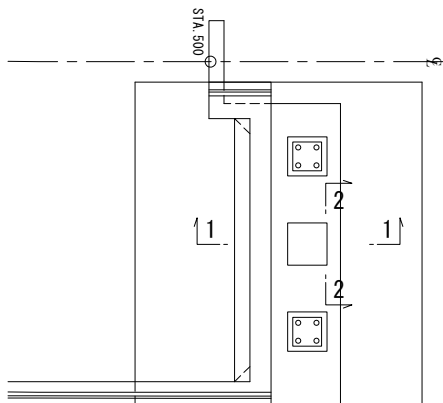
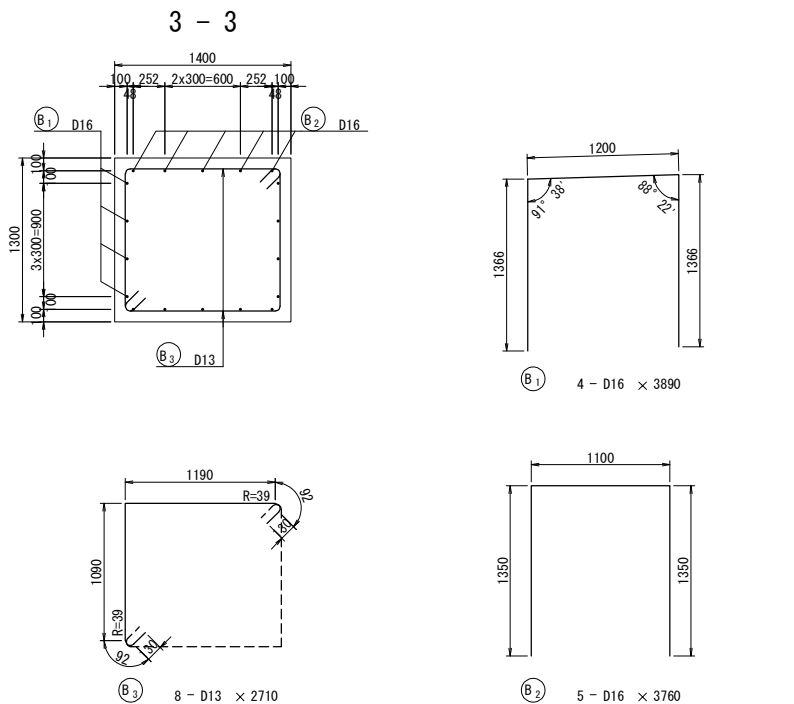
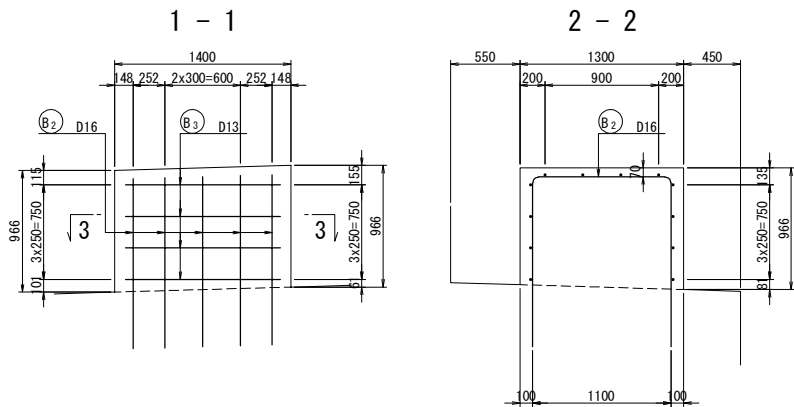
- 1) 「※」印表記は機械式鉄筋定工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。  
・道路橋示方書、解説書（H29.11日本道路協会）  
・機械式鉄筋定着工法（H29.11日本道路協会）  
・また、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
また、中間棒鉄筋に本定着体を用いる場合は構束束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 2) 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 3) 詳細図に示す定着体はHead-bar工法であるが、他工法の採用を否定するものではない。
- 4) 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法を発注者に確認してから工事を実施すること。
- 5) ☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
- 6) Kは機械式継手を示す。

常 盤 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台配筋図 (10)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエントルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事業務所		



特記事項

段差防止構造



鉄筋表

記号	径 (mm)	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要
P 1	D35	4,500	66	7.51	33.8	2,231	
P 2	D35	4,500	34	7.51	33.8	1,149	
P 3	D25	10,510	22	3.98	41.8	920	┐
P 4	D16	10,260	21	1.56	16.0	336	┐
P 5	D16	3,000	2	1.56	4.68	9	
P 6	D16	910	6	1.56	1.42	9	┐
P 7	D13	9,930	1	0.995	9.88	10	—
P 8	D13	710	336	0.995	0.706	237	┐ ※
						4,901 kg	
E 1	D22	520	12	3.04	1.58	19	
E 2	D16	2,690	28	1.56	4.20	118	┐
E 3	D13	9,930	4	0.995	9.88	40	—
E 4	D13	1,280	12	0.995	1.27	15	≡
						192 kg	
A 1	D32	10,500	80	6.23	65.4	5,232	┐
A 2	D32	10,000	20	6.23	62.3	1,246	┐
A 3	D19	10,370	72	2.25	23.3	1,678	┐
A 4	D19	5,120	2	2.25	11.5	23	┐
A 5	D16	10,540	8	1.56	16.4	131	┐
A 6	D16	10,260	8	1.56	16.0	128	┐
A 7	D19	10,380	2	2.25	23.4	47	┐
A 8	D19	3,090	264	2.25	6.95	1,835	┐ ※
						10,320 kg	
S 1	D16	10,640	10	1.56	16.6	166	┐
S 2	D16	3,040	36	1.56	4.74	171	┐ ※
S 3	D16	4,500	38	1.56	7.02	267	┐
S 4	D16	2,220	36	1.56	3.46	125	┐
S 5	D16	2,790	8	1.56	4.35	35	┐
						764 kg	
☆ F 1-1	D35	8,000	38	7.51	60.1	2,284	┐ [38]
☆ F 1-2	D35	6,500	38	7.51	48.8	1,854	┐
☆ F 2	D35	8,070	37	7.51	60.6	2,242	┐
☆ F 3	D35	4,500	38	7.51	33.8	1,284	┐
☆ F 4	D29	6,950	75	5.04	35	2,625	┐
☆ F 5	D35	11,420	33	7.51	85.8	2,831	┐
☆ F 6	D25	11,160	14	3.98	44.4	622	┐
☆ F 7	D25	1,740	8	3.98	6.93	55	┐
☆ F 8	D22	11,080	10	3.04	33.7	337	┐
☆ F 9	D19	11,040	26	2.25	24.8	645	┐
☆ F 10	D19	9,840	26	2.25	22.1	575	┐
☆ F 11	D16	3,160	20	1.56	4.93	99	┐
☆ F 12	D16	3,150	23	1.56	4.91	113	┐
☆ F 13	D19	2,980	195	2.25	6.71	1,308	┐ ※
☆ F 14	D16	2,940	36	1.56	4.59	165	┐ ※
						17,039 kg	
WL 1	D32	7,510	25	6.23	46.8	1,170	┐
WL 2	D32	5,270	13	6.23	32.8	426	┐
WL 3	D32	1,200	2	6.23	7.48	15	— (平均長)
WL 4	D25	2,630	25	3.98	10.5	263	┐
WL 5	D25	2,650	11	3.98	10.5	116	┐
WL 6	D19	3,230	40	2.25	7.27	291	┐
WL 7	D19	1,200	2	2.25	2.70	5	— (平均長)
WL 8	D19	4,640	25	2.25	10.4	260	┐
WL 9	D19	2,340	13	2.25	5.27	69	┐
WL 10-1	D19	9,000	4	2.25	20.3	81	┐
WL 10-2	D19	6,000	4	2.25	13.5	54	
WL 11-1	D19	8,000	4	2.25	18.0	72	┐
WL 11-2	D19	7,000	4	2.25	15.8	63	
WL 12	D19	11,610	4	2.25	26.1	104	(平均長)
WL 13-1	D19	7,500	4	2.25	16.9	68	
WL 13-2	D19	5,500	4	2.25	12.4	50	
WL 14-1	D16	9,000	4	1.56	14.0	56	┐
WL 14-2	D16	6,000	4	1.56	9.36	37	
WL 15-1	D16	8,000	3	1.56	12.5	38	┐
WL 15-2	D16	7,000	3	1.56	10.9	33	
WL 16	D16	11,610	4	1.56	18.1	72	(平均長)
WL 17-1	D16	7,500	4	1.56	11.7	47	
WL 17-2	D16	5,500	4	1.56	8.58	34	
WL 18	D16	11,500	2	1.56	17.9	36	
WL 19	D16	2,260	2	1.56	3.53	7	┐
WL 20	D16	1,830	2	1.56	2.85	6	—
WL 21	D16	720	11	1.56	1.12	12	┐
WL 22	D16	750	42	1.56	1.17	49	┐
WL 23	D13	710	52	0.995	0.706	37	┐
						3,571 kg	

鉄筋表

記号	径 (mm)	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要
WR 1-1	D29	9,000	7	5.04	45.4	318	┐ [7]
WR 1-2	D29	5,570	7	5.04	28.1	197	
WR 2-1	D29	8,000	6	5.04	40.3	242	┐ [6]
WR 2-2	D29	6,570	6	5.04	33.1	199	
WR 3	D29	8,000	5	5.04	40.3	202	┐
WR 4-1	D25	9,000	6	3.98	35.8	215	┐
WR 4-2	D25	6,500	6	3.98	25.9	155	
WR 5-1	D25	8,000	7	3.98	31.8	223	┐
WR 5-2	D25	7,500	7	3.98	29.9	209	
WR 6	D25	6,950	44	3.98	27.7	1,219	┐
WR 7	D25	6,920	12	3.98	27.5	330	┐ (平均長)
WR 8	D25	4,840	12	3.98	19.3	232	┐
WR 9	D25	8,340	3	3.98	33.2	100	—
WR 10	D25	3,070	11	3.98	12.2	134	┐
WR 11	D25	3,090	25	3.98	12.3	308	┐
WR 12	D22	6,910	26	3.04	21.0	546	┐
WR 13	D22	6,770	12	3.04	20.6	247	┐ (平均長)
WR 14	D22	8,340	3	3.04	25.4	76	—
WR 15	D16	2,210	28	1.56	3.45	97	(平均長)
WR 16	D16	8,500	2	1.56	13.3	27	
WR 17	D16	6,500	2	1.56	10.1	20	┐
WR 18	D16	8,340	2	1.56	13.0	26	—
WR 19	D16	11,500	2	1.56	17.9	36	
WR 20	D16	1,020	38	1.56	1.59	60	┐
WR 21	D16	980	28	1.56	1.53	43	┐
WR 22	D13	810	52	0.995	0.806	42	┐ ※
WR 23	D13	970	44	0.995	0.965	42	┐
						5,545 kg	
KL 1	D16	1,950	17	1.56	3.04	52	┐
KL 2	D16	1,600	1	1.56	2.50	3	┐
KL 3	D16	1,350	17	1.56	2.11	36	┐
KL 4	D16	1,230	17	1.56	1.92	33	┐
KL 5	D13	1,950	52	0.995	1.94	101	┐
KL 6	D13	1,200	52	0.995	1.19	62	┐
KL 7	D13	1,150	52	0.995	1.14	59	┐
KL 8	D13	8,510	3	0.995	8.47	25	—
KL 9	D13	4,230	18	0.995	4.21	76	—
KL 10	D13	4,190	2	0.995	4.17	8	—
KL 11	D13	1,050	10	0.995	1.04	10	┐
						465 kg	
KR 1	D16	1,950	17	1.56	3.04	52	┐
KR 2	D16	1,600	1	1.56	2.50	3	┐
KR 3	D16	1,750	17	1.56	2.73	46	┐
KR 4	D16	1,300	17	1.56	2.03	35	┐
KR 5	D13	1,950	52	0.995	1.94	101	┐
KR 6	D13	1,470	52	0.995	1.46	76	┐
KR 7	D13	1,190	52	0.995	1.18	61	┐
KR 8	D13	8,510	3	0.995	8.47	25	—
KR 9	D13	4,230	18	0.995	4.21	76	—
KR 10	D13	4,190	2	0.995	4.17	8	—
KR 11	D13	1,050	10	0.995	1.04	10	┐
						493 kg	
B 1	D16	3,890	4	1.56	6.07	24	┐
B 2	D16	3,760	5	1.56	5.87	29	┐
B 3	D13	2,710	8	0.995	2.70	22	┐
						75 kg	

機械式鉄筋定着工法数量表（普通鉄筋）

鉄筋径	箇所数					
	0m<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m
D13	---	---	---	---	---	---
D16	---	---	36	---	---	---
D19	---	---	195	---	---	---
D22	---	---	---	---	---	---
D25	---	---	---	---	---	---
小計	---	---	231	---	---	---
合計	231箇所					

特記事項

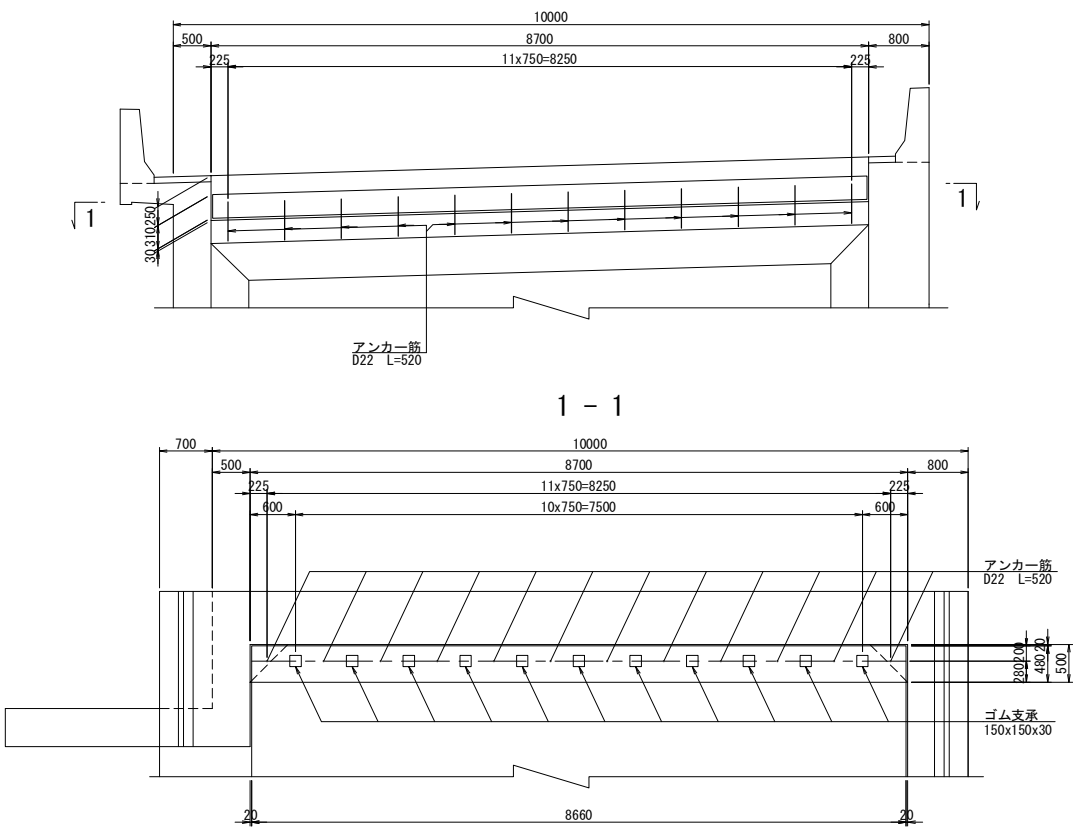
- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
  - ・道路標示方書・同解説（H29.11日本道路協会）
  - ・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン（H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 詳細図に示す定着体はhead-bar工法であるが、他工法の採用を否定するものではない。
- 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。
- ☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
- Kは機械式継手を示す。

	A種鉄筋	B種鉄筋	C種鉄筋	A+B+C
普通鉄筋	D51 --- kg	---	---	---
	D41 --- kg	---	---	---
	D38 --- kg	---	---	---
	D35 6357 kg	4138 kg (38)	---	10495 kg
	D32 --- kg	---	---	---
	D29 2625 kg	---	---	2625 kg
	D25 677 kg	---	---	677 kg
	D22 337 kg	---	---	337 kg
	D19 1220 kg	---	1308 kg	2528 kg
	D16 212 kg	---	165 kg	377 kg
	D13 --- kg	---	---	---
合計	11428 kg	4138 kg	1473 kg	17039 kg
エポキシ樹脂塗装鉄筋	D51 --- kg	---	---	---
	D41 --- kg	---	---	---
	D38 --- kg	---	---	---
	D35 3380 kg	---	---	3380 kg
	D32 8089 kg	---	---	8089 kg
	D29 202 kg	956 kg (13)	---	1158 kg
	D25 4424 kg	---	---	4424 kg
	D22 888 kg	---	---	888 kg
	D19 2865 kg	---	1835 kg	4700 kg
	D16 2373 kg	---	171 kg	2544 kg
	D13 864 kg	---	279 kg	1143 kg
合計	23085 kg	956 kg	2285 kg	26326 kg
総質量	34513 kg	5094 kg	3758 kg	43365 kg

機械式鉄筋定着工法数量表（エポキシ鉄筋）

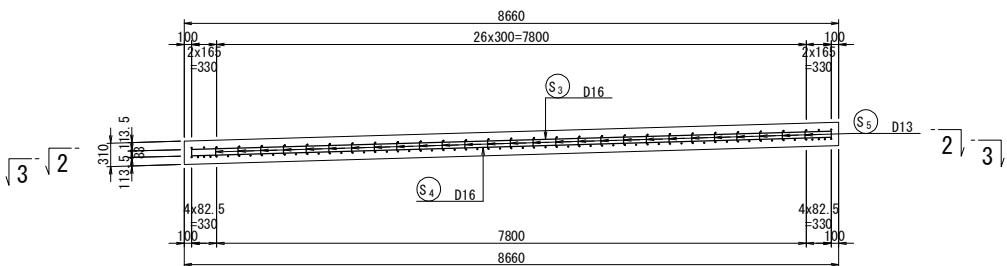
鉄筋径	箇所数					
	0m<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m
D13	388	---	---	---	---	---
D16	---	---	---	36	---	---
D19	---	---	---	264	---	---
D22	---	---	---	---	---	---
D25	---	---	---	---	---	---
小計	388	---	---	300	---	---
合計	688箇所					

受台部横断図



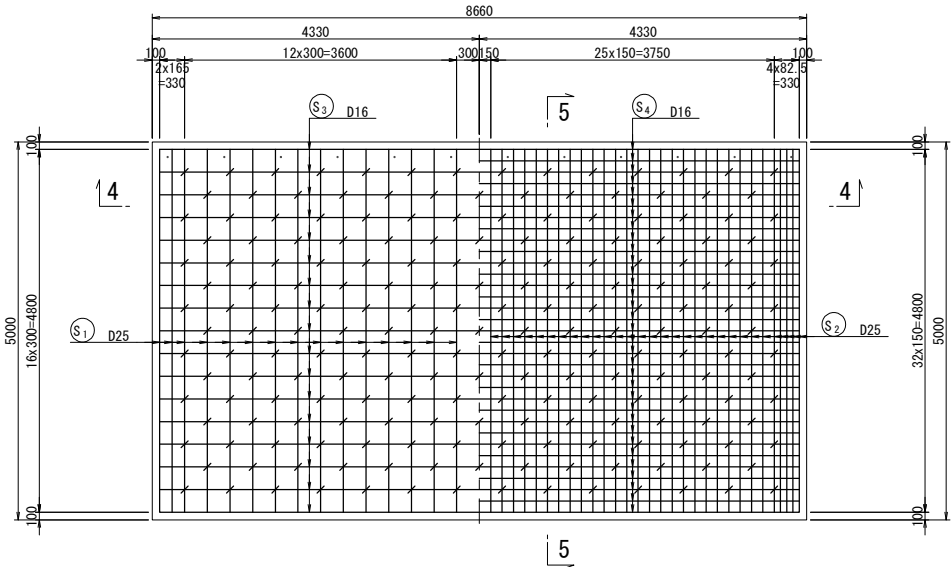
1 - 1

4 - 4

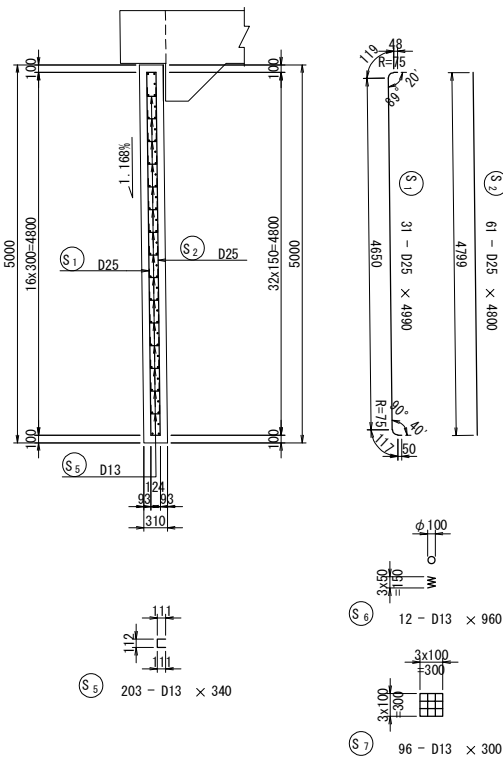


2 - 2

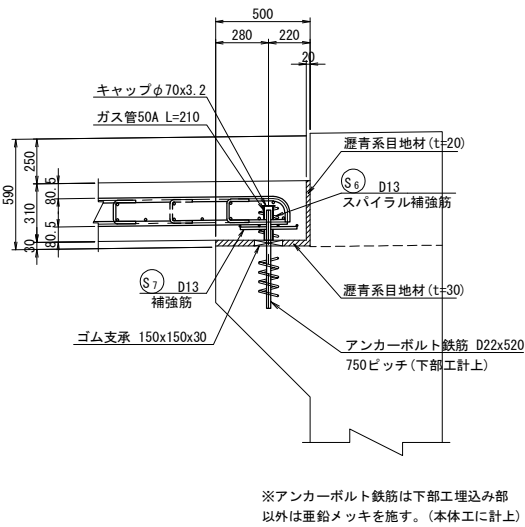
3 - 3



5 - 5



受台部詳細図 S=1:40

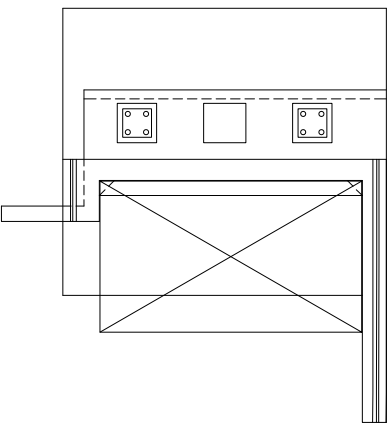


※アンカーボルト鉄筋は下部工埋込み部  
以外は垂鉛メッキを施す。(本体工に計上)

鉄筋表

記号	径 (mm)	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要	備考
S 1	D25	4,990	31	3.98	19.86	616	—	
S 2	D25	4,800	61	3.98	19.10	1,165	「	
S 3	D16	8,590	17	1.56	13.40	228	—	
S 4	D16	8,470	33	1.56	13.21	436	「	
S 5	D13	340	203	0.995	0.34	69	「	
S 6	D13	960	12	0.995	0.96	12	≡	
S 7	D13	300	96	0.995	0.30	29	—	
2,555 kg								
(SD345) D13 110 kg								
(SD345) D16 664 kg								
(SD345) D25 1,781 kg								
合計 2,555 kg								

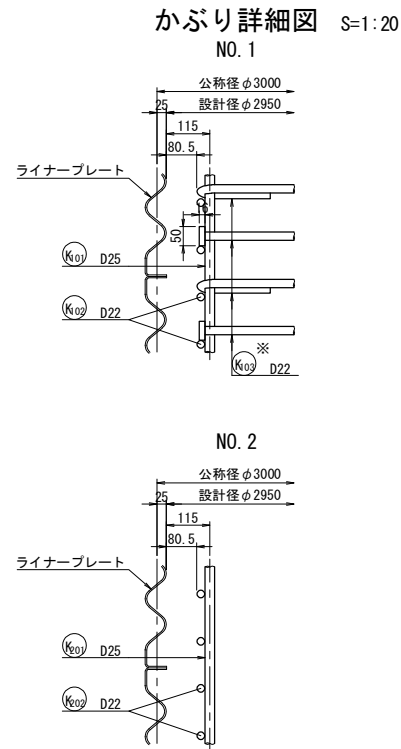
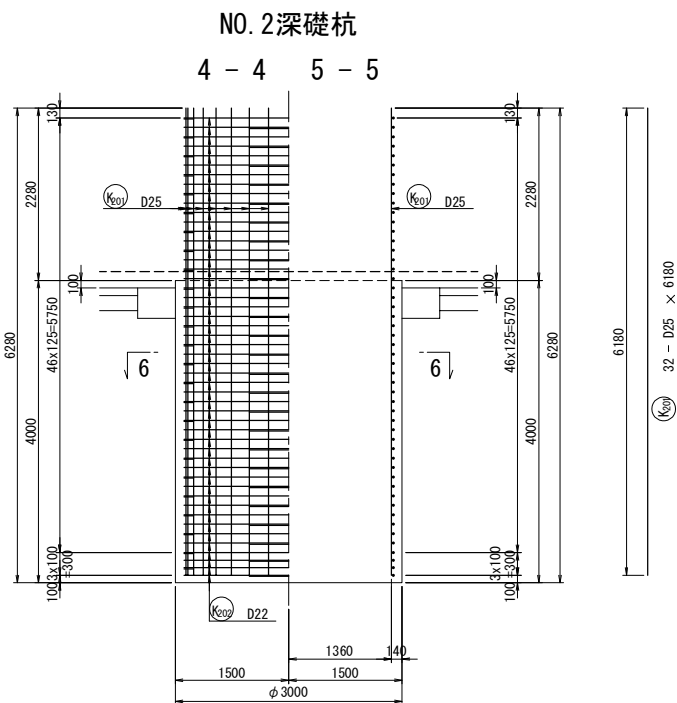
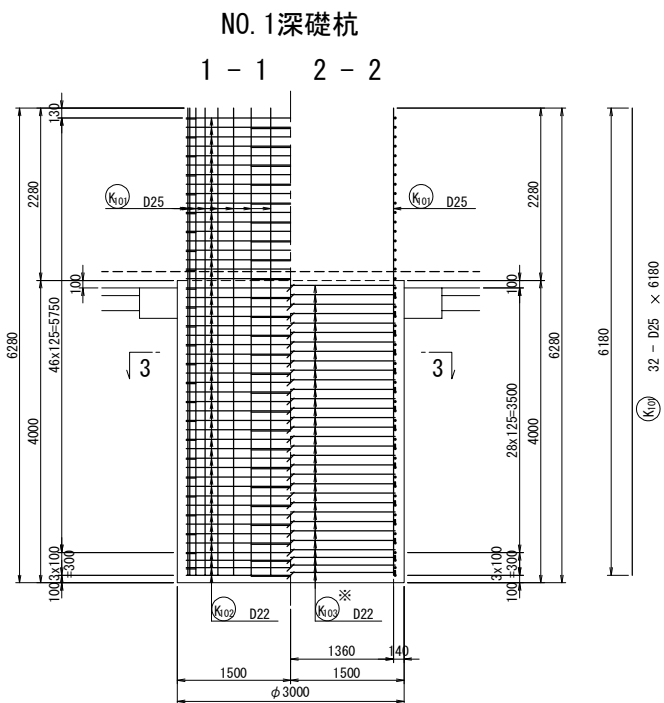
位置図



下部工計上以外施工対象外(舗装工事施工)

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台踏掛版配筋図		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

かやぐらばし A1橋台深礎杭配筋図(1) S=1:100  
< φ3000 杭長 L=4.0m, N=2本 >

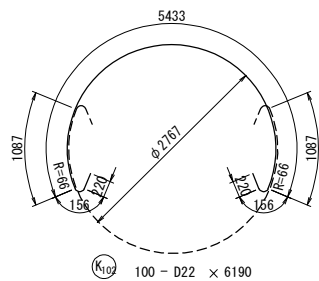
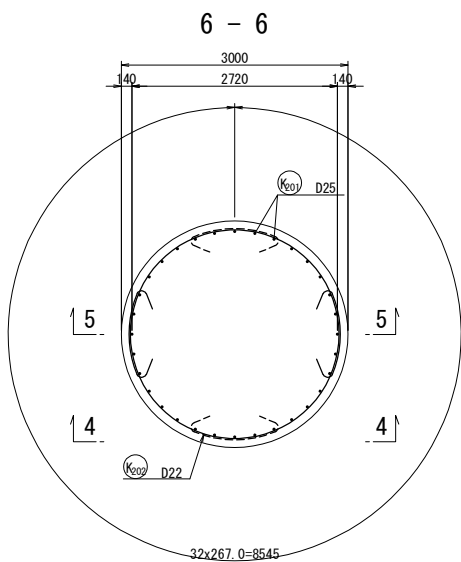
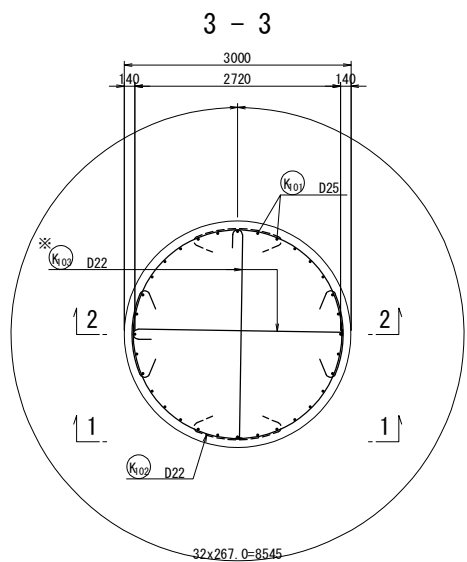


鉄筋表

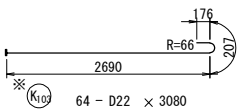
記 号	径 (mm)	長 さ (mm)	本 数	単位質量 (kg/m)	本 当 り 質 量 (kg/本)	質 量 (kg)	摘 要	
NO.1深礎杭								
K 101	D25	6,180	32	3.98	24.6	787		
K 102	D22	6,190	100	3.04	18.8	1,880	○	
K 103	D22	3,080	64	3.04	9.36	599	⌋	※
						3,266 kg		
				鉄筋A	鉄筋C			
(SD345) D22				1,880 kg	599 kg			
(SD345) D25				787 kg				
合 計				2,667 kg	599 kg			
NO.2深礎杭								
K 201	D25	6,180	32	3.98	24.6	787		
K 202	D22	6,190	100	3.04	18.8	1,880	○	
						2,667 kg		
				鉄筋A	鉄筋C			
(SD345) D22				1,880 kg				
(SD345) D25				787 kg				
合 計				2,667 kg				

機械式鉄筋定着工法数量表

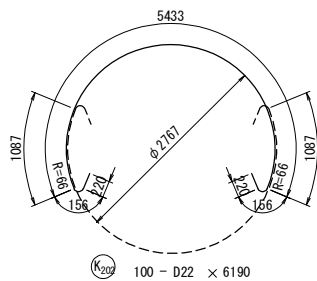
鉄筋径	箇所数					
	0m<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m
D13	---	---	---	---	---	---
D16	---	---	---	---	---	---
D19	---	---	---	---	---	---
D22	---	---	---	64	---	---
D25	---	---	---	---	---	---
小計	---	---	---	64	---	---
合計	64箇所					



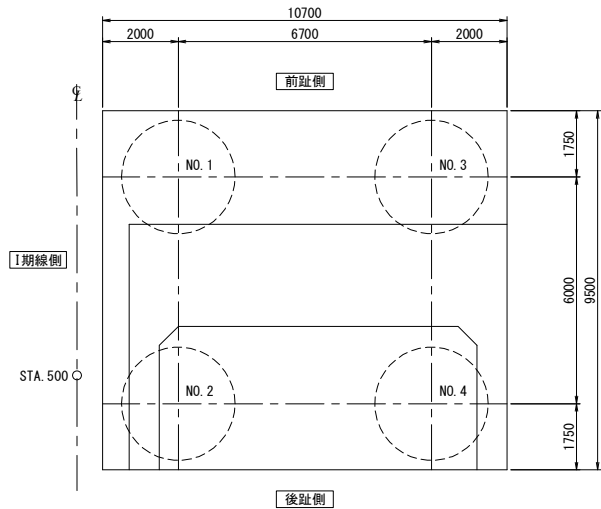
100 - D22 × 6190



64 - D22 × 3080

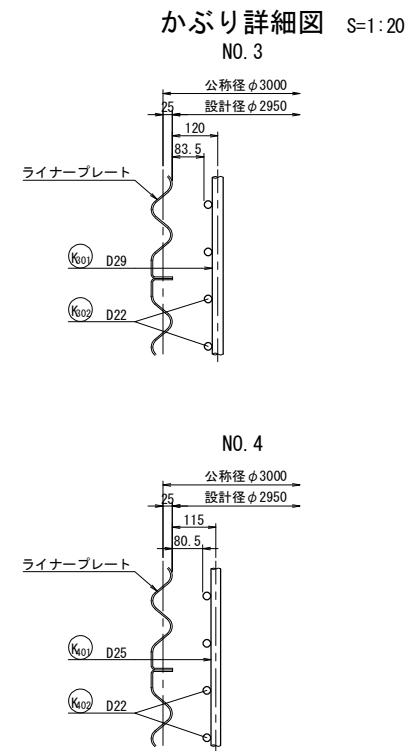
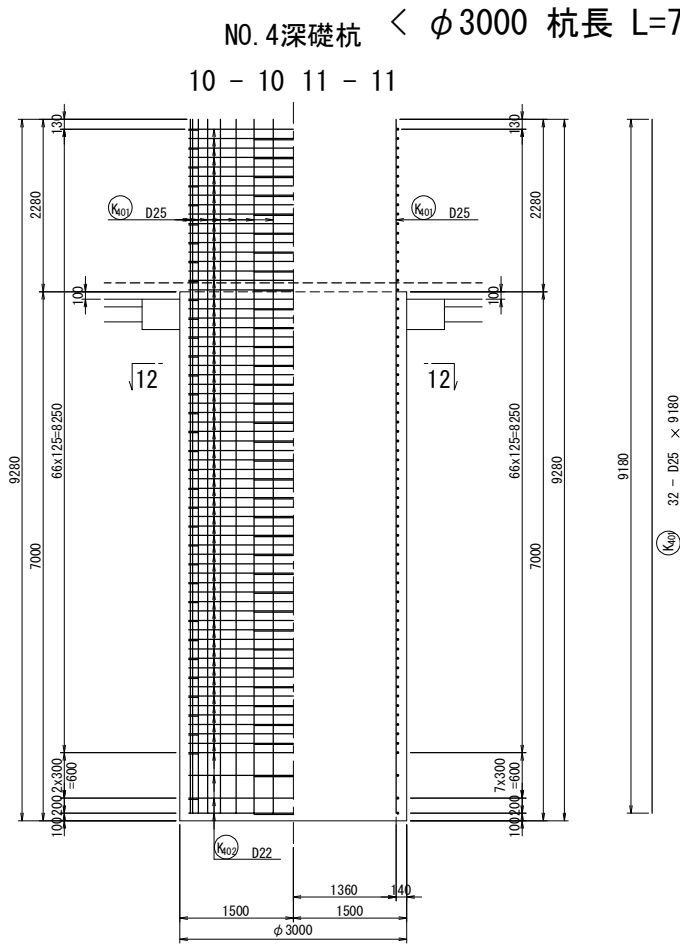
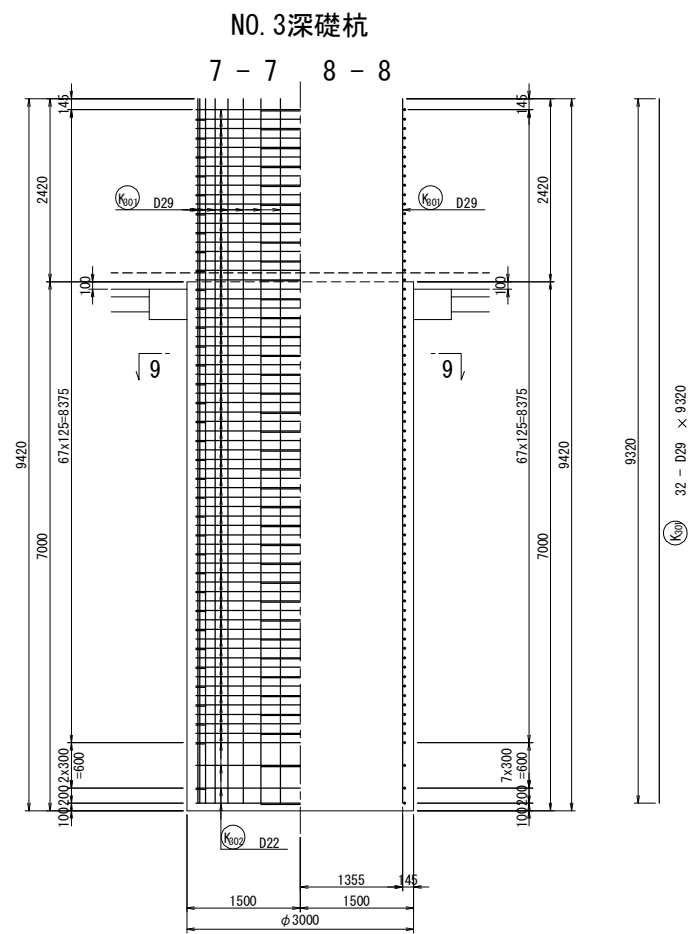


100 - D22 × 6190



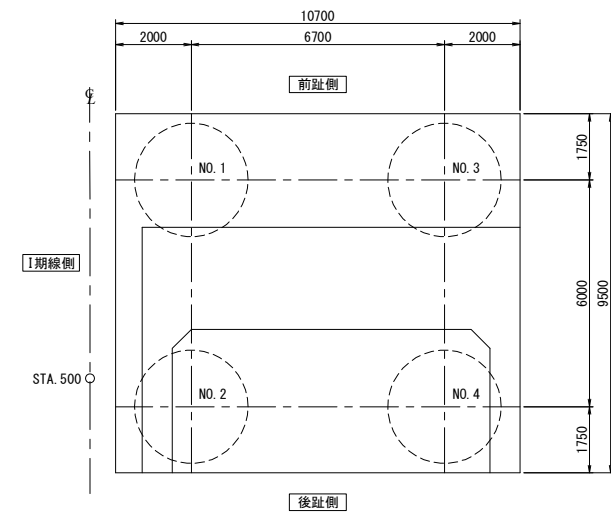
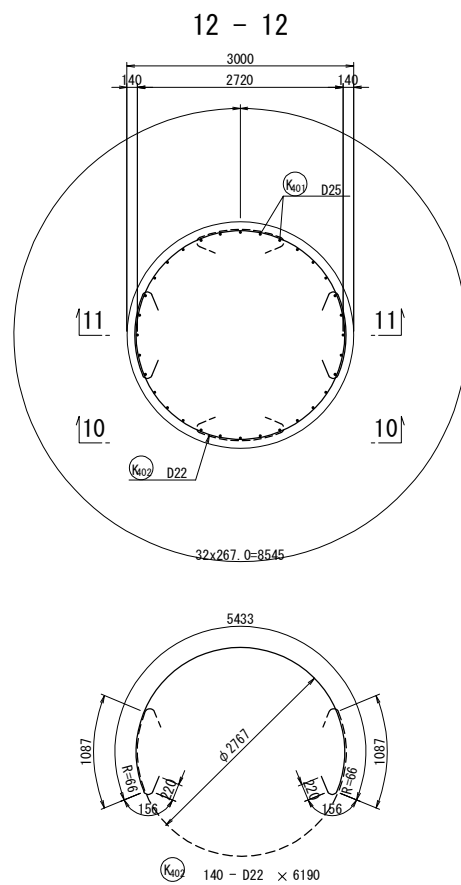
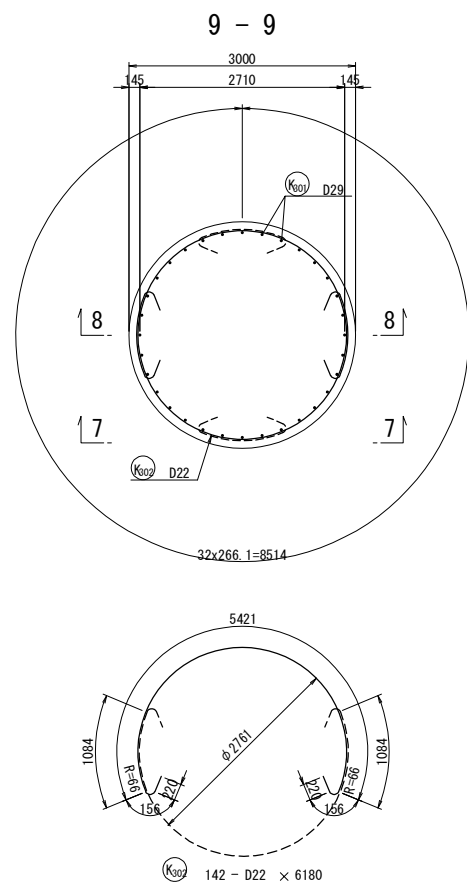
特記事項  
機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路標示方書-同解説 (H24. 3日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン (H28. 7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の実験等により効果が保障された定着工法を用いること。  
3. 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の確認を得てから工事を行うこと。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台深礎杭配筋図(1)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		



鉄筋表

(杭1本当り質量)						
記号	径 (mm)	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)
NO.3深礎杭						
K 301	D29	9,320	32	5.04	47.0	1,504
K 302	D22	6,180	142	3.04	18.8	2,670
						4,174 kg
				鉄筋A	鉄筋C	
				(SD345) D22		2,670 kg
				(SD345) D29		1,504 kg
				合計		4,174 kg
NO.4深礎杭						
K 401	D25	9,180	32	3.98	36.5	1,168
K 402	D22	6,190	140	3.04	18.8	2,632
						3,800 kg
				鉄筋A	鉄筋C	
				(SD345) D22		2,632 kg
				(SD345) D25		1,168 kg
				合計		3,800 kg

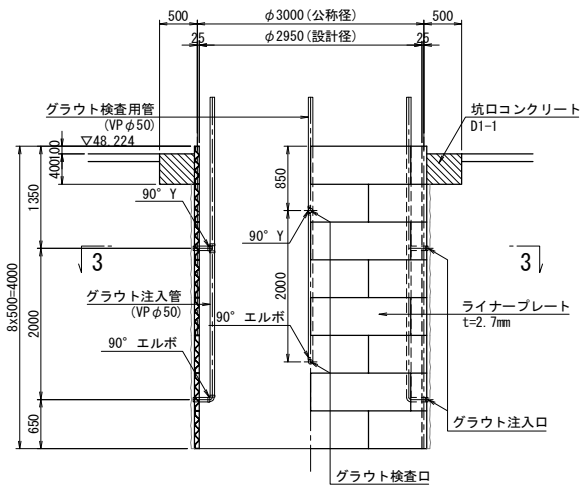


常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台深礎杭配筋図(2)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		



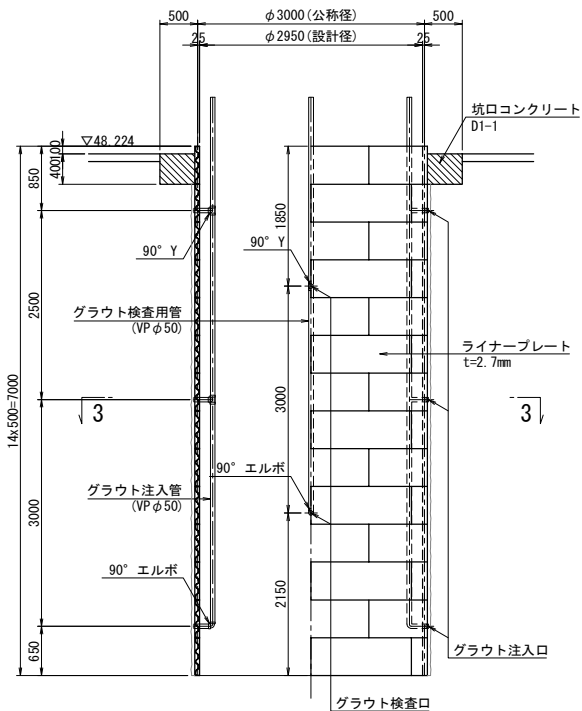
NO. 1, 2深礎杭

1 - 1 2 - 2



NO. 3, 4深礎杭

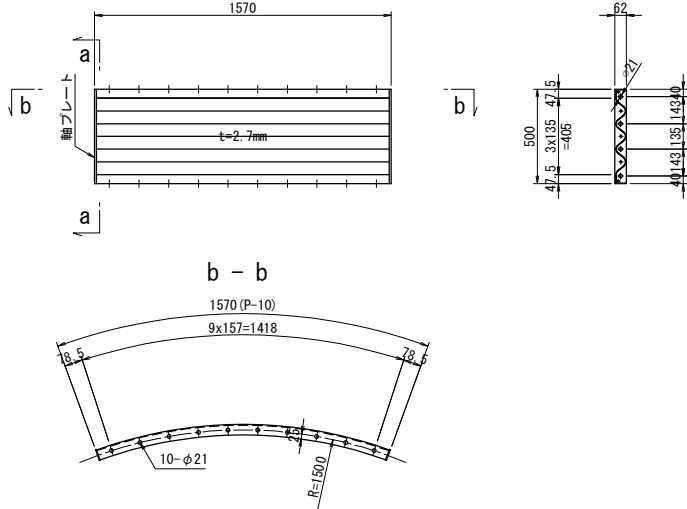
1 - 1 2 - 2



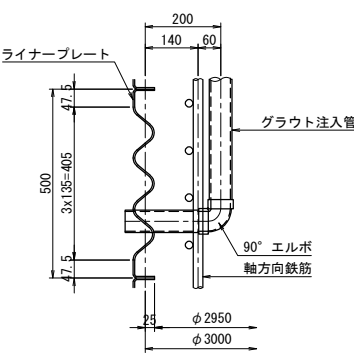
ライナープレート詳細図 S=1:40

P-10

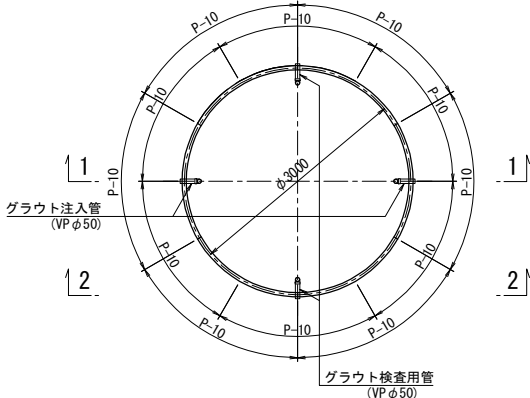
a - a



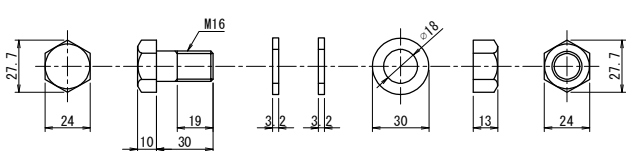
配管詳細図 S=1:20



3 - 3



組立ボルト詳細図 S=1:4

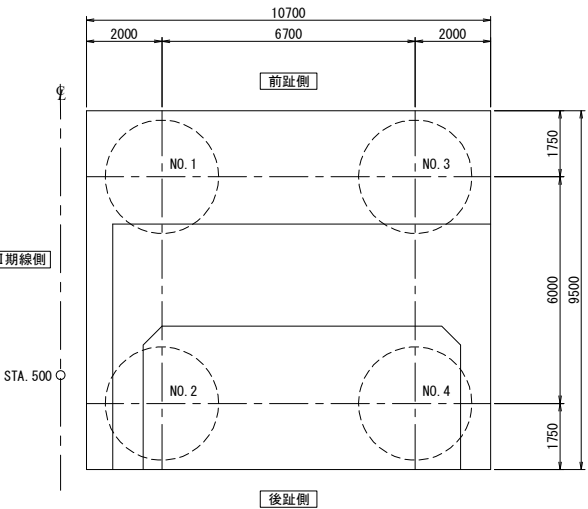


ライナープレート材料表

名 称	規 格 寸 法	数 量	単 位 質 量	質 量 (kg)	備 考
・ NO. 1, 2深礎杭 (設計長 4.0m)					
ライナープレート	(SS330) P-10, t=2.7mm	96	26.0	2,496	黒皮品
組立ボルト	M16×30 (4.6, LP組立て用)	1,224	0.137	168	
・ NO. 3, 4深礎杭 (設計長 7.0m)					
ライナープレート	(SS330) P-10, t=2.7mm	168	26.0	4,368	黒皮品
組立ボルト	M16×30 (4.6, LP組立て用)	2,232	0.137	306	
ライナープレート			6,864 kg		
組立ボルト			474 "		
合計			7,338 kg		

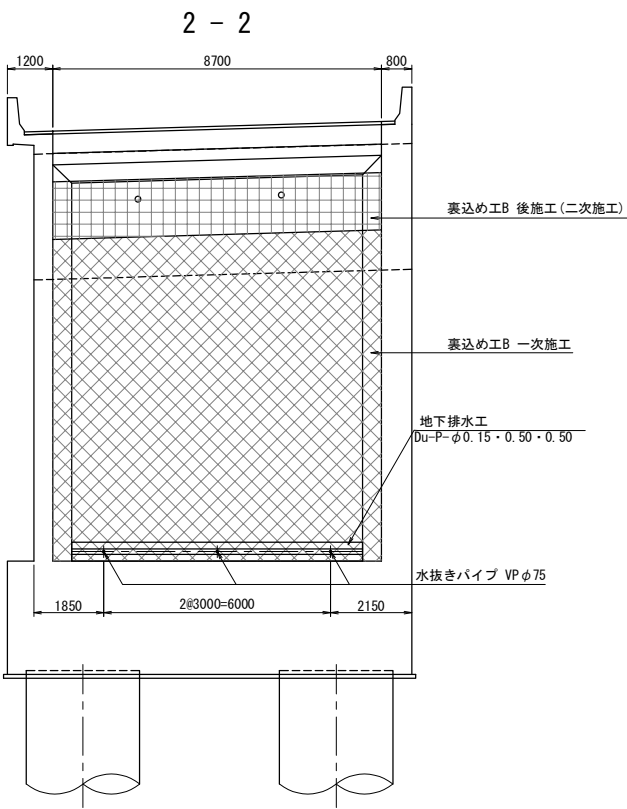
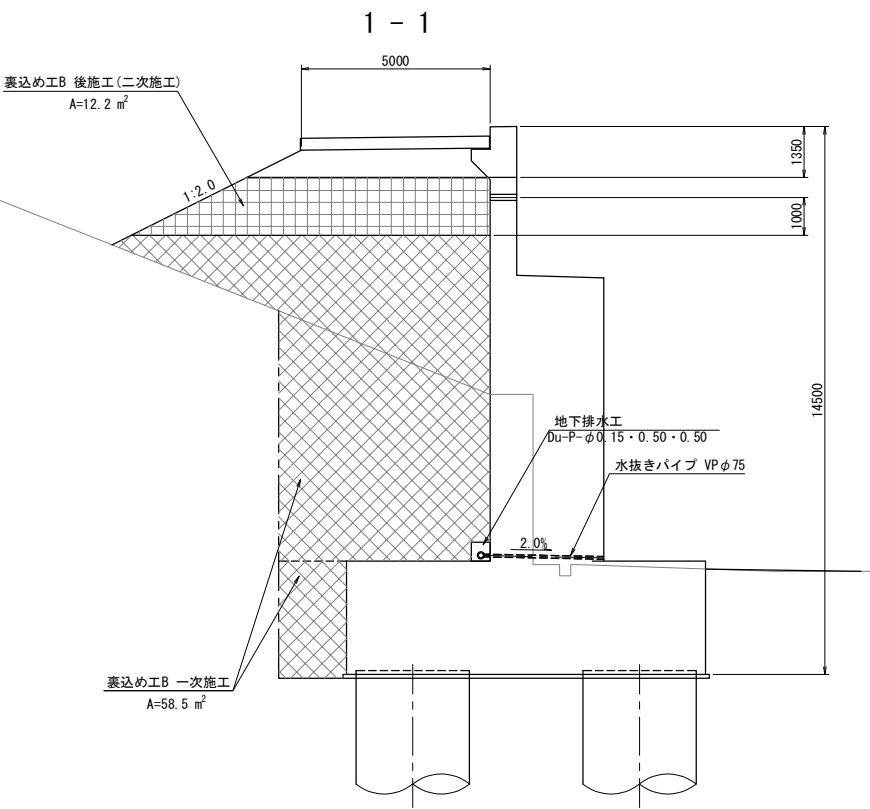
グラウト注入管材料表 (参考)

名 称	規 格 寸 法	数 量	延 長 (m)	備 考
・ NO. 1, 2深礎杭 (設計長 4.0m)				
直管	VP 50	—	22.0	
継手管	90° エルボ (VP 50用)	8	—	
継手管	90° Y (VP 50用)	8	—	
・ NO. 3, 4深礎杭 (設計長 7.0m)				
直管	VP 50	—	46.0	
継手管	90° エルボ (VP 50用)	8	—	
継手管	90° Y (VP 50用)	12	—	
坑口コンクリートD1-1	2.2 m <sup>3</sup>	1本当たり		
	8.8 m <sup>3</sup>	4本当たり		
坑口型枠D	5.025m <sup>2</sup>	1本当たり		
	20.1 m <sup>2</sup>	4本当たり		

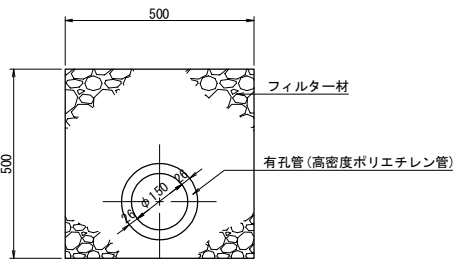


・本図で示す標高はすべてT.P表示とする。

常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台深礎杭土留工図		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

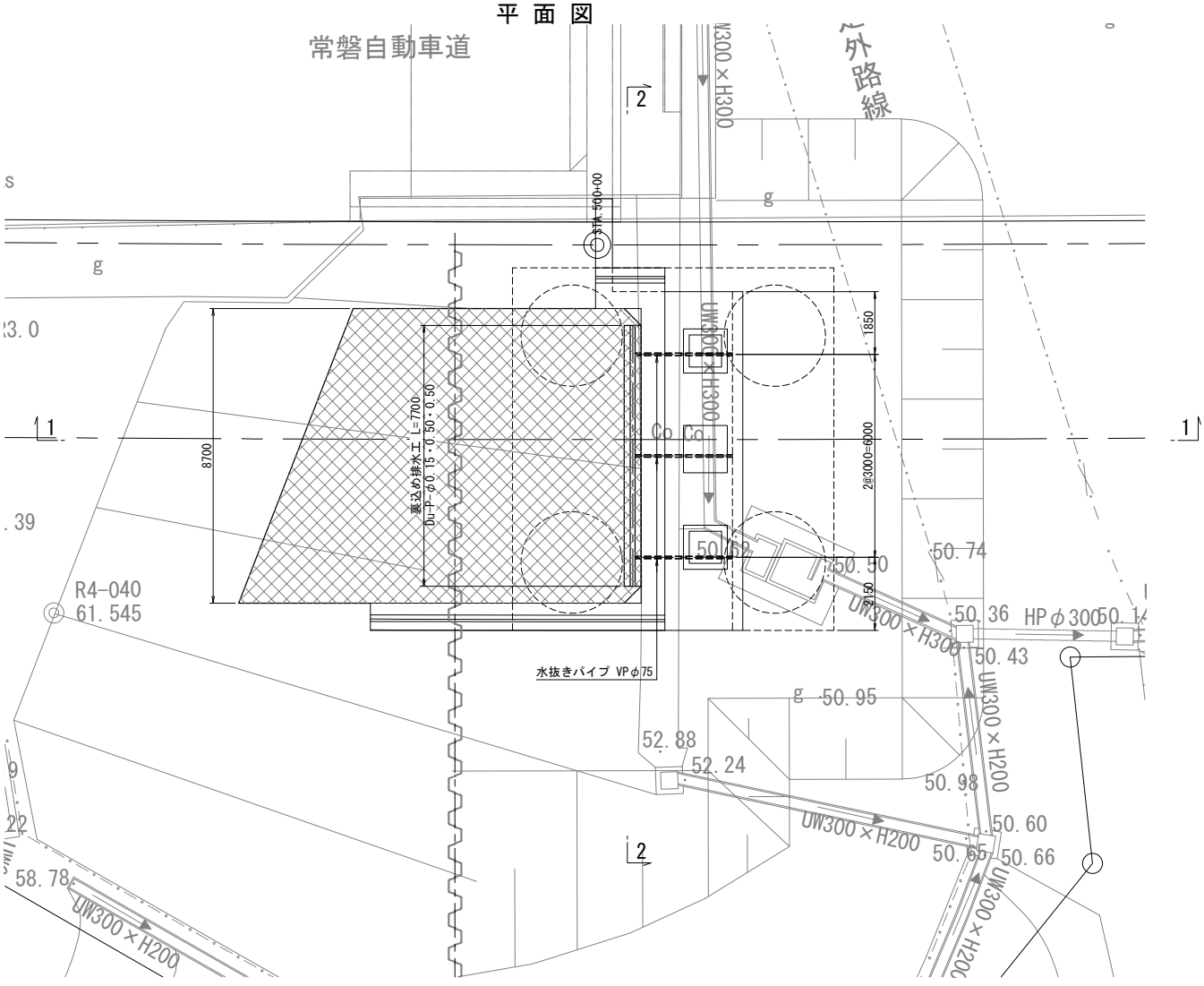


地下排水工詳細図 S=1:40  
Du-P-φ0.15・0.50・0.50

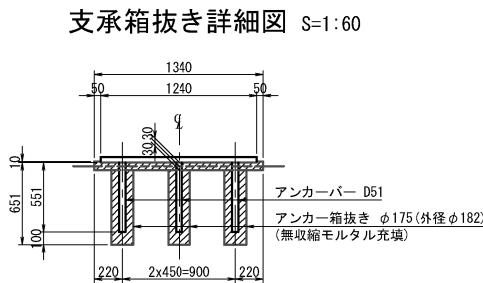
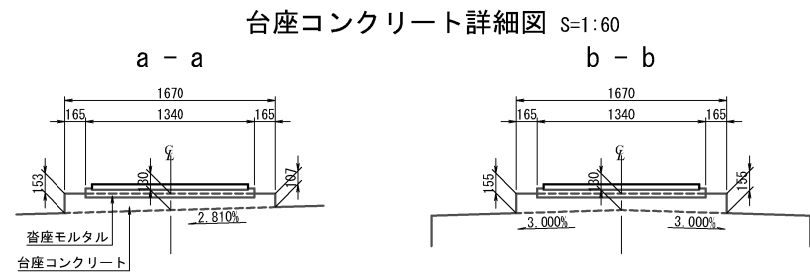
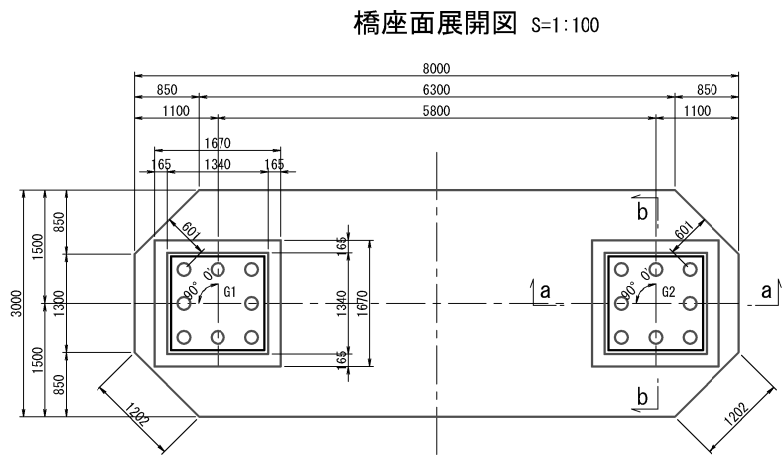
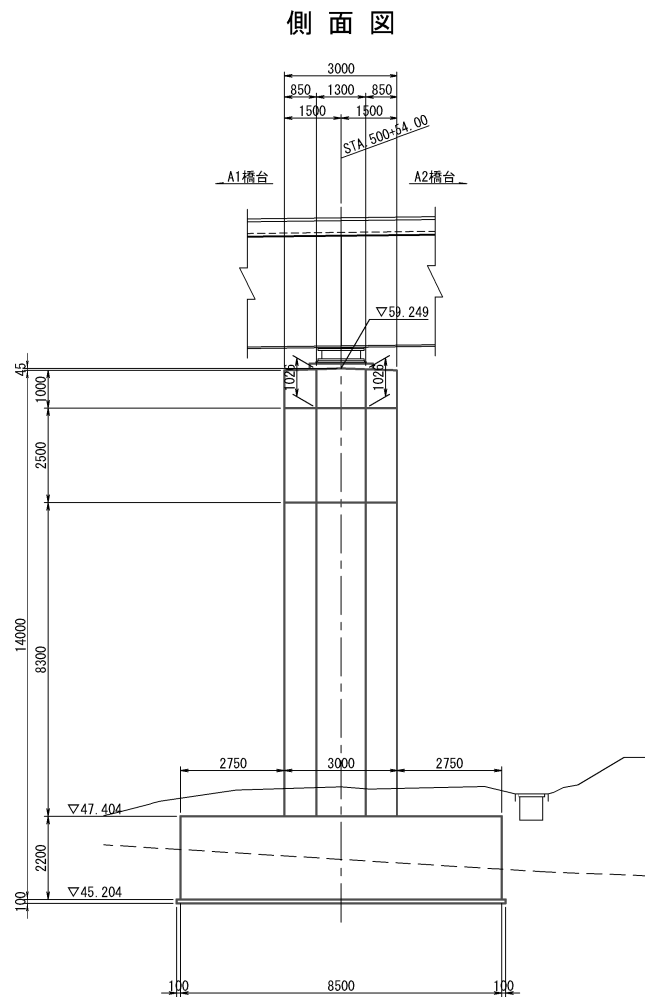
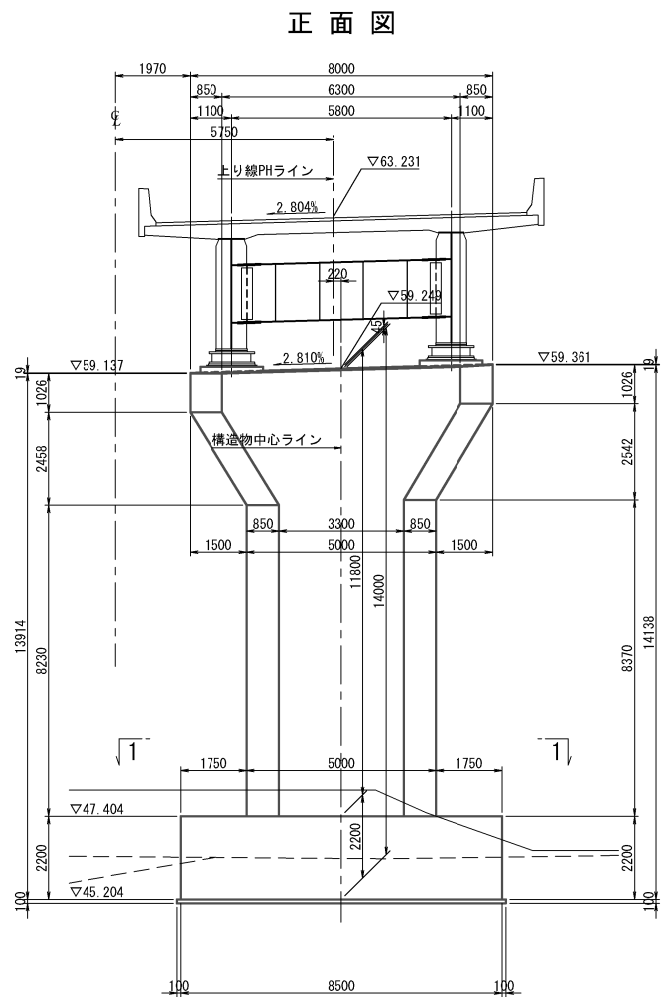


数量表

項目	種別	単位	数量	備考
裏込め材	裏込め工B 一次施工	m³	509.0	二次施工
	裏込め工B (舗装工事施工)	m³	106.1	
地下排水工	Du-P-φ0.15・0.50・0.50	m	7.7	

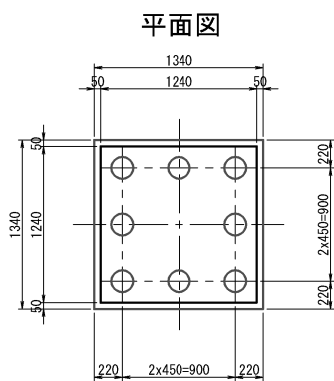
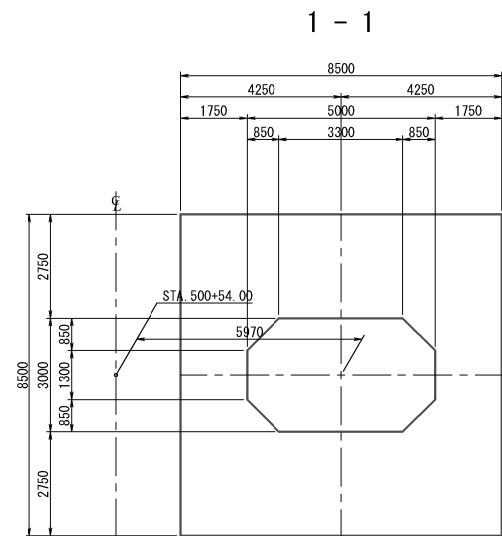
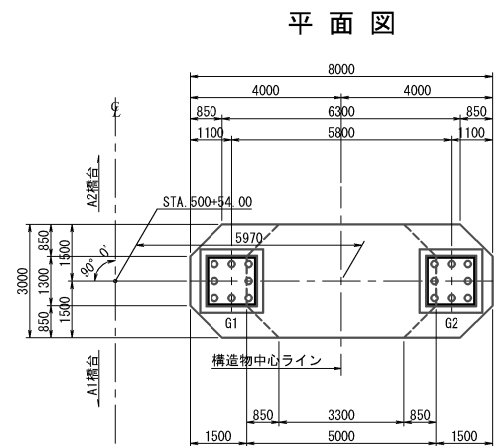
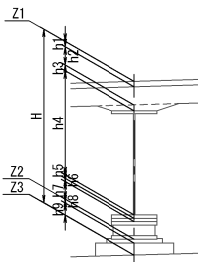


常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台裏込め工排水工詳細図		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



構造高表

		G1	G2
路面標高	Z1	63.156	63.318
舗装厚	h1	0.080	0.080
床版厚	h2	0.310	0.310
ハンチ高	h3	0.100	0.100
主桁高	h4	2.900	2.900
下フランジ厚	h5	0.067	0.067
ソールプレート厚	h6	0.030	0.030
支承高	h7	0.365	0.365
橋座面標高	Z2	59.305	59.468
橋座モルタル厚	h8	0.030	0.030
台座コンクリート高	h9	0.130	0.130
構造高合計	H	4.012	4.012
下部工天端標高	Z3	59.144	59.306

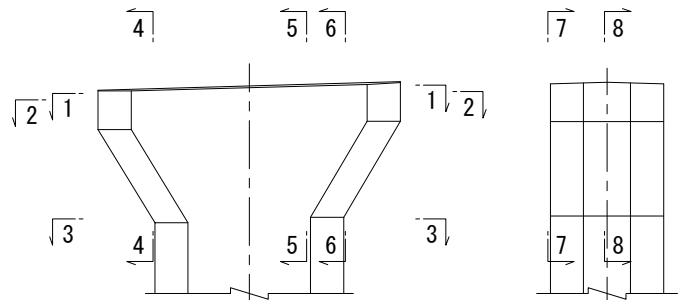


設計条件

道 路 規 格	第1種 2級 B規格		
重 要 度 区 分	B種の橋		
活 荷 重	B活荷重		
地 域 区 分	A2地区		
地 盤 種 別	I 種地盤		
斜 角	∠R		
適 用 方 書	道路橋示方書・同解説 社) 日本道路協会 (平成29年11月) 設計要領第二集 東日本高速道路株式会社 (平成28年6月)		
設計標準水度	レベル1	レベル2-I	レベル2-II
	橋軸方向 0.20	0.83	0.85
	直角方向 0.20	0.84	0.85
下部構造	形式	強出式	
	基礎	直接基礎	
	材料	梁・柱: $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ 、底版: $\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	
		鉄筋 SD345	
	支持地盤	シルト岩 (Mk (s) 層)	

・本図で示す標高はすべてT P表示とする。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし P1橋脚構造一般図		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

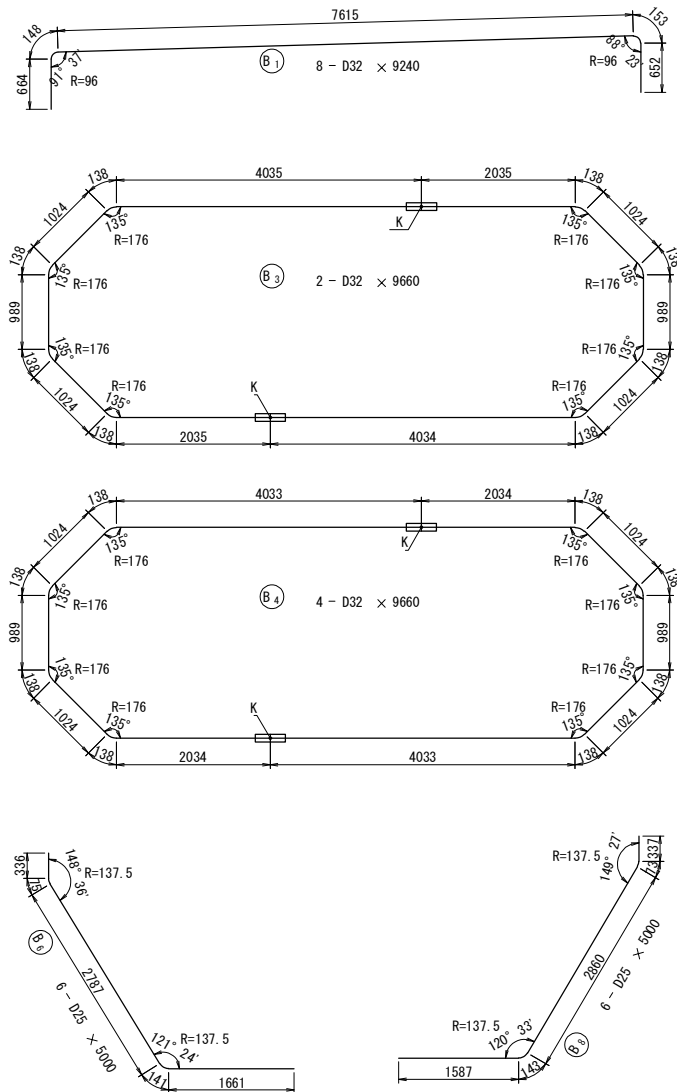


スターラップ組立図 ctc150

特記事項

- 1) 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
  - ・道路橋示方書（同解説）(H29.11日本道路協会)
  - ・機械式鉄筋定着工法の設計図形ガイドライン(H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 2) 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 3) 詳細図に示す定着体はHead-bar工法であるが、他工法の採用を否定するものではない。
- 4) 機械式継手については、使用製品の製品と施工法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。
- 5) Kは機械式継手を示す。

常 盤 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし P1橋脚配筋図(1)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事業務所		



Technical drawing of a curved beam with dimensions:

- Left end: Radius  $R=96$ , angle  $41^\circ$ , height  $a$ , width  $148$ .
- Right end: Radius  $R=96$ , angle  $49^\circ$ , height  $c$ , width  $150$ .
- Top chord: Length  $b$ .
- Center:  $10 - D32 \times 8340$  (平均長)

記号	径	本数	a	b	c	L
2-1	D32	2	668	7317	648	8940
2-2	"	2	672	7017	644	8640
2-3	"	2	676	7017	639	8340
2-4	"	2	681	6417	635	8040
2-5	"	2	685	6117	631	7740
平均		10				8340

Technical drawing of a circular gear rack with 16 teeth. The drawing shows the rack in two positions, labeled 'a' and 'b', with dimensions for pitch diameter (D32), addendum (a), dedendum (d), and tooth thickness (K). The rack is labeled '16 - D32 x 8250 (平均尺)'.

記号	径	本数	a	L
7-1	D25	2	1364	4710
7-2	"	2	1064	4410
7-3	"	2	925	4270
平均		6		4470

記号	径	本数	a	L
9-1	D25	2	1290	4710
9-2	"	2	990	4410
9-3	"	2	851	4270
平均		6		4470

Technical drawing of a square plate with dimensions. The side length is 2841. The distance from the center to the edge is 285. The formula 14 - D19 x 9970 (平均長) is shown below the drawing.

(B.11) 5-D19 x 10260 (平均長)

記号	径	本数	a	b	L
11-1	D19	1	2210	1300	10390
11-2	"	1	2377	1108	10340
11-3	"	1	2627	820	10260
11-4	"	1	2877	532	10180
11-5	"	1	3127	244	10110
平均		5			10260

号数	径	本数	a	b	L
12-1	D19	1	3080	251	10030
12-2	"	1	2830	546	10120
12-3	"	1	2580	842	10210
12-4	"	1	2330	1137	10300
12-5	"	1	2163	1334	10360
平均		5			10210

Technical drawing of a U-shaped metal part (B21) with dimensions. The top flange has a width of 2841 and a height of 854. The bottom flange has a width of 2727 and a height of 179. The vertical legs have a height of 152. The part is labeled B20 and B21.

記号	径	本数	a	L
13 -1	D19	1	1127	8580
13 -2	"	1	1460	9240
13 -3	"	1	1669	9660
13 -4	"	1	1877	10080
平均		4		9390

Technical drawing of a square plate with four circular holes. The outer dimensions are 2841 mm by 2841 mm. The distance between the centers of opposite holes is 285 mm. The distance from the center of a hole to the nearest corner is 'a'. The angle between the line from the center to the corner and the line connecting the centers of two holes is 40° for the top-left hole and 33° for the bottom-right hole. The holes are labeled 14-1, 14-2, 14-3, and 14-4.

Diagram of a U-shaped track. The straight section has length  $a$ . Each semicircular end has a radius  $R=57$  and a height of 179. The total length is given as  $5 - D19 \times 2610$  (平均長).

5 - D19 x 6330 (平均長)

[illegible]

Technical drawing of a U-bollet (B24) showing dimensions: 152, 152, 179, 179, 1122, R=57, R=57, and the specification 9 - D19 x 1790.

152 152  
R=57 R=57  
179 179  
1122  
(B<sub>25</sub>) 9 - D19 x 1790

2820  
R=48  
151  
128  
\*  
B26  
34 - D16 x 3100

Technical drawing of a square flange with the following dimensions:

- Overall width: 1157
- Overall height: 620
- Inner square side length: 285
- Inner square offset from center: 285

Table 1: Dimensions and Material Properties

記号	径	本数	a	L
17-1	D19	1	3320	8290
17-2	"	1	3323	8300
17-3	"	1	3327	8310
17-4	"	1	3331	8310
17-5	"	1	3336	8320
17-6	"	1	3340	8330
17-7	"	1	3344	8340
17-8	"	1	3348	8350
17-9	"	1	3353	8360
17-10	"	1	3357	8370
17-11	"	1	3361	8370
17-12	"	1	3365	8380
17-13	"	1	3267	8190
17-14	"	1	3271	8190
17-15	"	1	3275	8200
17-16	"	1	3279	8210
17-17	"	1	3284	8220
17-18	"	1	3288	8230
17-19	"	1	3292	8240
17-20	"	1	3296	8240
17-21	"	1	3301	8250
17-22	"	1	3305	8260
17-23	"	1	3309	8270
17-24	"	1	3312	8280
平均		24		8290

9 - D19 x 5990 (平均長)

記号	径	本数	a	L
18 - 1	D19	1	3136	7920
18 - 2	"	1	2927	7510
18 - 3	"	1	2719	7090
18 - 4	"	1	2386	6420
18 - 5	"	1	2177	6010
18 - 6	"	1	1969	5590
18 - 7	"	1	1636	4920
18 - 8	"	1	1386	4420
18 - 9	"	1	1136	3920
平均		9		5980

※

②

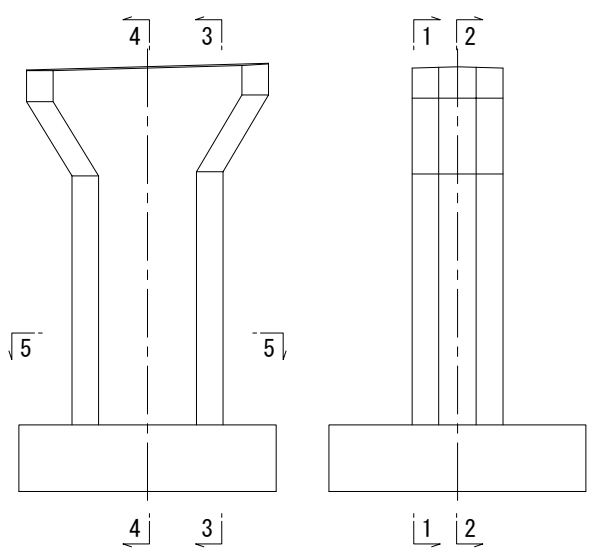
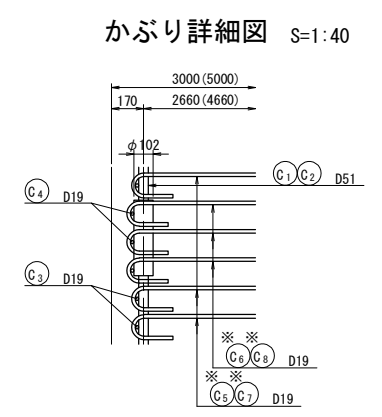
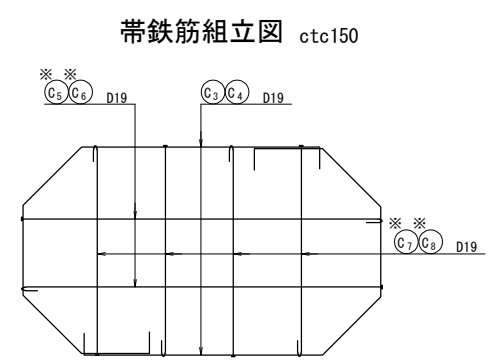
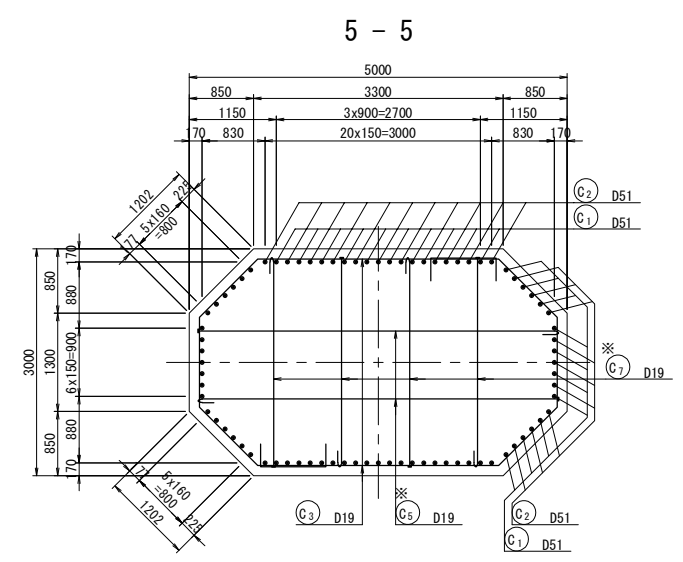
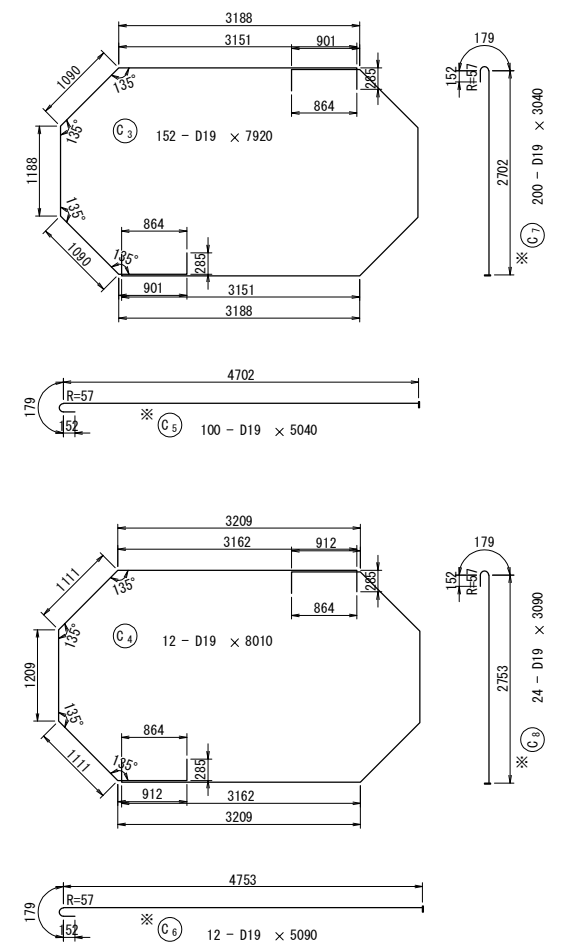
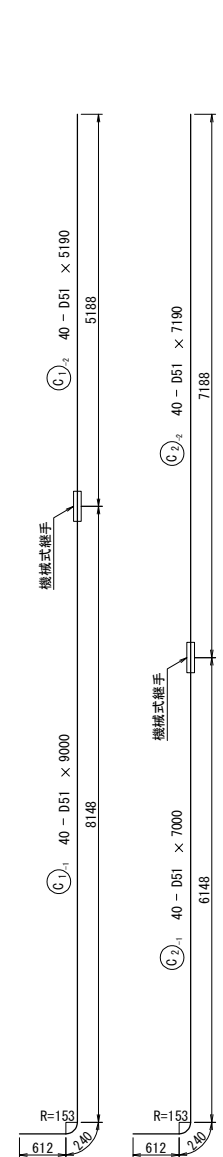
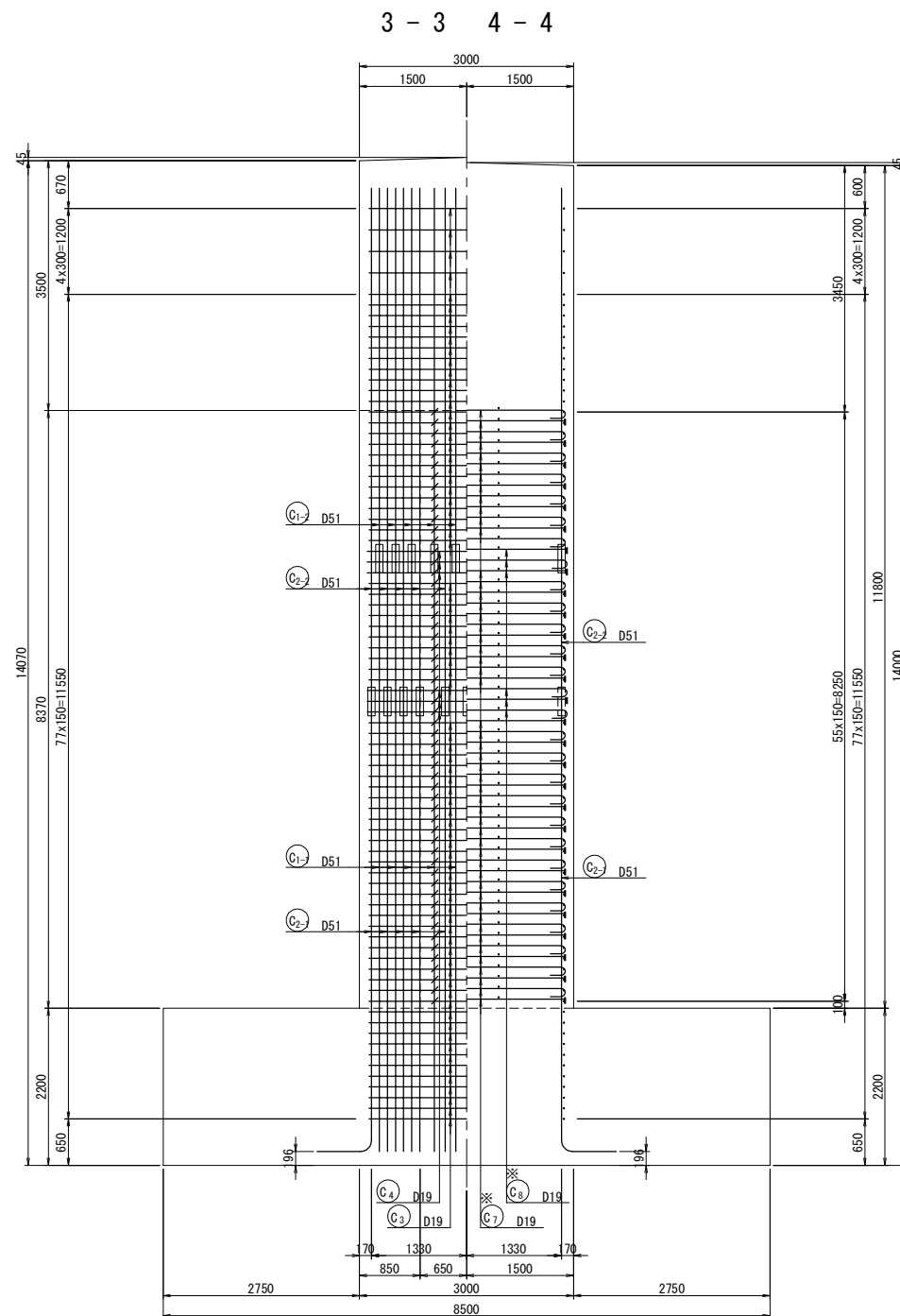
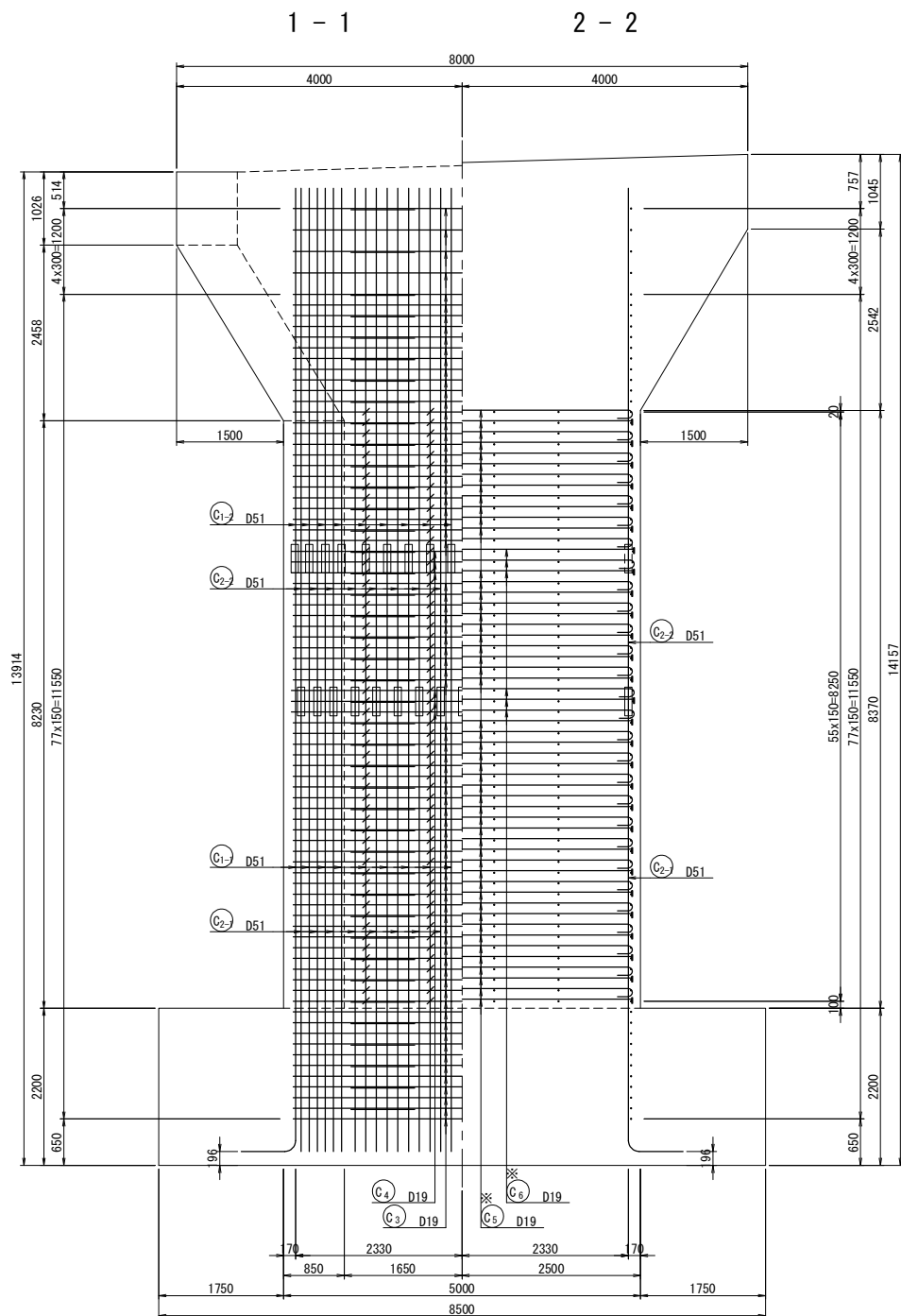
10 - D16 × 2470 (平均長)

記号	径	本数	a	L
27 - 1	D16	2	1554	1840
27 - 2	"	2	1854	2140
27 - 3	"	2	2154	2440
27 - 4	"	2	2554	2840
27 - 5	"	2	2804	3090
平均		10		2470

特記事項

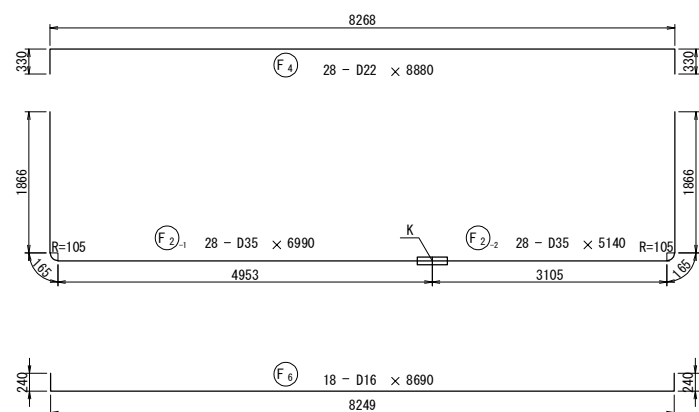
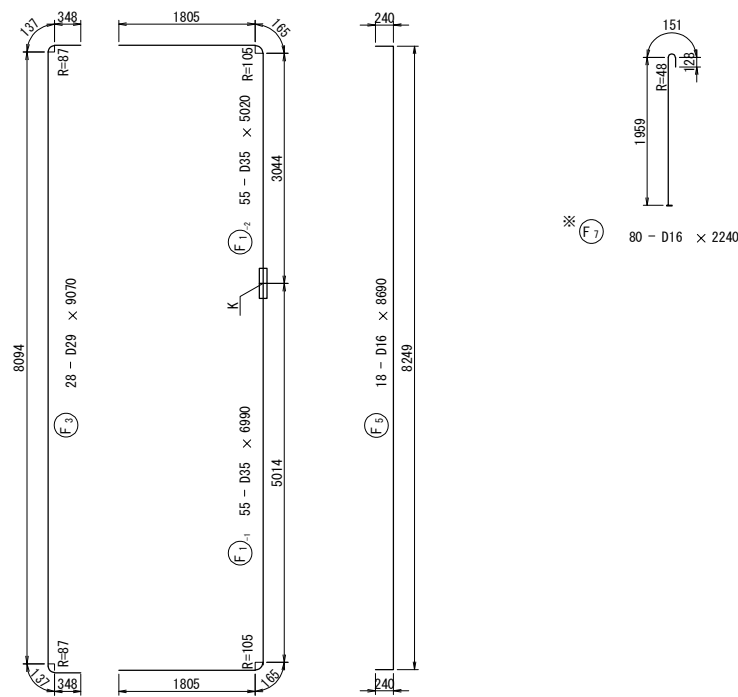
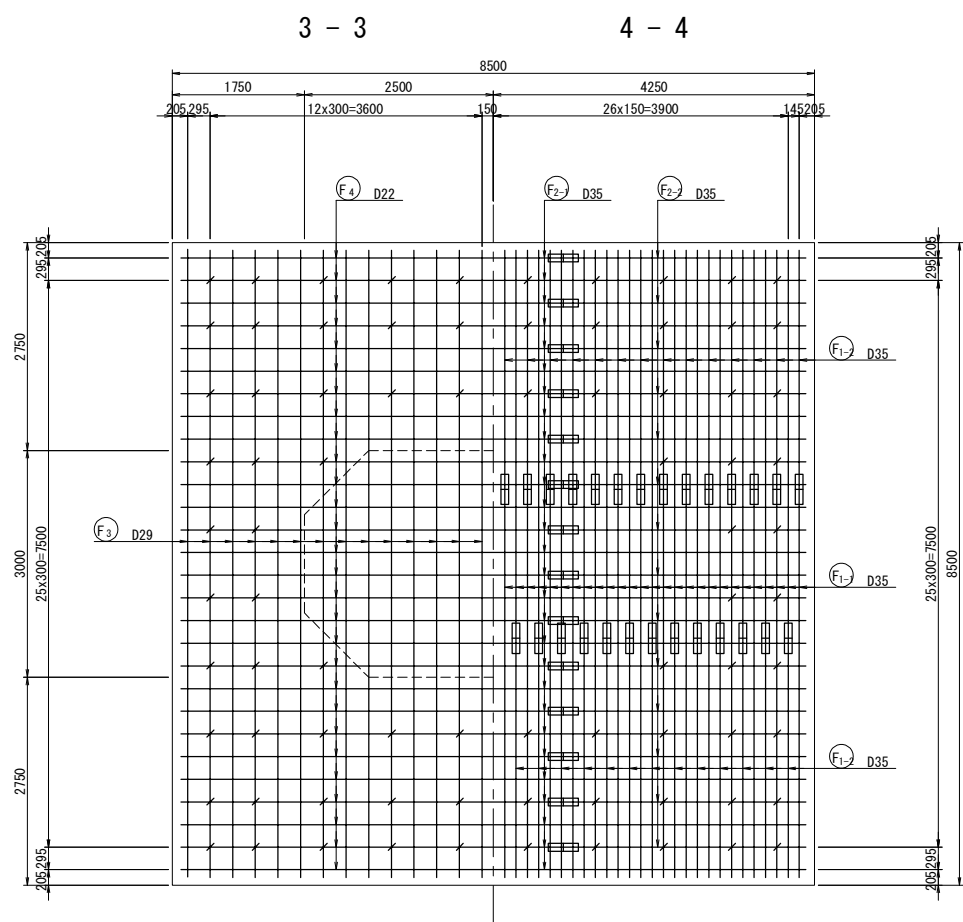
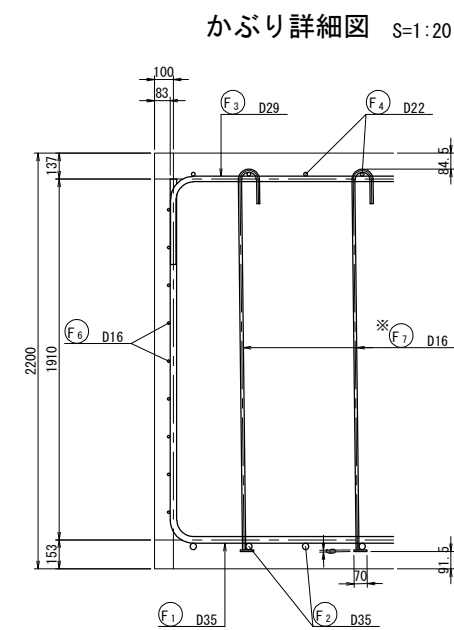
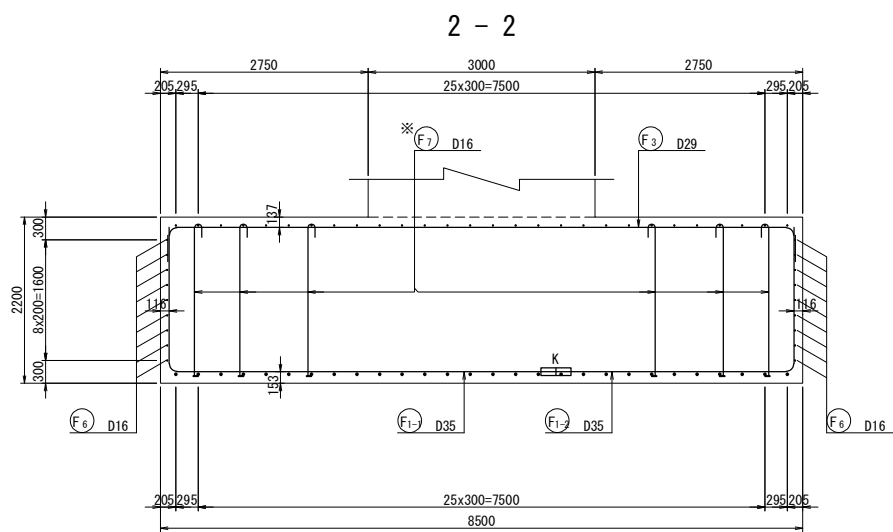
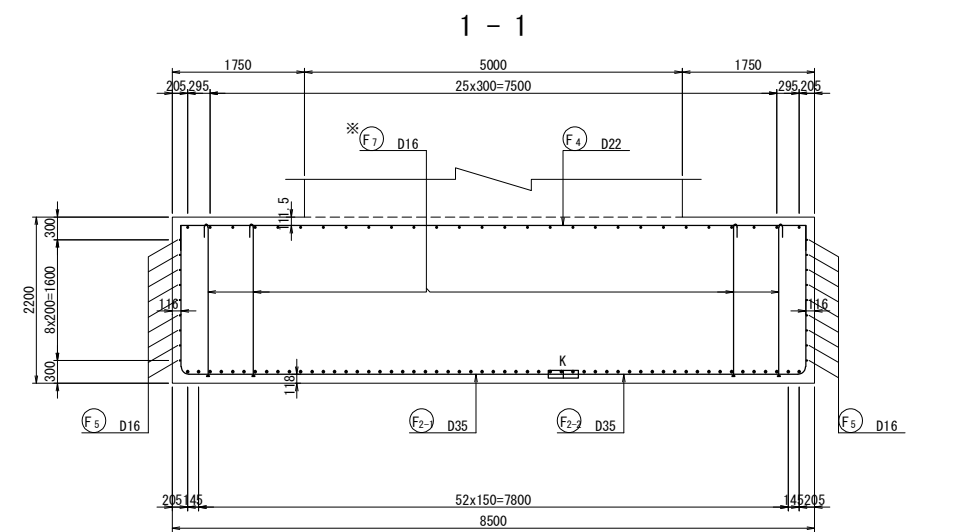
- 1) 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の数値等を満足すること。  
→ 機械式鉄筋定着工法 同解説 (H29.11日本道路協会)  
→ 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円フックの設置方向を変更してもよい。  
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は構束束効果の実験等による効果が保障された定着体を用いること。
- 2) 機械式鉄筋定着工法の採用においては、  
監督官より使用鉄筋の性能と施工法、管理方法の承認を得てから工事を採用すること。  
3) 詳細図に示す定着体はHead-bar工法であるが、他工法の採用を否定するものではない。  
4) 機械式鉄筋手については、使用製品の製品と施工法、管理方法を発注者に確認してから工事を実施すること。  
5) K は機械式鉄筋手を示す。

常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし P1橋脚配筋図 (2)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



- 特記事項
- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。  
・道路橋示方書・同解説（H29.11日本道路協会）  
・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン（H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
  - 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
  - 詳細図に示す定着体はHead-bar工法であるが、他工法の採用を否定するものではない。
  - 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。
  - Kは機械式継手を示す。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし P1橋脚配筋図(3)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

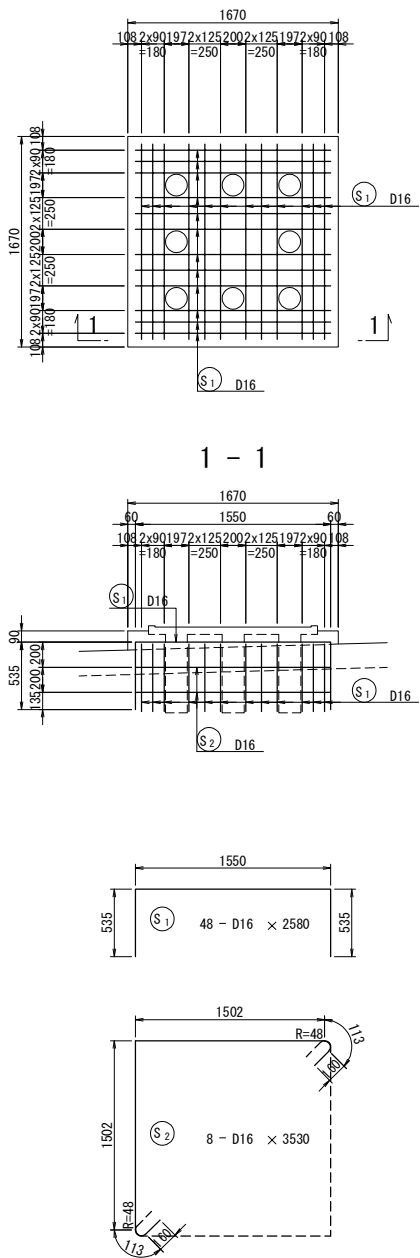


特記事項

- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
  - 道路橋示方書・同解説 (H29.11日本道路協会)
  - 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 詳細図に示す定着体はHead-bar工法であるが、他工法の採用を否定するものではない。
- 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。
- Kは機械式継手を示す。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし P1橋脚配筋図(4)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

台座コンクリート補強図



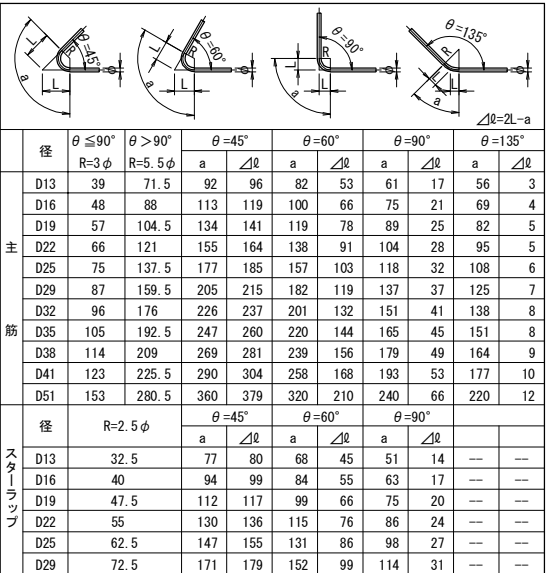
鉄筋表

記号	径 (mm)	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要
S 1	D16	2,580	48	1.56	4.02	193	
S 2	D16	3,530	8	1.56	5.51	44	
237 kg							
B 1	D32	9,240	8	6.23	57.6	461	
B 2	D32	8,340	10	6.23	52	520	
B 3	D32	9,660	2	6.23	60.2	120	(2)
B 4	D32	9,660	4	6.23	60.2	241	(4)
B 5	D32	8,250	16	6.23	51.4	822	(16) (平均長)
B 6	D25	5,000	6	3.98	19.9	119	
B 7	D25	4,470	6	3.98	17.8	107	(平均長)
B 8	D25	5,000	6	3.98	19.9	119	
B 9	D25	4,470	6	3.98	17.8	107	(平均長)
B 10	D19	9,970	14	2.25	22.4	314	(平均長)
B 11	D19	10,260	5	2.25	23.1	116	(平均長)
B 12	D19	10,210	5	2.25	23.0	115	(平均長)
B 13	D19	9,390	4	2.25	21.1	84	(平均長)
B 14	D19	9,370	4	2.25	21.1	84	(平均長)
B 15	D19	6,330	5	2.25	14.2	71	(平均長)
B 16	D19	6,320	5	2.25	14.2	71	(平均長)
B 17	D19	8,290	24	2.25	18.7	449	(平均長)
B 18	D19	5,990	9	2.25	13.5	122	(平均長)
B 19	D19	5,980	9	2.25	13.5	122	(平均長)
B 20	D19	4,500	9	2.25	10.1	91	
B 21	D19	3,390	14	2.25	7.63	107	
B 22	D19	2,610	5	2.25	5.87	29	(平均長)
B 23	D19	2,610	5	2.25	5.87	29	(平均長)
B 24	D19	1,790	9	2.25	4.03	36	
B 25	D19	1,790	9	2.25	4.03	36	
B 26	D16	3,100	34	1.56	4.84	165	※
B 27	D16	2,470	10	1.56	3.85	39	(平均長) ※
4,696 kg							
C 1-1	D51	9,000	40	15.9	143	5,720	└ [40]
C 1-2	D51	5,190	40	15.9	82.5	3,300	└
C 2-1	D51	7,000	40	15.9	111	4,440	└ [40]
C 2-2	D51	7,190	40	15.9	114	4,560	└
C 3	D19	7,920	152	2.25	17.8	2,706	└
C 4	D19	8,010	12	2.25	18.0	216	└
C 5	D19	5,040	100	2.25	11.3	1,130	└ ※
C 6	D19	5,090	12	2.25	11.5	138	└ ※
C 7	D19	3,040	200	2.25	6.84	1,368	└ ※
C 8	D19	3,090	24	2.25	6.95	167	└ ※
23,745 kg							
F 1-1	D35	6,990	55	7.51	52.5	2,888	└ (55)
F 1-2	D35	5,020	55	7.51	37.7	2,074	└
F 2-1	D35	6,990	28	7.51	52.5	1,470	└ (28)
F 2-2	D35	5,140	28	7.51	38.6	1,081	└
F 3	D29	9,070	28	5.04	45.7	1,280	└
F 4	D22	8,880	28	3.04	27.0	756	└
F 5	D16	8,690	18	1.56	13.6	245	└
F 6	D16	8,690	18	1.56	13.6	245	└
F 7	D16	2,240	80	1.56	3.49	279	└ ※
10,318 kg							

	A種鉄筋	B種鉄筋	C種鉄筋	A + B + C
普通鉄筋	D51 --- kg	18020 kg (80)	--- kg	18020 kg
	D38 --- kg	--- kg	--- kg	--- kg
	D35 --- kg	7513 kg (83)	--- kg	7513 kg
	D32 981 kg	1183 kg (22)	--- kg	2164 kg
	D29 1280 kg	--- kg	--- kg	1280 kg
	D25 452 kg	--- kg	--- kg	452 kg
	D22 756 kg	--- kg	--- kg	756 kg
	D19 4798 kg	--- kg	2803 kg	7601 kg
	D16 727 kg	--- kg	483 kg	1210 kg
	D13 --- kg	--- kg	--- kg	--- kg
合計	8994 kg	26716 kg	3286 kg	38996 kg
総質量	8994 kg	26716 kg	3286 kg	38996 kg

機械式鉄筋定着工法数量表

鉄筋径	箇所数					
	0m<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m
D13	---	---	---	---	---	---
D16	---	---	90	34	---	---
D19	---	---	---	224	---	112
D22	---	---	---	---	---	---
D25	---	---	---	---	---	---
小計	---	---	90	258	---	112
合計	460箇所					



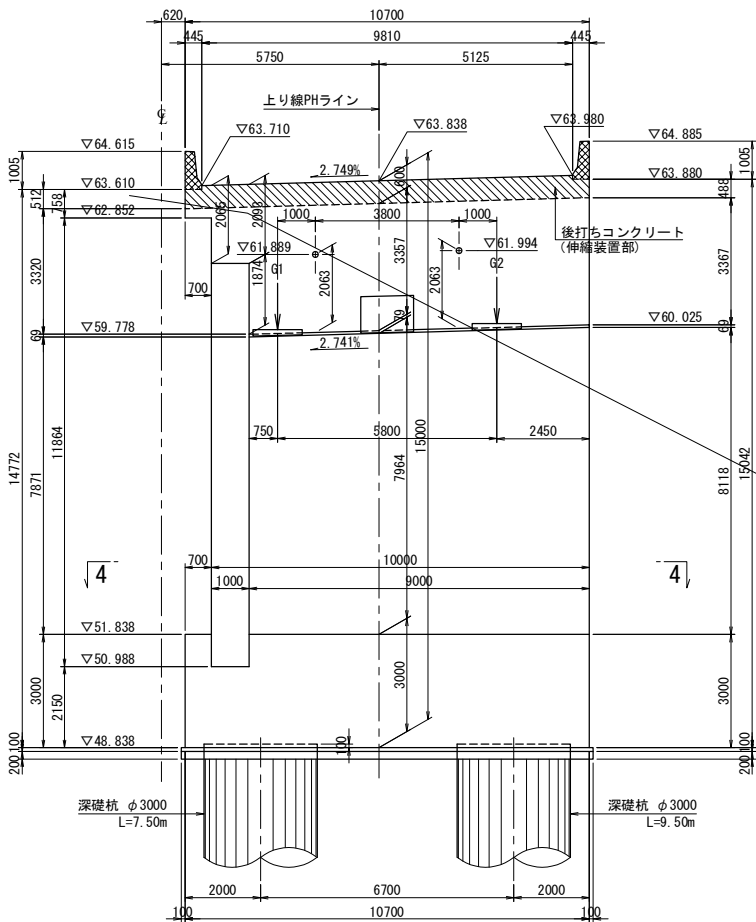
特記事項

- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
  - 道路標示方書・同解説 (H29.11日本道路協会)
  - 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 詳細図に示す定着体はHead-bar工法であるが、他工法の採用を否定するものではない。
- 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。
- K は機械式継手を示す。

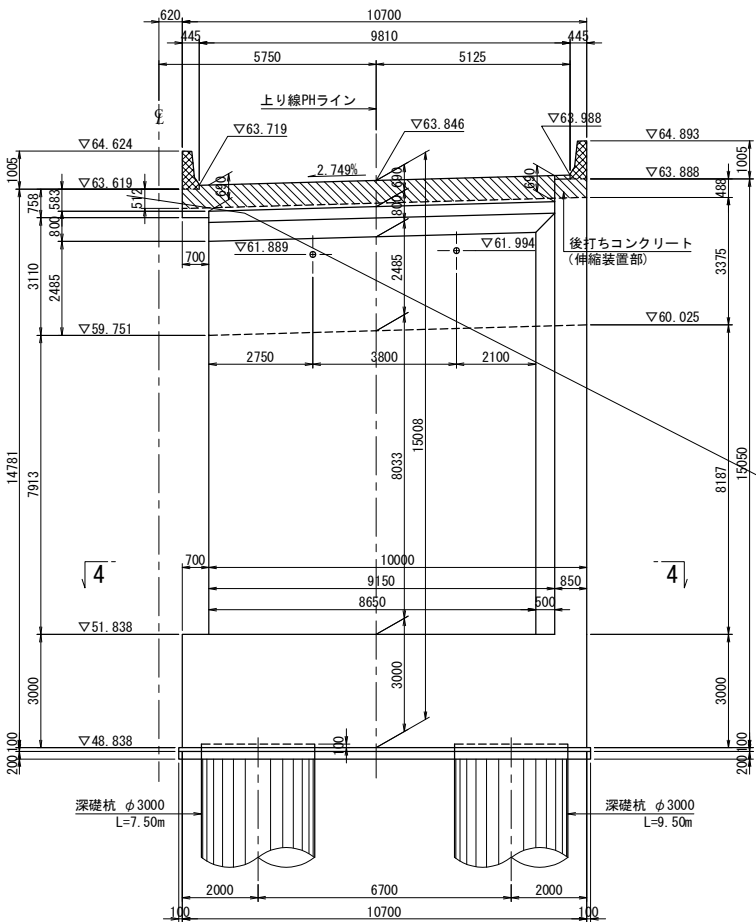
常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし	P1橋脚配筋図(5)	
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



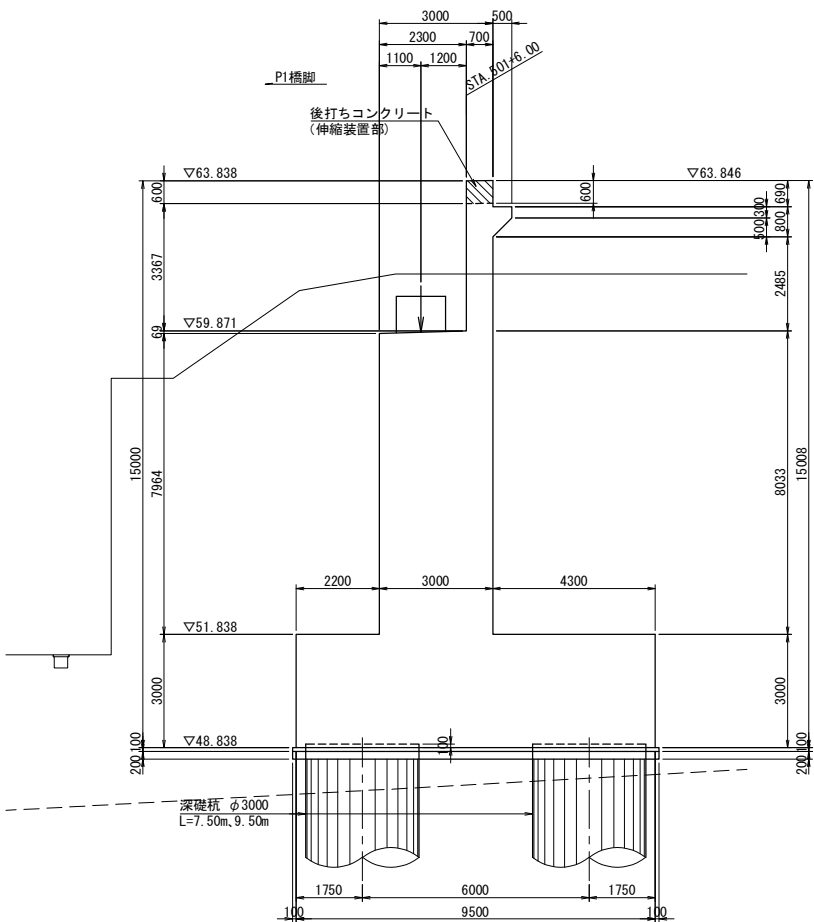
正面図(1-1)



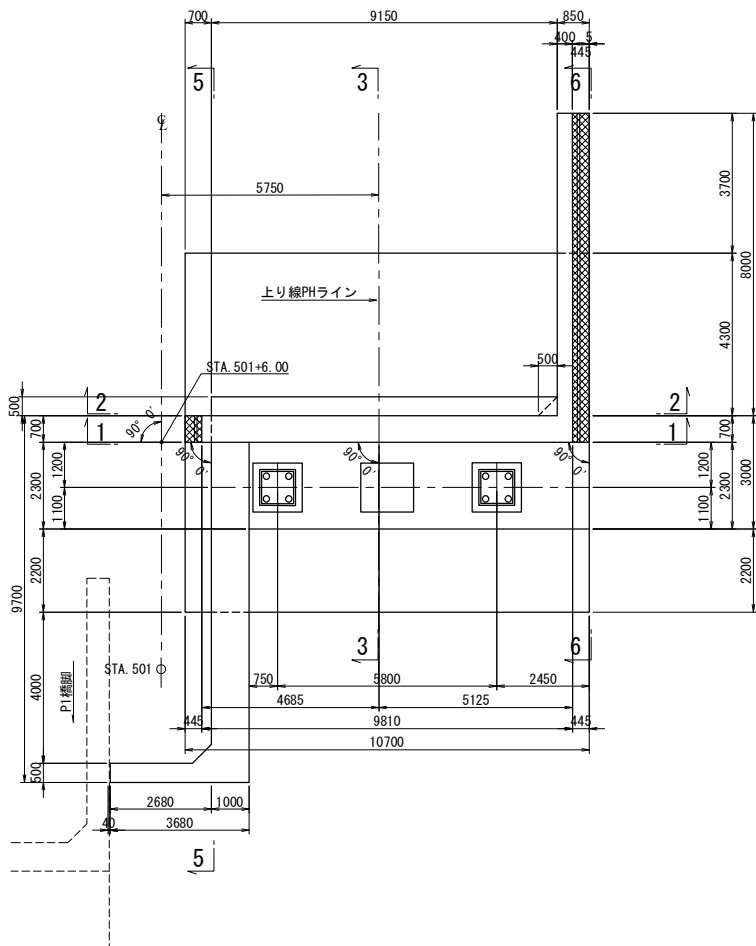
正面図(2-2)



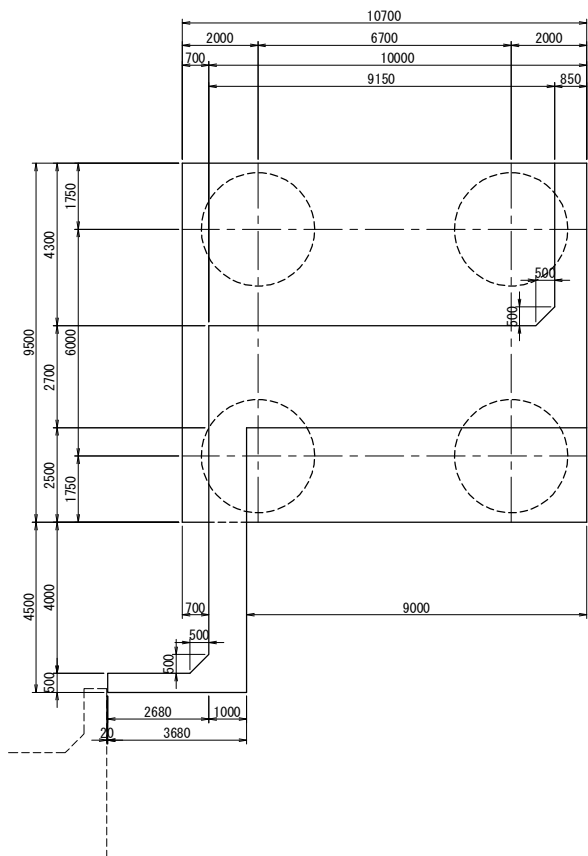
3 - 3



平面図



杭配置図(4-4)

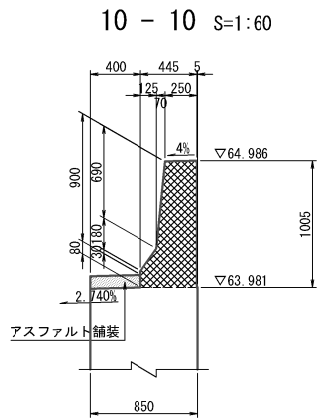
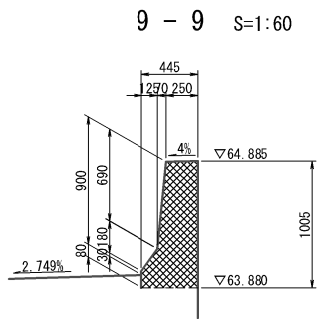
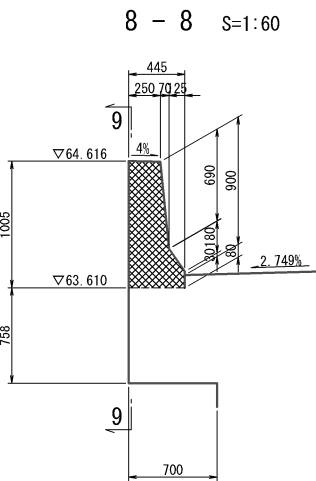
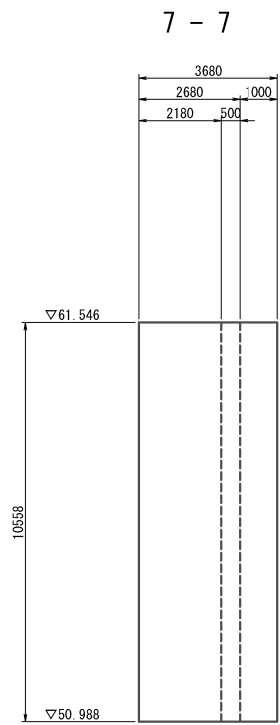
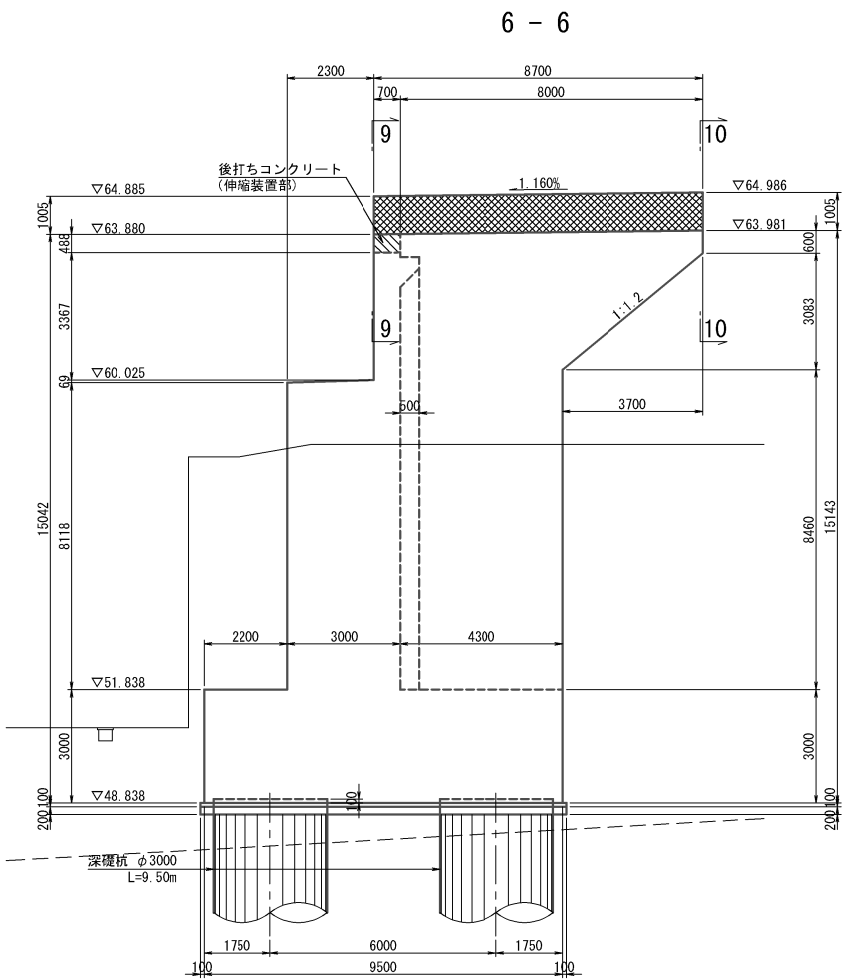
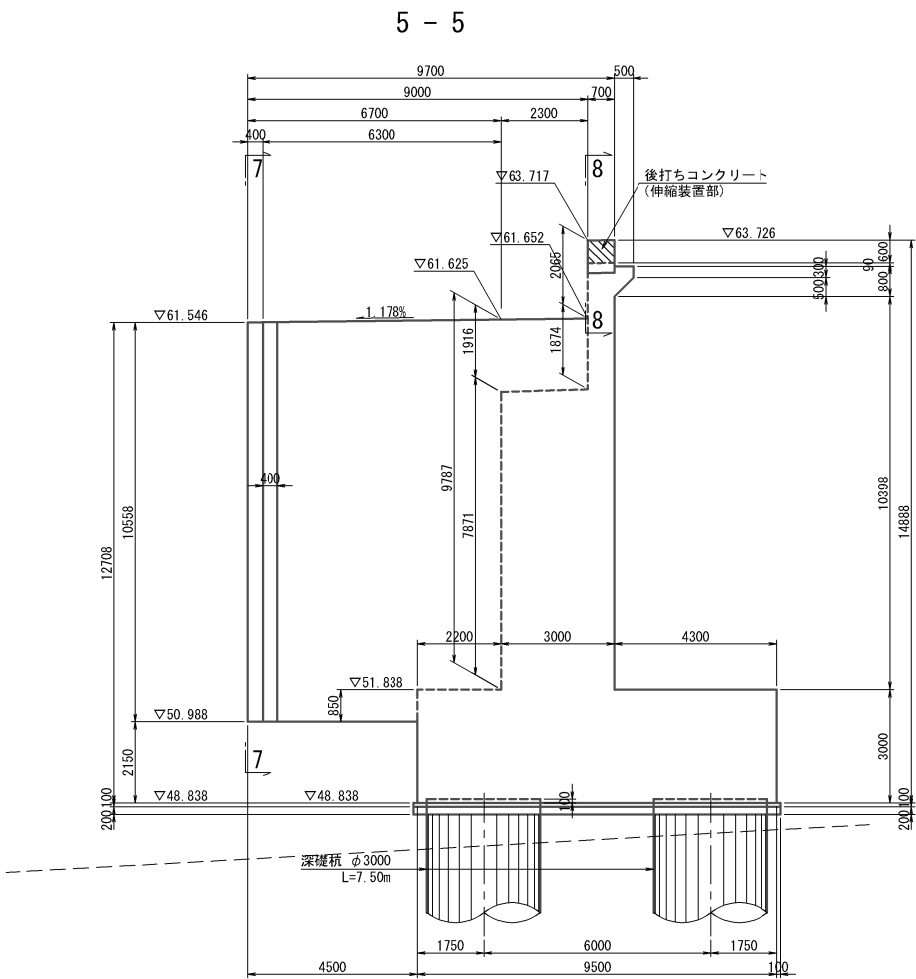


設計条件

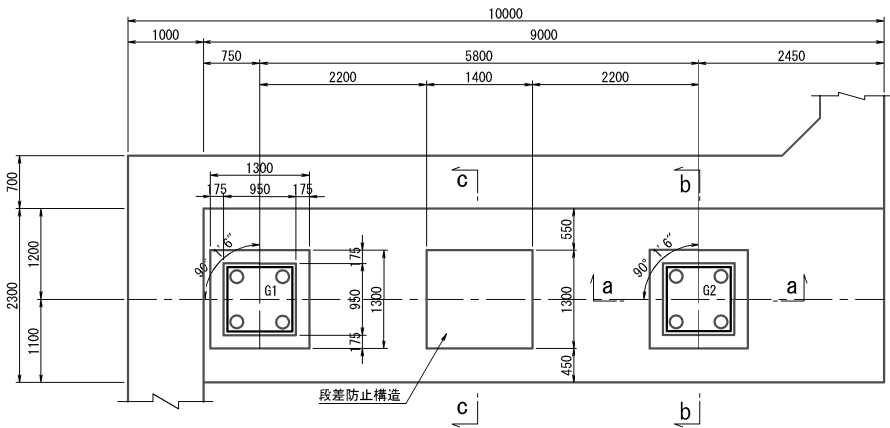
道 路 規 格		第1種 2級 B規格		
重要度区分		B種の橋		
活 荷 重		B活荷重		
地 域 区 分		A2地区		
地 盤 種 別		I 種地盤		
斜 角		∠R(支承設置角:90°1'6")		
適用 示 方 書		道路橋指示方書・同解説 社) 日本道路協会(平成29年11月) 設計要領第二集 東日本高速道路株式会社(平成28年6月)		
設 計 震 度		レベルⅠ	レベル2-Ⅰ	レベル2-Ⅱ
	橋軸方向	0.20	0.83	0.85
	直角方向	0.20	0.84	0.85
下 部 構 造	形 式	逆T式		
	基 礎	組杭深礎基礎φ3000		
	材 料	コンクリート 躯体:σ <sub>ck</sub> =30N/mm <sup>2</sup> 、底版:深礎:σ <sub>ck</sub> =24N/mm <sup>2</sup>		
	鉄 筋	SD345		
支持地盤		シルト岩(Mk(sil)層)		

・本図で示す標高はすべてT.P表示とする。  
・図で示すハッチング部は、上部工施工とする。

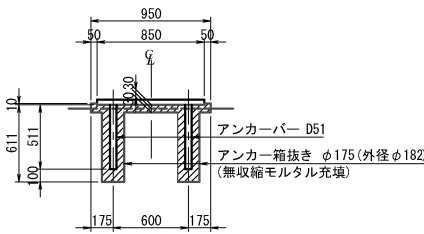
常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台構造一般図(1)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



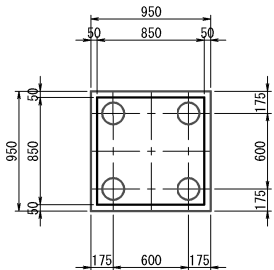
橋座面展開図 S=1:100



支承箱抜き詳細図 S=1:60

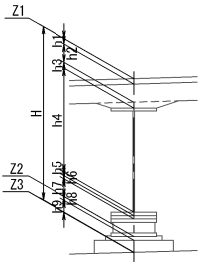


平面図

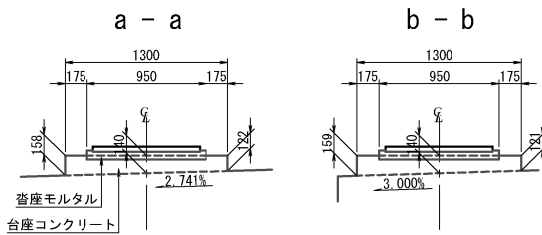


構造高表

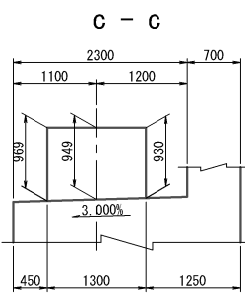
	G1	G2
路面標高	Z1	63.750
舗装厚	h1	0.080
床版厚	h2	0.310
ハンチ高	h3	0.100
主桁高	h4	2.900
下フランジ厚	h5	0.026
ソールプレート厚	h6	0.027
支承高	h7	0.373
沓座面標高	Z2	59.936
沓座モルタル厚	h8	0.030
台座コンクリート高	h9	0.140
構造高合計	H	3.986
下部工天端標高	Z3	59.764



台座コンクリート詳細図 S=1:60

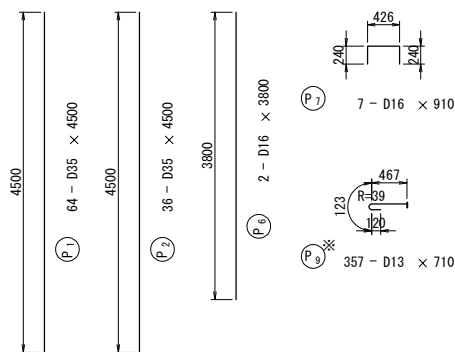
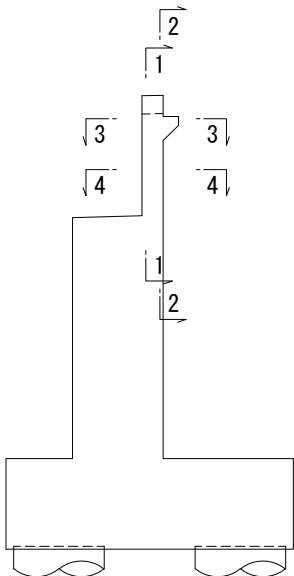
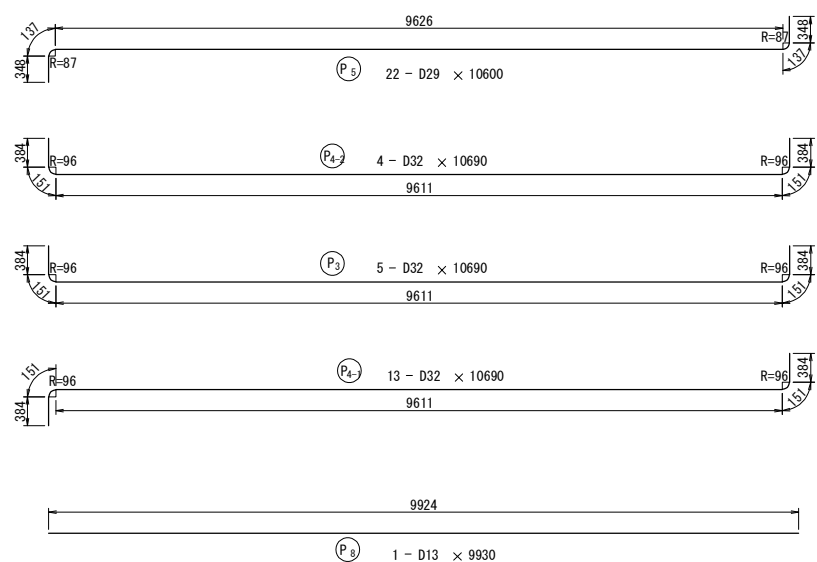
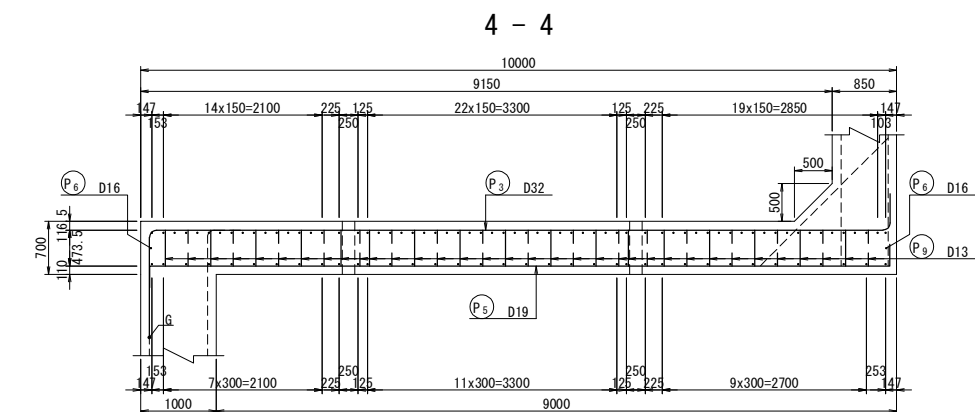
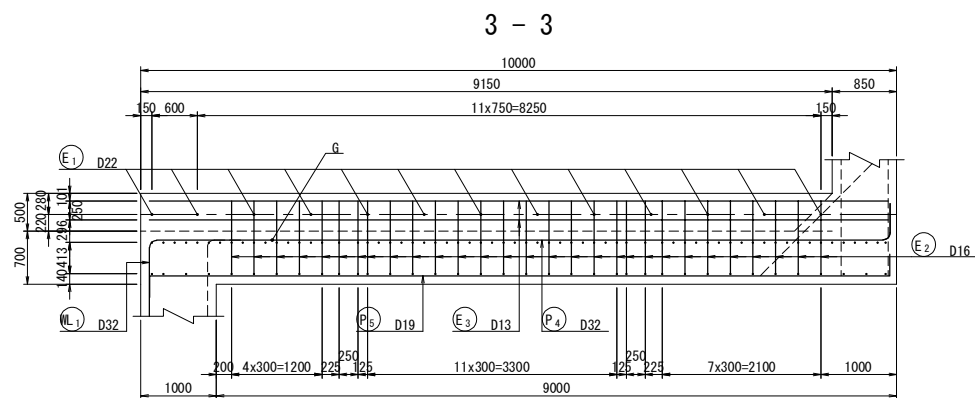
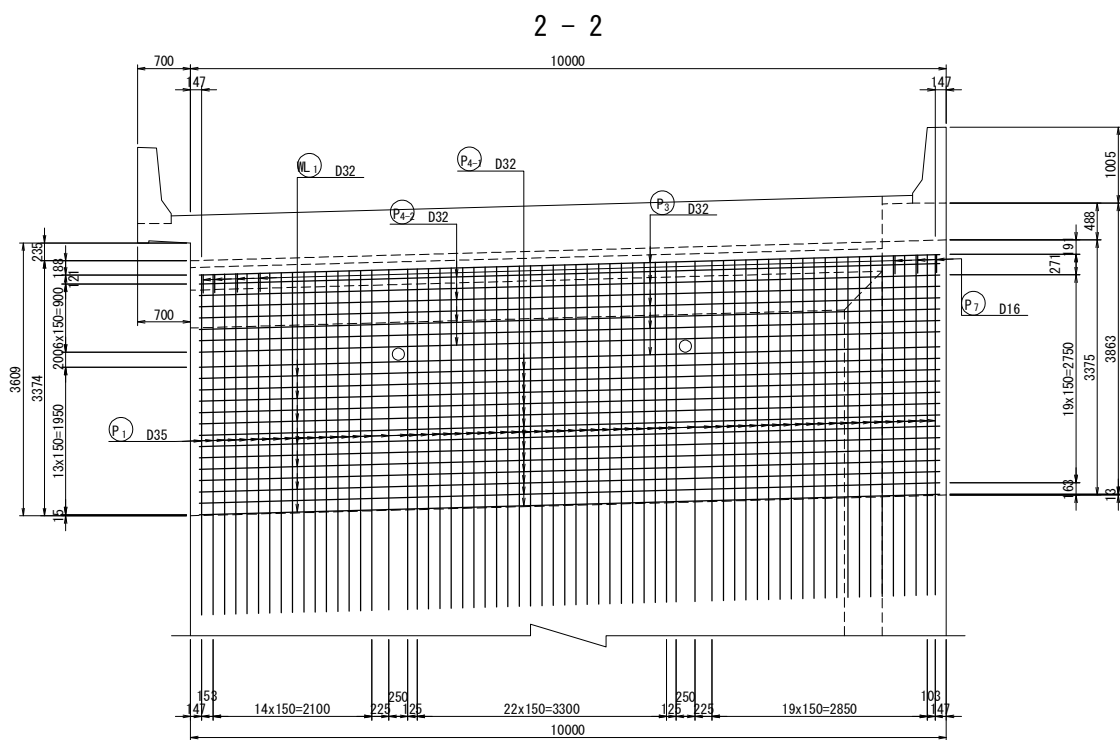
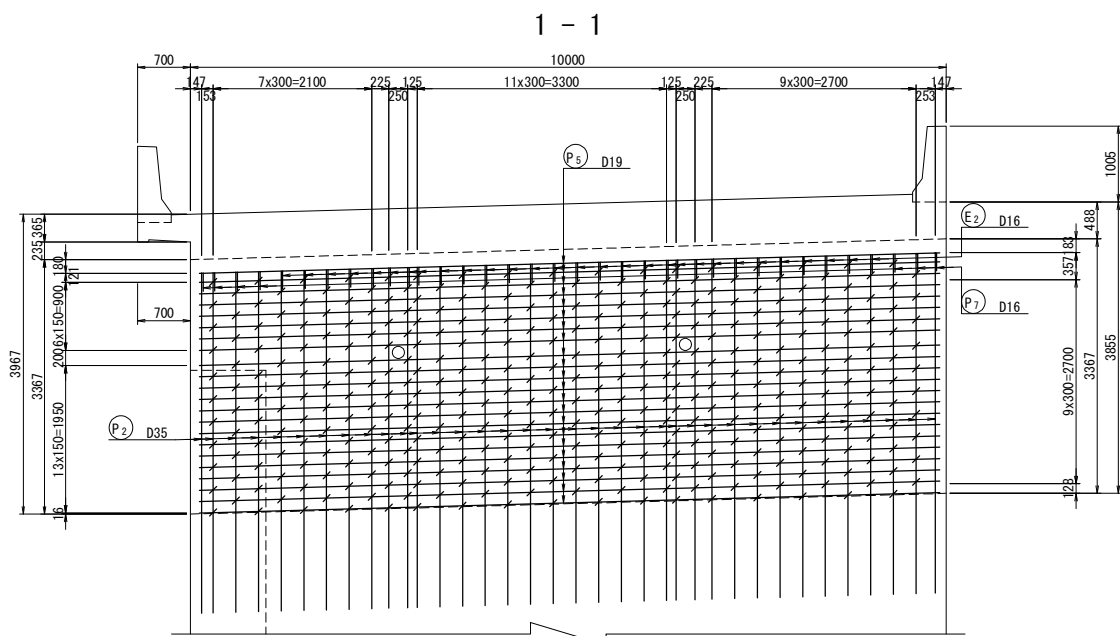


段差防止構造詳細図 S=1:100



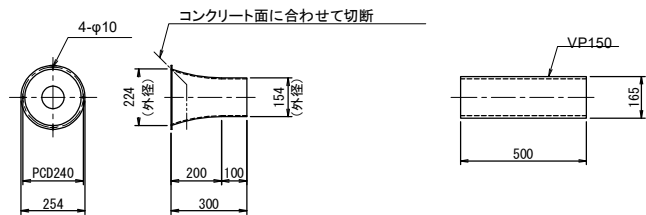
・本図で示す標高はすべてT P表示とする。  
・図で示すハッチング部は、上部工施工とする。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台構造一般図(2)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		



偏向ダクト S=1:30

シース S=1:30



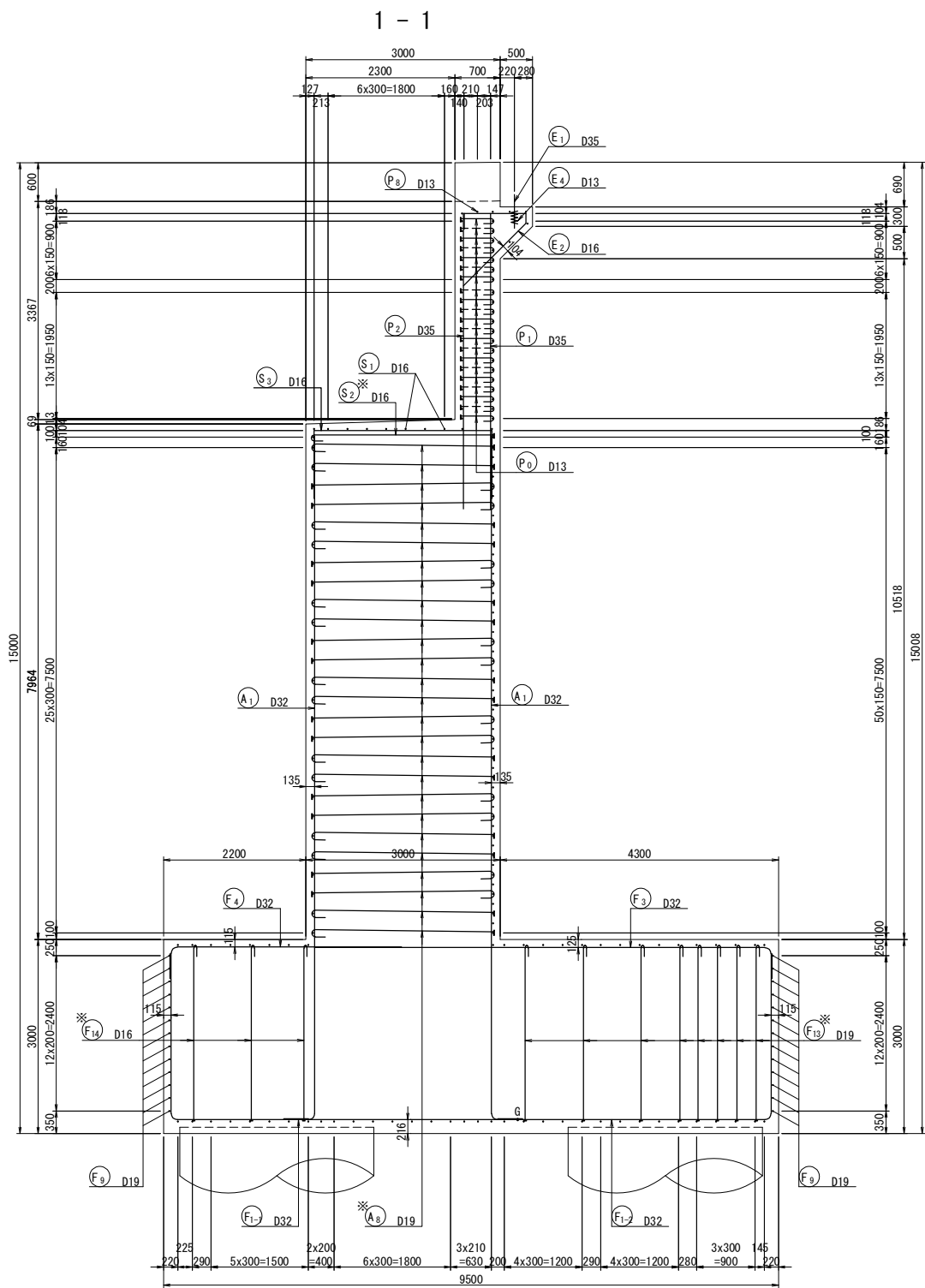
落橋防止構造材料表(1本当たり)

項目	規格・寸法	単位	数量	摘要
① 偏向ダクト	φ254×300	個	1	ポリエチレン
② シース(下部工側)	φ165×500	本	1	VP150

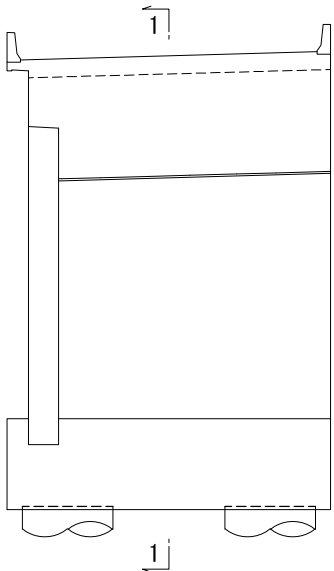
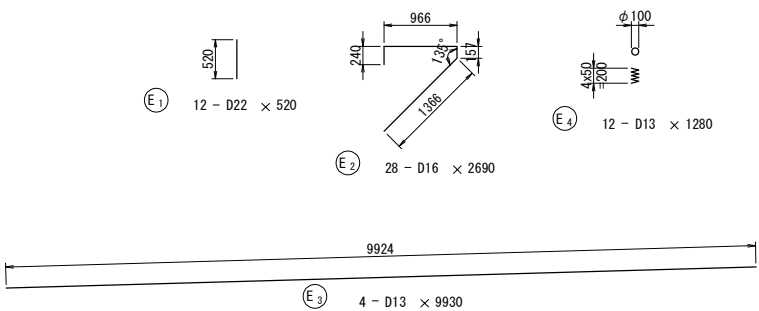
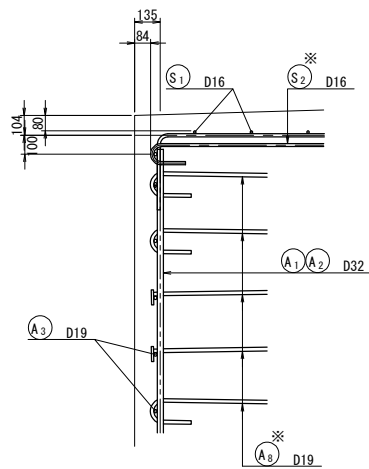
特記事項

- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
  - 道路標示方書・同解説 (H29.11日本道路協会)
  - 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は橋構束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。
- ☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
- K は機械式継手を示す。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし	A2橋台配筋図(1)	
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



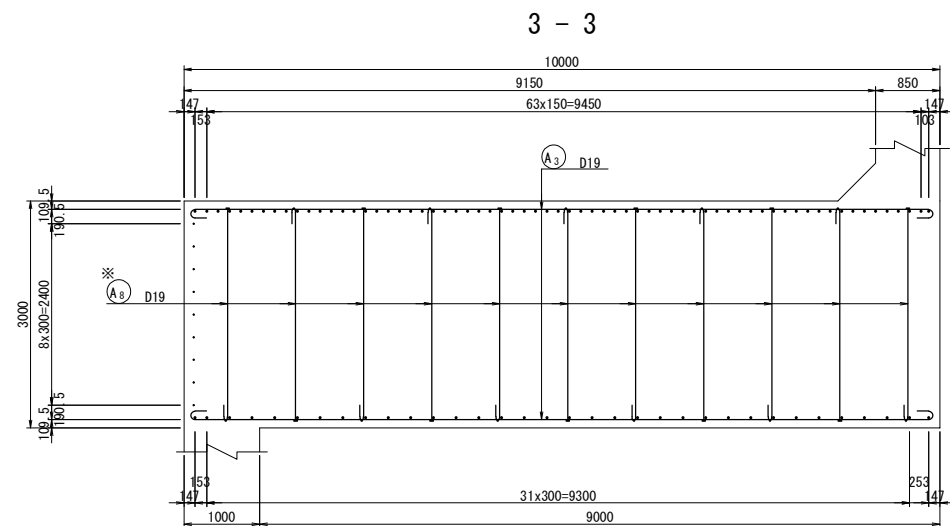
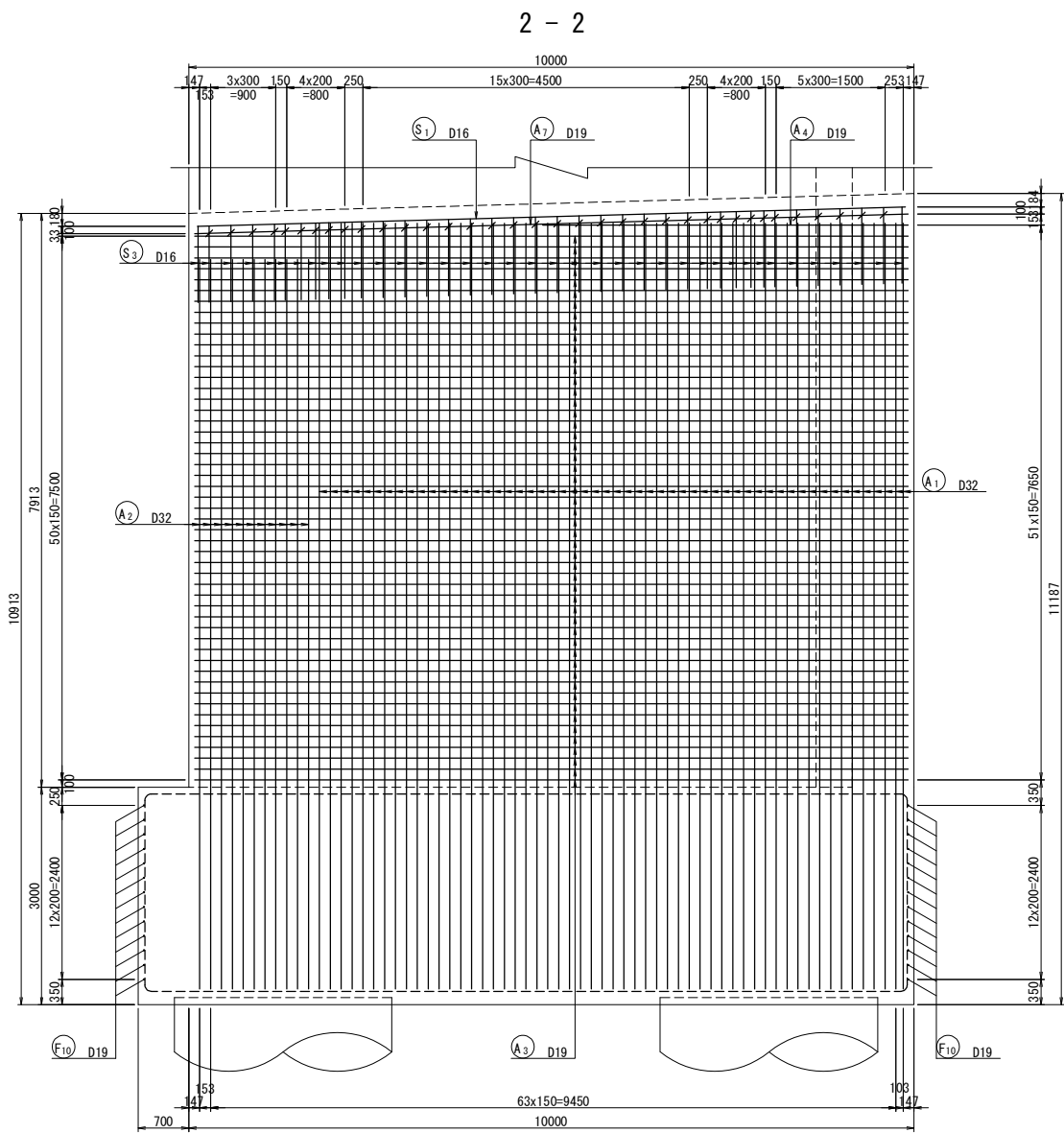
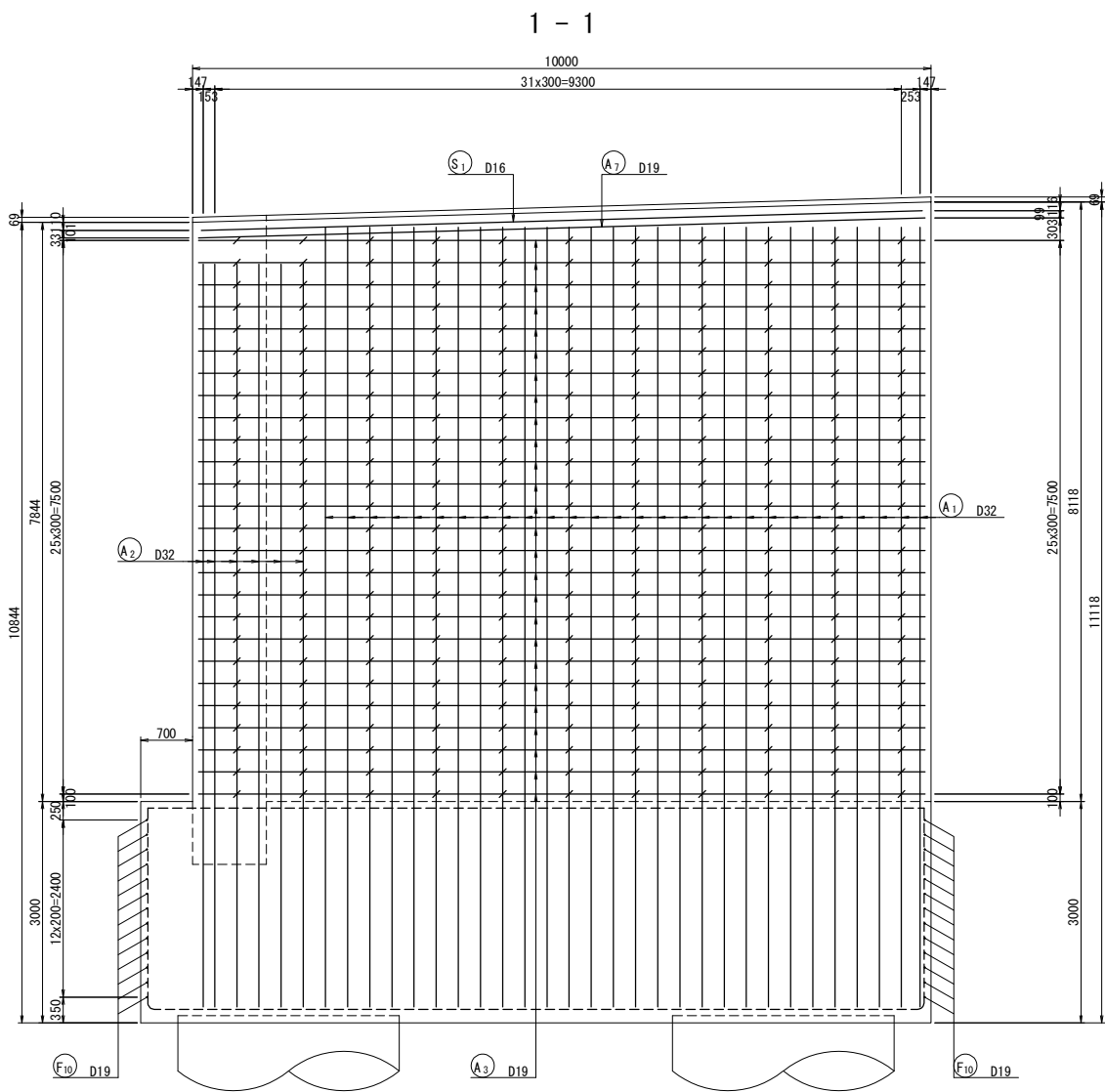
かぶり詳細図 S=1:40



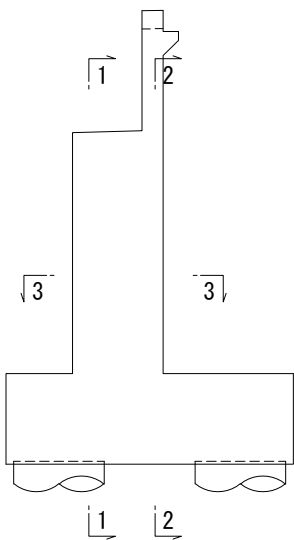
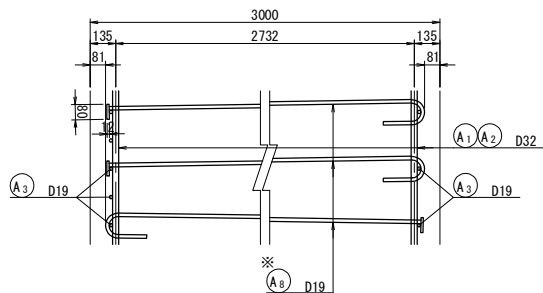
特記事項

- 1) 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。
  - ・道路橋示方書・同解説 (H29.11日本道路協会)
  - ・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 2) 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 3) 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。
- 4) ☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
- 5) K は機械式継手を示す。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし		
	A2橋台配筋図(2)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		



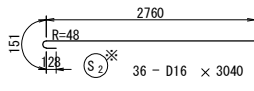
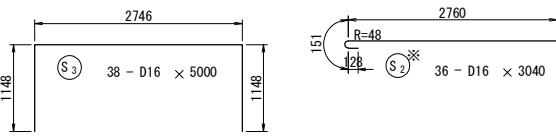
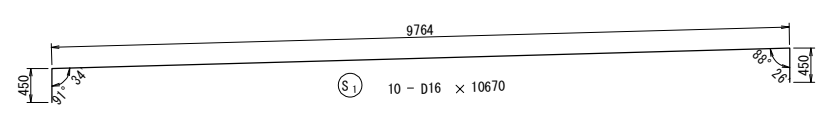
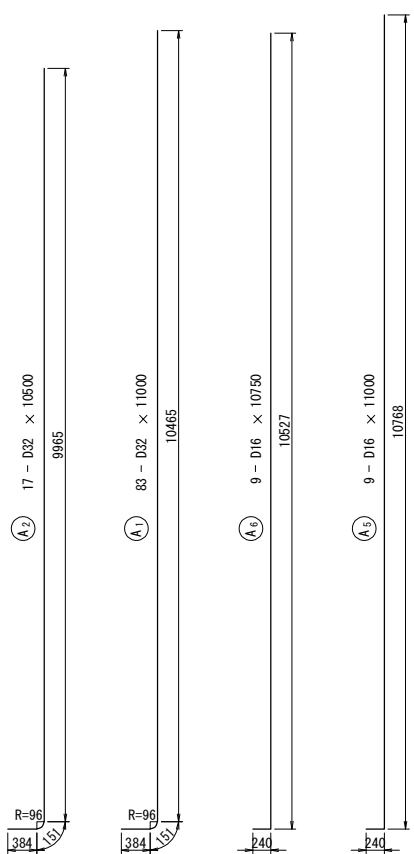
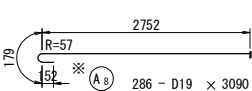
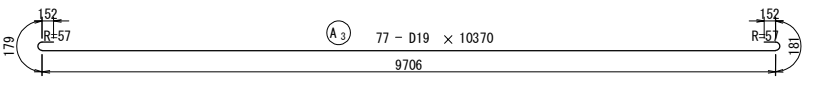
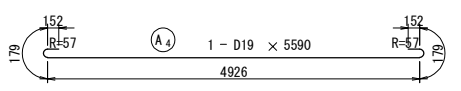
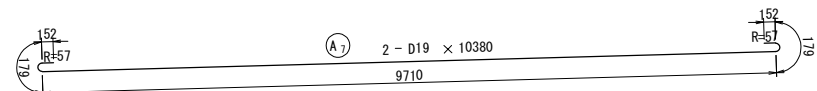
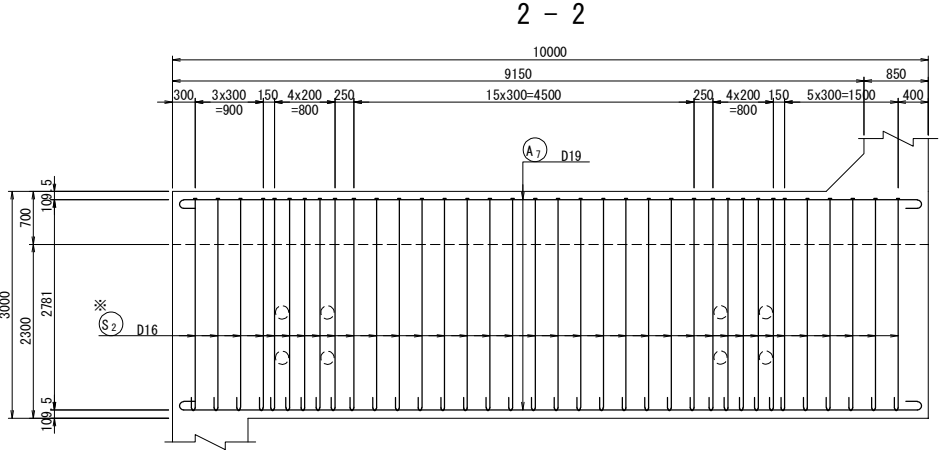
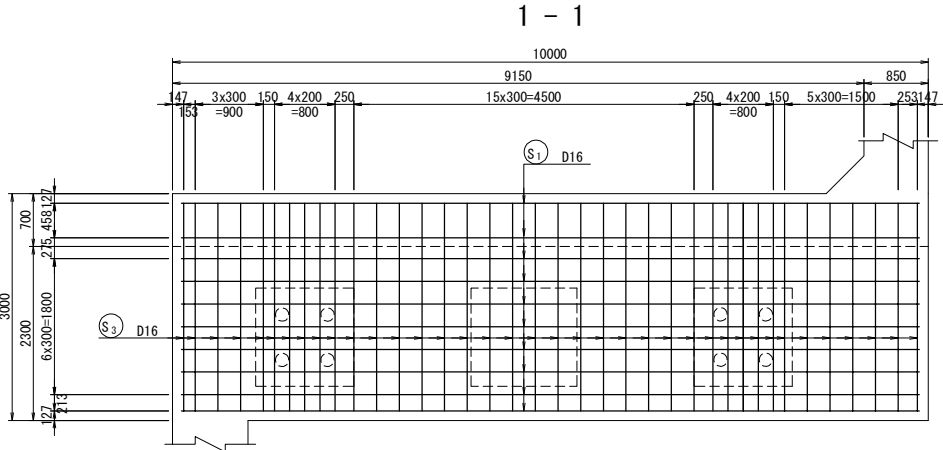
かぶり詳細図 S=1:40



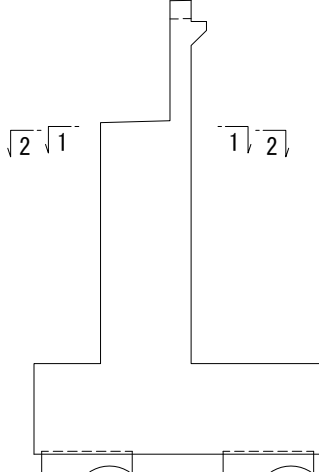
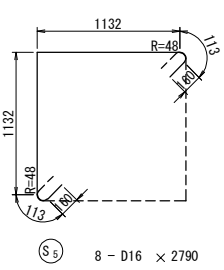
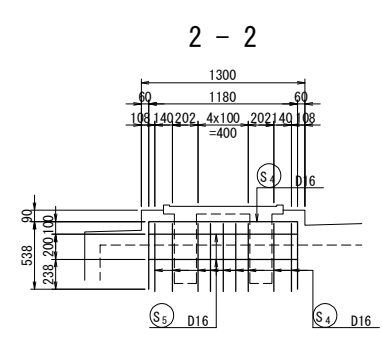
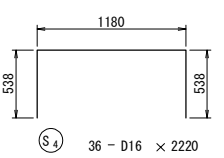
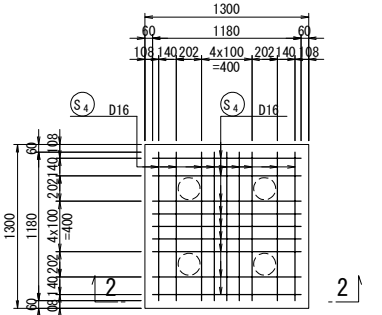
特記事項

- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。  
・道路標示方書・同解説 (H29.11日本道路協会)  
・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は構束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法を発注者に確認してから工事を実施すること。
- ☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。
- K は機械式継手を示す。

常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台配筋図(3)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



台座コンクリート補強図 S=1:60



特記事項

1) 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。  
・道路標示方書・同解説 (H29.11日本道路協会)  
・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。

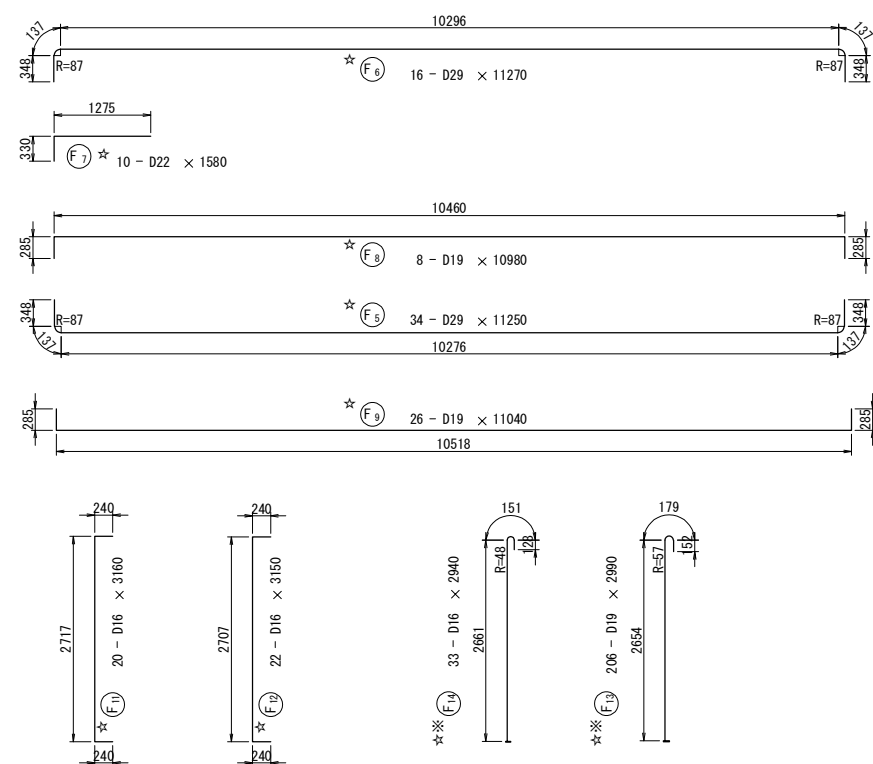
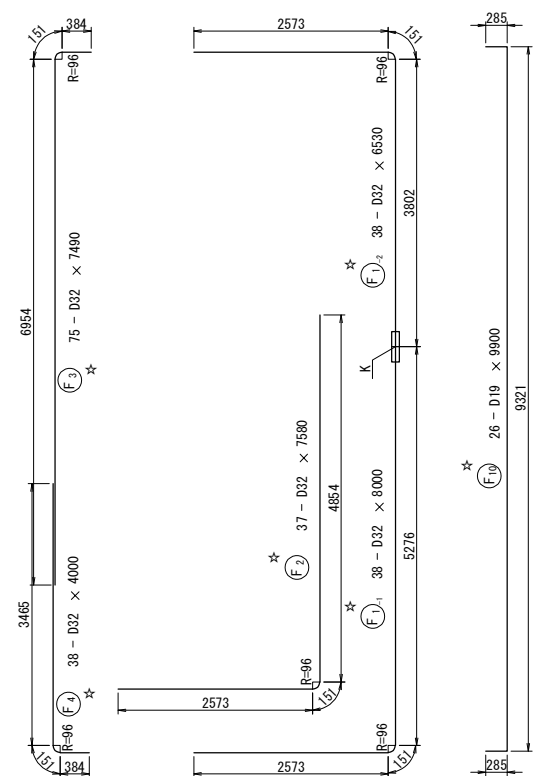
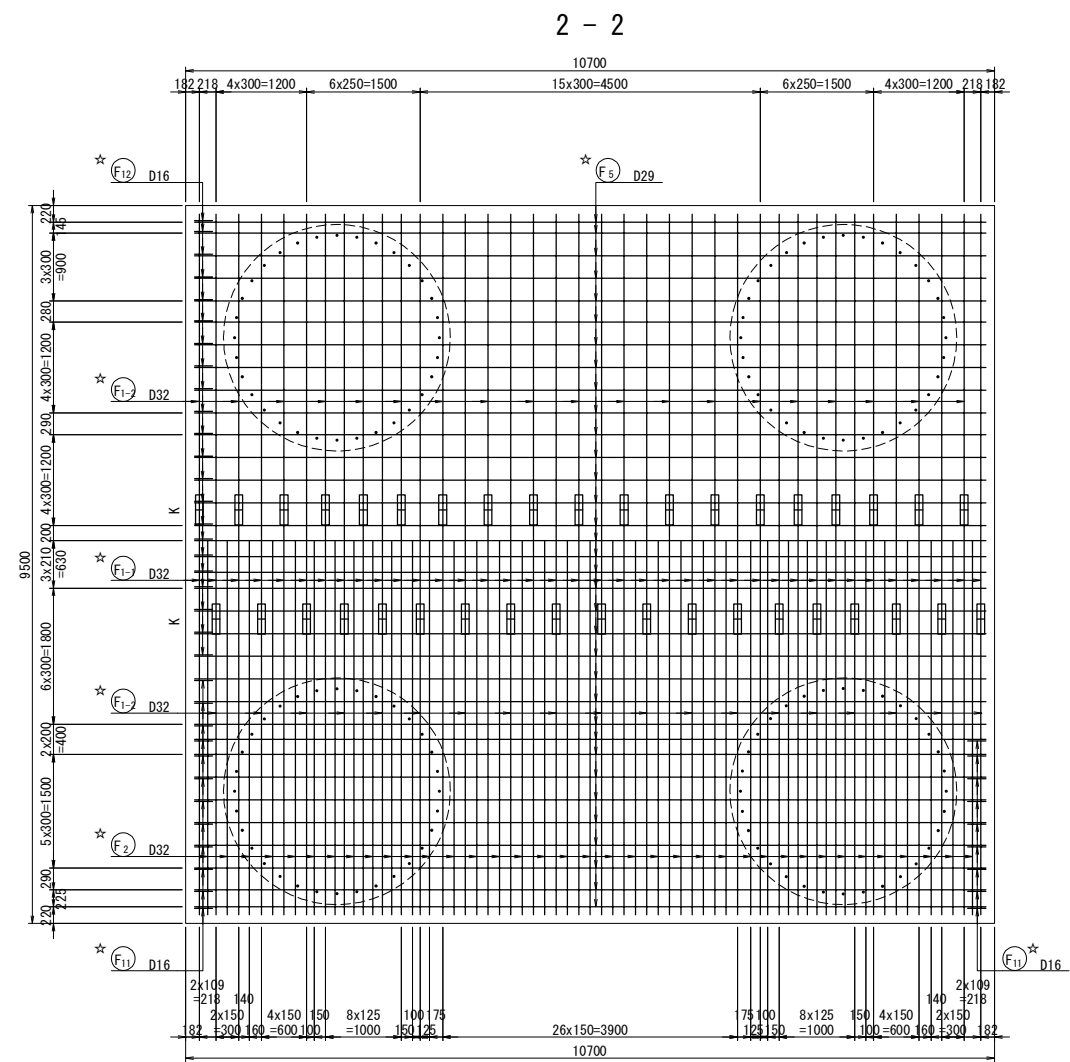
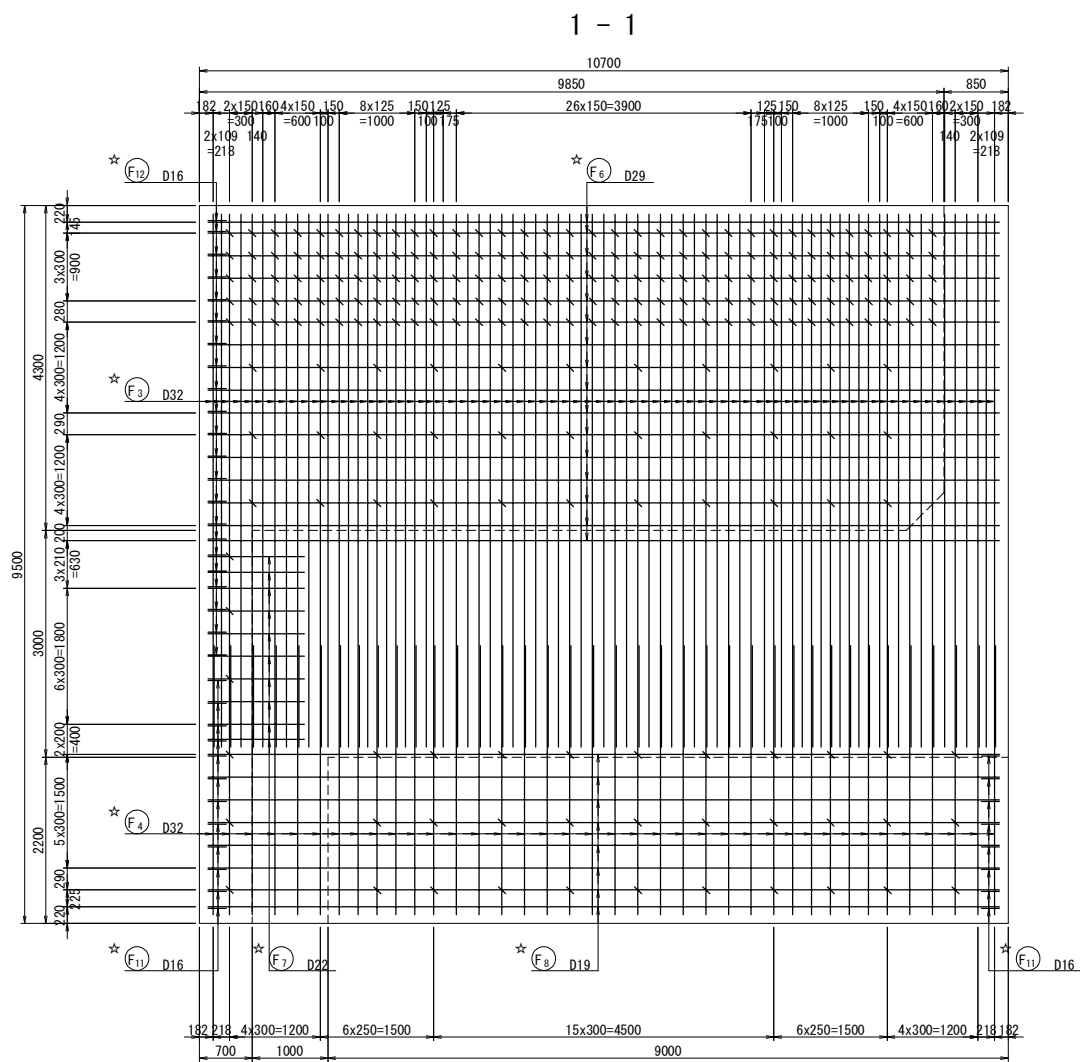
2) 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。

3) 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。

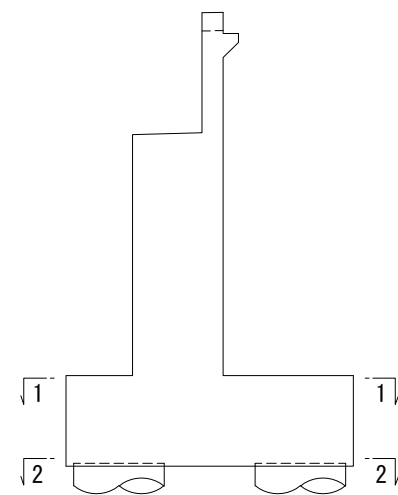
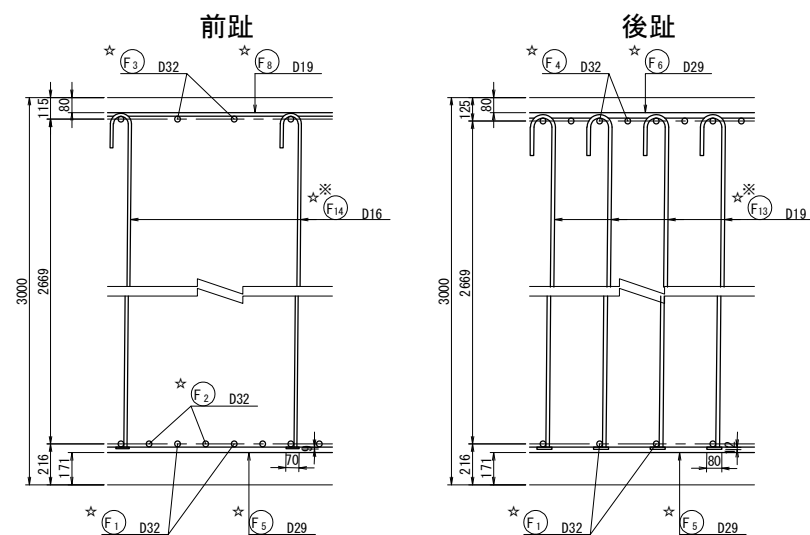
4) ☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。

5) K は機械式継手を示す。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし		
	A2橋台配筋図(4)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		



かぶり詳細図 S=1:40

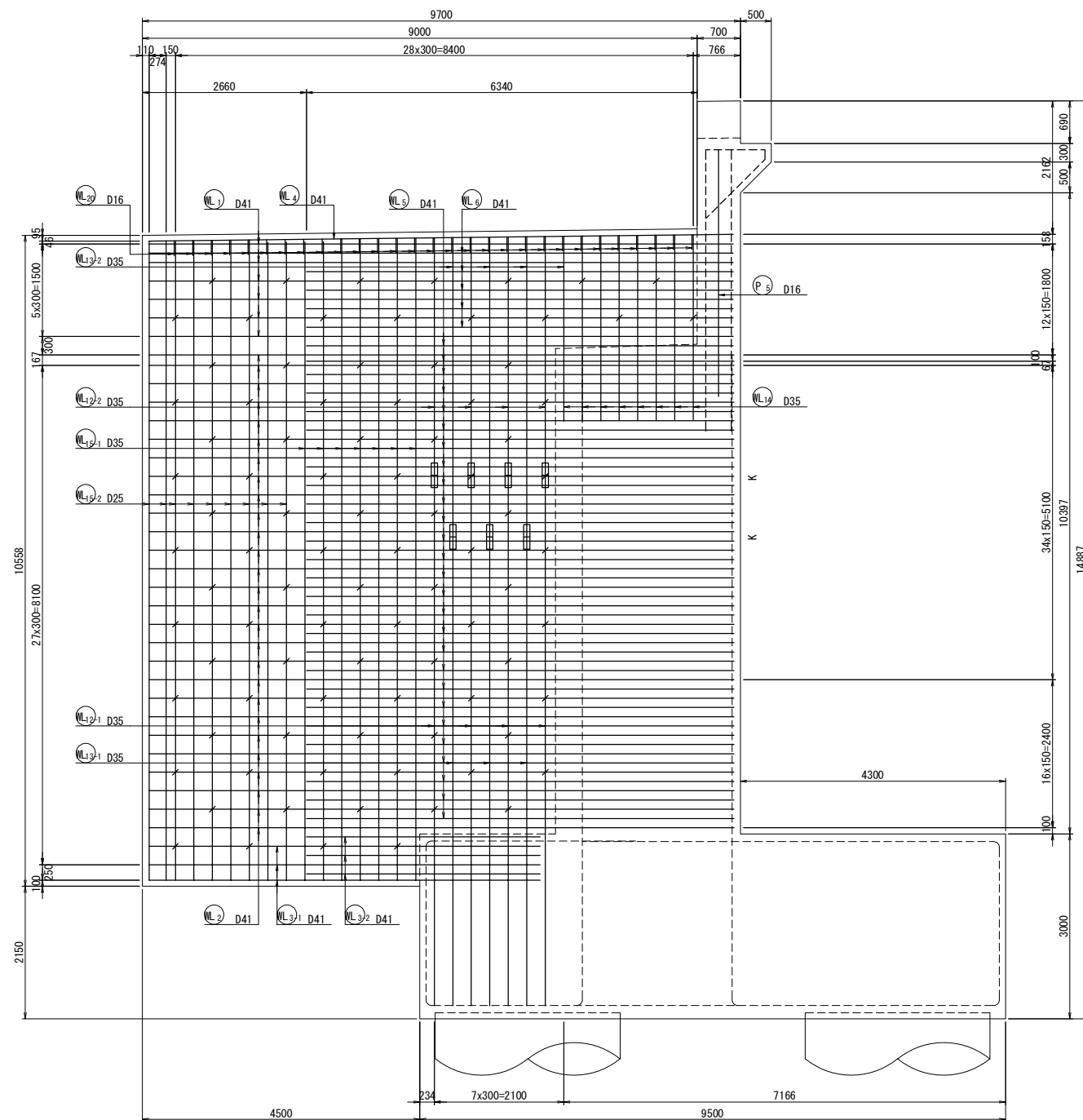


特記事項

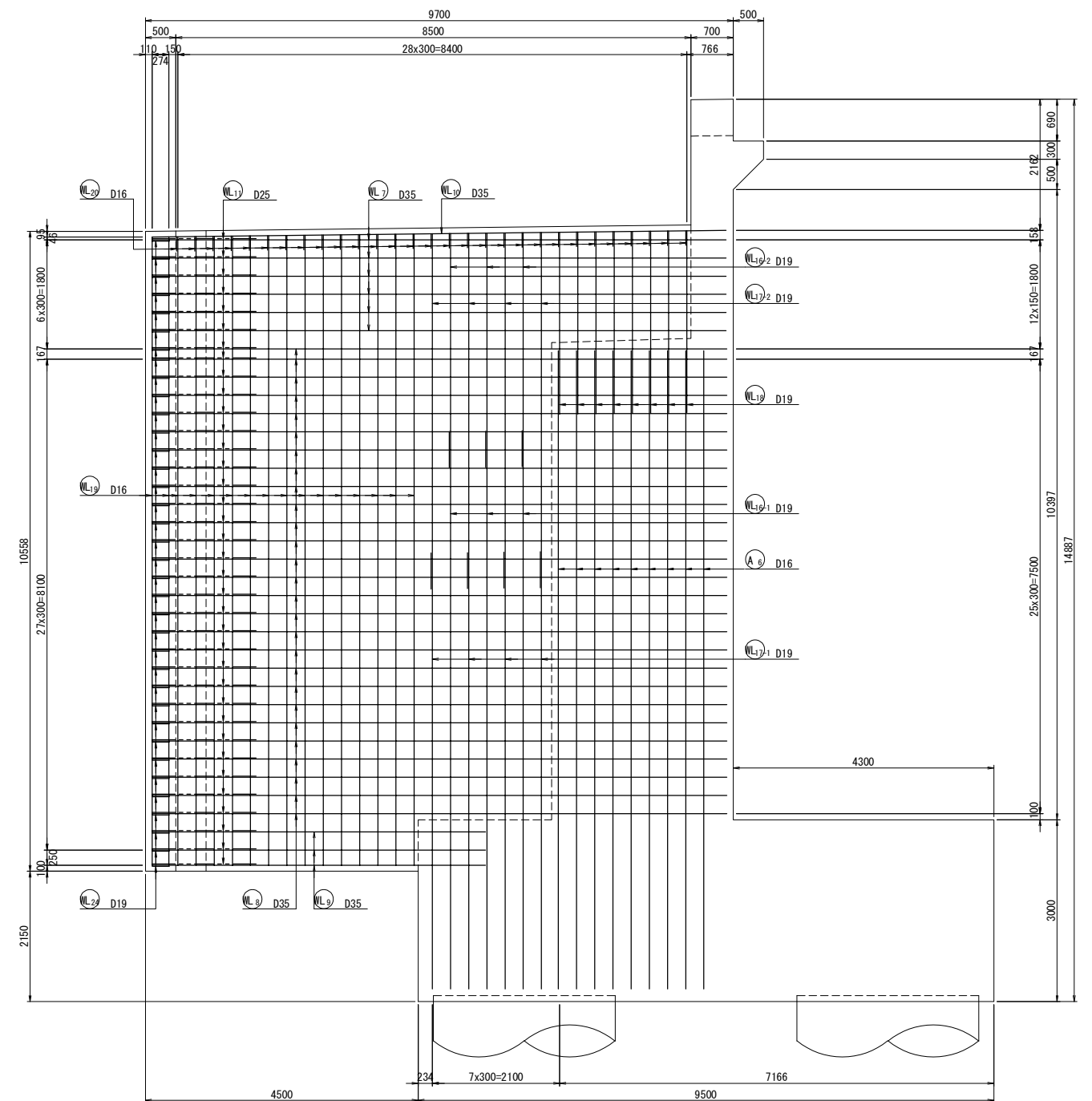
- 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。  
・道路橋示方書：同解説（H29.11日本道路協会）  
・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン（H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。
- 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。
- 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。
- ☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエボキシ鉄筋を示す。
- K は機械式継手を示す。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし	A2橋台配筋図(5)	
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

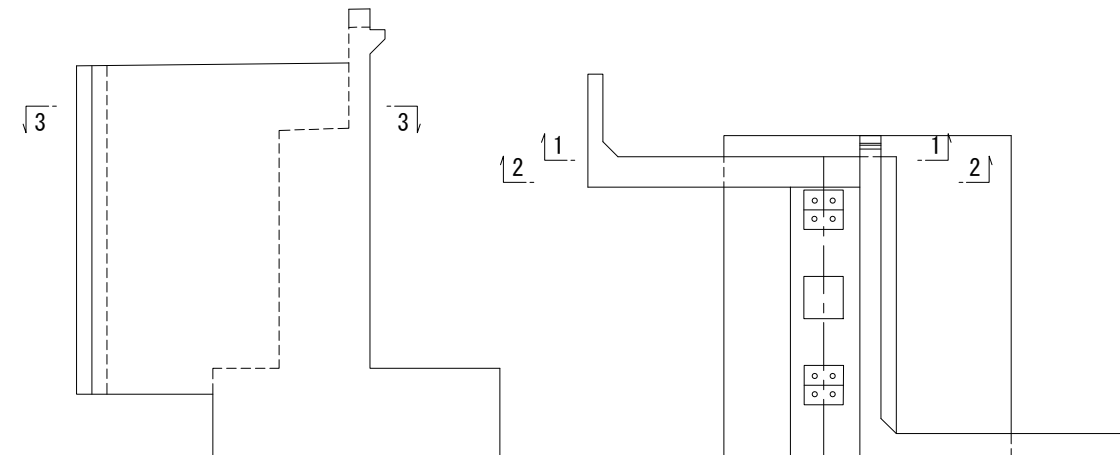
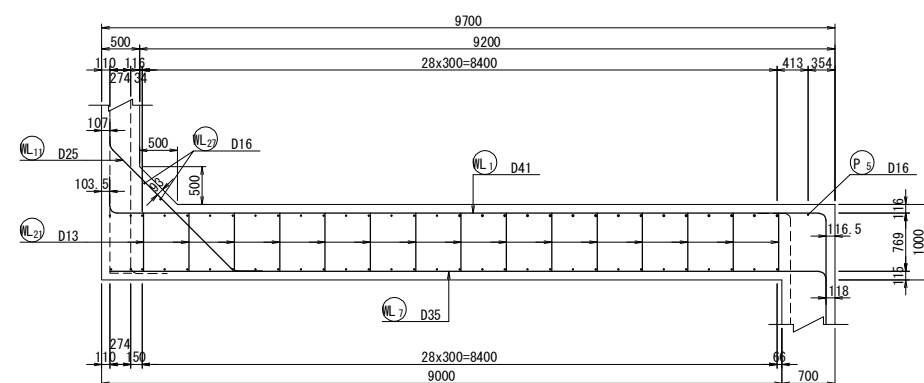
1 - 1



2 - 2

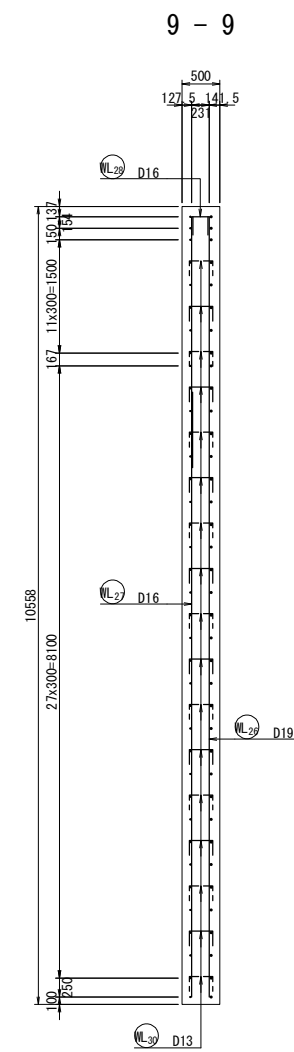
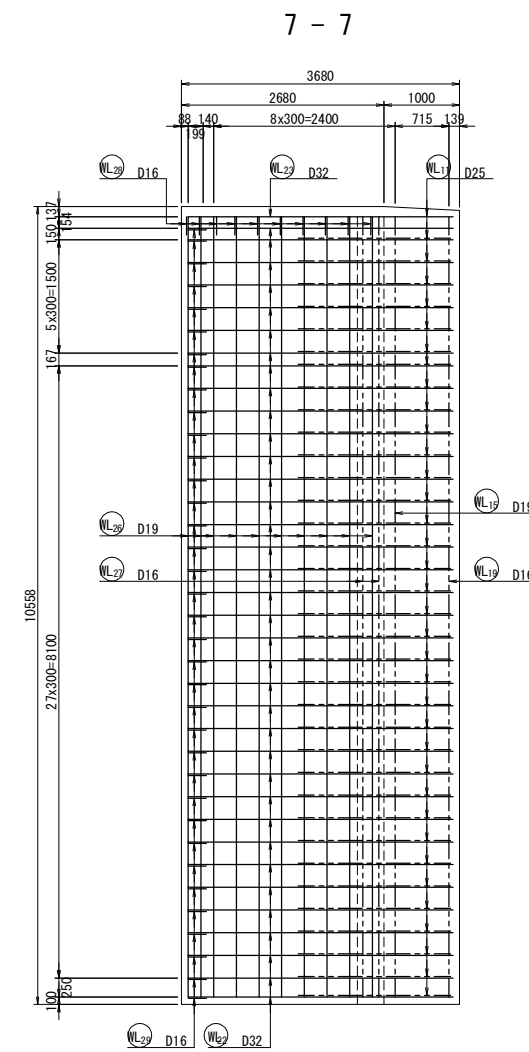
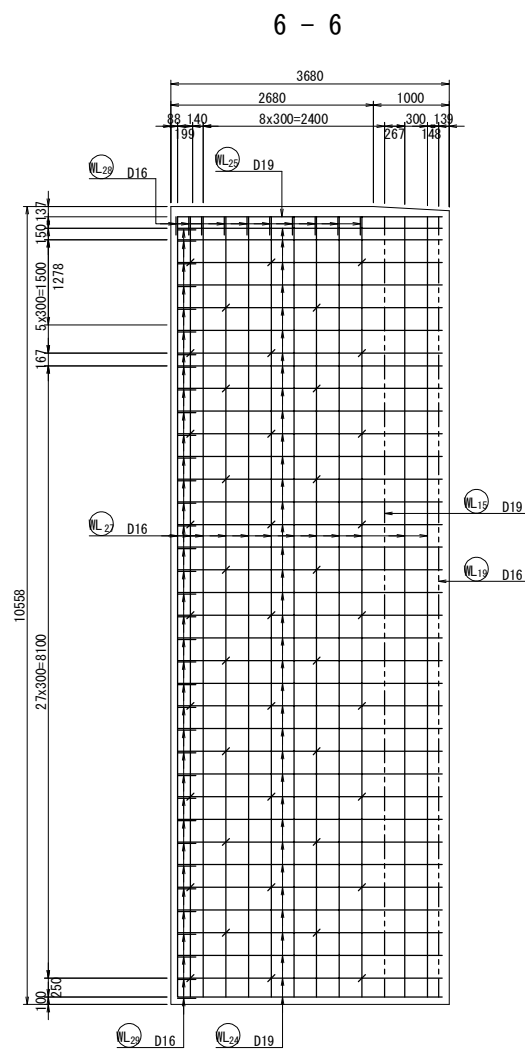
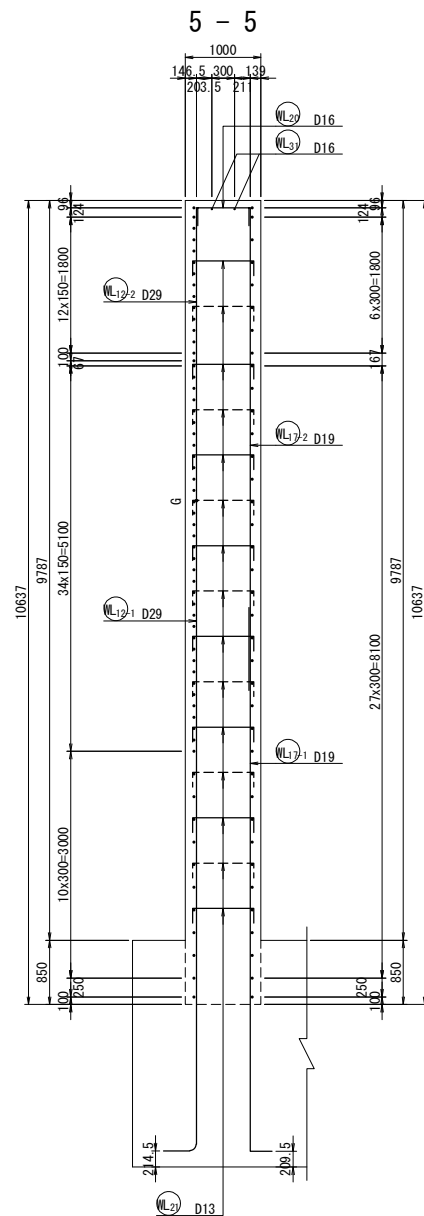
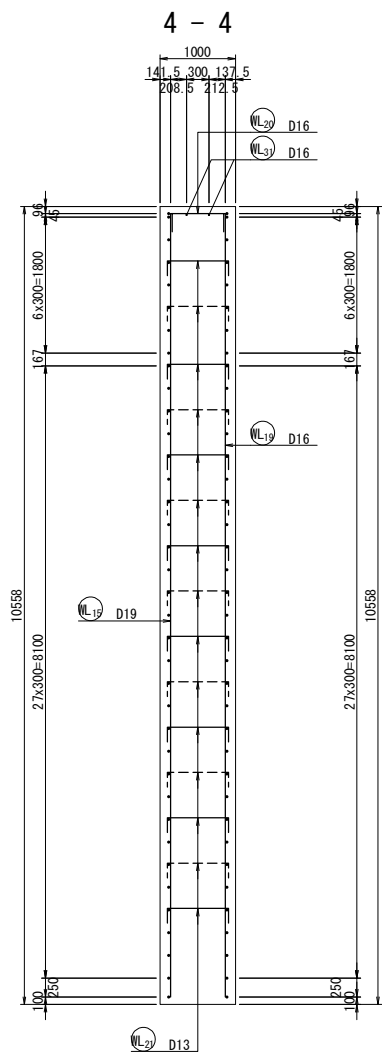


3 - 3

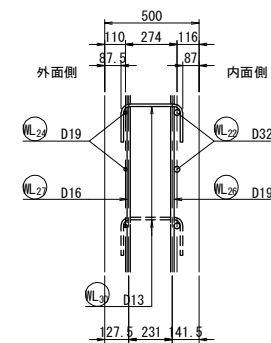


常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台配筋図(6)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

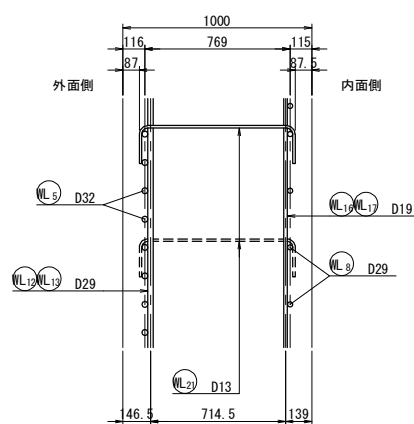




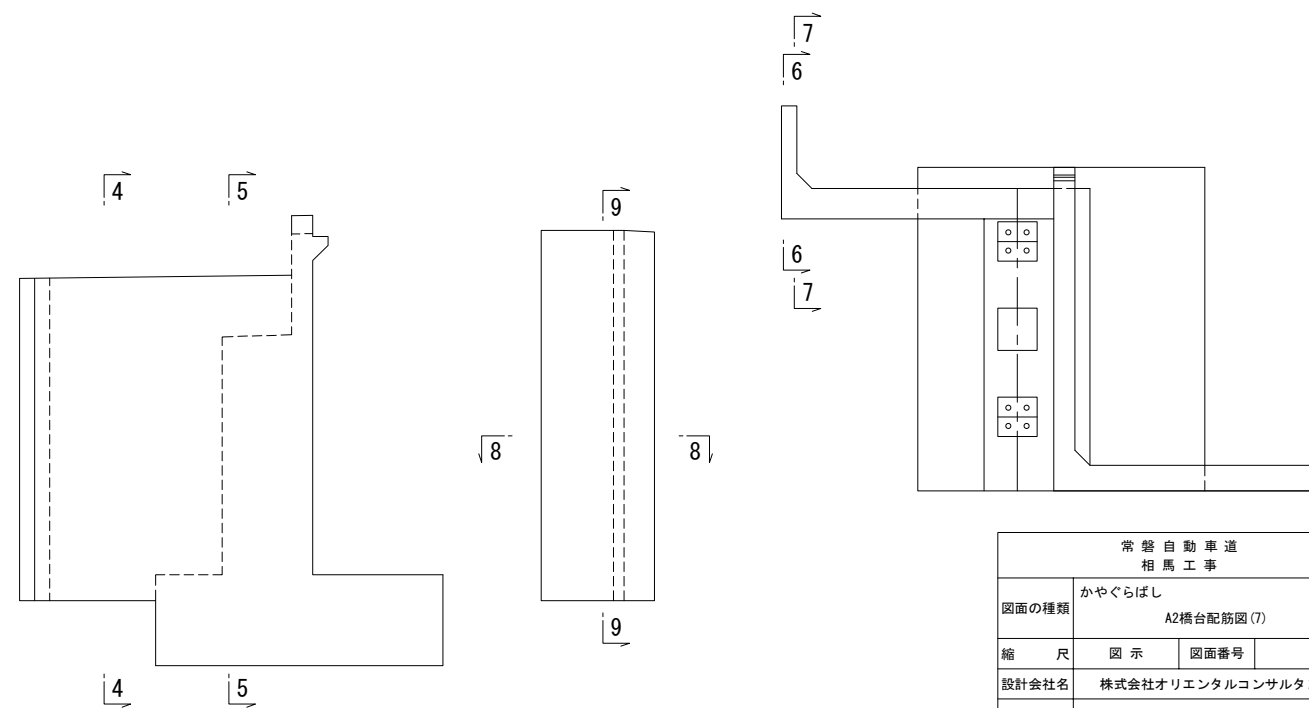
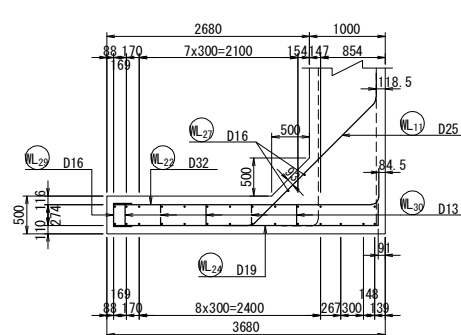
かぶり詳細図 S=1:40



かぶり詳細図 S=1:40

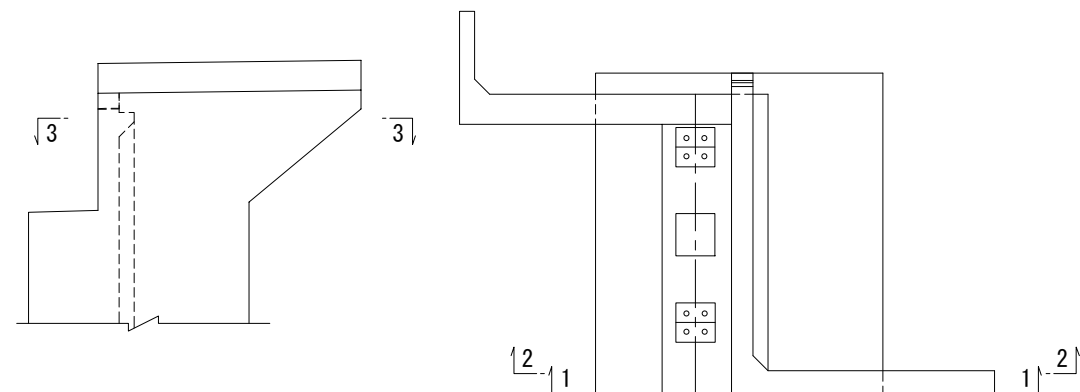
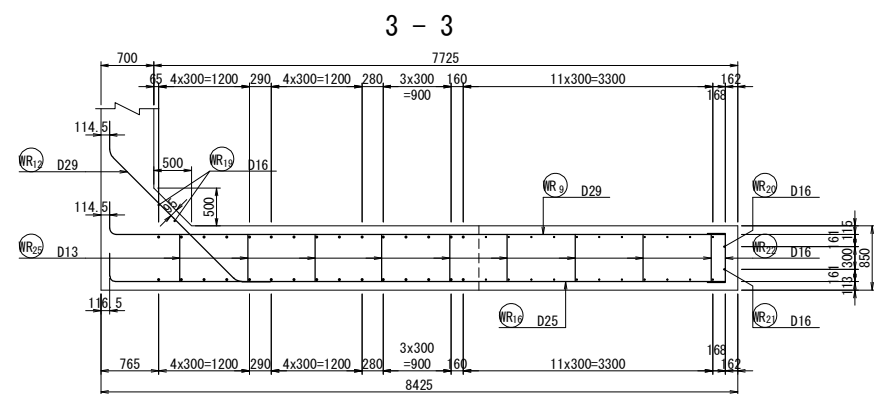
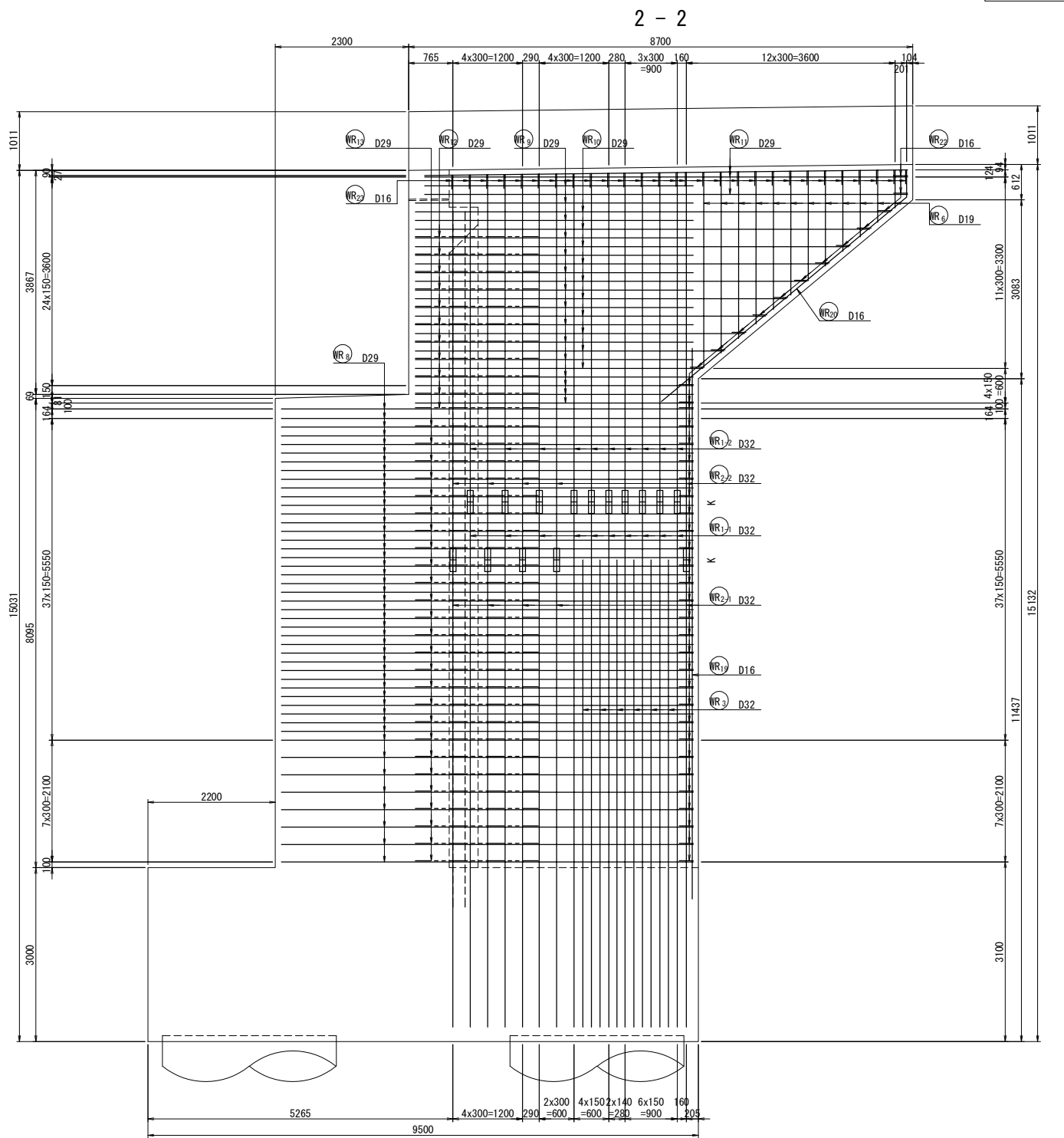
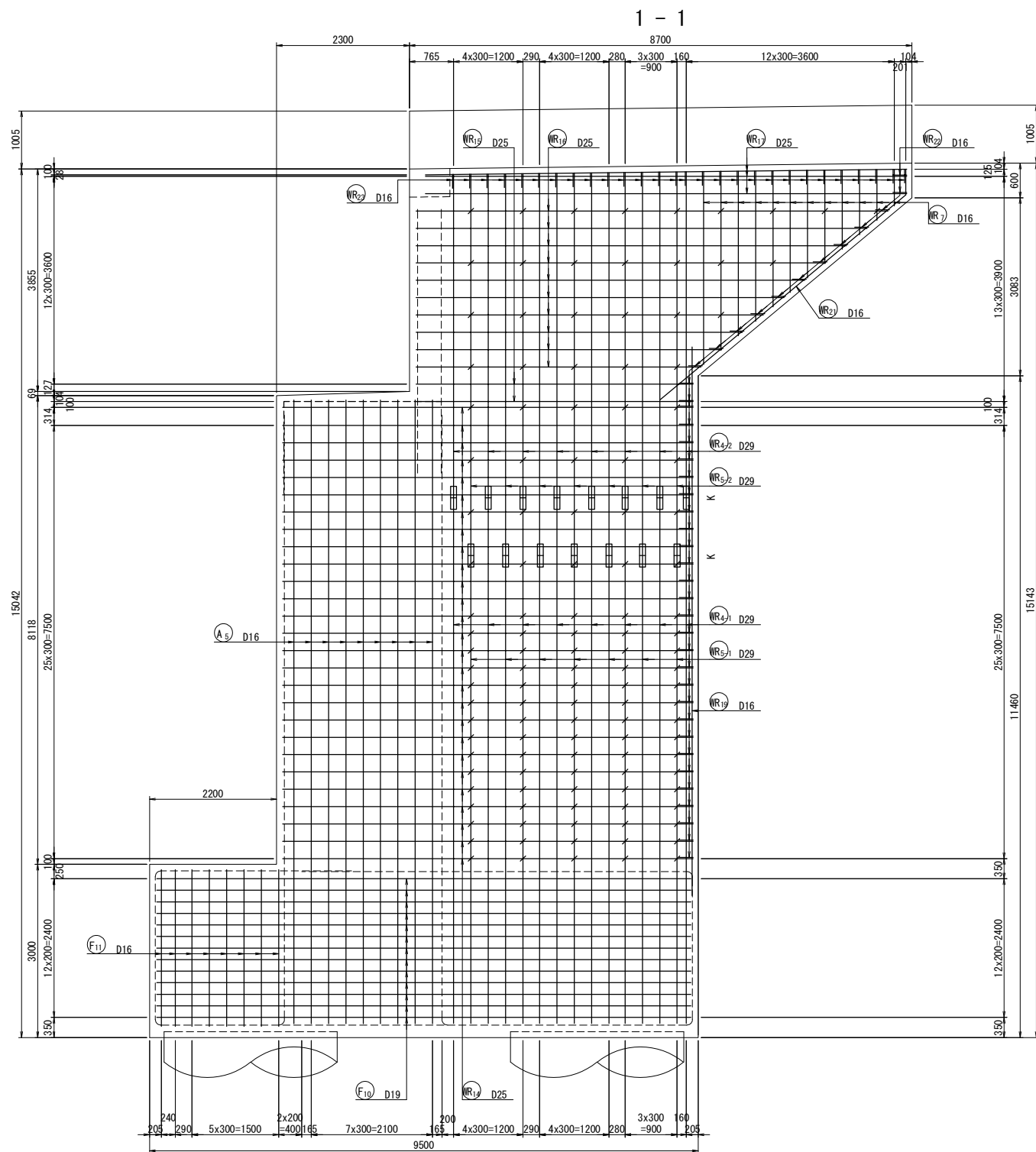


8 - 8

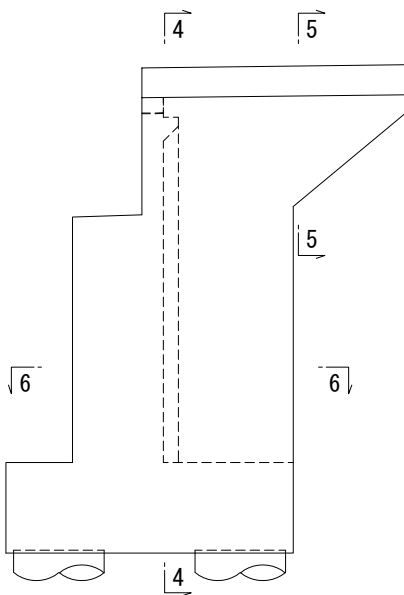
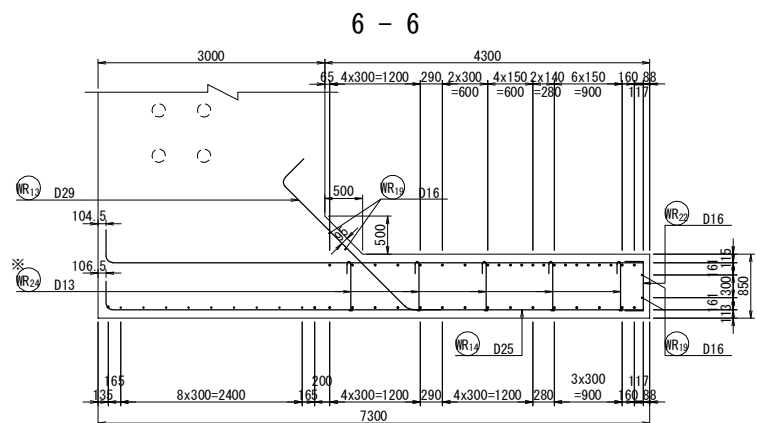
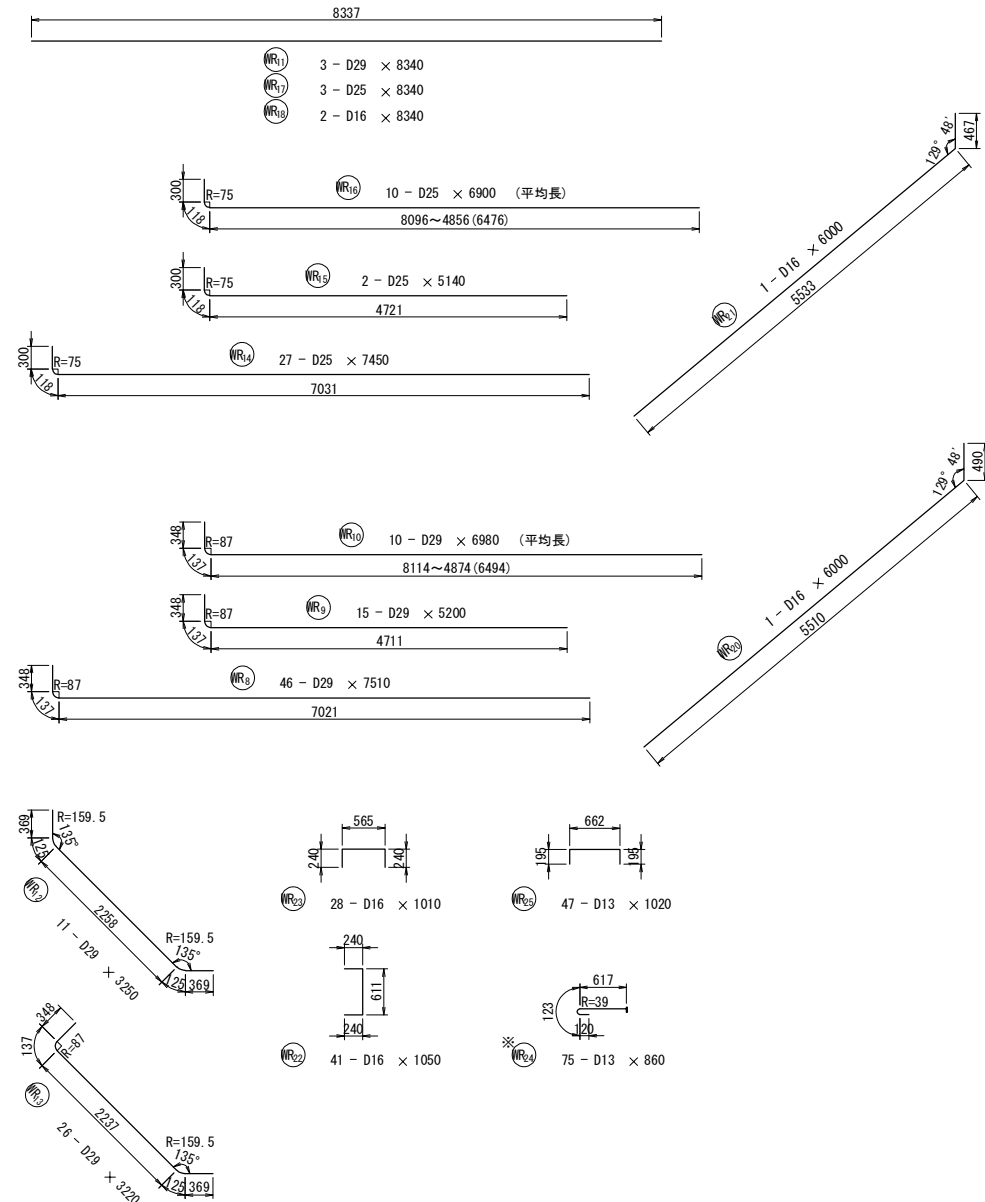
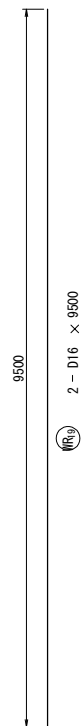
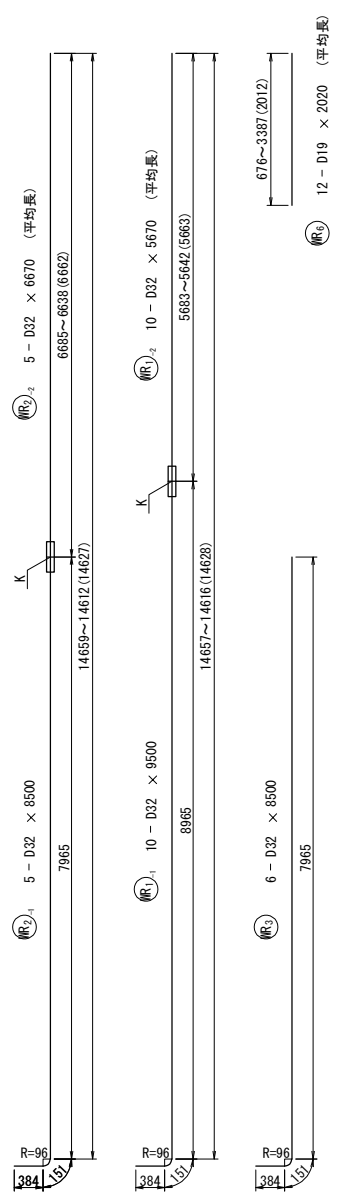
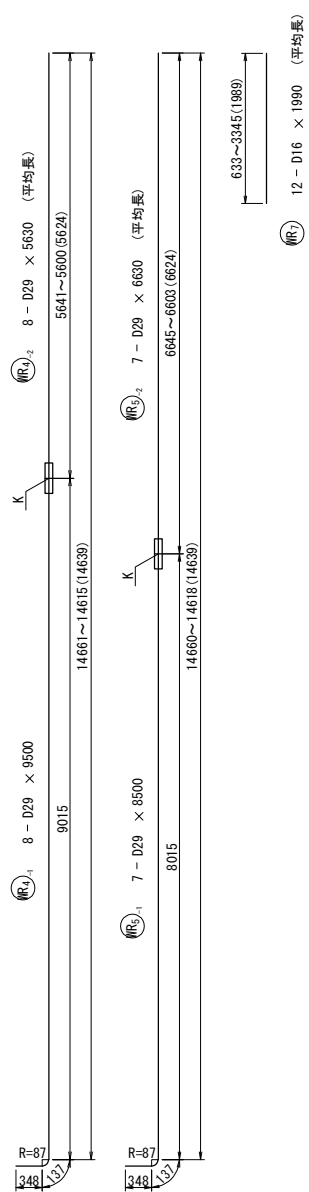
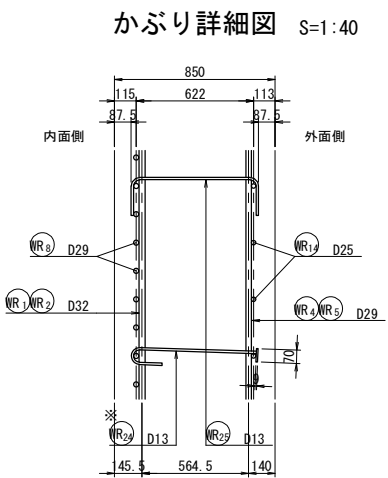
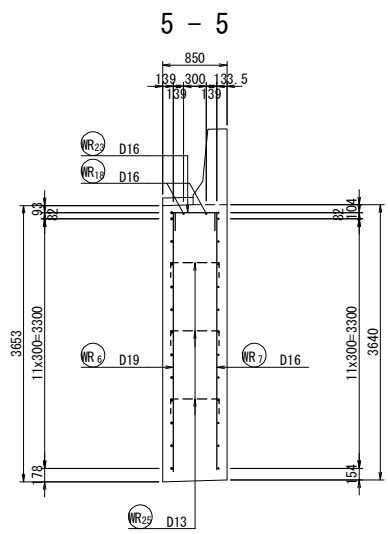
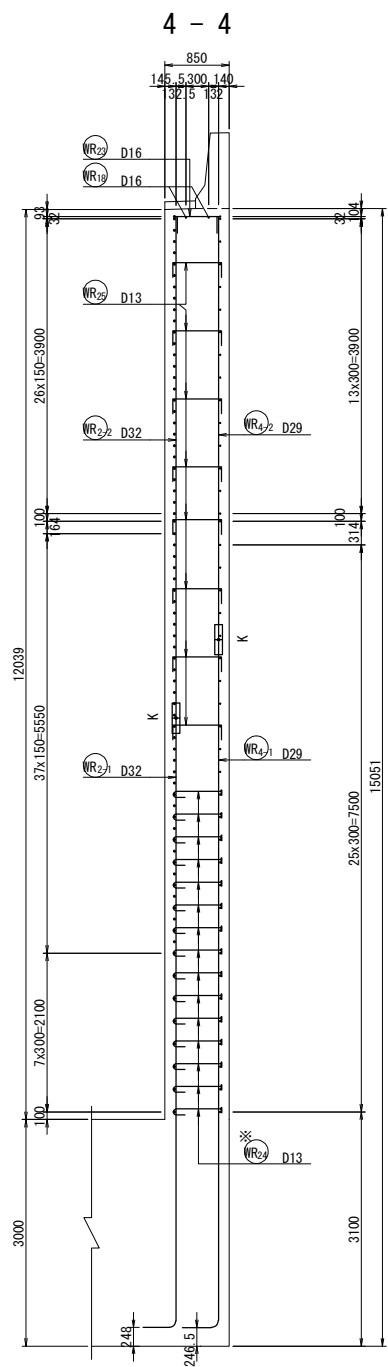


常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台配筋図(7)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		





常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台配筋図(9)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		



特記事項

1) 「※」印表記は機械式鉄筋定着工法を示すが、適用にあたっては下記の基準等を満足すること。  
・道路標示方書：同解説（H29.11日本道路協会）  
・機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン（H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の実験等による効果が保障された定着工法を用いること。

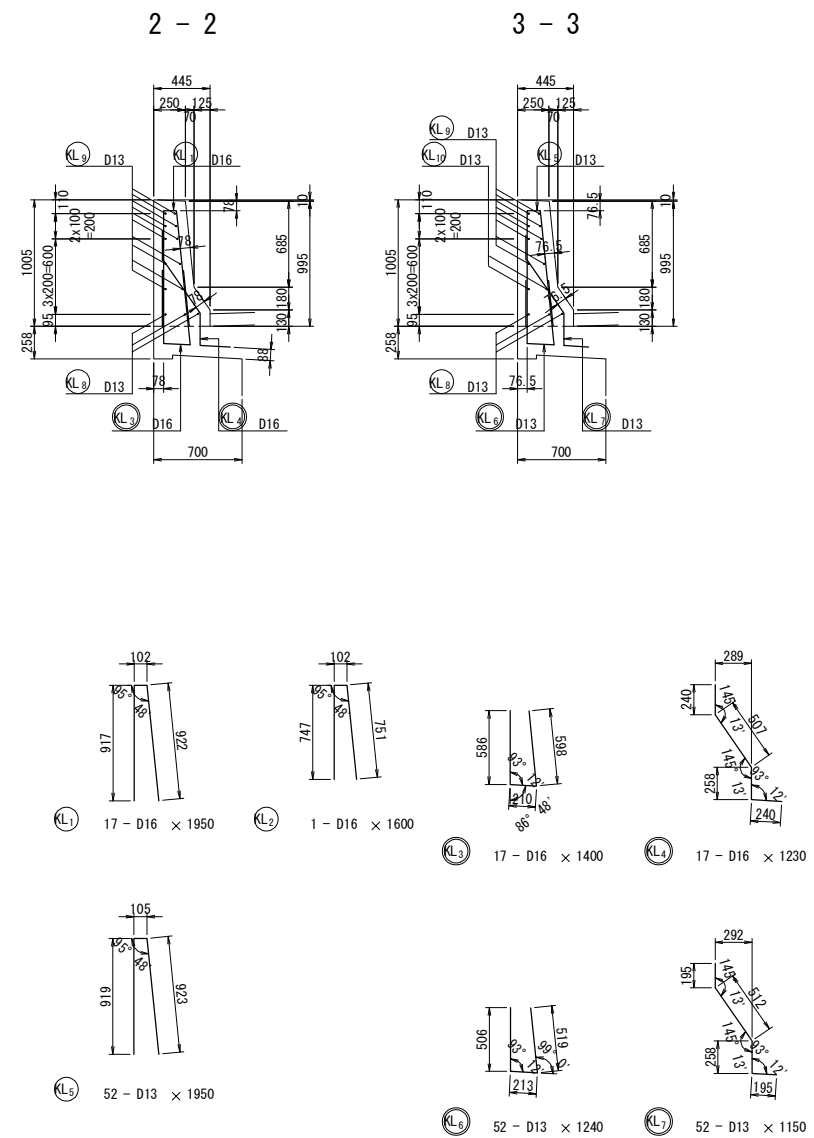
2) 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の承認を得てから工事を行うこと。

3) 機械式継手については、使用製品の製品と施工方法、管理方法等を発注者に確認してから工事を実施すること。

4) ☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。

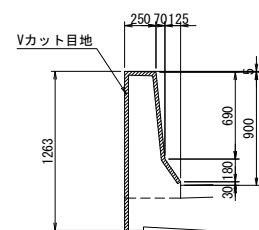
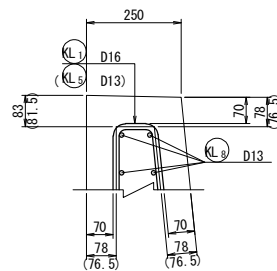
5) K は機械式継手を示す。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台配筋図(10)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

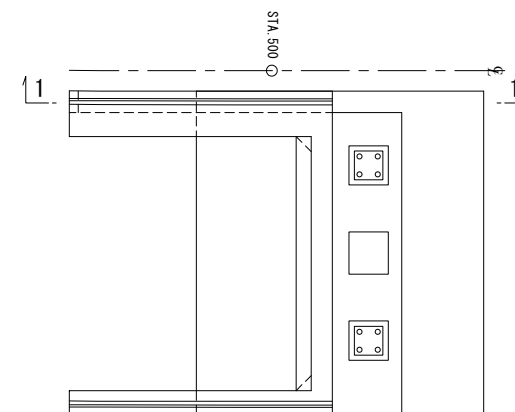
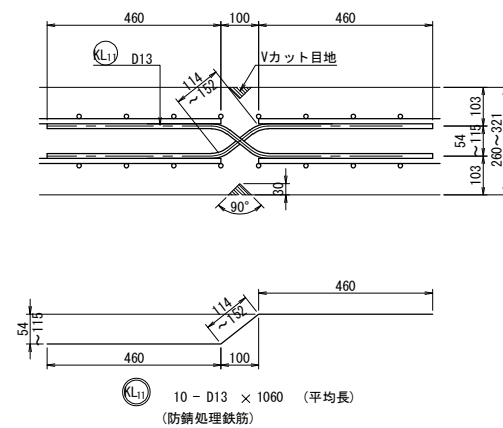


かぶり詳細図 S=1:20

壁高欄誘発目地詳細図 S=1:60

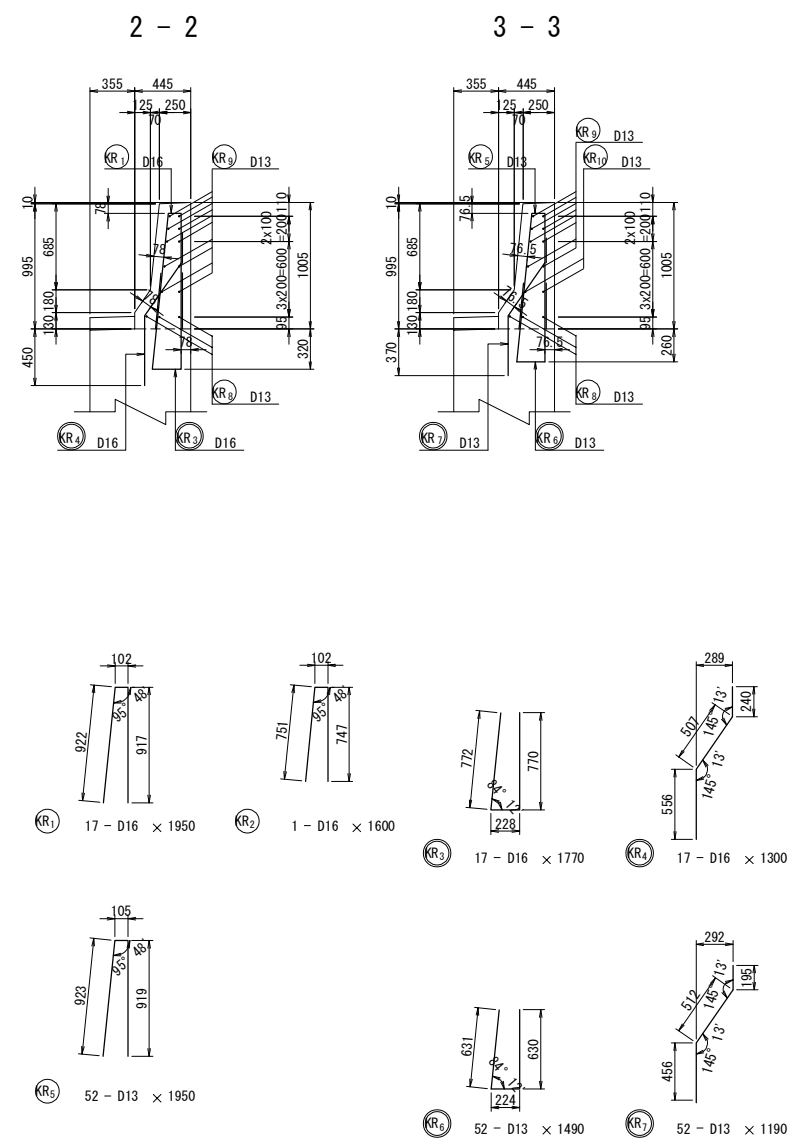
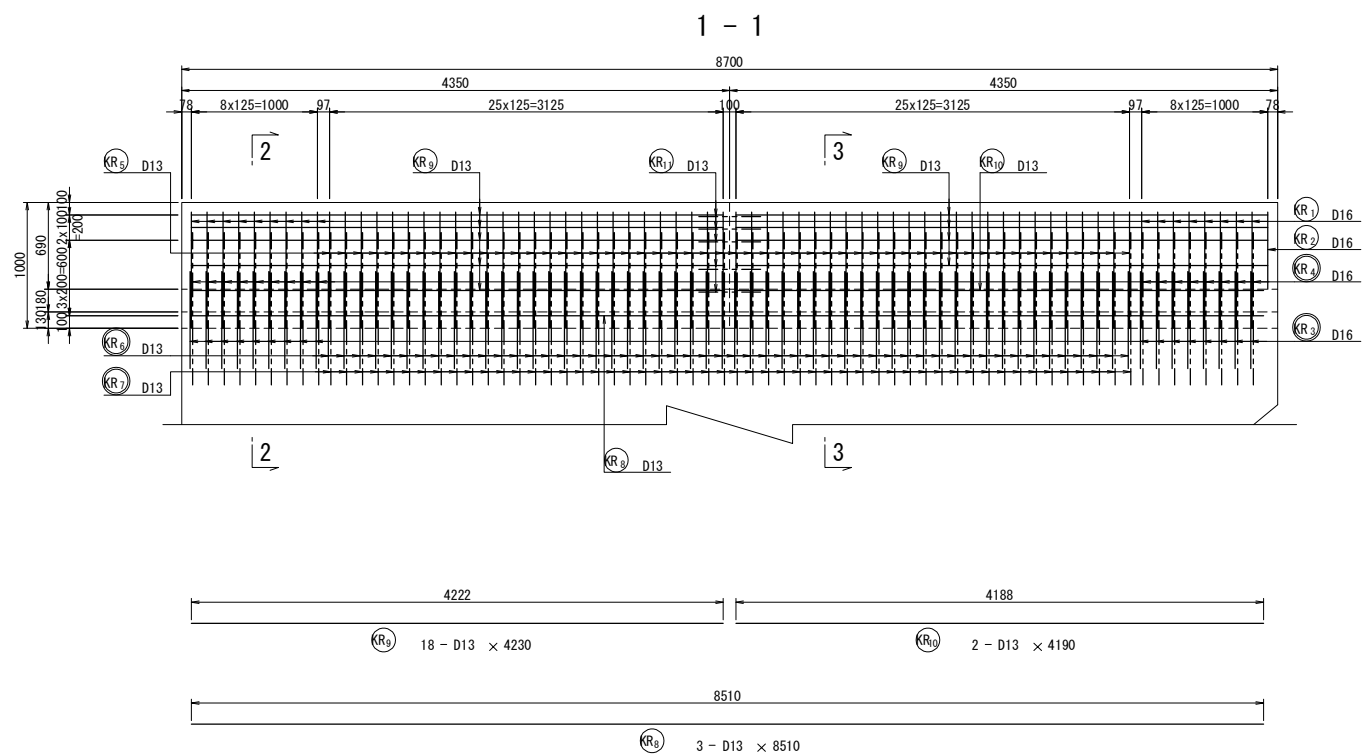


Vカット目地配筋詳細図 S=1:20

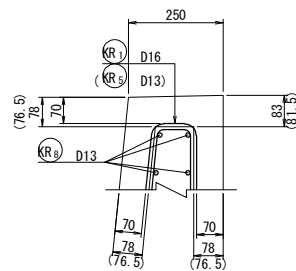


・◎で示す鉄筋番号は、下部工施工時鉄筋を表す。

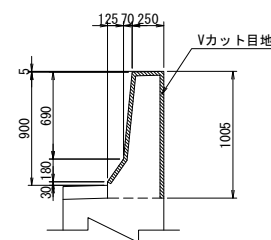
常 盤 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台配筋図(11)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



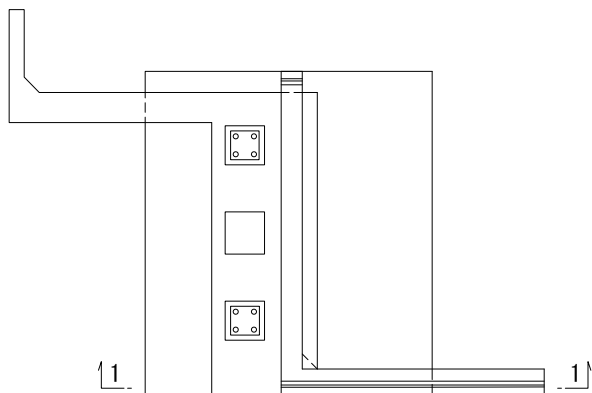
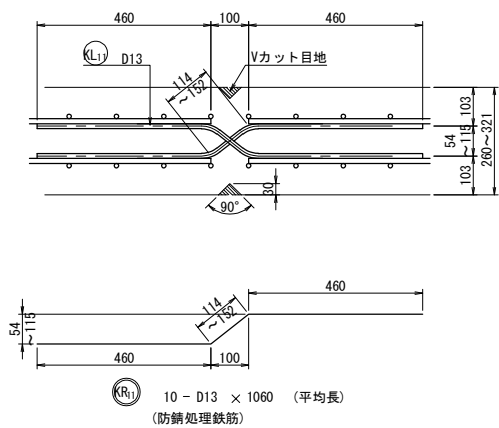
かぶり詳細図 S=1:20



壁高欄誘発目地詳細図 S=1:60



Vカット目地配筋詳細図 S=1:20



◎で示す鉄筋番号は、下部工施工時鉄筋を表す。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台配筋図(12)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

かやぐらばし A2橋台配筋図(13) S=1:60

鉄筋表

記号	径 (mm)	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要
P 1	D35	4,500	64	7.51	33.8	2,163	
P 2	D35	4,500	36	7.51	33.8	1,217	
P 3	D32	10,690	5	6.23	66.6	333	└
P 4-1	D32	10,690	13	6.23	66.6	866	└
P 4-2	D32	10,690	4	6.23	66.6	266	└
P 5	D29	10,600	22	5.04	53.4	1,175	└
P 6	D16	3,800	2	1.56	5.93	12	
P 7	D13	910	7	0.995	0.905	6	└
P 8	D13	9,930	1	0.995	9.88	10	└
P 9	D13	710	357	0.995	0.706	252	※
6,300 kg							
E 1	D22	520	12	3.04	1.58	19	
E 2	D16	2,690	28	1.56	4.20	118	└
E 3	D13	9,930	4	0.995	9.88	40	└
E 4	D13	1,280	12	0.995	1.27	15	≡
192 kg							
A 1	D32	11,000	83	6.23	68.5	5,686	└
A 2	D32	10,500	17	6.23	65.4	1,112	└
A 3	D19	10,370	77	2.25	23.3	1,794	└
A 4	D19	5,590	1	2.25	12.6	13	└
A 5	D16	11,000	9	1.56	17.2	155	└
A 6	D16	10,750	9	1.56	16.8	151	└
A 7	D19	10,380	2	2.25	23.4	47	└
A 8	D19	3,090	286	2.25	6.95	1,988	※
10,946 kg							
S 1	D16	10,670	10	1.56	16.6	166	└
S 2	D16	3,040	36	1.56	4.74	171	※
S 3	D16	5,000	38	1.56	7.80	296	└
S 4	D16	2,220	36	1.56	3.46	125	└
S 5	D16	2,790	8	1.56	4.35	35	└
793 kg							
☆ F 1-1	D32	8,000	38	6.23	49.8	1,892	└ [38]
☆ F 1-2	D32	6,530	38	6.23	40.7	1,547	└
☆ F 2	D32	7,580	37	6.23	47.2	1,746	└
☆ F 3	D32	7,490	75	6.23	46.7	3,503	└
☆ F 4	D32	4,000	38	6.23	24.9	946	└
☆ F 5	D29	11,250	34	5.04	56.7	1,928	└
☆ F 6	D29	11,270	16	5.04	56.8	909	└
☆ F 7	D22	1,580	8	3.04	4.80	38	└
☆ F 8	D19	10,980	10	2.25	24.7	247	└
☆ F 9	D19	11,040	26	2.25	24.8	645	└
☆ F 10	D19	9,900	26	2.25	22.3	580	└
☆ F 11	D16	3,160	20	1.56	4.93	99	└
☆ F 12	D16	3,150	22	1.56	4.91	108	└
☆ F 13	D19	2,990	206	2.25	6.73	1,386	※
☆ F 14	D16	2,940	33	1.56	4.59	151	※
15,725 kg							
WL 1	D41	11,770	6	10.5	124.0	744	└
WL 2	D41	10,650	27	10.5	112.0	3,024	└
WL 3-1	D41	6,910	3	10.5	72.6	218	└
WL 3-2	D41	4,360	3	10.5	45.8	137	└
WL 4	D41	9,480	1	10.5	99.5	100	└
WL 5	D41	7,520	27	10.5	79.0	2,133	└
WL 6	D41	8,680	5	10.5	91.1	456	└
WL 7	D35	9,960	6	7.51	74.8	449	└
WL 8	D35	9,970	27	7.51	74.9	2,022	└
WL 9	D35	5,500	3	7.51	41.3	124	└
WL 10	D35	9,480	1	7.51	71.2	71	└
WL 11	D25	3,070	36	3.98	12.2	439	└
WL 12-1	D35	9,000	4	7.51	67.6	270	[4]
WL 12-2	D35	3,870	4	7.51	29.1	116	(平均長)
WL 13-1	D35	8,000	3	7.51	60.1	180	[3]
WL 13-2	D35	4,870	3	7.51	36.6	110	(平均長)
WL 14	D35	3,000	8	7.51	22.5	180	
WL 15-1	D35	10,390	7	7.51	78.0	546	(平均長)
WL 15-2	D25	10,390	9	3.98	41.4	373	(平均長)
WL 16-1	D19	9,500	3	2.25	21.4	64	└
WL 16-2	D19	4,000	3	2.25	9.00	27	└
WL 17-1	D19	7,500	4	2.25	16.9	68	└
WL 17-2	D19	6,000	4	2.25	13.5	54	
WL 18	D19	3,000	8	2.25	6.75	54	
WL 19	D16	10,390	16	1.56	16.2	259	(平均長)
WL 20	D16	1,160	29	1.56	1.81	52	└

鉄筋表

記号	径 (mm)	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要
WL 21	D13	1,170	113	0.995	1.16	131	└
WL 22	D32	3,950	41	6.23	24.6	1,009	└
WL 23	D32	3,510	1	6.23	21.9	22	└
WL 24	D19	3,770	41	2.25	8.48	348	└
WL 25	D19	3,510	1	2.25	7.90	8	└
WL 26	D19	10,330	10	2.25	23.2	232	
WL 27	D16	10,330	14	1.56	16.1	225	
WL 28	D16	670	10	1.56	1.05	11	└
WL 29	D16	710	36	1.56	1.11	40	└
WL 30	D13	670	43	0.995	0.67	29	└
WL 31	D16	9,480	2	1.56	14.8	30	└
14,355 kg							
WR 1-1	D32	9,500	10	6.23	59.2	592	└ [10]
WR 1-2	D32	5,670	10	6.23	35.3	353	(平均長)
WR 2-1	D32	8,500	5	6.23	53.0	265	└ [5]
WR 2-2	D32	6,670	5	6.23	41.6	208	(平均長)
WR 3	D32	8,500	6	6.23	53.0	318	└
WR 4-1	D29	9,500	8	5.04	47.9	383	└ [8]
WR 4-2	D29	5,630	8	5.04	28.4	227	(平均長)
WR 5-1	D29	8,500	7	5.04	42.8	300	└ [7]
WR 5-2	D29	6,630	7	5.04	33.4	234	(平均長)
WR 6	D19	2,040	12	2.25	4.59	55	(平均長)
WR 7	D16	1,990	12	1.56	3.10	37	(平均長)
WR 8	D29	7,510	46	5.04	37.9	1,743	└
WR 9	D29	5,200	15	5.04	26.2	393	└
WR 10	D29	6,980	10	5.04	35.2	352	└ (平均長)
WR 11	D29	8,340	3	5.04	42.0	126	└
WR 12	D29	3,250	11	5.04	16.4	180	└
WR 13	D29	3,220	26	5.04	16.2	421	└
WR 14	D25	7,450	27	3.98	29.7	802	└
WR 15	D25	5,140	2	3.98	20.5	41	└
WR 16	D25	6,900	10	3.98	27.5	275	└ (平均長)
WR 17	D25	8,340	3	3.98	33.2	100	└
WR 18	D16	8,340	2	1.56	13.0	26	└
WR 19	D16	9,500	2	1.56	14.8	30	
WR 20	D16	6,000	1	1.56	9.36	9	└
WR 21	D16	6,000	1	1.56	9.36	9	└
WR 22	D16	1,050	41	1.56	1.64	67	└
WR 23	D16	1,010	28	1.56	1.58	44	└
WR 24	D13	860	75	0.995	0.856	64	※
WR 25	D13	1,020	47	0.995	1.01	47	└
7,701 kg							
KL 1	D16	1,950	17	1.56	3.04	52	└
KL 2	D16	1,600	1	1.56	2.50	3	└
KL 3	D16	1,400	17	1.56	2.18	37	└
KL 4	D16	1,230	17	1.56	1.92	33	└
KL 5	D13	1,950	52	0.995	1.94	101	└
KL 6	D13	1,240	52	0.995	1.23	64	└
KL 7	D13	1,150	52	0.995	1.14	59	└
KL 8	D13	8,510	3	0.995	8.47	25	└
KL 9	D13	4,230	18	0.995	4.21	76	└
KL 10	D13	4,190	2	0.995	4.17	8	└
KL 11	D13	1,060	10	0.995	1.05	11	└
469 kg							
KR 1	D16	1,950	17	1.56	3.04	52	└
KR 2	D16	1,600	1	1.56	2.50	3	└
KR 3	D16	1,770	17	1.56	2.76	47	└
KR 4	D16	1,300	17	1.56	2.03	35	└
KR 5	D13	1,950	52	0.995	1.94	101	└
KR 6	D13	1,490	52	0.995	1.48	77	└
KR 7	D13	1,190	52	0.995	1.18	61	└
KR 8	D13	8,510	3	0.995	8.47	25	└
KR 9	D13	4,230	18	0.995	4.21	76	└
KR 10	D13	4,190	2	0.995	4.17	8	└
KR 11	D13	1,060	10	0.995	1.05	11	└
496 kg							
B 1	D16	3,900	4	1.56	6.08	24	└
B 2	D16	3,770	5	1.56	5.88	29	└
B 3	D13	2,710	8	0.995	2.70	22	└
75 kg							

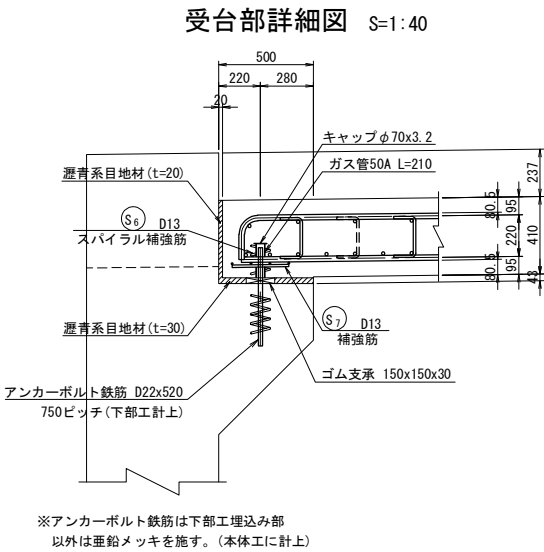
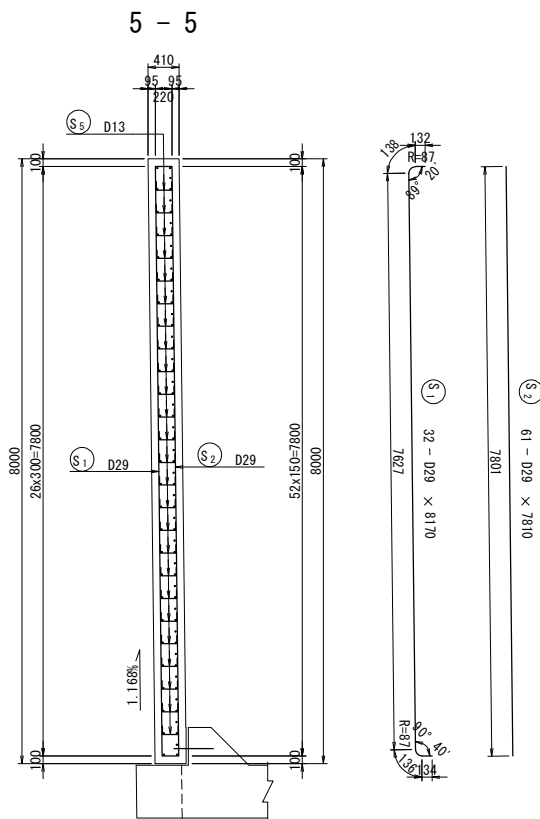
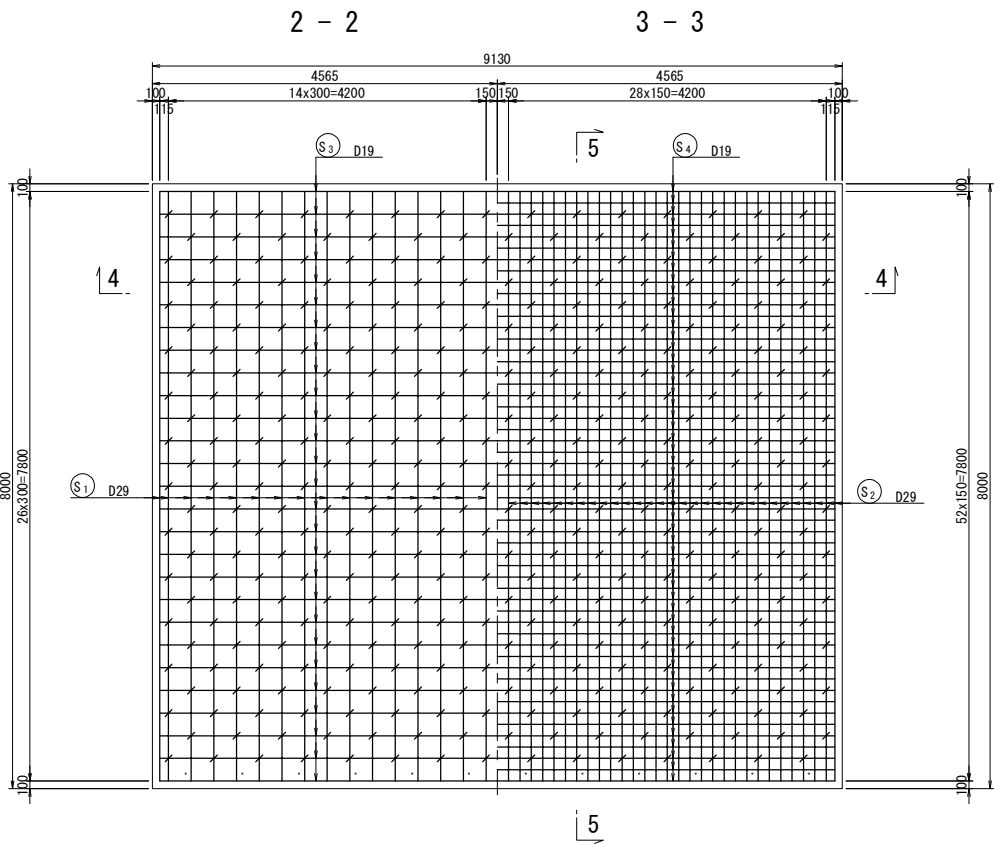
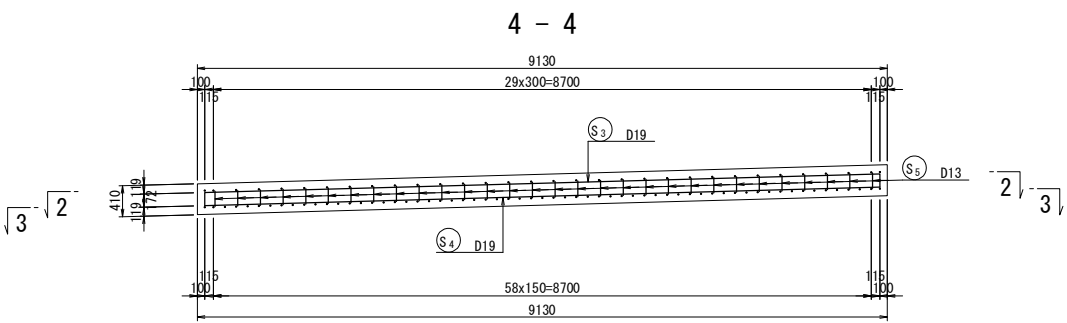
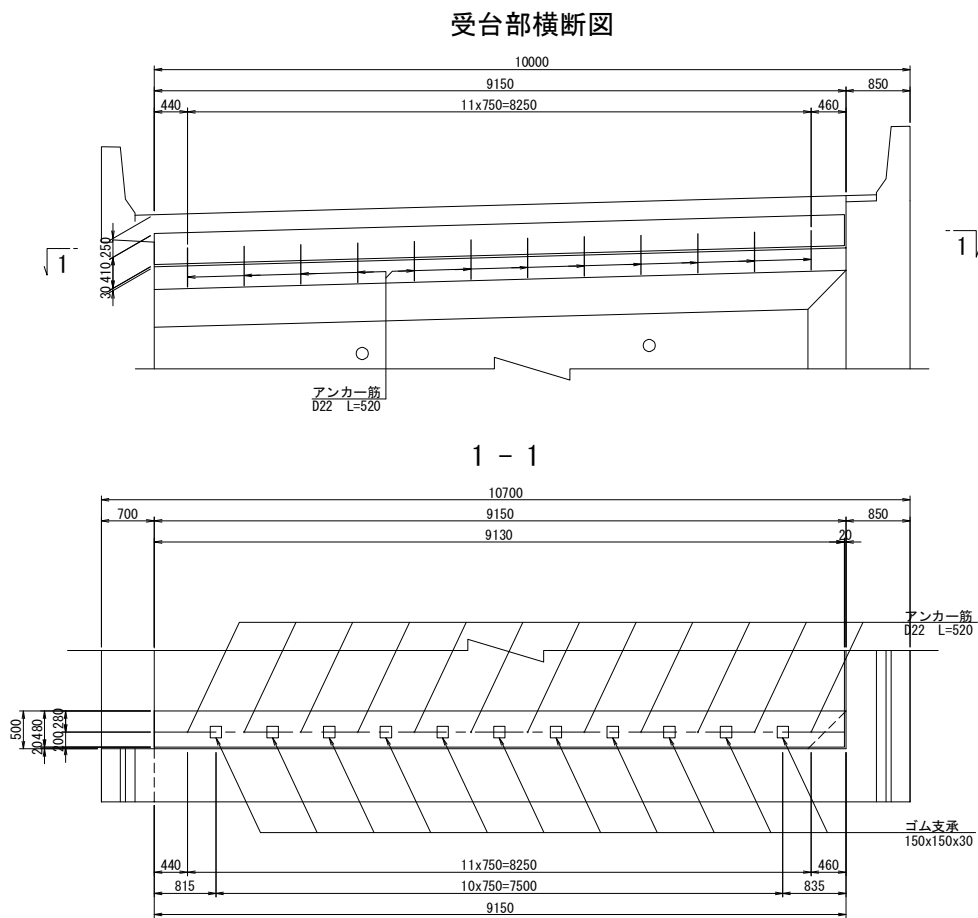
	A種鉄筋	B種鉄筋	C種鉄筋	A + B + C
普通鉄筋	D51 --- kg	---	---	---
	D41 --- kg	---	---	---
	D38 --- kg	---	---	---
	D35 --- kg	---	---	---
	D32 6195 kg	3439 kg (38)	---	9634 kg
	D29 2837 kg	---	---	2837 kg
	D25 --- kg	---	---	---
	D22 38 kg	---	---	38 kg
	D19 1472 kg	---	1386 kg	2858 kg
	D16 207 kg	---	151 kg	358 kg
	D13 --- kg	---	---	---
合計	10749 kg	3439 kg	1537 kg	15725 kg
エポキシ樹脂塗装鉄筋	D51 --- kg	---	---	---
	D41 6812 kg	---	---	6812 kg
	D38 --- kg	---	---	---
	D35 6772 kg	676 kg (7)	---	7448 kg
	D32 9612 kg	1418 kg (15)	---	11030 kg
	D29 4390 kg	1144 kg (15)	---	5534 kg
	D25 2030 kg	---	---	2030 kg
	D22 19 kg	---	---	19 kg
	D19 2764 kg	---	1988 kg	4752 kg
	D16 2212 kg	---	171 kg	2383 kg
	D13 1003 kg	---	316 kg	1319 kg
合計	35614 kg	3238 kg	2475 kg	41327 kg
総質量	46363 kg	6677 kg	4012 kg	57052 kg

機械式鉄筋定着工法数量表（普通鉄筋）

鉄筋径	箇所数					
	0m<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m
D13	---	---	---	---	---	---
D16	---	---	33	---	---	---
D19	---	---	206	---	---	---
D22	---	---	---	---	---	---
D25	---	---	---	---	---	---
小計	---	---	239	---	---	---
合計	239箇所					

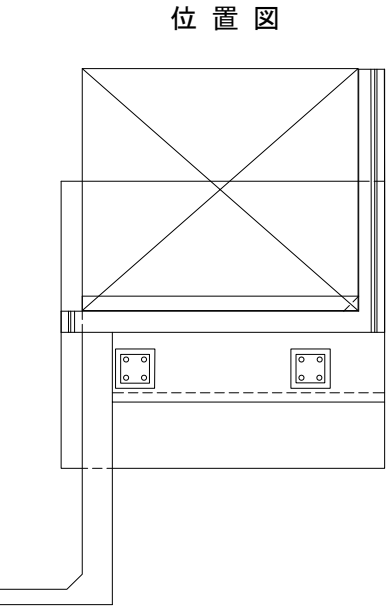
機械式鉄筋定着工法数量表（エポキシ樹脂）

鉄筋径	箇所数					
	0m<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m
D13	432					
D16				36		
D19				286		
D22						
D25						
小計	432			322		
合計	754箇所					



鉄筋表

記号	径 (mm)	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)	摘要	備考
S 1	D29	8,170	32	5.04	41.18	1,318	—	
S 2	D29	7,810	61	5.04	39.36	2,401	「	
S 3	D19	9,230	27	2.25	20.77	561	—	
S 4	D19	8,940	53	2.25	20.12	1,066	「	
S 5	D13	430	375	0.995	0.43	161	□	
S 6	D13	960	12	0.995	0.96	12	≡	
S 7	D13	300	96	0.995	0.30	29	—	
5,548 kg								
(SD345) D13 202 kg								
(SD345) D19 1,627 kg								
(SD345) D29 3,719 kg								
合計 5,548 kg								



下部工計上以外施工対象外 (舗装工事施工)

常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台踏掛版配筋図		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



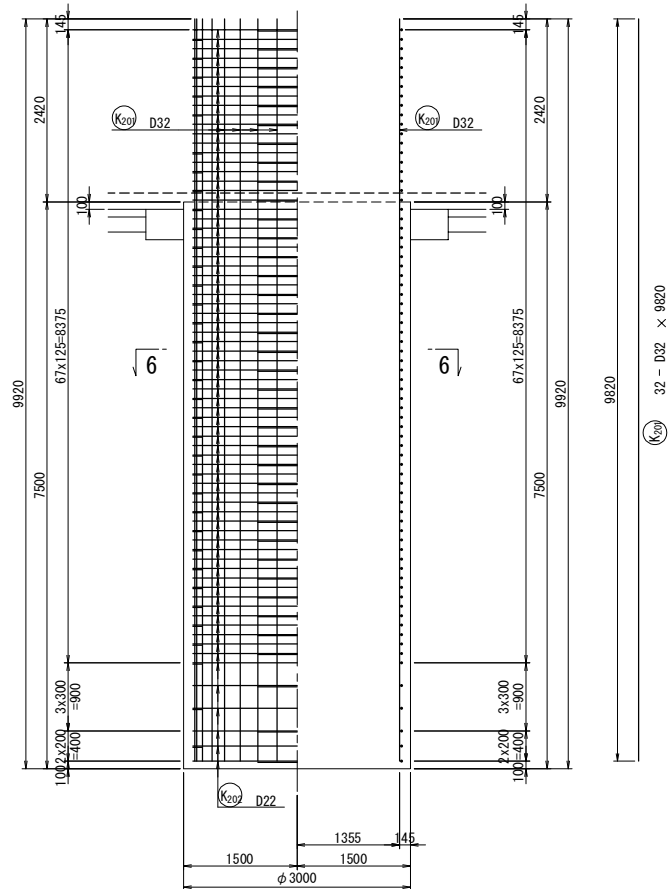
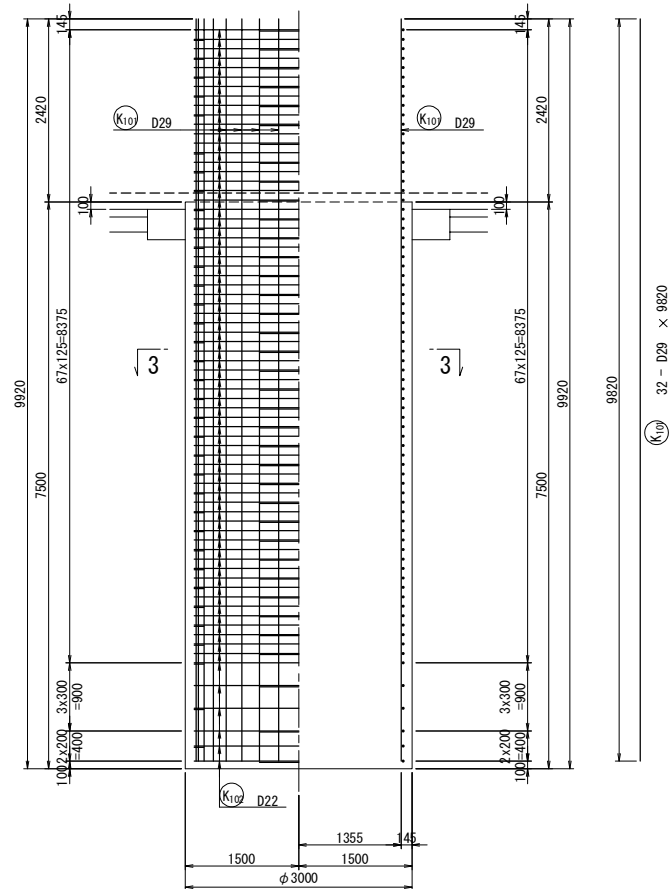
## NO. 1 深礎杭

＜  $\phi 3000$  杭長  $L=7.5\text{m}$ ,  $N=2$ 本 ＞

## NO. 2深礎杭

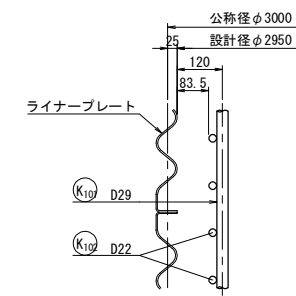
$$1 - 1 \quad 2 - 2$$

4 - 4      5 - 5

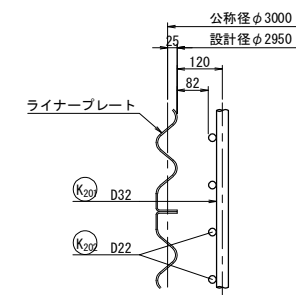


かぶり詳細図 S=1:20

NO. 1



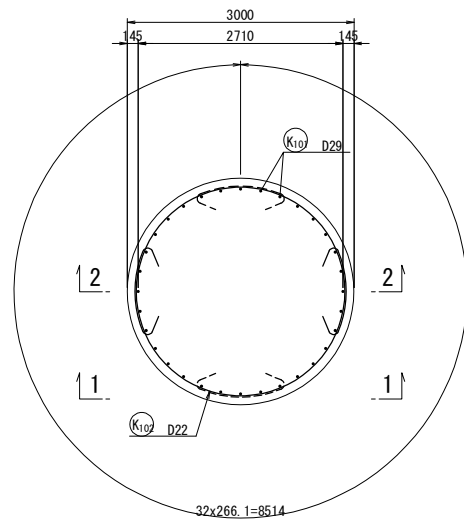
NO. 2



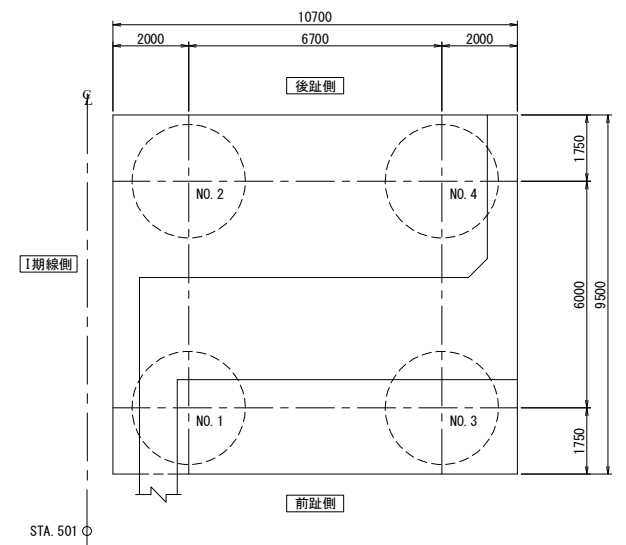
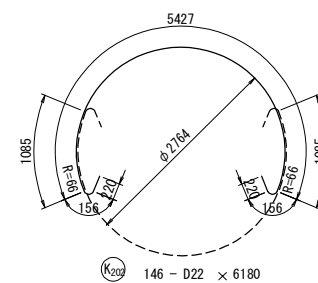
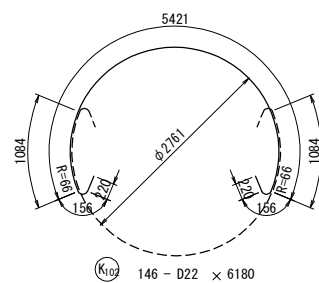
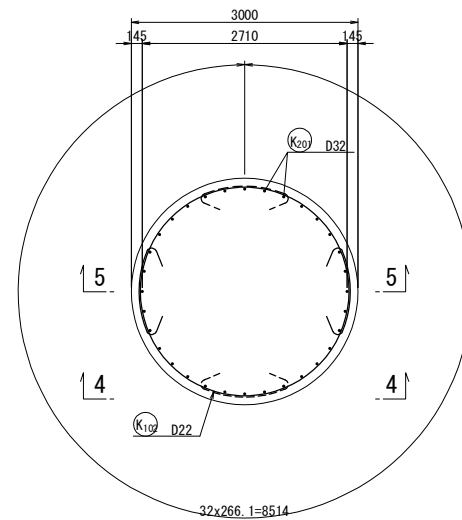
## 鉄筋表

鉄 材 表								(杭1本当り質量)	
記 号	径 (mm)	長 さ (mm)	本 数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質 量 (kg)	摘 要		
NO.1深礎杭									
K 101	D29	9,820	32	5.04	49.5	1,584			
K 102	D22	6,180	146	3.04	18.8	2,745	○		
						4,329	kg		
(SD345) D22				2,745		kg			
(SD345) D29				1,584		kg			
合 計				4,329		kg			
NO.2深礎杭									
K 201	D32	9,820	32	6.23	61.2	1,958			
K 202	D22	6,180	146	3.04	18.8	2,745	○		
						4,703	kg		
(SD345) D22				2,745		kg			
(SD345) D32				1,958		kg			
合 計				4,703		kg			

3 - 3



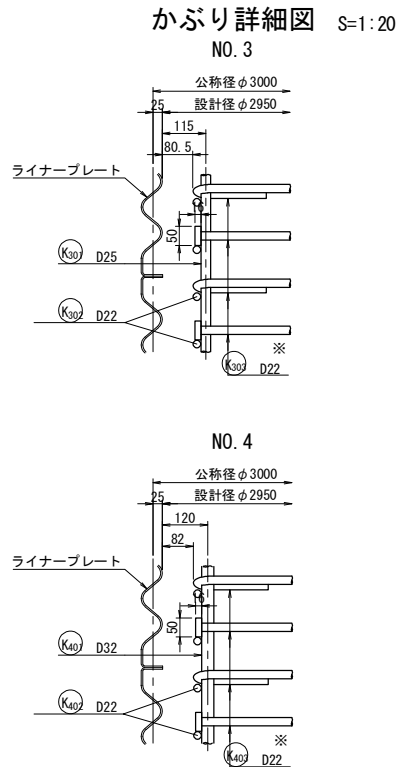
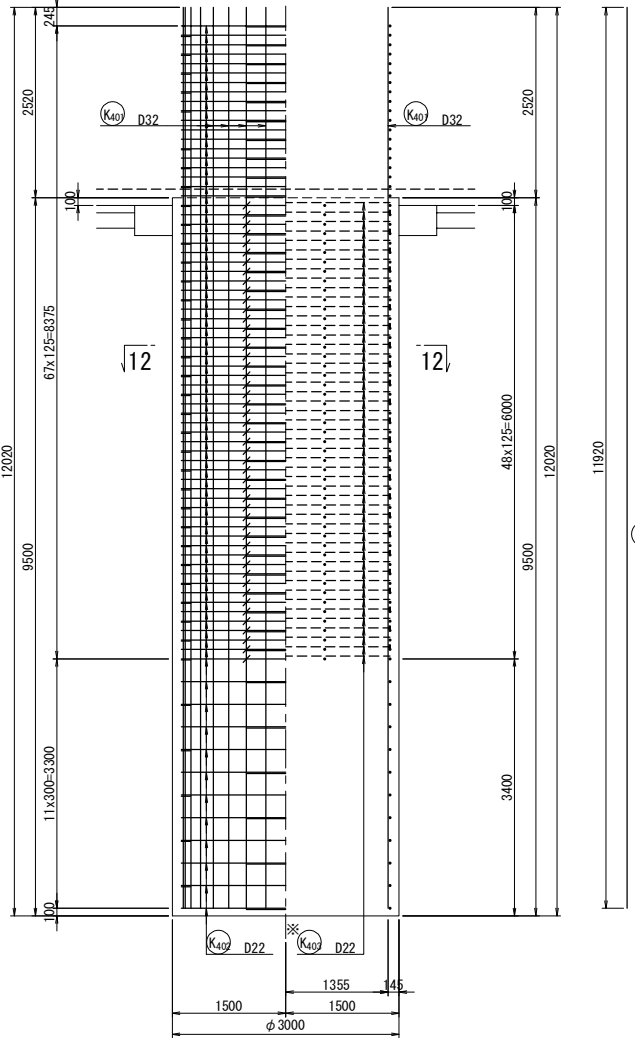
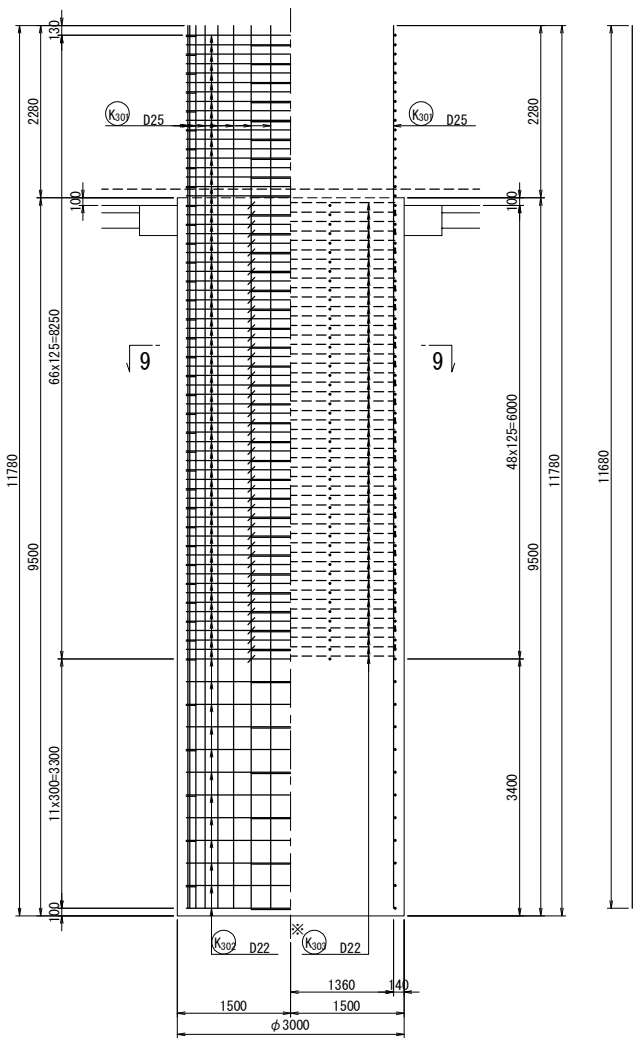
6 - 6



常 盤 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台深礎杭配筋図(1)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

NO.3深礎杭 < φ3000 杭長 L=9.5m, N=2本 >

NO.4深礎杭

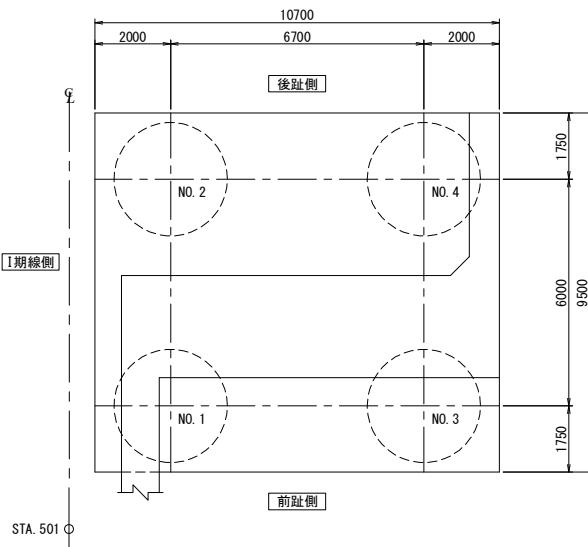
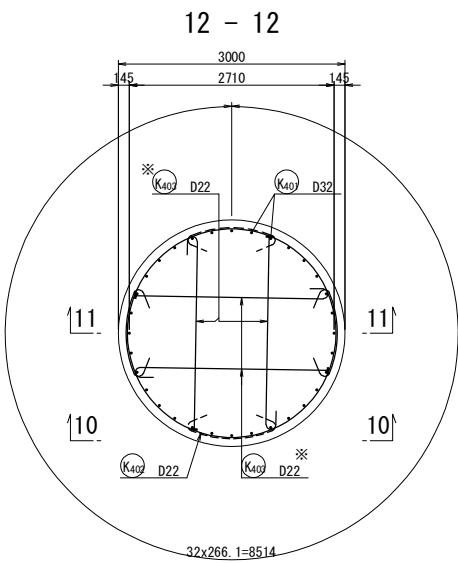
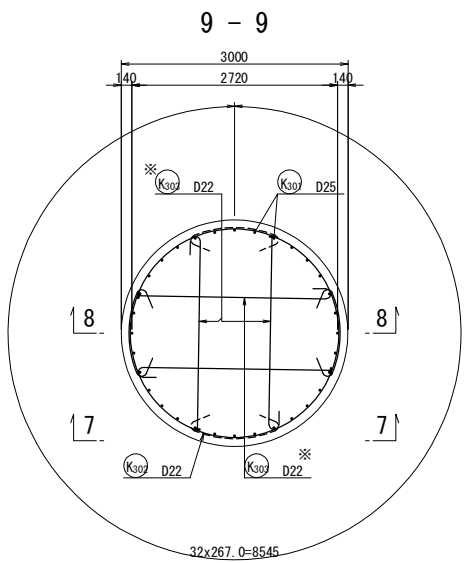


鉄筋表

鉄筋表 (杭1本当り質量)						
記号	径 (mm)	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg/本)	質量 (kg)
NO.3深礎杭						
K 301	D25	11,680	32	3.98	46.5	1,488
K 302	D22	6,190	156	3.04	18.8	2,933
K 303	D22	2,870	196	3.04	8.72	1,709
6,130 kg						
鉄筋A 鉄筋C						
(SD345)	D22				2,933 kg	1,709 kg
(SD345)	D25				1,488 kg	
合計 4,421 kg 1,709 kg						
NO.4深礎杭						
K 401	D32	11,920	32	6.23	74.3	2,378
K 402	D22	6,180	158	3.04	18.8	2,970
K 403	D22	2,870	196	3.04	8.72	1,709
7,057 kg						
鉄筋A 鉄筋C						
(SD345)	D22				2,970 kg	1,709 kg
(SD345)	D32				2,378 kg	
合計 5,348 kg 1,709 kg						

機械式鉄筋定着工法数量表

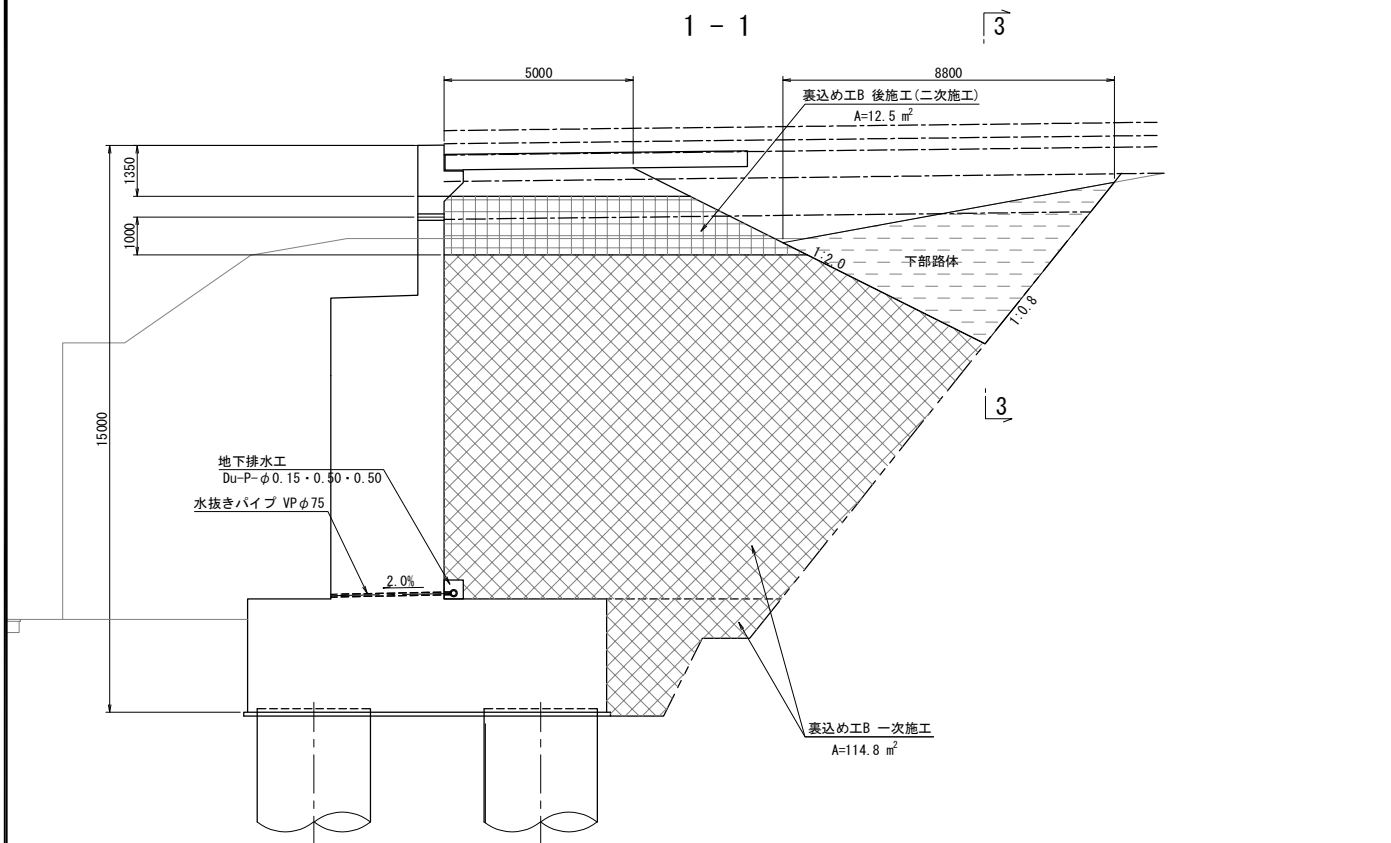
鉄筋径	箇所数					
	0m<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m
D13	---	---	---	---	---	---
D16	---	---	---	---	---	---
D19	---	---	---	---	---	---
D22	---	---	392	---	---	---
D25	---	---	---	---	---	---
小計	---	---	392	---	---	---
合計	392箇所					



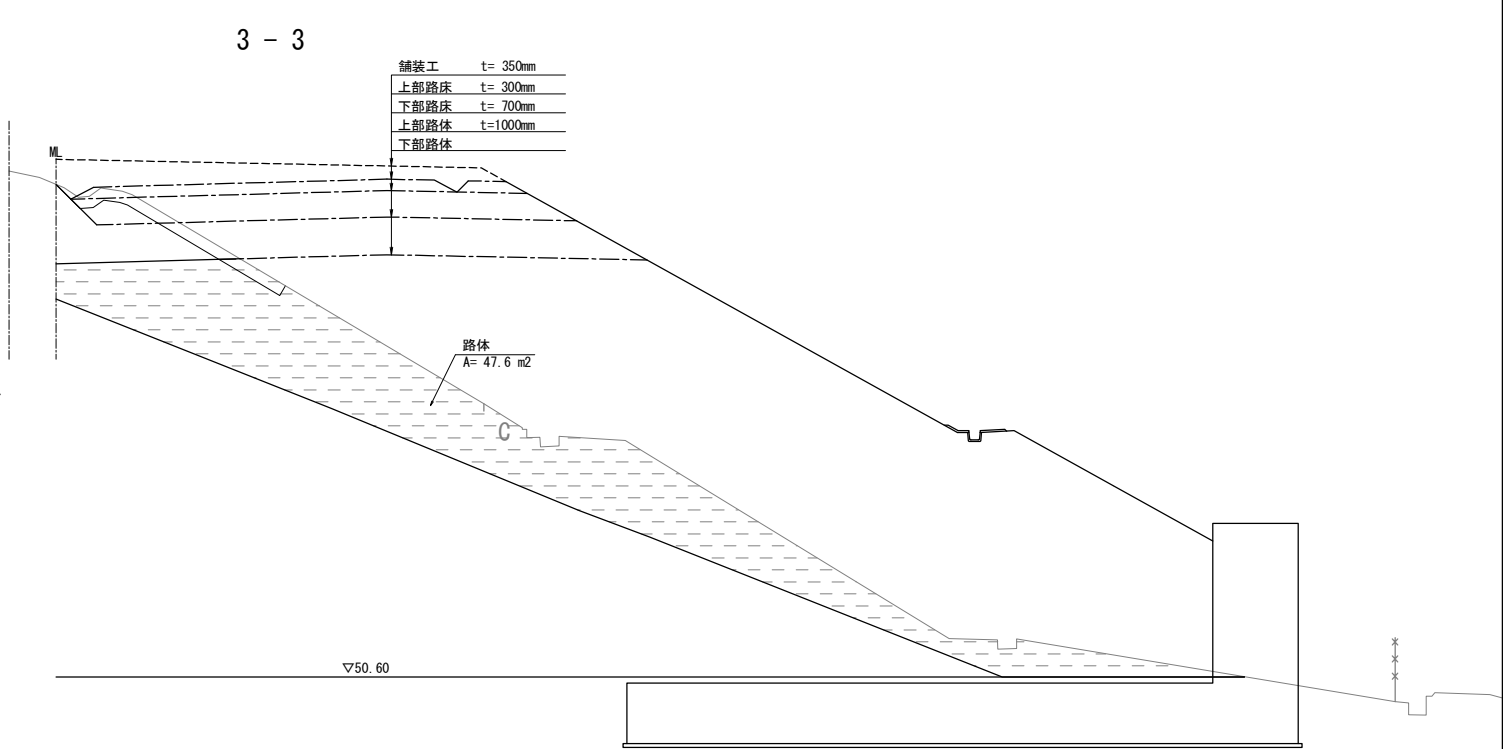
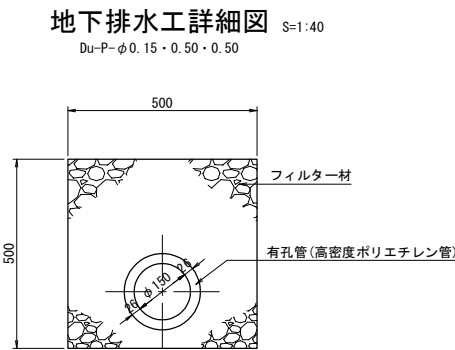
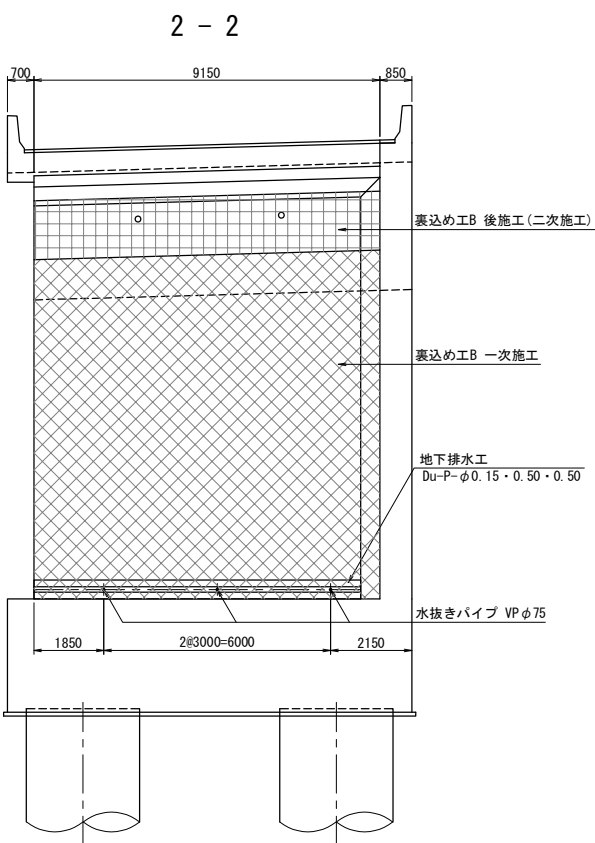
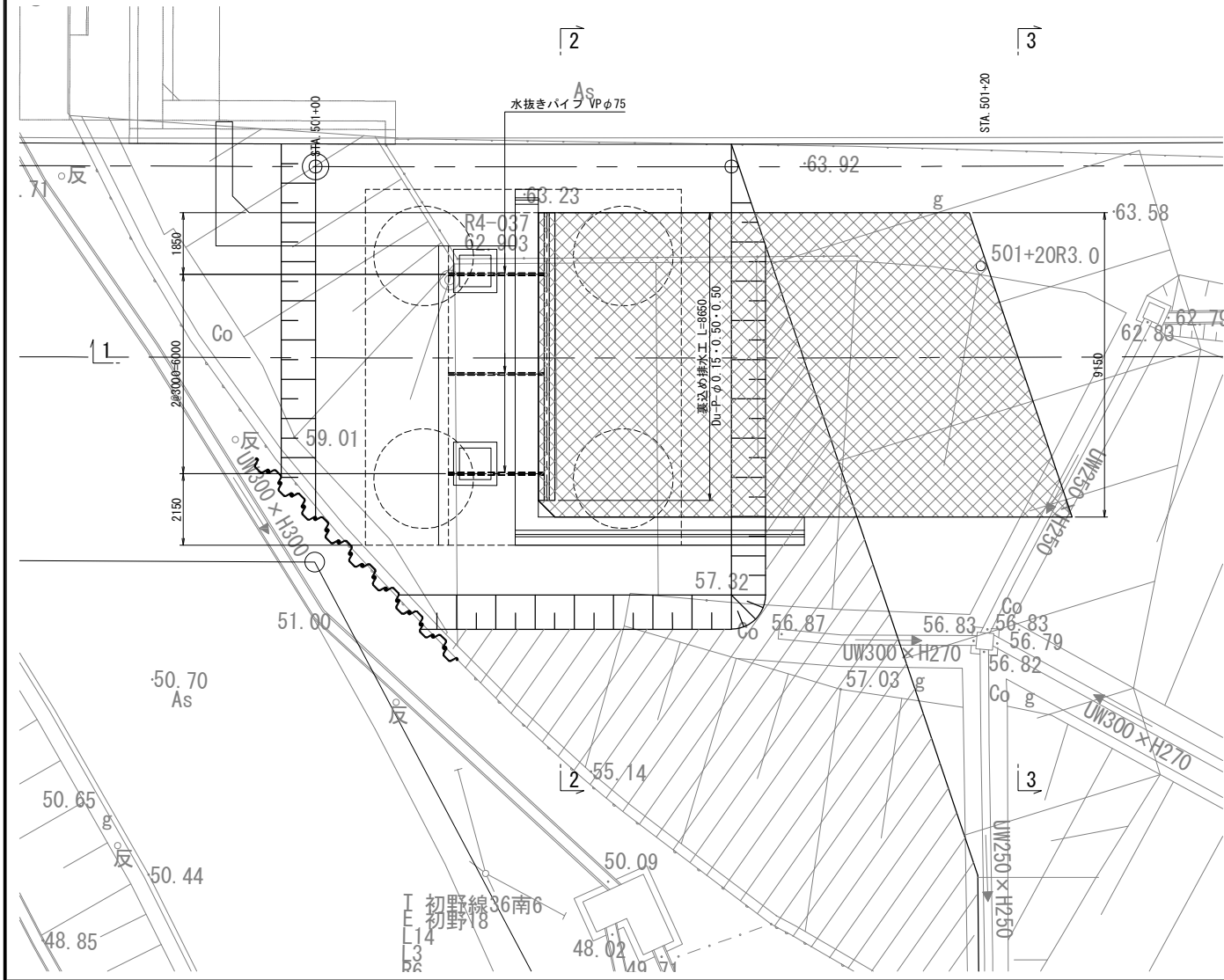
特記事項  
機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H24. 3日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン (H28. 7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の実験等により効果が保障された定着工法を用いること。  
3. 機械式鉄筋定着工法の採用においては、監督員より使用鉄筋の性能と施工方法、管理方法の確認を得てから工事を行うこと。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし	A2橋台深礎杭配筋図(2)	
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		





平面図

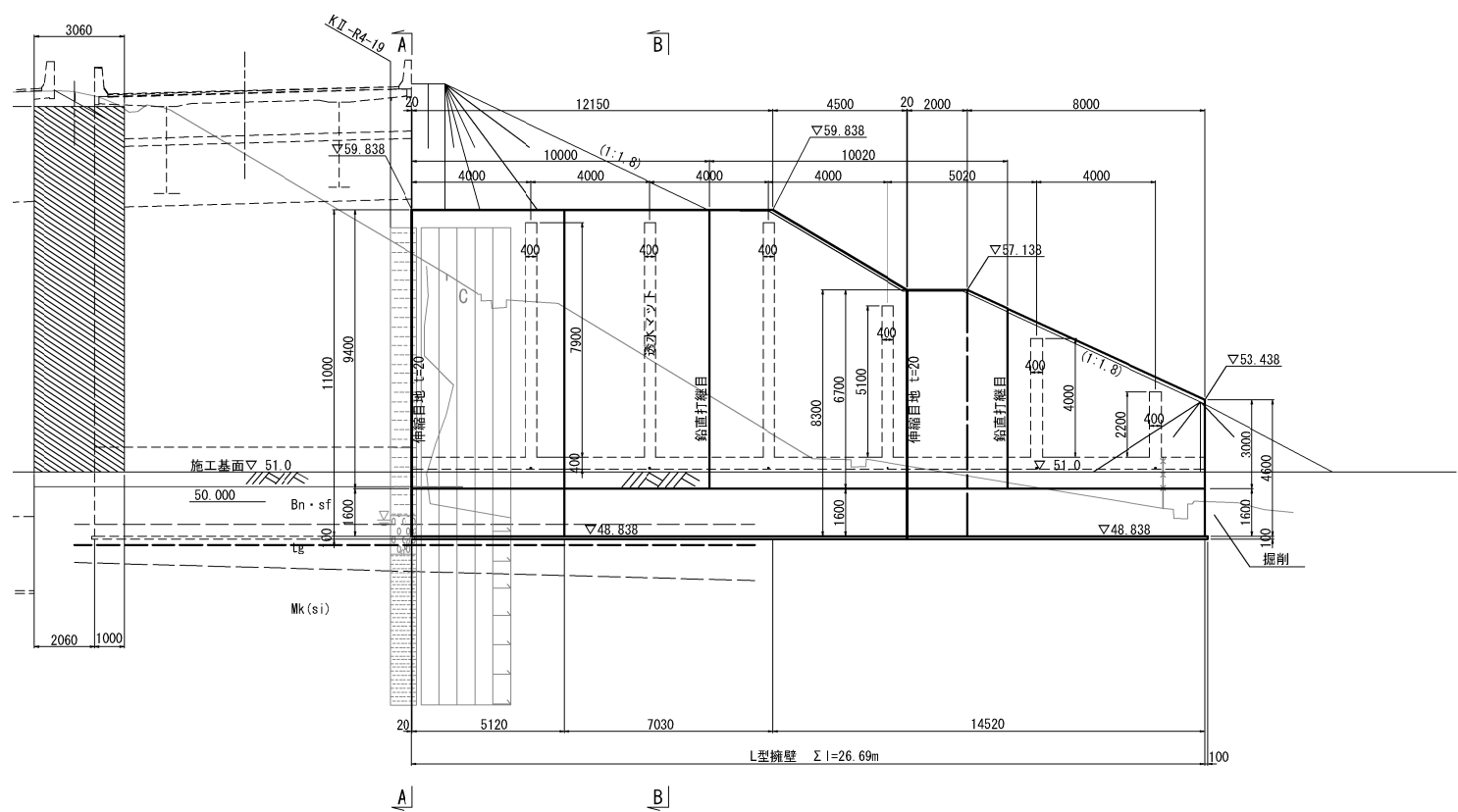


数量表

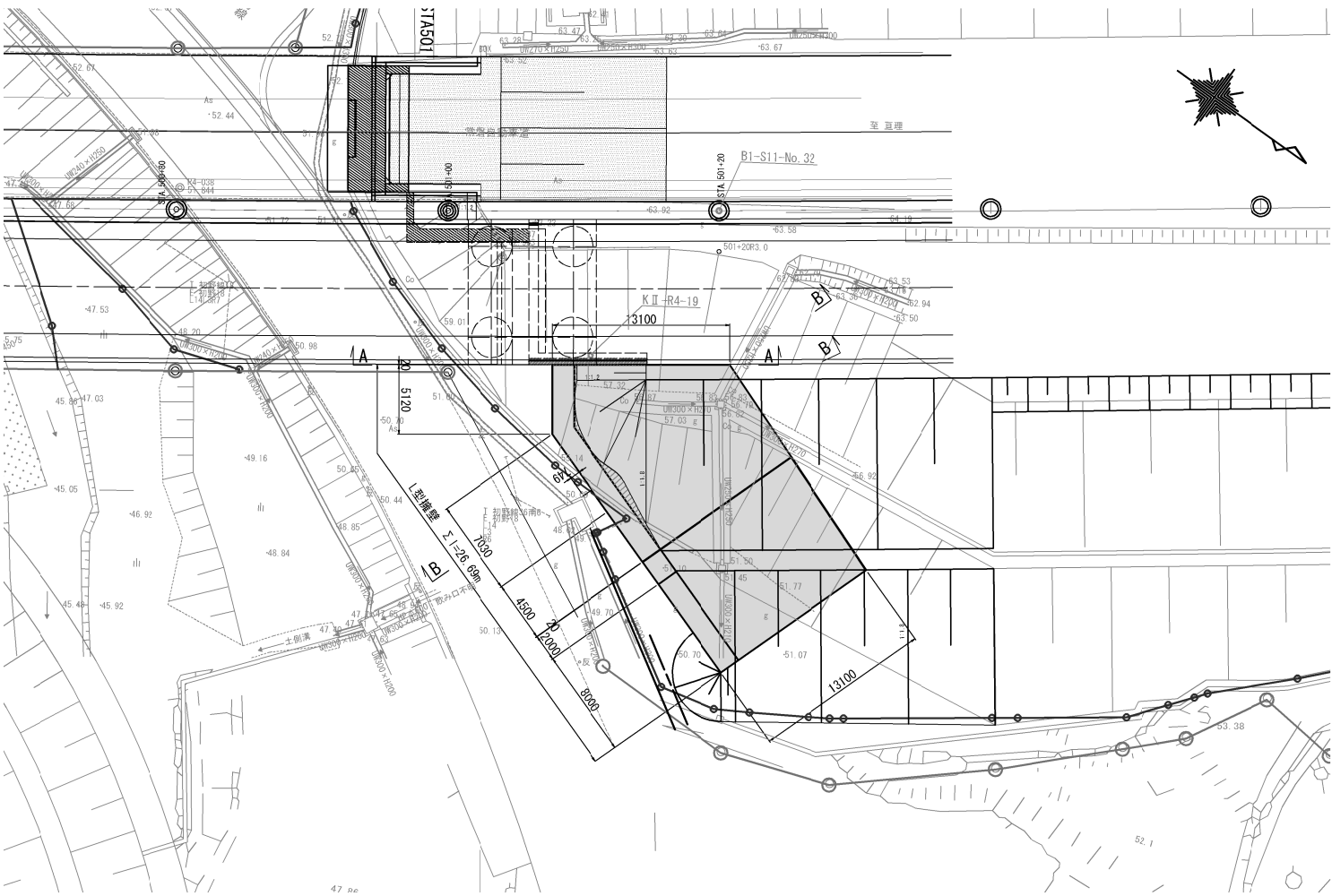
項目	種別	単位	数量	備考
裏込め材	裏込め工B 一次施工	m <sup>3</sup>	1050.4	
裏込め材	裏込め工B (舗装工事施工)	m <sup>3</sup>	114.4	二次施工
路体	本線路体へ計上	m <sup>3</sup>	209.4	
地下排水工	Du-P-φ0.15・0.50・0.50	m	9.2	

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台裏込め工排水工詳細図		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

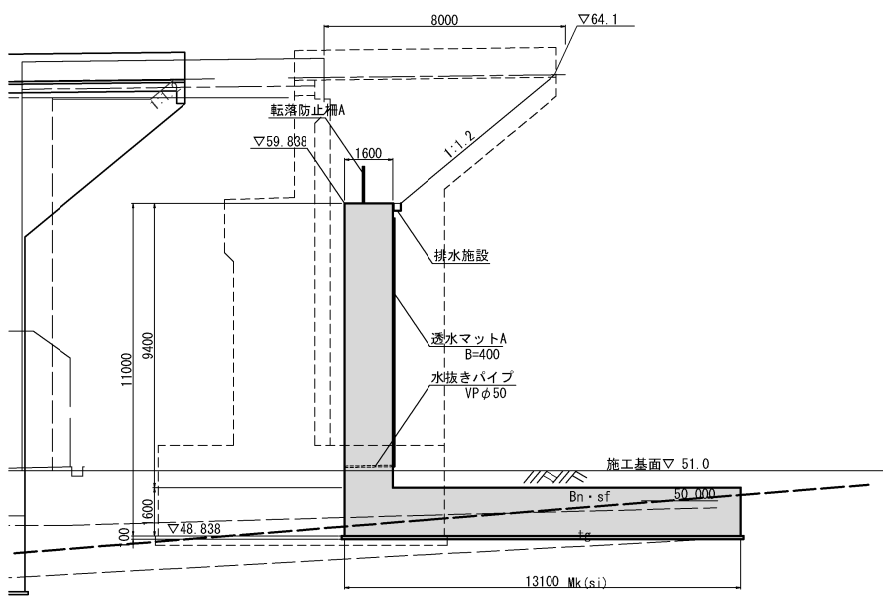
展開図 S=1:250



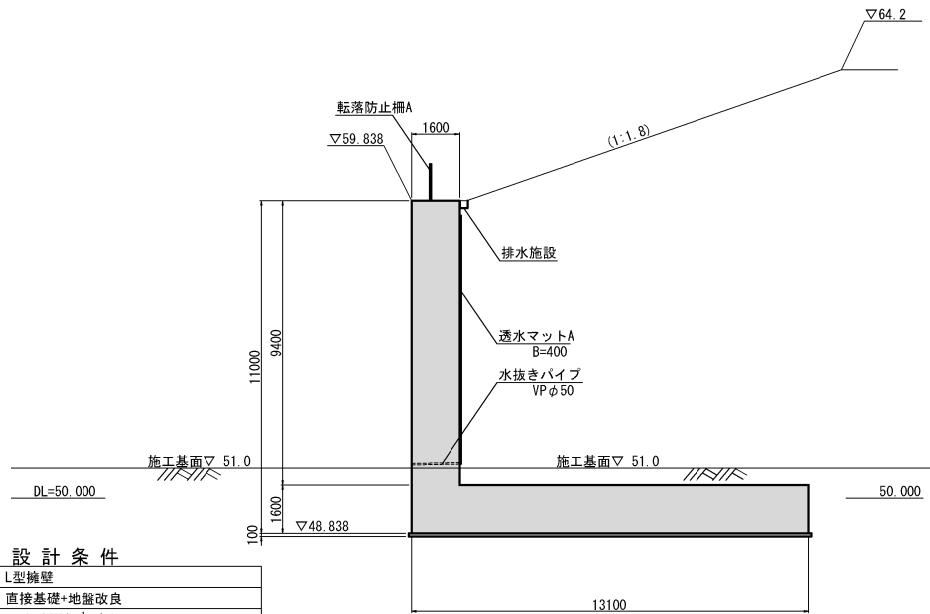
平面図 S=1:500



A - A S=1:250



B - B S=1:250



設計条件

擁壁形式	L型擁壁
基礎形式	直接基礎・地盤改良
材料	コンクリート 鉄筋
設計水平震度	kh=0.16 (第1種地盤)
適用基準	設計要領 第二集 (R1.7) 道路橋示方書・同解説I~V (H29.11)

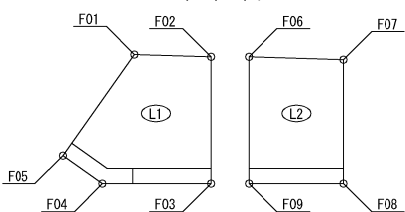
L型擁壁 数量表

項目	種別	単位	数量
コンクリート	A1-3	m <sup>3</sup>	316.5
	B2-1	m <sup>3</sup>	479.0
	D1-1	m <sup>3</sup>	30.4
	C	m <sup>3</sup>	561.4
鉄筋	D	m <sup>3</sup>	8.5
	A	t	1.572
	D13	t	4.468
	D16~D25	t	6.266
	D29~D32	t	12.306
	合計	t	3.651
	B	t	18.908
	D16~D25	t	22.559
	D29~D32	t	1.203
	合計	t	1.203
	C	t	0.176
	D13	t	4.115
裏面排水工	透水マットA	m <sup>2</sup>	24.7
	転落防止柵工	m	26.7

L型擁壁座標

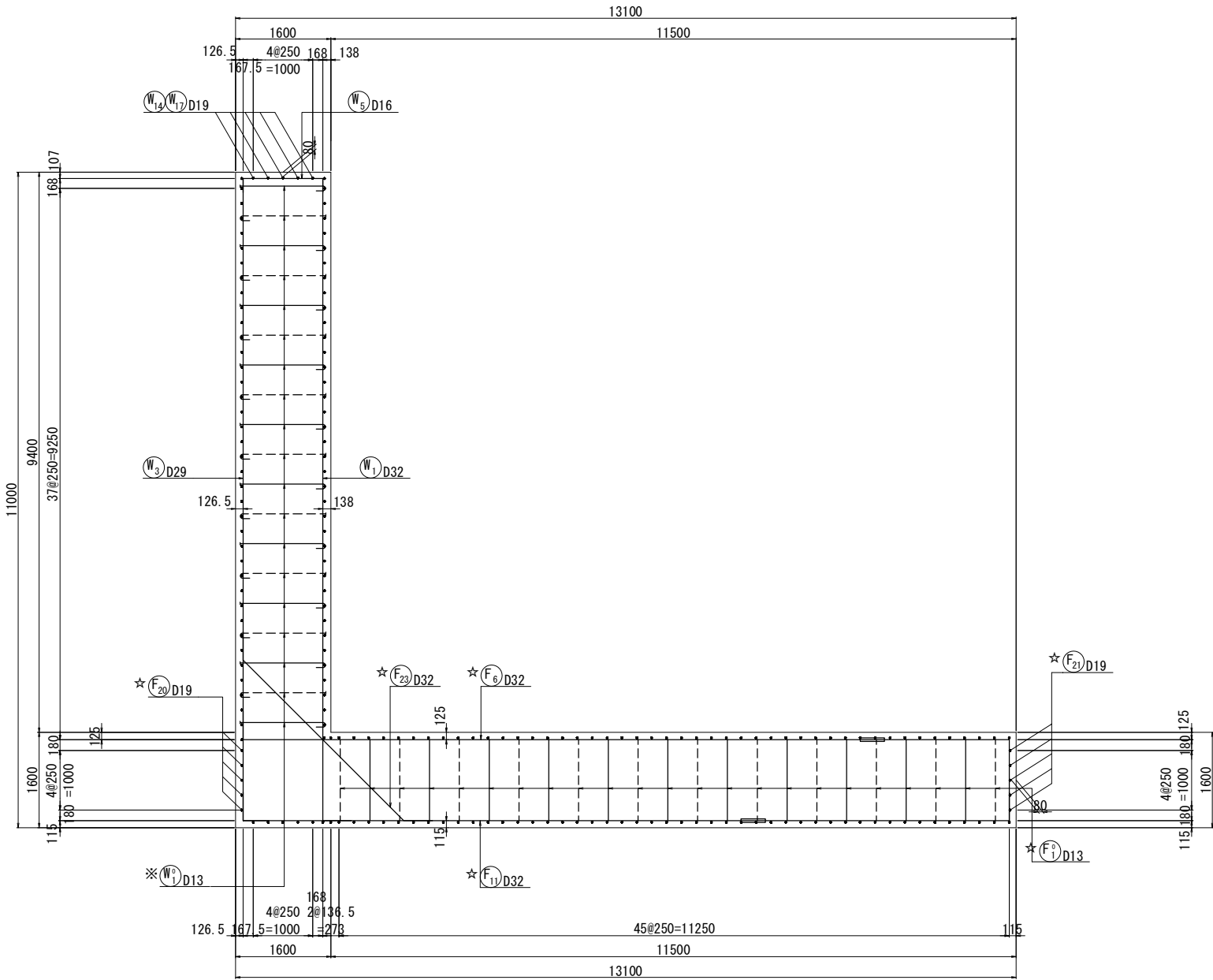
		x	y
L1	F01	201.589.7039	92.250.8274
	F02	201.597.3275	92.253.7210
	F03	201.592.9547	92.266.3923
	F04	201.582.0551	92.262.6309
	F05	201.579.0668	92.258.4735
L2	F06	201.597.3464	92.253.7275
	F07	201.606.7000	92.257.2775
	F08	201.602.4265	92.269.6610
	F09	201.592.9736	92.266.3983

位置図

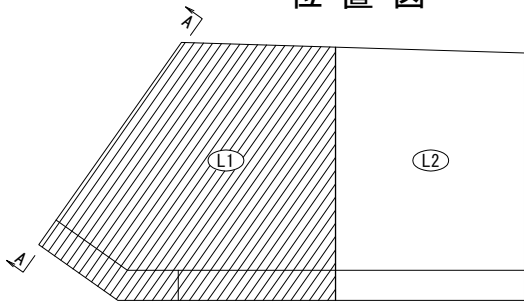


常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし	L型擁壁一般図	
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

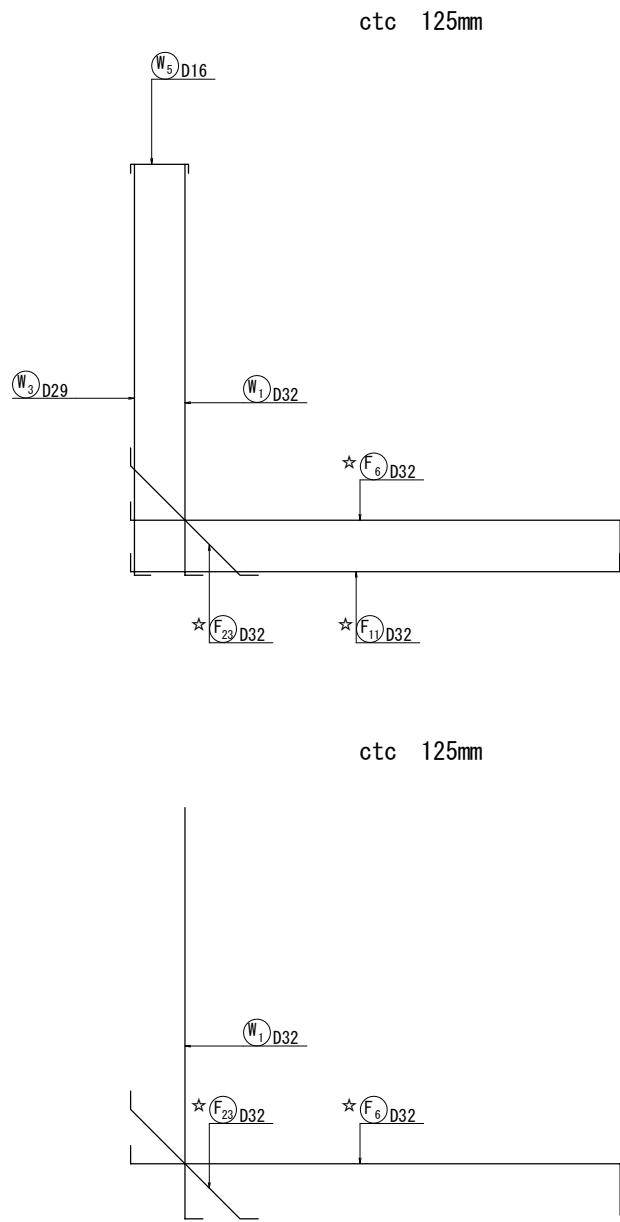
断面図  
(A-A)



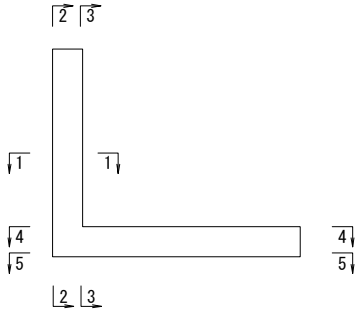
位置図



鉄筋組立図



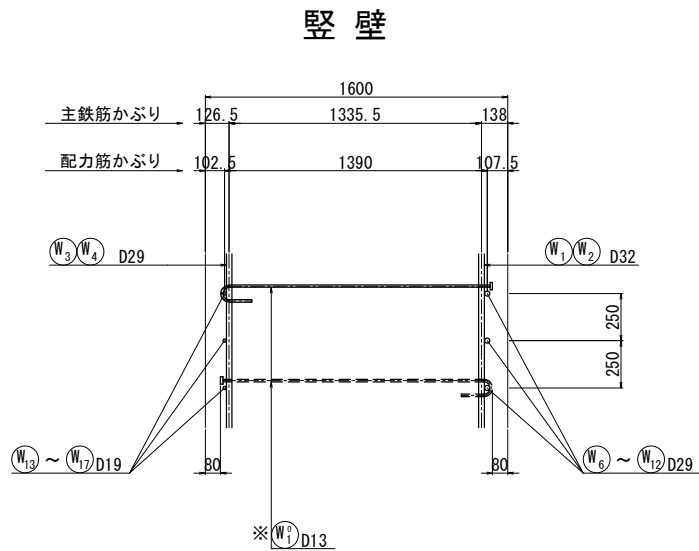
矢視図



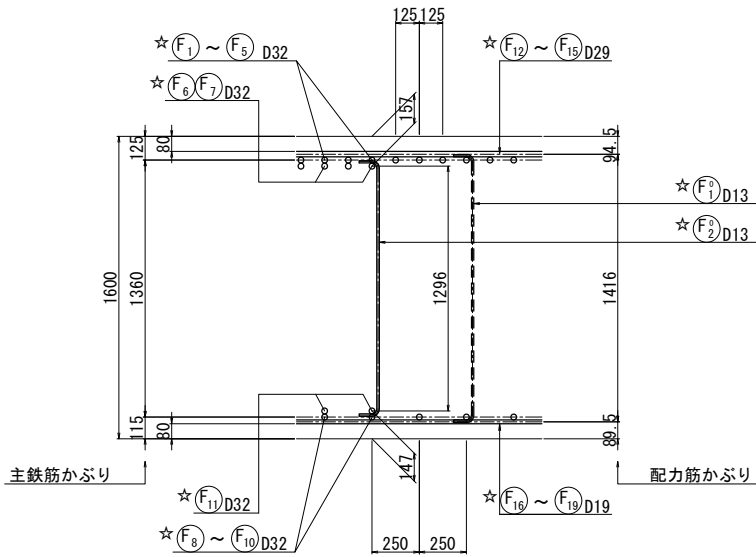
注: ※印機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H24.3 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の実験等により効果が保障された定着工法を用いること。  
注: 機械式継手については、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.3 日本道路協会)  
2. 鉄筋定着・継手指針 [2020版] (R2.3 土木学会)  
3. 監督員より使用製品の性能と施工方法、管理方法等の承認を得てから工事を行うこと。  
注: ◎ は上部工工を示す。  
☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。  
K は機械式継手を示す。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図(1)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

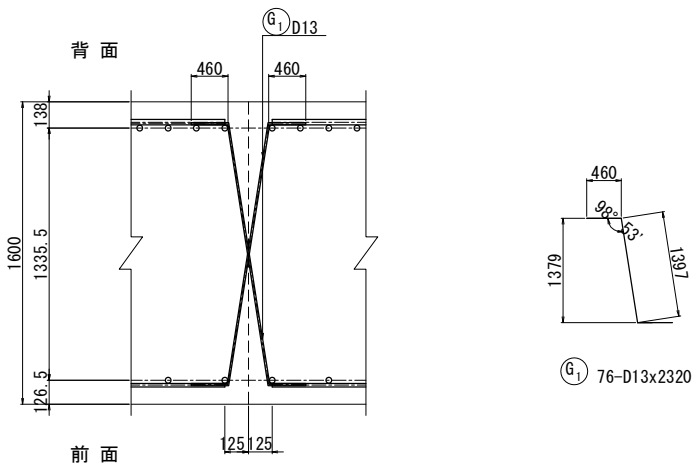
かぶり詳細図 縮尺 1:40



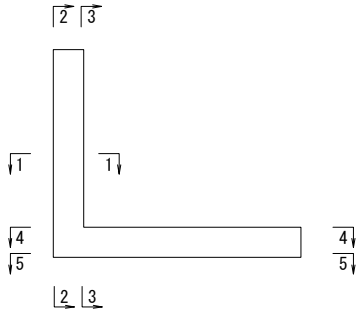
底板



目地部詳細図 縮尺 1:40



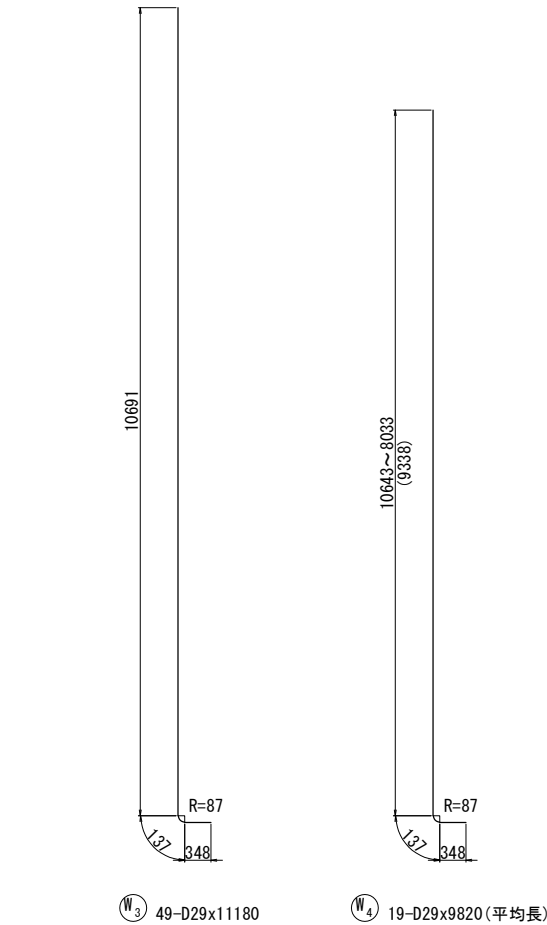
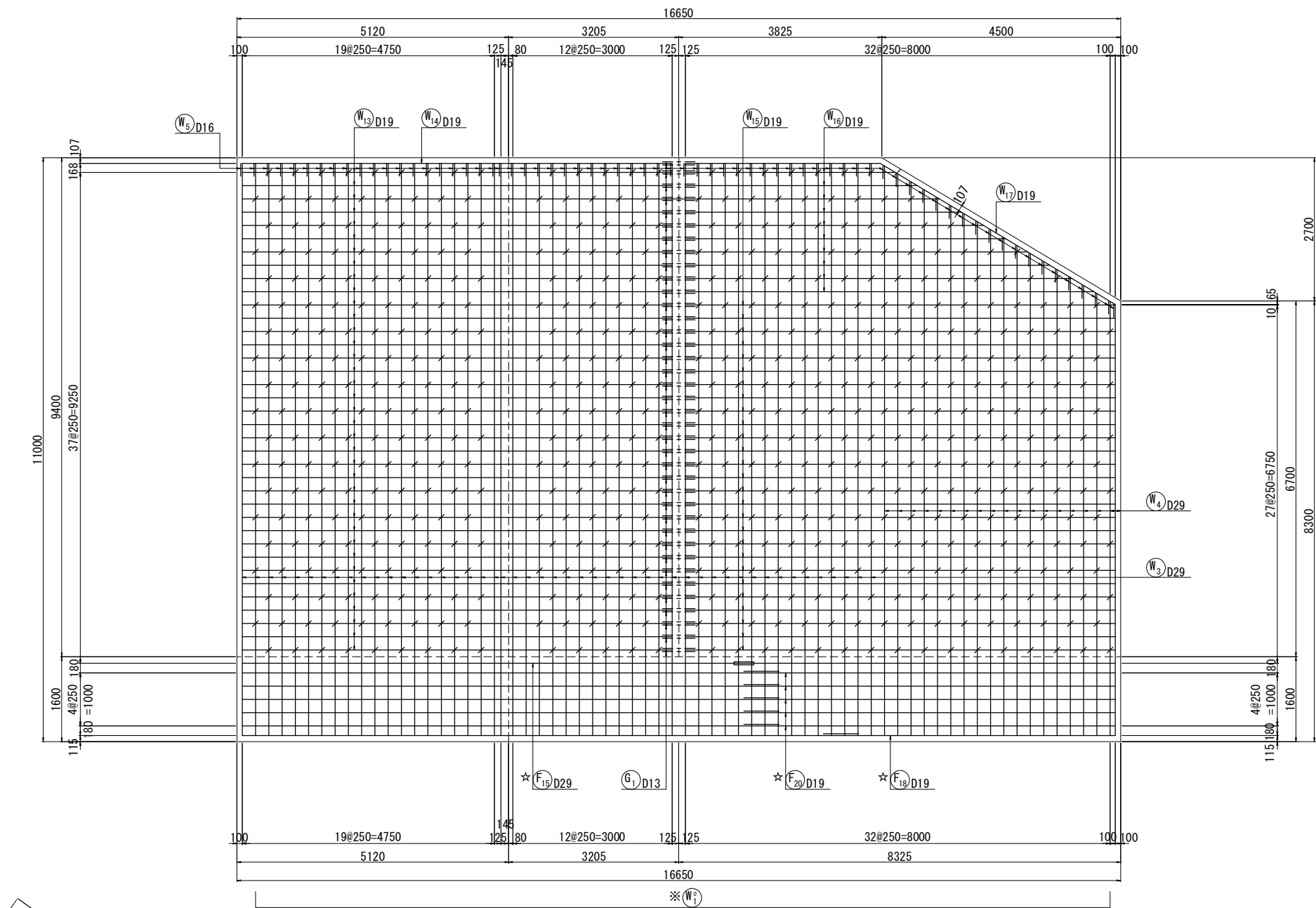
矢視図



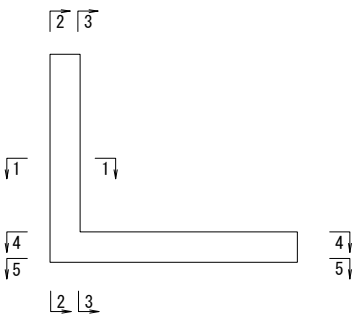
注: ※印機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H24.3 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は構束効果の実験等により効果が保障された定着工法を用いること。  
注: 機械式継手については、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.3 日本道路協会)  
2. 鉄筋定着・継手指針 [2020版] (R2.3 土木学会)  
3. 監督員より使用製品の性能と施工方法、管理方法等の承認を得てから工事を行うこと。  
注: ◎ は上部工施工を示す。  
☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエボキシ鉄筋を示す。  
K は機械式継手を示す。

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図(2)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエントコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

2- 2(豎壁前面)



矢 視 図

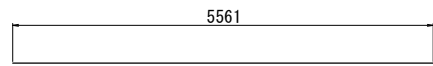
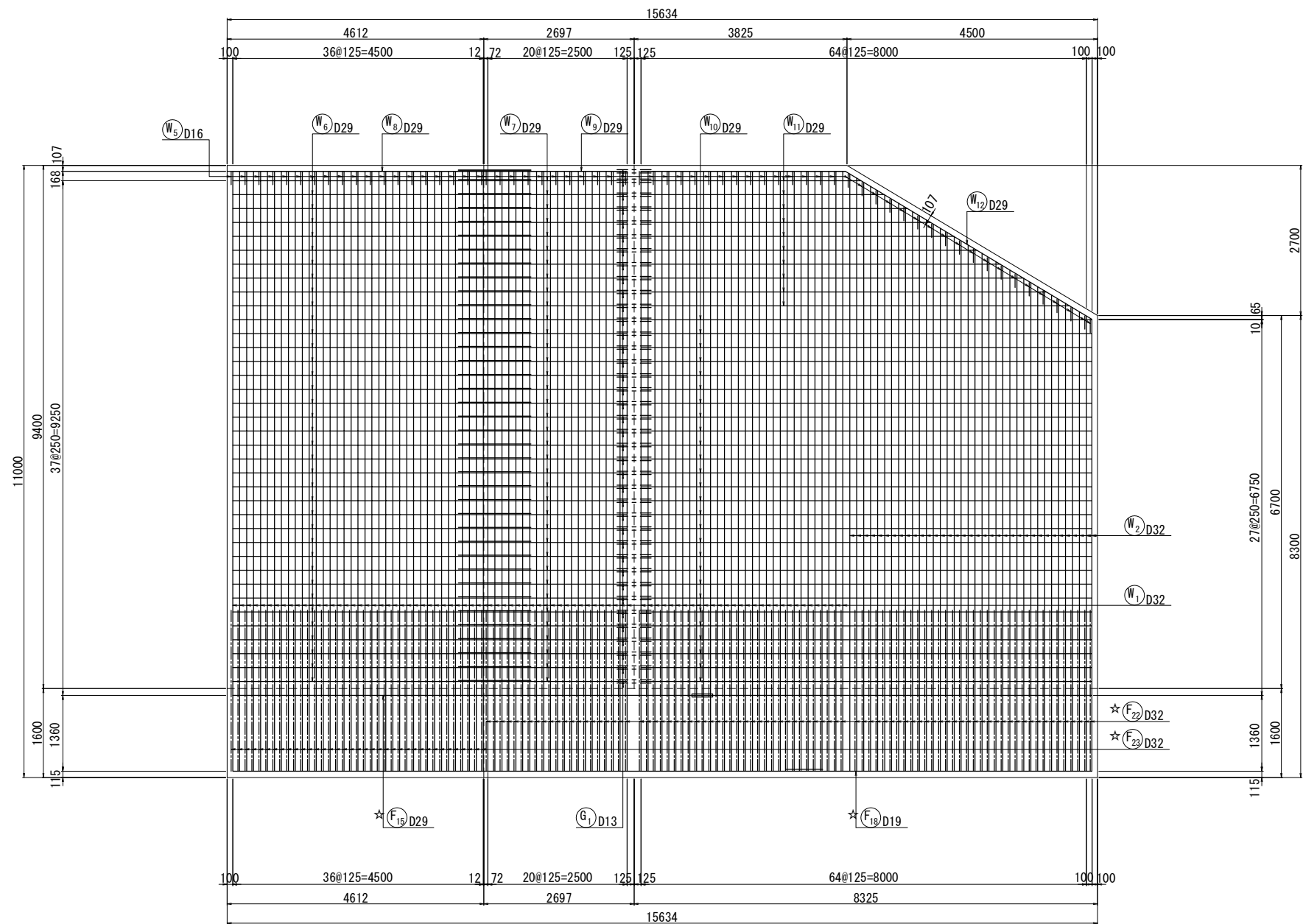


注: ※印機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H24.3 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の実験等により効果が保障された定着工法を用いること。  
注: 機械式継手については、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.3 日本道路協会)  
2. 鉄筋定着・継手指針 [2020版] (R2.3 土木学会)  
3. 監督員より使用製品の性能と施工方法、管理方法等の承認を得てから工事を行うこと。  
注: ◎ は上部工施工を示す。  
☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエボキシ鉄筋を示す。  
K は機械式継手を示す。

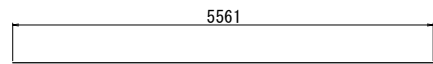
常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図(3)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 い わ き 工 事 事 務 所		



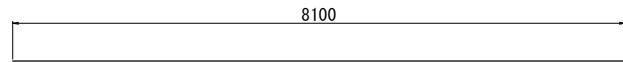
3 - 3 (縦壁背面)



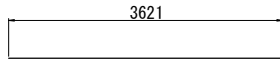
W6 37-D29x5560



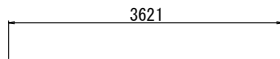
W8 1-D29x5560



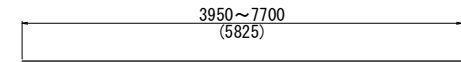
W10 27-D29x8100



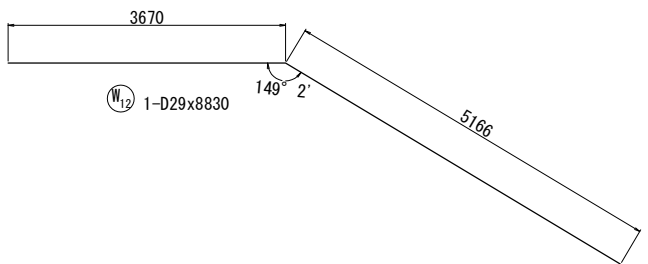
W7 37-D29x3620



W9 1-D29x3620



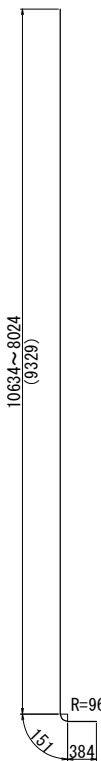
W11 10-D29x5830 (平均長)



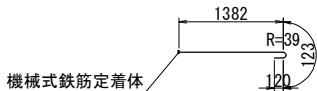
W12 1-D29x8830



W1 88-D32x11220

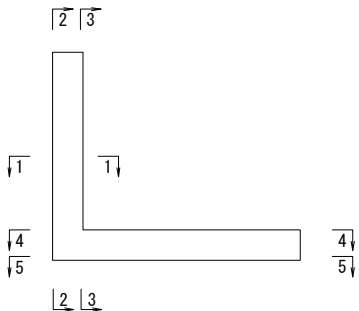


W2 36-D32x9860 (平均長)



W1 544-D13x1630

矢 視 図

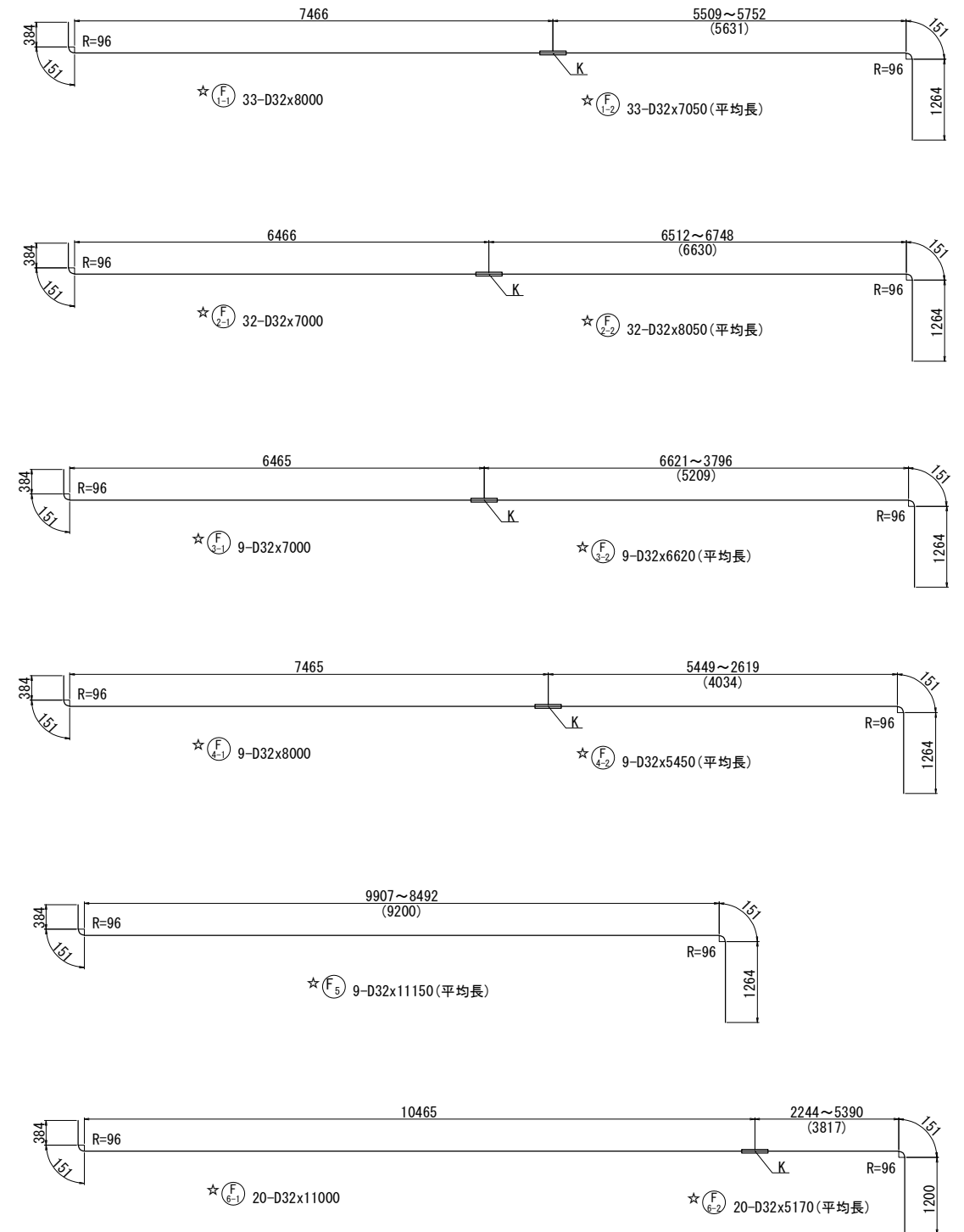
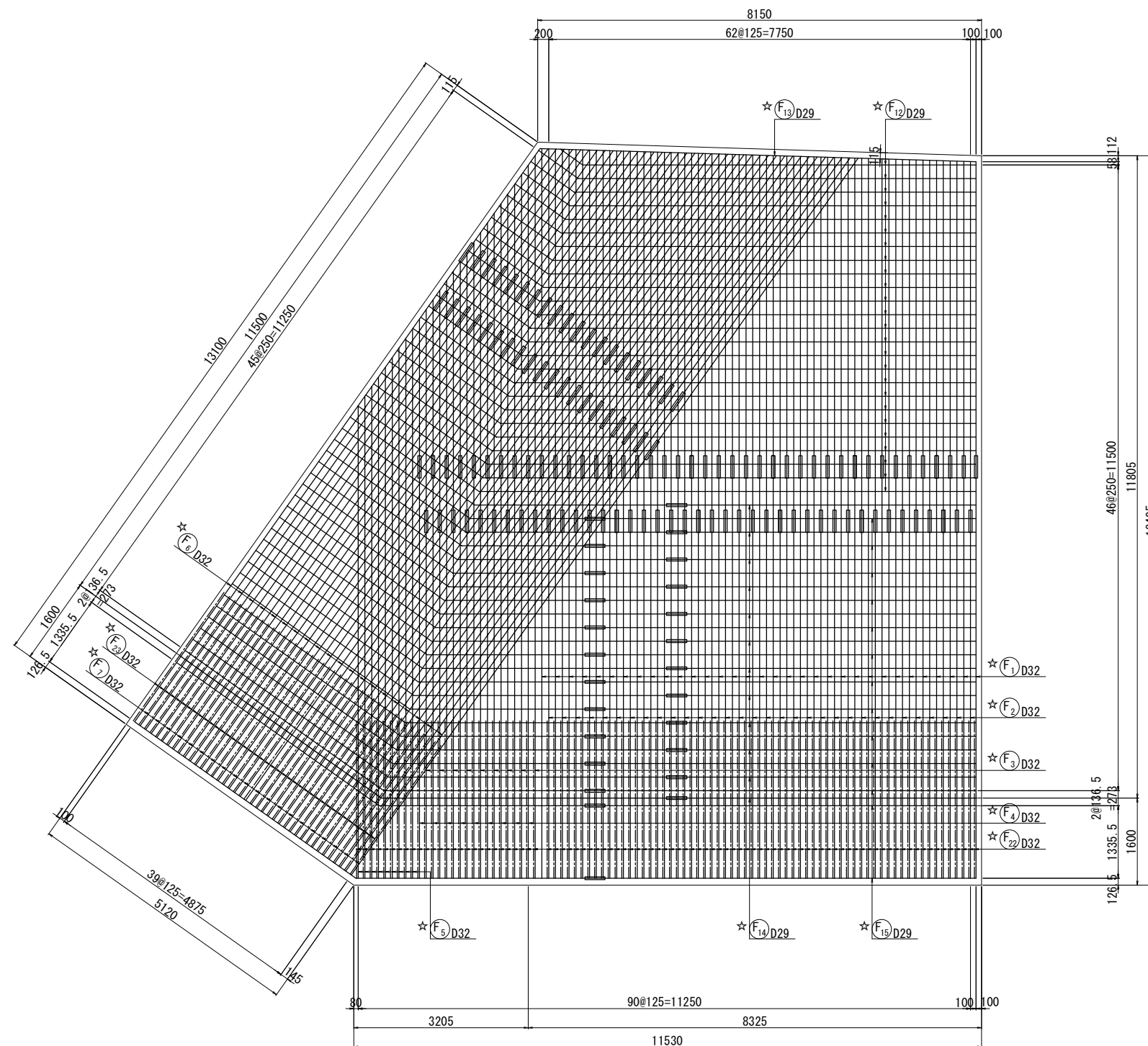


注: ※印機械式鉄筋定着工法については、  
下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H24.3 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン  
(H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と  
半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の  
実験等により効果が保障された定着工法を用いること。  
注: 機械式継手については、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.3 日本道路協会)  
2. 鉄筋定着・継手指針 [2020版] (R2.3 土木学会)  
3. 監督員より使用製品の性能と施工方法、管理方法等の  
承認を得てから工事を行うこと。  
注: ◎ は上部工施工を示す。  
☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。  
K は機械式継手を示す。

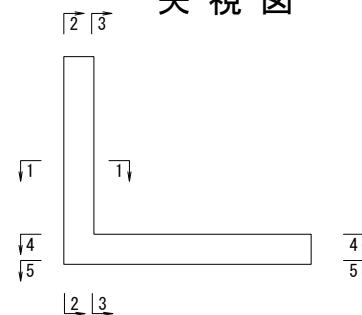
常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図(4)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 い わ き 工 事 事 務 所		

L1 (5)

4 - 4 (底版上面)



矢 視 図



注：※印機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。

1. 道路指示方書・同解説(H24.3 日本道路協会)

2. 機械式鉄筋定着法に施設設計ガイドライン(H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)

なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と平坦形フックの設置方向を変更してもよい。

また、中間部鉄筋に本定着体を用いる場合は、構束束効果の実験等により効果が保障された定着工法を用いること。

注：機械式継手については、下記の基準等を満足すること。

1. 道路指示方書・同解説(H29.3 日本道路協会)

2. 鉄筋方書・継手指針〔2020年版〕(R2.3 土木学会)

3. 監督員より使用製品の性能と施工方法、管理方法等の承認を得てから工事を行うこと。

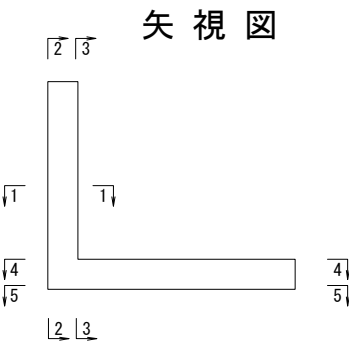
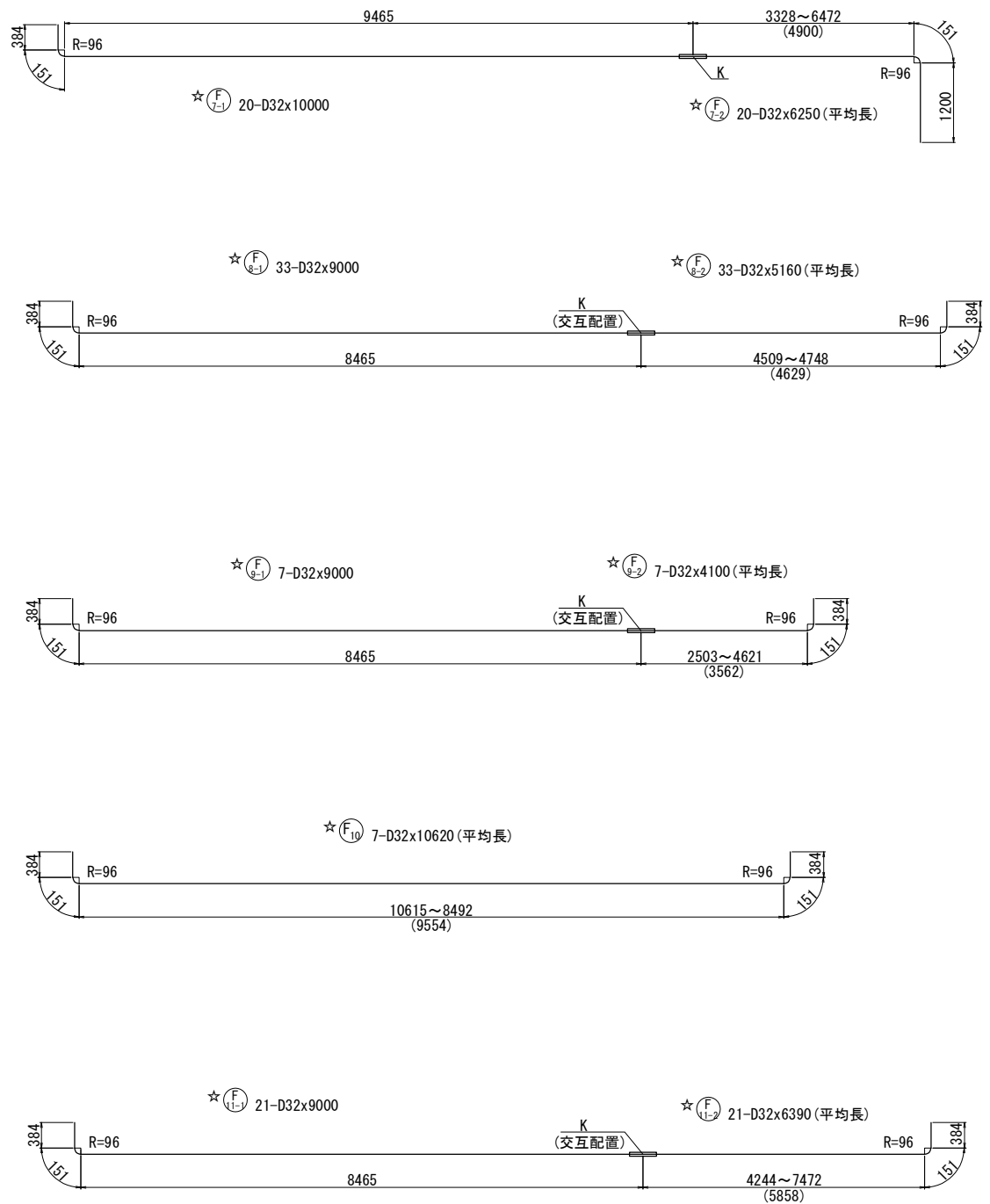
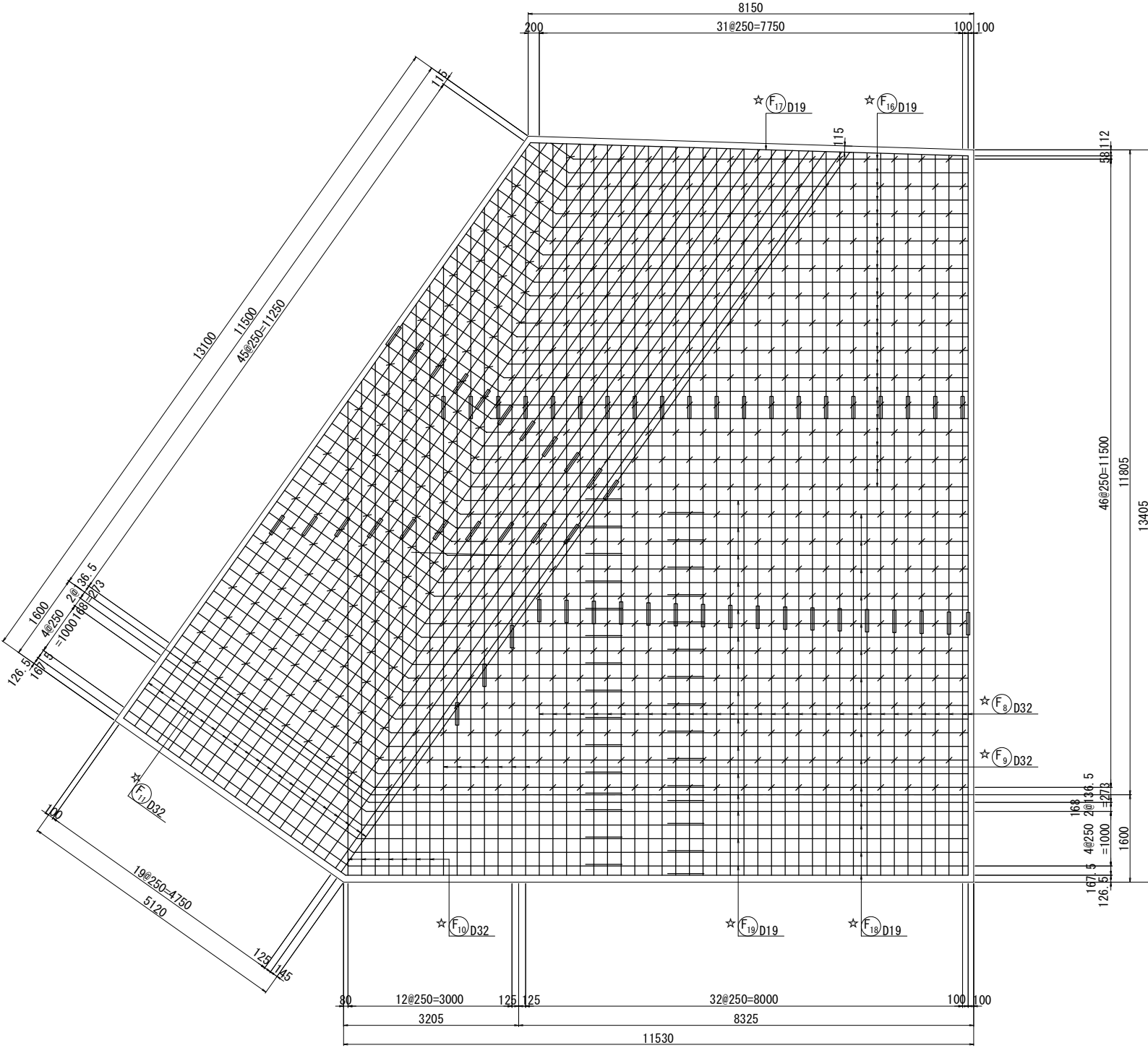
注：◎は上部施工を示す。

☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエボシ工鉄筋を示す。

△は機械式継手を示す。

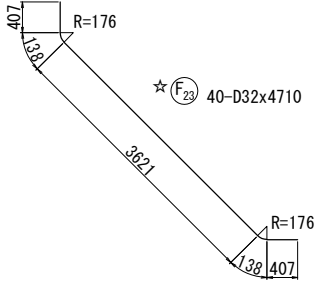
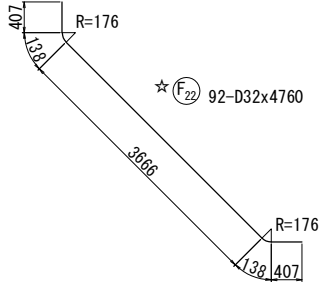
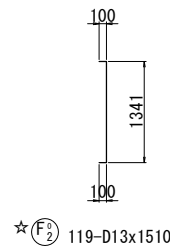
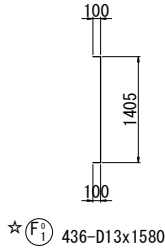
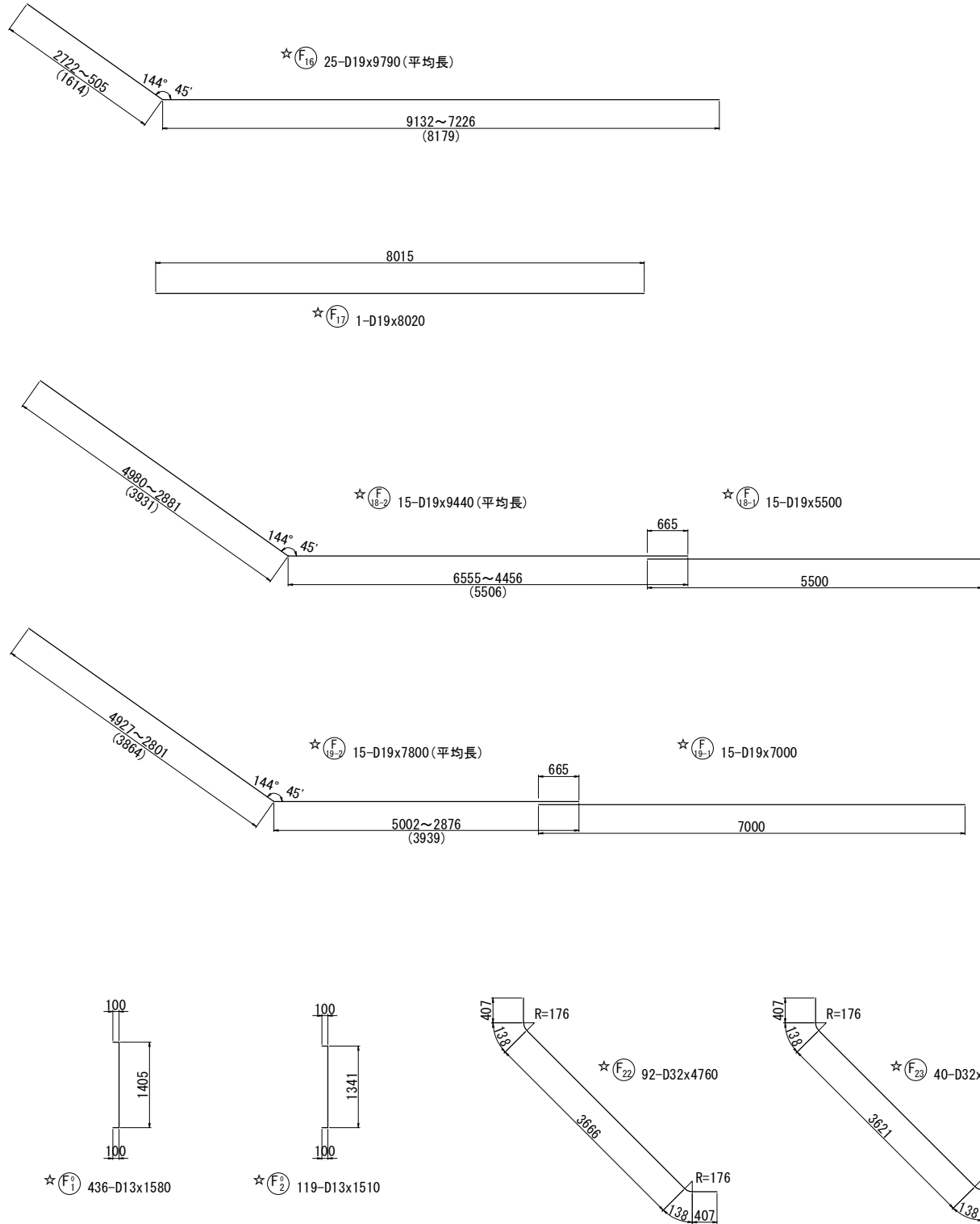
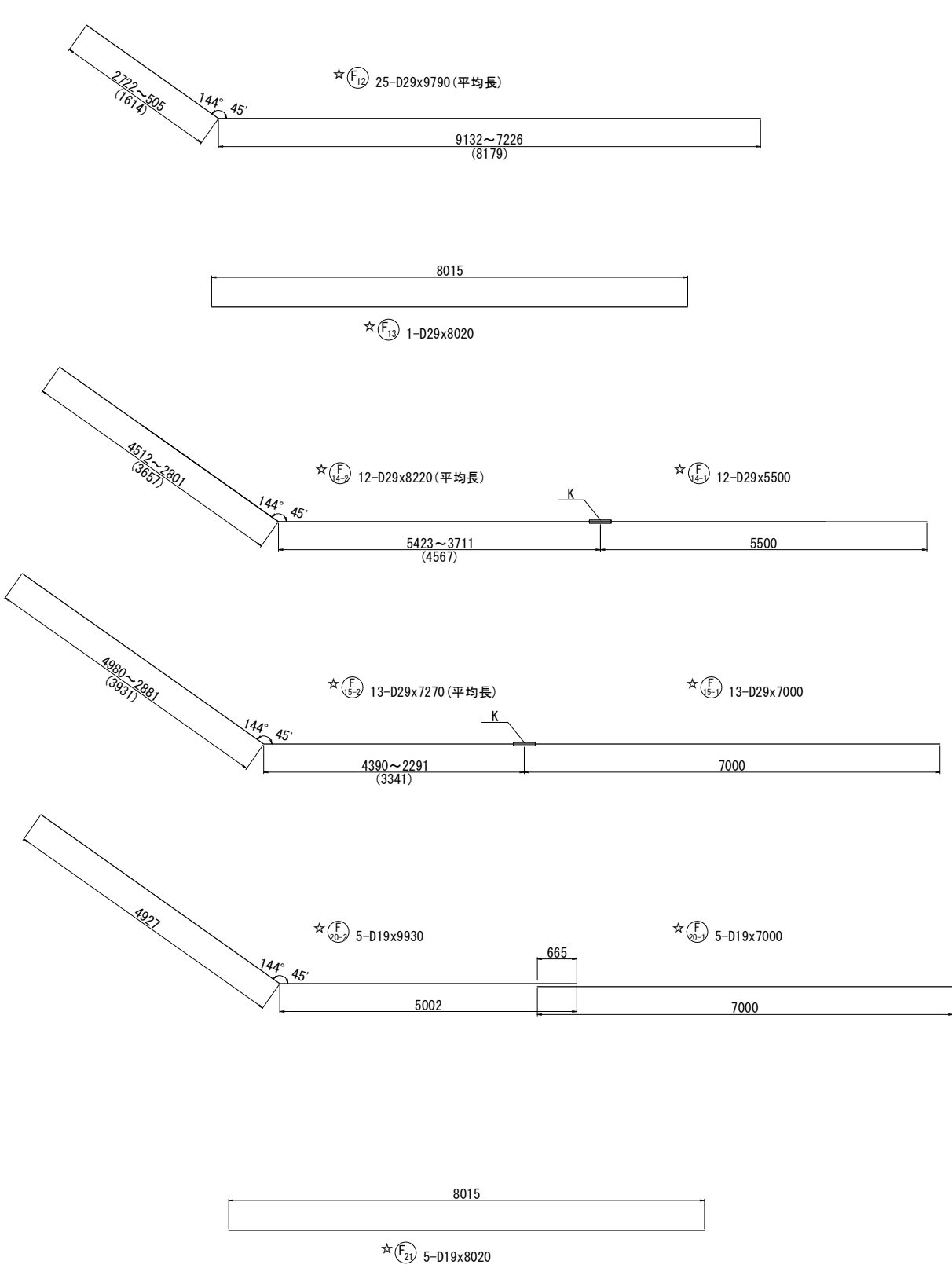
常 盤 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし		
	L型擁壁防眩図 (5)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事業務所		

5 - 5 (底版下面)



注: ※印機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説(H24.3 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は構束効果の実験等により効果が保障された定着工法を用いること。  
注: 機械式継手については、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説(H29.3 日本道路協会)  
2. 鉄筋定着・継手指針[2020版](R2.3 土木学会)  
3. 監督員より使用製品の性能と施工方法、管理方法等の承認を得てから工事を行うこと。  
注: ◎ は上部工施工を示す。  
☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエボキシ鉄筋を示す。  
K は機械式継手を示す。

常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図(6)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



注: ※印機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H24.3 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は構束効果の実験等により効果が保障された定着工法を用いること。

注: 機械式継手については、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.3 日本道路協会)  
2. 鉄筋定着・継手指針 [2020版] (R2.3 土木学会)  
3. 監督員より使用製品の性能と施工方法、管理方法等の承認を得てから工事を行うこと。

注: ◎ は上部工施工を示す。  
☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエボキシ鉄筋を示す。  
K は機械式継手を示す。

常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図(7)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 い わ き 工 事 事 務 所		

鉄筋表

記 号	径	長 さ (mm)	本 数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
W 1	D32	11220	88	6.23	69.9	6151	└
W 2	D32	9860	36	6.23	61.4	2210	└ (平均長)
W 3	D29	11800	49	5.04	59.5	2916	└
W 4	D29	9820	19	5.04	49.5	941	└ (平均長)
W 5	D16	1770	64	1.56	2.76	177	┐┐
W 6	D29	5560	37	5.04	28.0	1036	──
W 7	D29	3620	37	5.04	18.2	673	──
W 8	D29	5560	1	5.04	28.0	28	──
W 9	D29	3620	1	5.04	18.2	18	──
W 10	D29	8100	27	5.04	40.8	1102	──
W 11	D29	5830	10	5.04	29.4	294	── (平均長)
W 12	D29	8830	1	5.04	44.5	45	──
W 13	D19	8030	37	2.25	18.1	670	┐
W 14	D19	8030	6	2.25	18.1	109	┐
W 15	D19	8100	27	2.25	18.2	491	──
W 16	D19	5830	10	2.25	13.1	131	── (平均長)
W 17	D19	8840	6	2.25	19.9	119	┐
17111 kg							
WO 1	D13	1630	544	0.995	1.62	881	┐┐ <544>
881 kg							
G 1	D13	2320	76	0.995	2.31	176	┐
176 kg							
F 1-1	D32	8000	33	6.23	49.8	1643	┐┐ (33)
F 1-2	D32	7050	33	6.23	43.9	1449	┐┐ (平均長)
F 2-1	D32	7000	32	6.23	43.6	1395	┐┐ (32)
F 2-2	D32	8050	32	6.23	50.2	1606	┐┐ (平均長)
F 3-1	D32	7000	9	6.23	43.6	392	┐┐ (9)
F 3-2	D32	6620	9	6.23	41.2	371	┐┐ (平均長)
F 4-1	D32	8000	9	6.23	49.8	448	┐┐ (9)
F 4-2	D32	5450	9	6.23	34.0	306	┐┐ (平均長)
F 5	D32	11150	9	6.23	69.5	626	┐┐ (平均長)
F 6-1	D32	11000	20	6.23	68.5	1370	┐┐ (20)
F 6-2	D32	5170	20	6.23	32.2	644	┐┐ (平均長)
F 7-1	D32	10000	20	6.23	62.3	1246	┐┐ (20)
F 7-2	D32	6250	20	6.23	38.9	778	┐┐ (平均長)
F 8-1	D32	9000	33	6.23	56.1	1851	┐┐ (33)
F 8-2	D32	5160	33	6.23	32.1	1059	┐┐ (平均長)
F 9-1	D32	9000	7	6.23	56.1	393	┐┐ (7)
F 9-2	D32	4100	7	6.23	25.5	179	┐┐ (平均長)
F 10	D32	10620	7	6.23	66.2	463	┐┐ (平均長)
F 11-1	D32	9000	21	6.23	56.1	1178	┐┐ (21)
F 11-2	D32	6390	21	6.23	39.8	836	┐┐ (平均長)
F 12	D29	9790	25	5.04	49.3	1233	┐┐ (平均長)
F 13	D29	8020	1	5.04	40.4	40	──
F 14-1	D29	5500	12	5.04	27.7	332	── (12)
F 14-2	D29	8220	12	5.04	41.4	497	── (平均長)
F 15-1	D29	7000	13	5.04	35.3	459	── (13)
F 15-2	D29	7270	13	5.04	36.6	476	── (平均長)
F 16	D19	9790	25	2.25	22.0	550	── (平均長)
F 17	D19	8020	1	2.25	18.0	18	──
F 18-1	D19	5500	15	2.25	12.4	186	──
F 18-2	D19	9440	15	2.25	21.2	318	── (平均長)
F 19-1	D19	7000	15	2.25	15.8	237	──
F 19-2	D19	7800	15	2.25	17.6	264	── (平均長)
F 20-1	D19	7000	5	2.25	15.8	79	──
F 20-2	D19	9930	5	2.25	22.3	112	── (平均長)
F 21	D19	8020	5	2.25	18.0	90	──

鉄筋表



記号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
★F 22	D32	4760	92	6.23	29.7	2732	┐┐
★F 23	D32	4710	40	6.23	29.3	1172	┐┐
27028 kg							
★FO 1	D13	1580	436	0.995	1.57	685	┐┐
★FO 2	D13	1510	119	0.995	1.50	179	┐┐
864 kg							
A(E)鉄筋 A鉄筋 B鉄筋 C(E)鉄筋 合計 機械継手箇所 機械式定着箇所							
D32 8361 kg 4993 kg 17144 kg 30498 kg (184)							
D29 7053 kg 1273 kg 1764 kg 10090 kg (25)							
D19 1520 kg 1854 kg 3374 kg							
D16 177 kg 177 kg							
D13 176 kg 864 kg 881 kg 1921 kg <544>							
合計 17.287 kg 8.984 kg 18.908 kg 881 kg 46060 kg (209) <544>							

注：( )内数値は機械継手箇所を示す。  
< >内数値は機械式定着箇所を示す。

鉄筋集計表

種別	径	質量(kg)	摘要
A(E) (SD345)	D13	176	
	D16 ~D25	D16	177
		D19	1520
		D22	
		D25	
		小計	1697
	D29, D32	D29	7053
		D32	8361
		小計	15414
	D35		
	D38		
	合計	17287 kg	
A (SD345)	D13	864	
	D16 ~D25	D16	
		D19	1854
		D22	
		D25	
		小計	1854
	D29, D32	D29	1273
		D32	4993
		小計	6266
	D35		
	D38		
	合計	8984 kg	
B (SD345)	D13		
	D16 ~D25	D16	
		D19	
		D22	
		D25	
		小計	
	D29, D32	D29	1764
		D32	17144
		小計	18908
	D35		
	D38		
	合計	18908 kg	
C(E) (SD345)	D13	881	
	D16 ~D25	D16	
		D19	
		D22	
		D25	
		小計	
	D29, D32	D29	
		D32	
		小計	
	D35		
	D38		
	合計	881 kg	

鉄筋加工寸法表

主筋							壁・底版スターラップ						
													
主筋							スターラップ						
径	θ ≤ 90° R=3φ			θ = 135° R=5.5φ			径	θ = 90° R=2.5φ					
	R	a	ΔL	R	a	ΔL		R	a	ΔL			
D13	39	61	17	71.5	56	3	D13	32.5	51	14			
D16	48	75	21	88	69	4	D16	40	63	17			
D19	57	89	25	104.5	82	5							
D22	66	104	28	121	95	5							
D25	75	118	32	137.5	108	6							
D29	87	137	37	159.5	125	7							
D32	96	151	41	176	138	8							
D35	105	165	45	192.5	151	8							
D38	114	179	49	209	164	9							

機械継手数量表

項目	鉄筋径	箇所数
機械継手 箇所数	D29	25
	D32	184
	D35	—
	D38	—
	D41	—
	D51	—
合計		209箇所

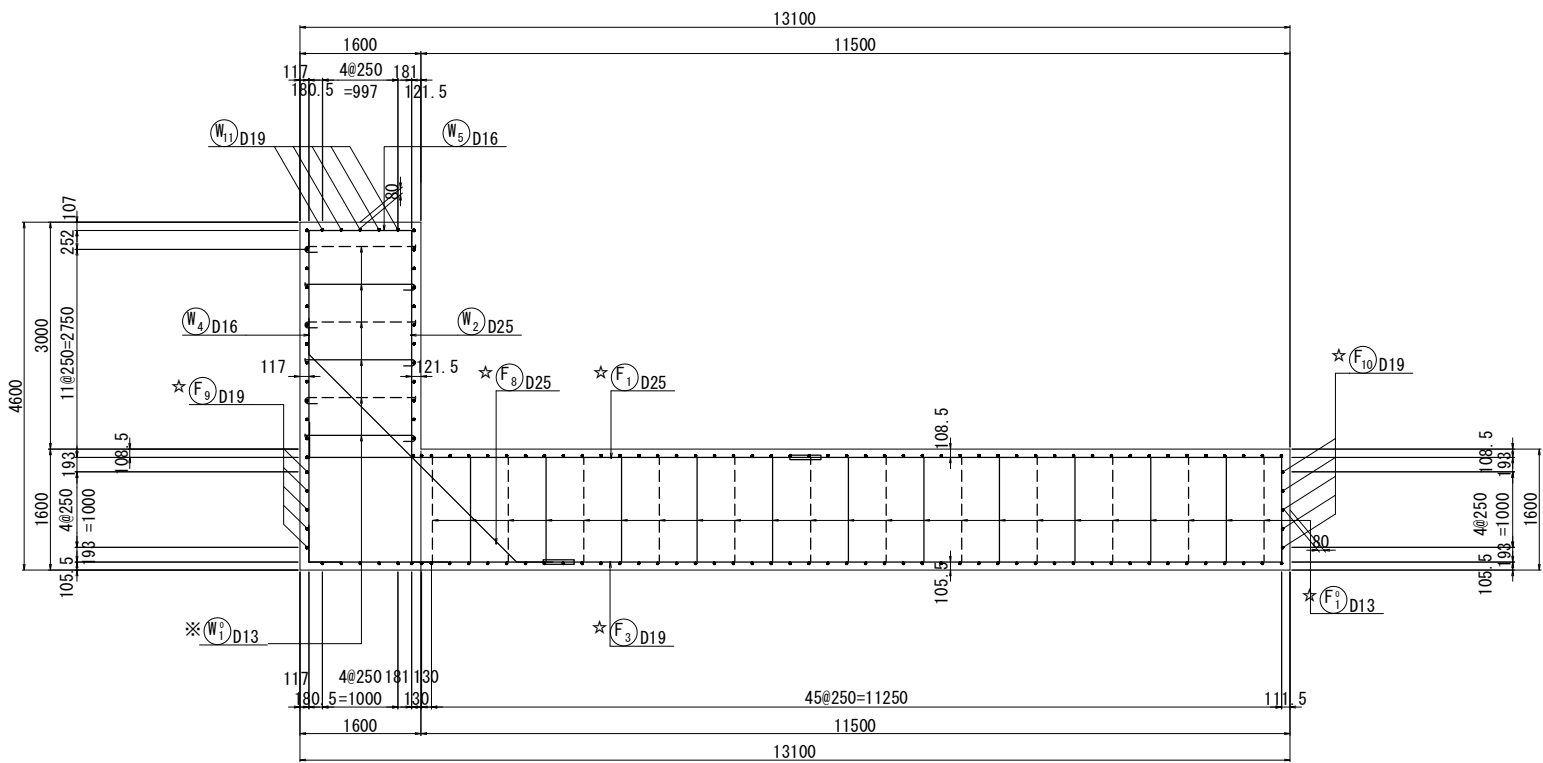
機械式鉄筋定着工法数量表

鉄筋径	箇所数					
	0<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m
D13		544				
D16						
D19						
D22						
D25						
D29						
D32						
D35						
D38						
小計		544				
合計	544箇所					

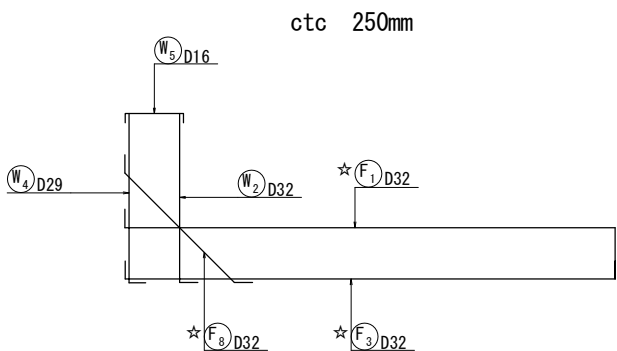
注：※印機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説(H24.3 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と  
半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の  
実験等により効果が保障された定着工法を用いること。  
注：機械式継手については、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説(H29.3 日本道路協会)  
2. 鉄筋定着・継手指針〔2020版〕(R2.3 土木学会)  
3. 監督員より使用製品の性能と施工方法、管理方法等の承認を得てから工事を行うこと。  
注：◎ は上部工施工を示す。  
★印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエボキシ鉄筋を示す。  
K は機械式継手を示す。  
B はB種鉄筋とする。  
C はC種鉄筋とする。

常盤自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図(8)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

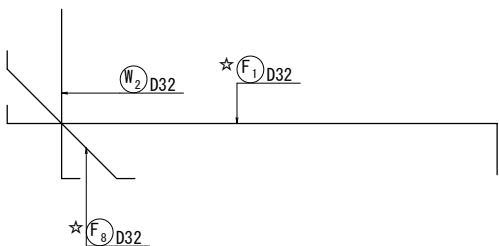
断面図  
(A-A)



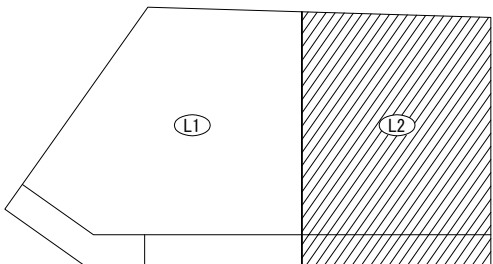
鉄筋組立図



ctc 250mm

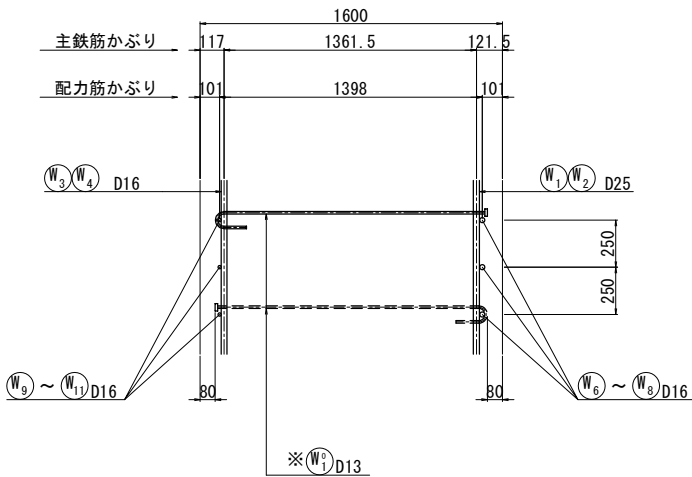


位置図

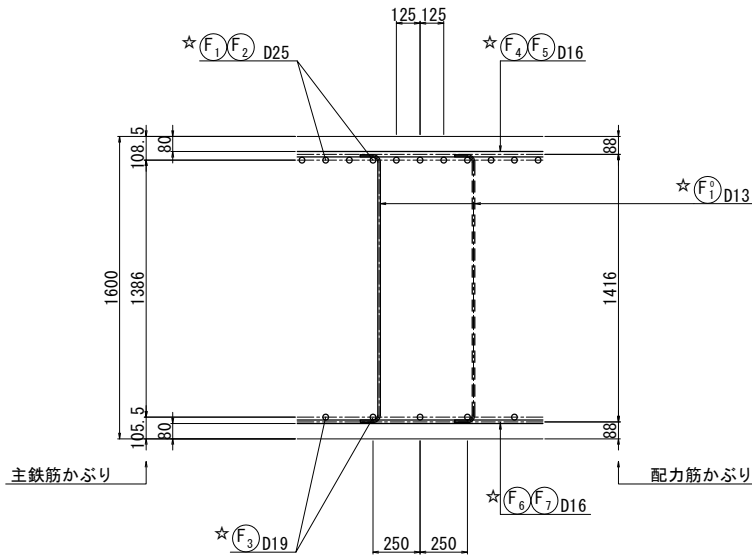


かぶり詳細図 縮尺 1:40

縦壁

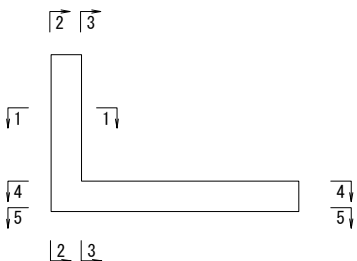


底版



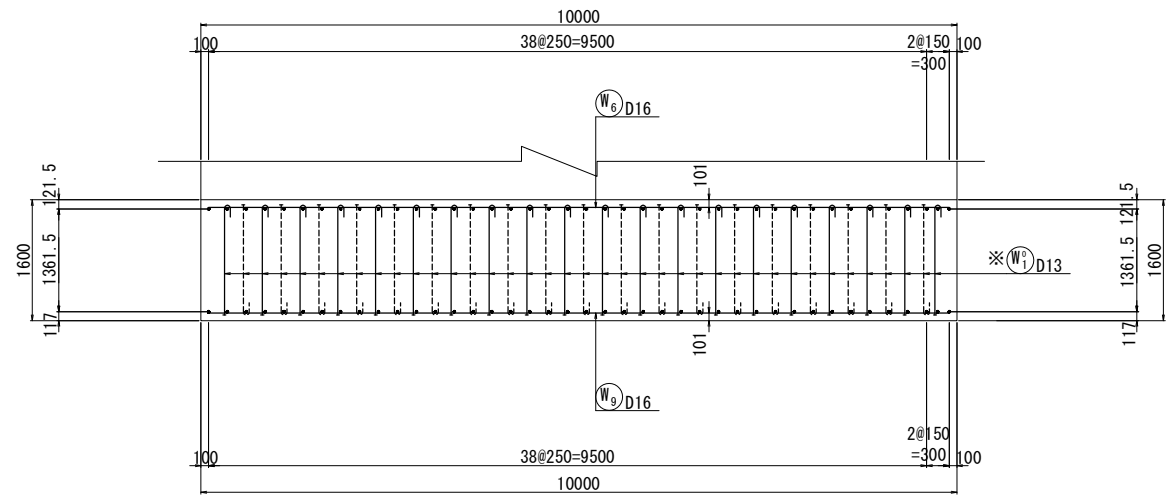
注: ※印機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H24.3 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と  
半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の  
実験等により効果が保障された定着工法を用いること。  
注: 機械式継手については、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.3 日本道路協会)  
2. 鉄筋定着・継手指針 [2020版] (R2.3 土木学会)  
3. 監督員より使用製品の性能と施工方法、管理方法等の承認を得てから工事を行うこと。  
注: ◎ は上部工施工を示す。  
☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。  
K は機械式継手を示す。

矢視図

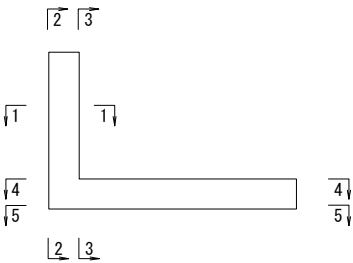


常 営 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図(9)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 い わ き 工 事 事 務 所		

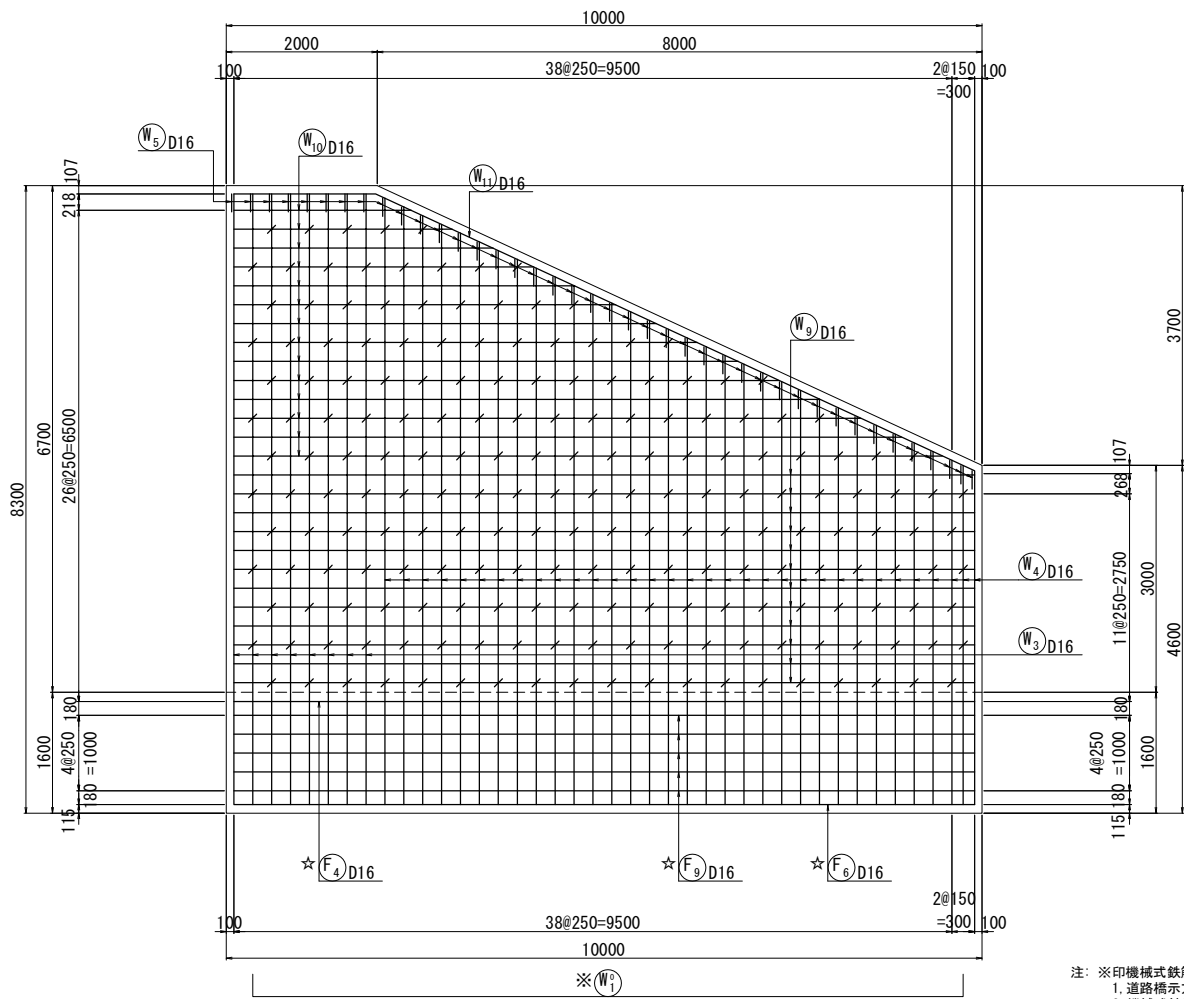
1 - 1



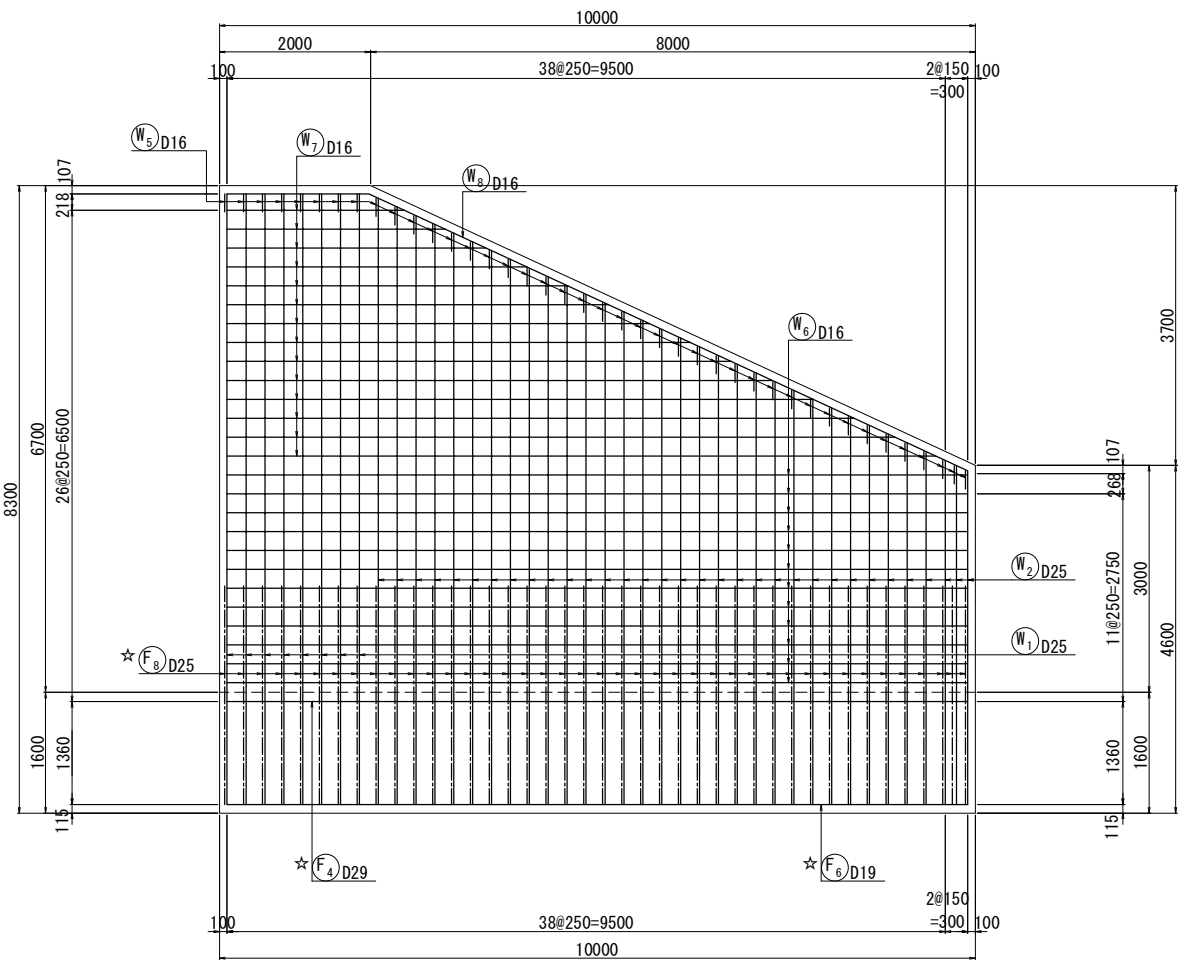
矢 視 図



2- 2(縦壁前面)



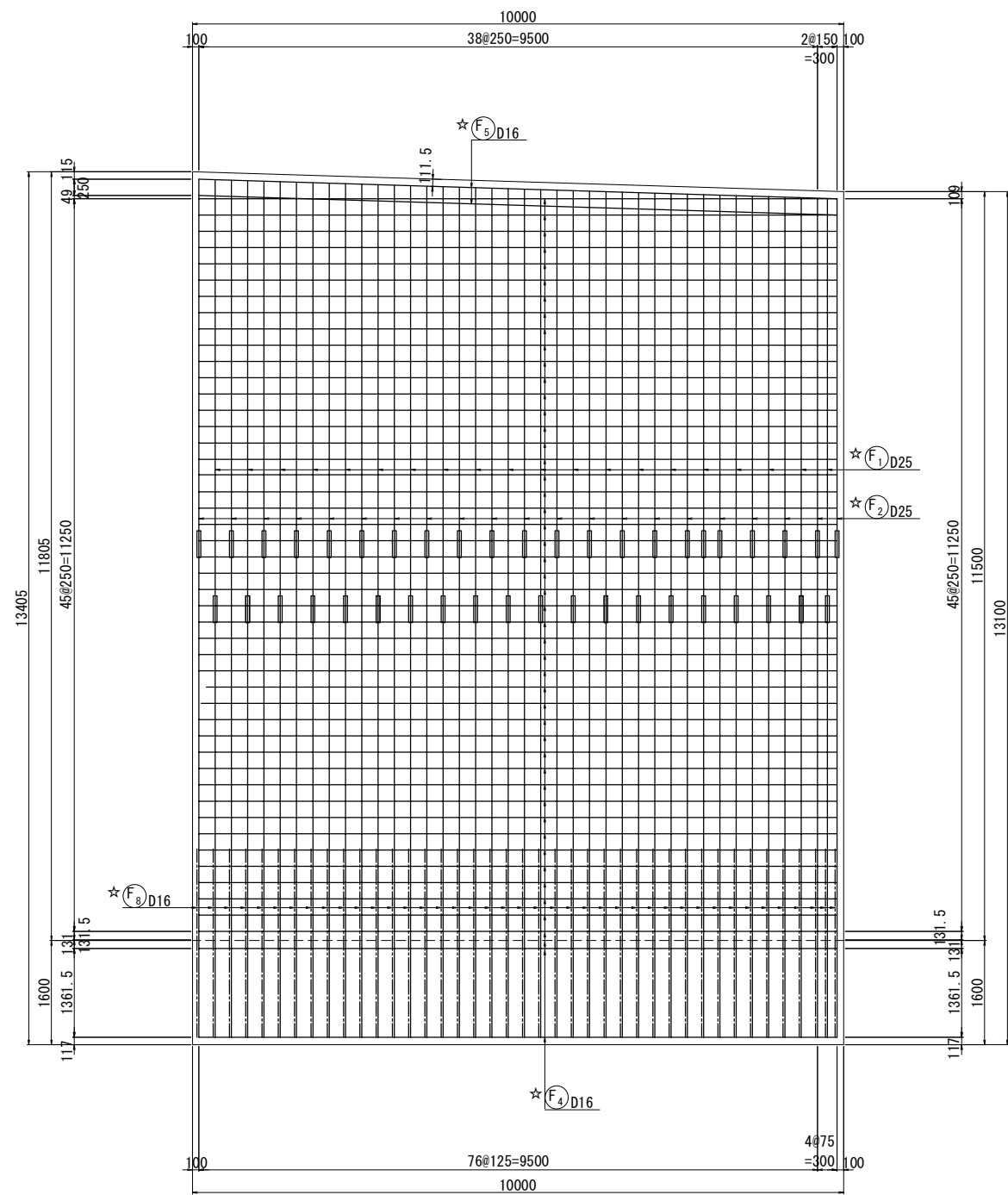
3 - 3 (縦壁背面)



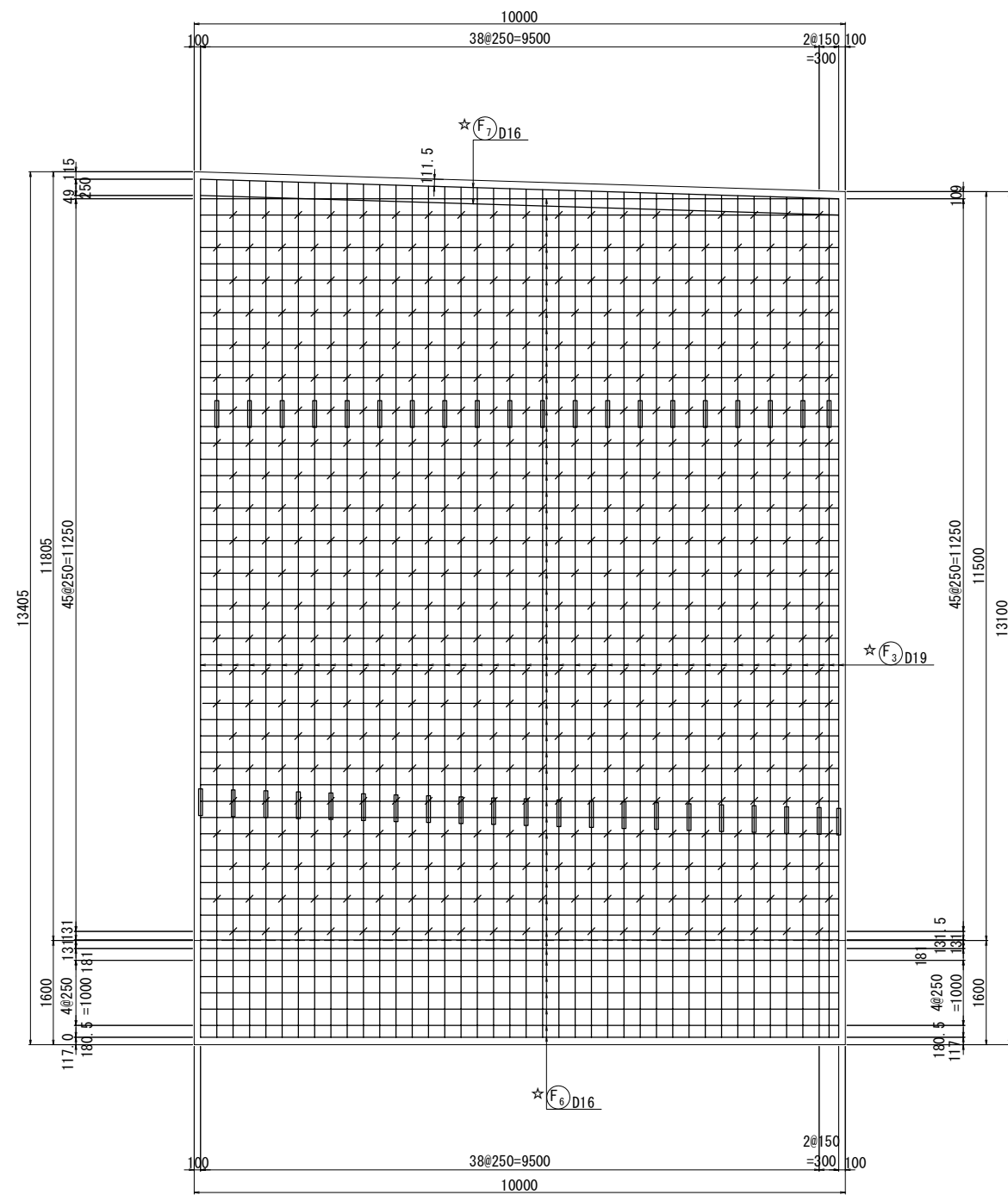
注: ※印機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説(H24.3 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の実験等により効果が保障された定着工法を用いること。  
注: 機械式継手については、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説(H29.3 日本道路協会)  
2. 鉄筋定着・継手指針[2020版](R2.3 土木学会)  
3. 監督員より使用製品の性能と施工方法、管理方法等の承認を得てから工事を行うこと。  
注: ◎ は上部工施工を示す。  
☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。  
K は機械式継手を示す。

常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図(10)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

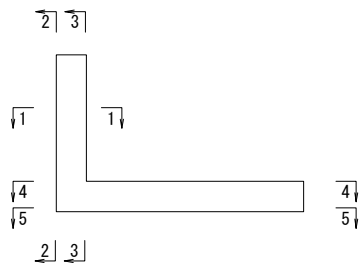
4 - 4 (底版上面)



5 - 5 (底版下面)



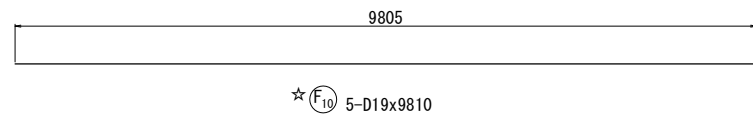
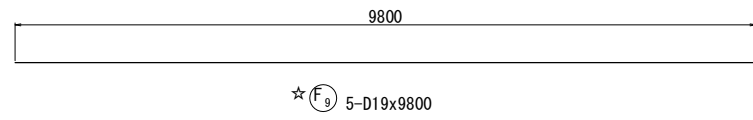
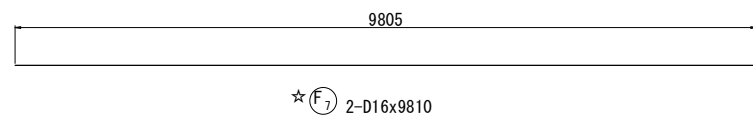
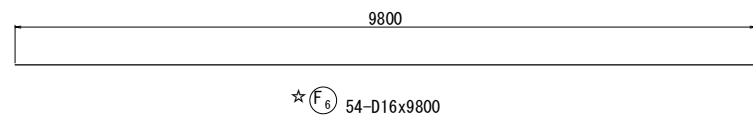
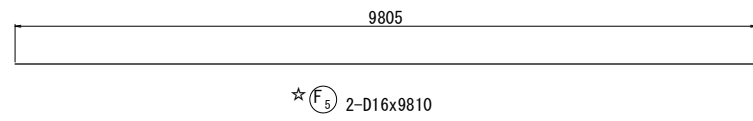
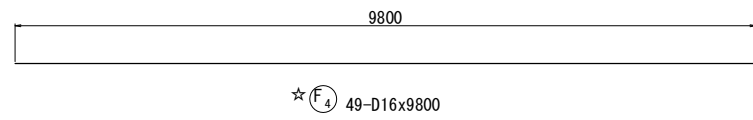
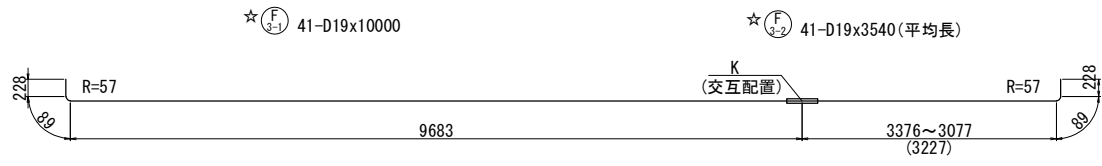
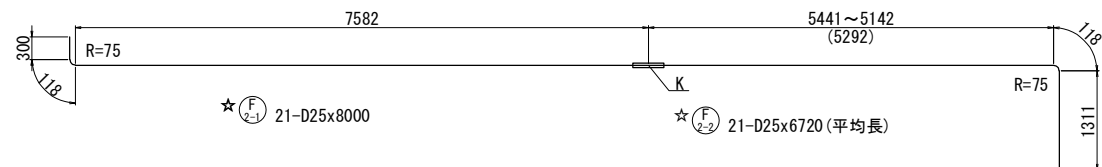
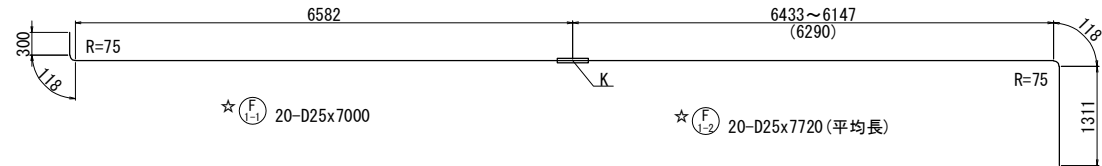
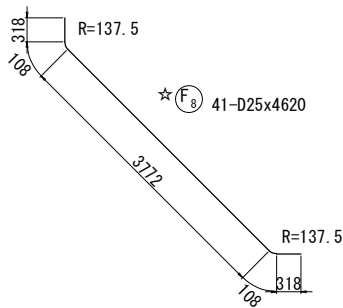
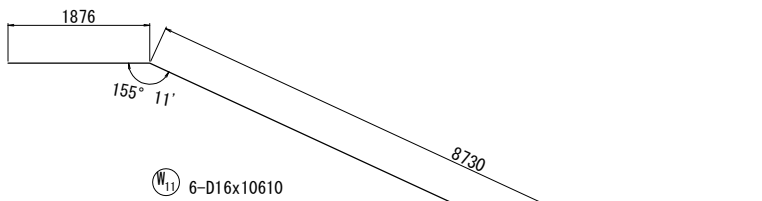
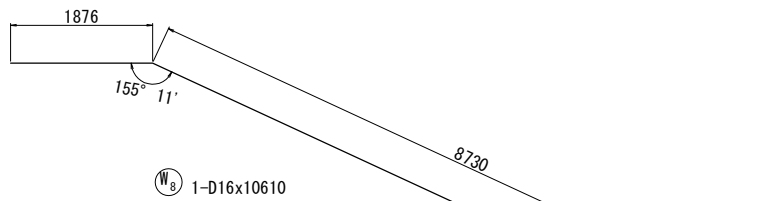
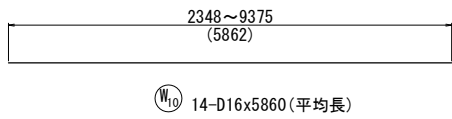
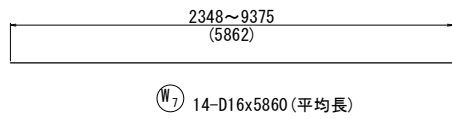
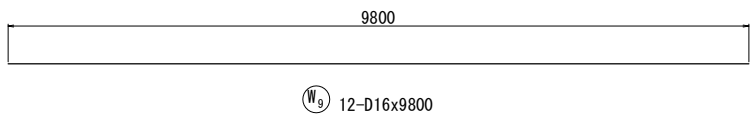
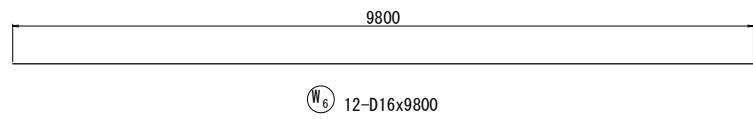
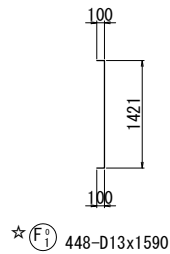
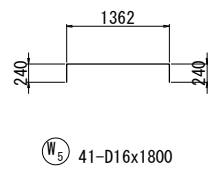
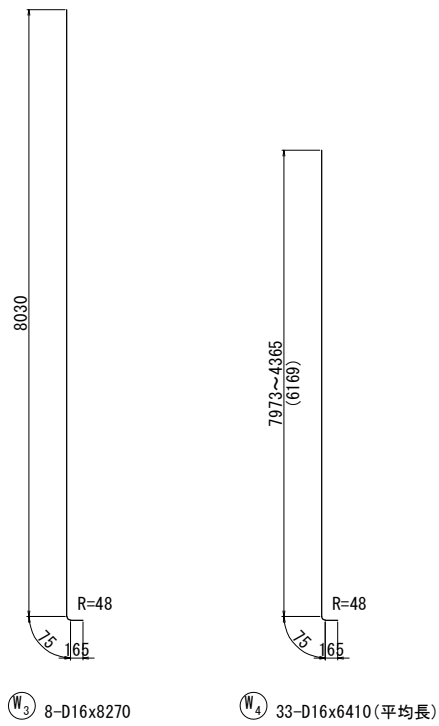
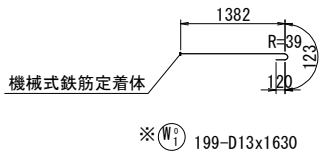
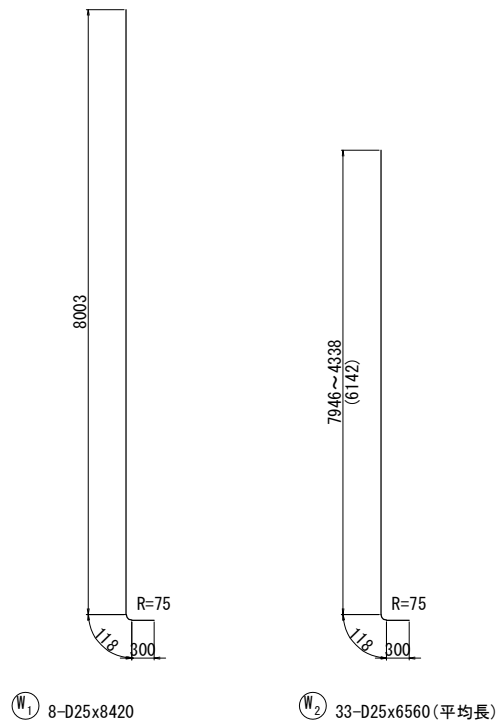
矢 視 図



注: ※印機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説 (H24.3 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と  
半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は横拘束効果の  
実験等により効果が保障された定着工法を用いること。  
注: ◎ は上部工施工を示す。  
☆印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエボキン鉄筋を示す。  
K は機械式継手を示す。

常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図(11)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		





注: ※印機械式鉄筋定着工法については、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説(H24.3 日本道路協会)  
2. 機械式鉄筋定着工法配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)  
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。  
また、中間帯鉄筋に本定着体を用いる場合は構束効果の実験等により効果が保障された定着工法を用いること。

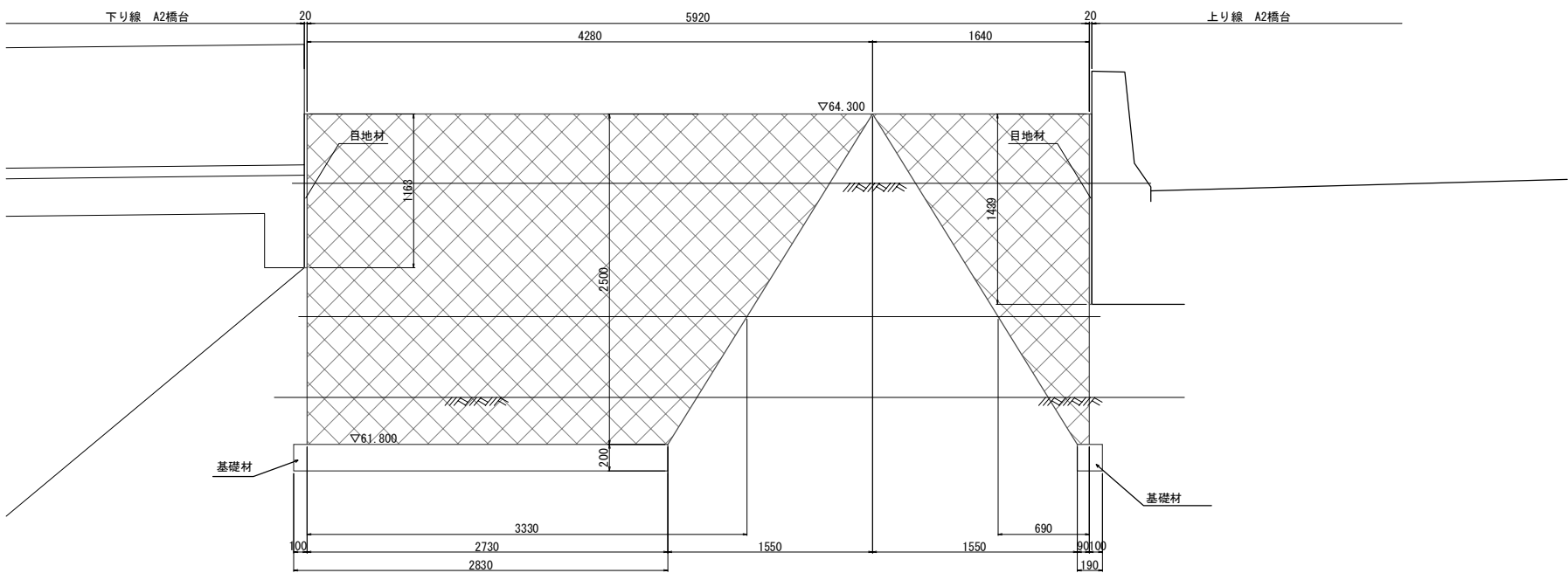
注: 機械式継手については、下記の基準等を満足すること。  
1. 道路橋示方書-同解説(H29.3 日本道路協会)  
2. 鉄筋定着・継手指針[2020版](R2.3 土木学会)  
3. 監督員より使用製品の性能と施工方法、管理方法等の承認を得てから工事を行うこと。

注: ◎ は上部工施工を示す。  
★印表記は通常鉄筋、この印のない場合はエポキシ鉄筋を示す。  
K は機械式継手を示す。

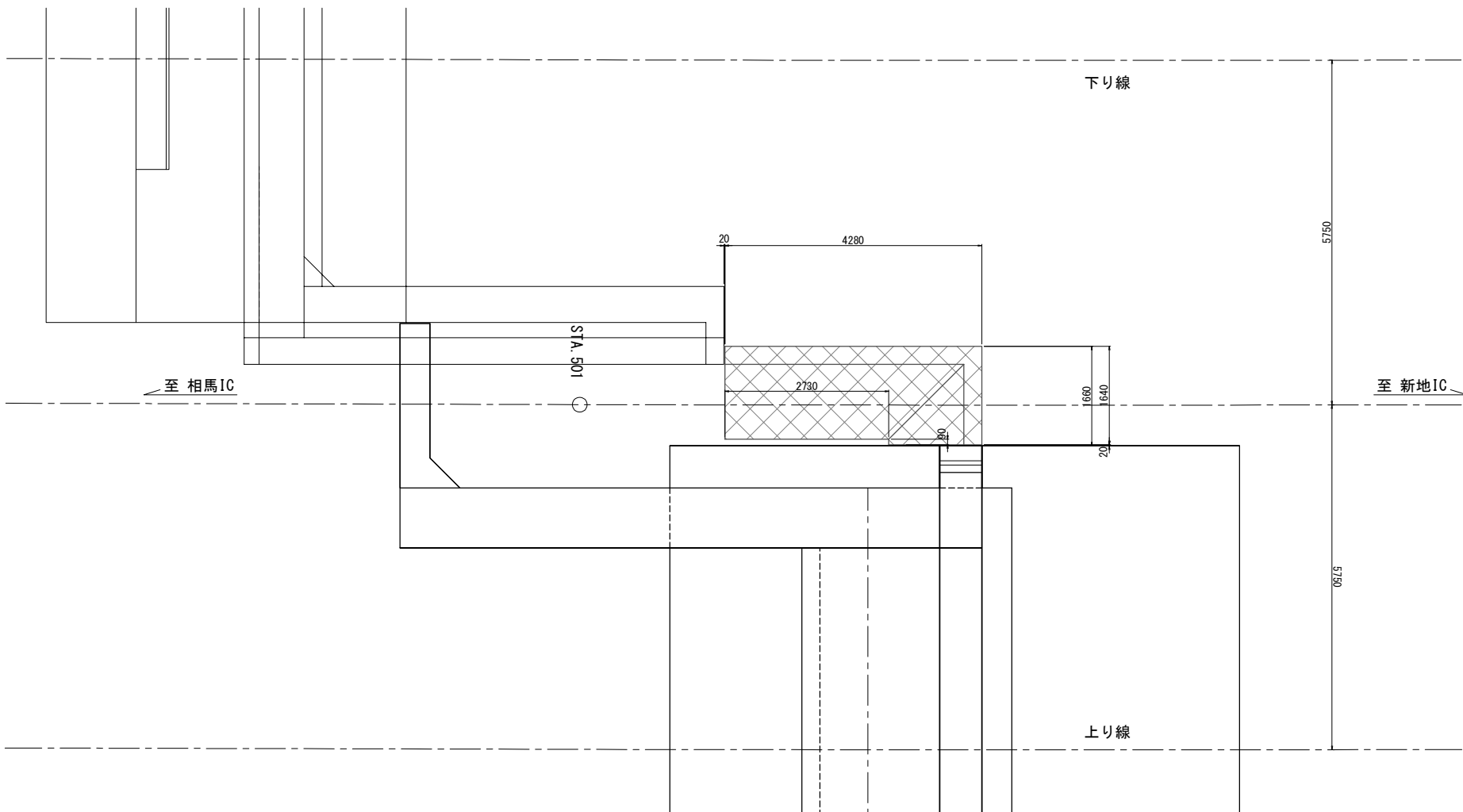
常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし L型擁壁配筋図(12)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



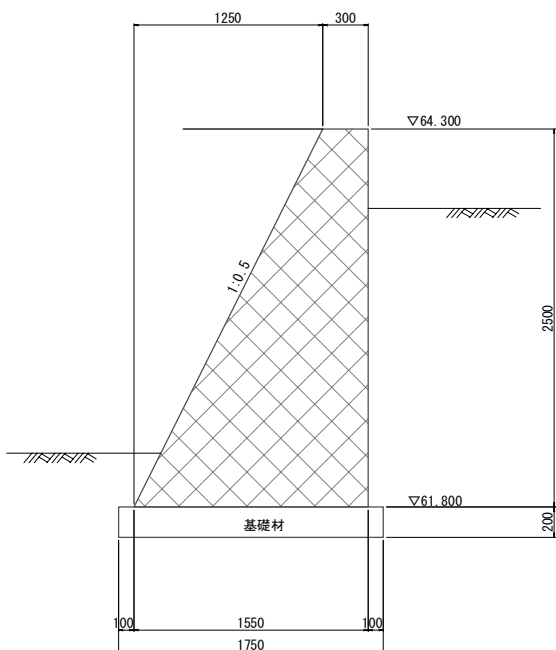
展開図 S=1:50



平面図 S=1:100



標準断面図 S=1:50



数量表

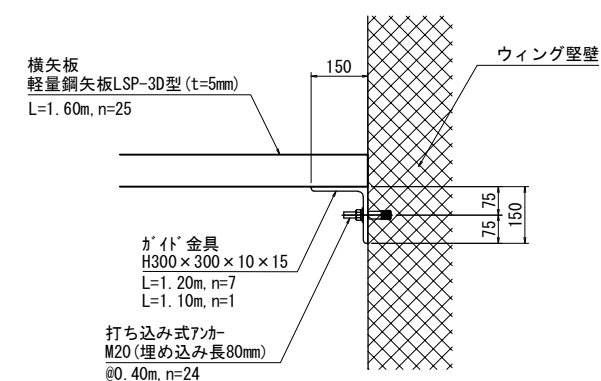
項目	規格	単位	数量	摘要
コンクリート	C2-1	m3	9.3	
型枠	C	m2	25.9	
基礎材	RC-40 t=20cm	m3	1.1	

常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台重力式擁壁一般図		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

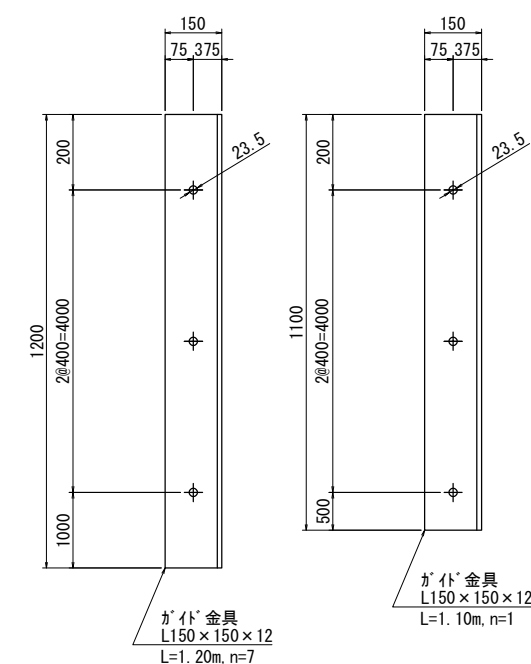




が 什 金具取付詳細図 S=1:20

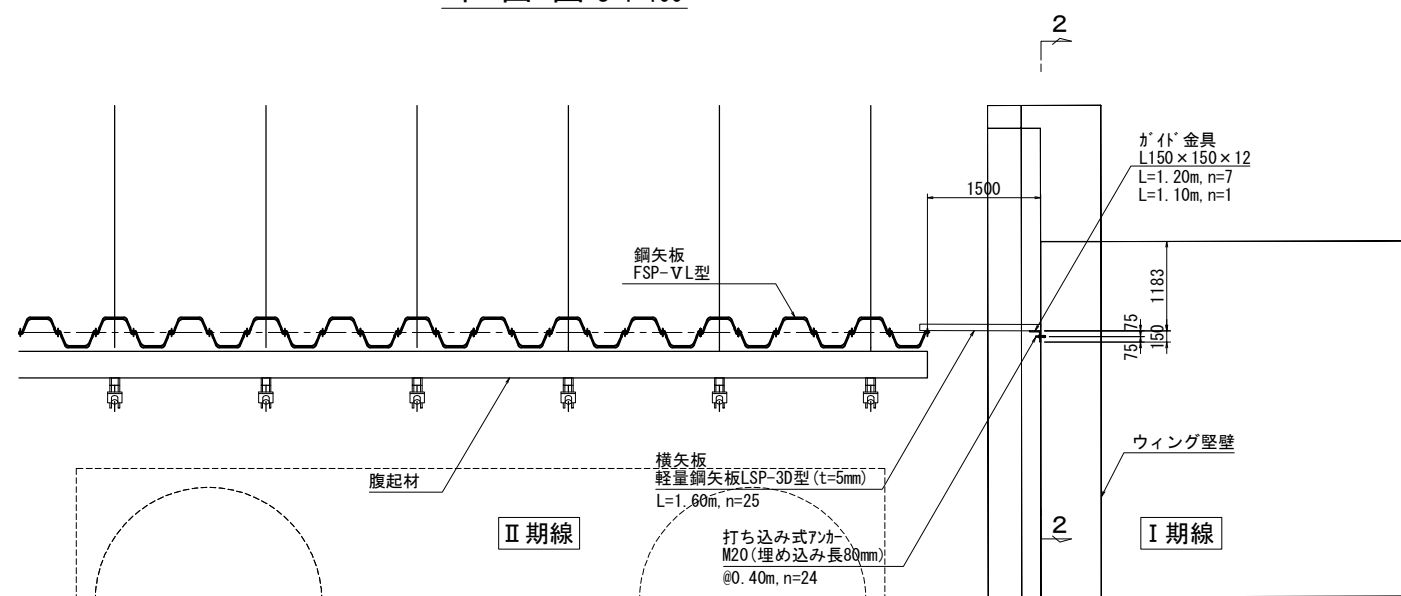


カト金具詳細図 S=1:20



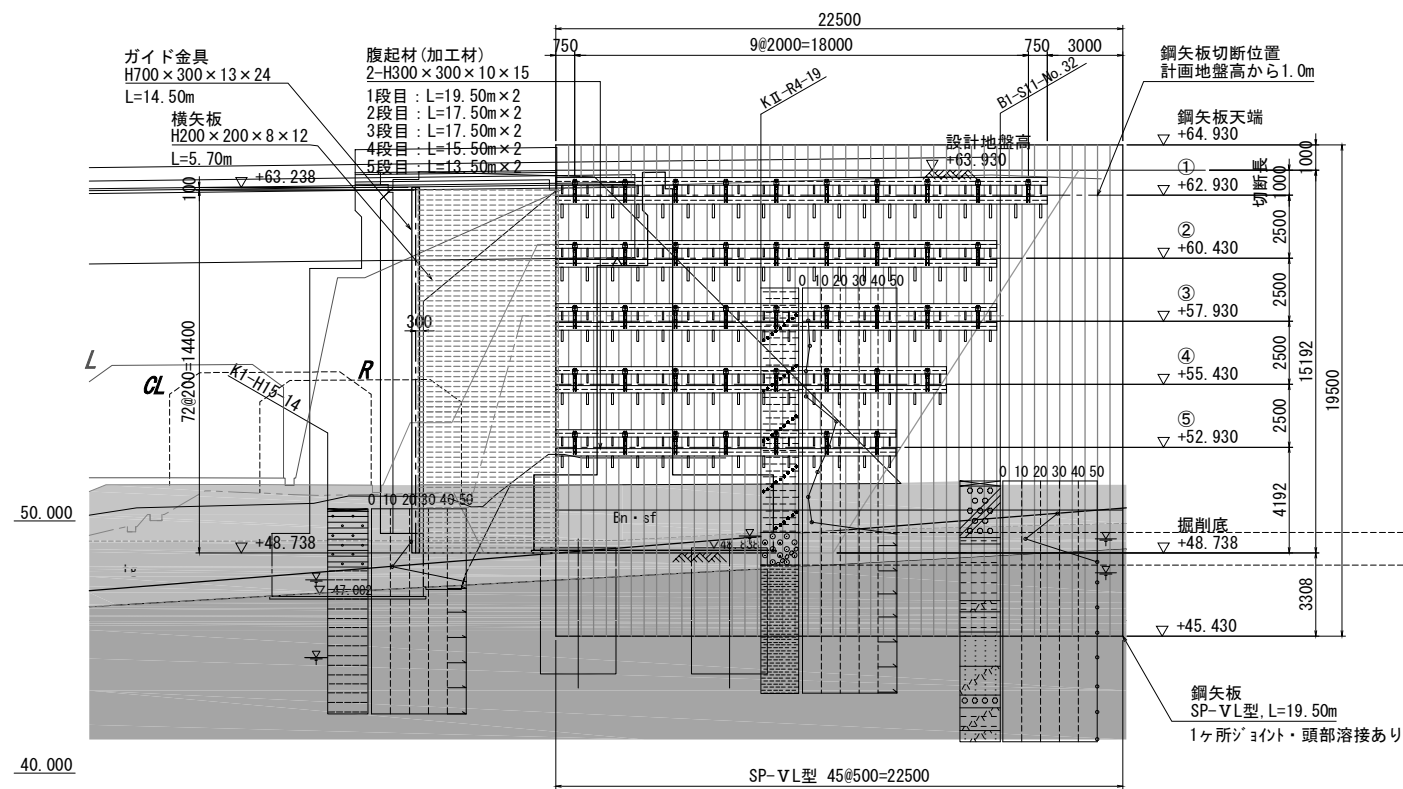
・横矢板数量表

項 目		種 別	規格寸法(mm)	長さ(m)	数量	単位質量 (kg/m)	単品質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
軽量鋼矢板	SP	LSP-3D型(t=5mm)		1.6	25	19.3	30.88	772	SS400
合計質量:								772	kg
ガイド金具	L	L150×150×12		1.200	7	27.3	32.76	229	
ガイド金具	L	L150×150×12		1.100	1	27.3	30.03	30	
合計質量:								259	kg
打ち込み式アンカ	BN	M20(埋め込み長さ80mm)			24		0.5	12	
合計質量:								12	kg
総合計質量:								1043	kg



常 盤 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし AI橋台横矢詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

正面図 S=1:300



地質区分凡例

記号	主な土質・岩石名
Bn	粘性土
sf	粘土混じり砂礫 礫混じり粘土
tc	礫混じり粘土
tg	粘土混じり砂礫 玉石混じり砂礫
Mk (sa) 1	凝灰質中粒砂岩
Mk (sa) 2	極細粒砂岩
Mk (si)	シルト岩

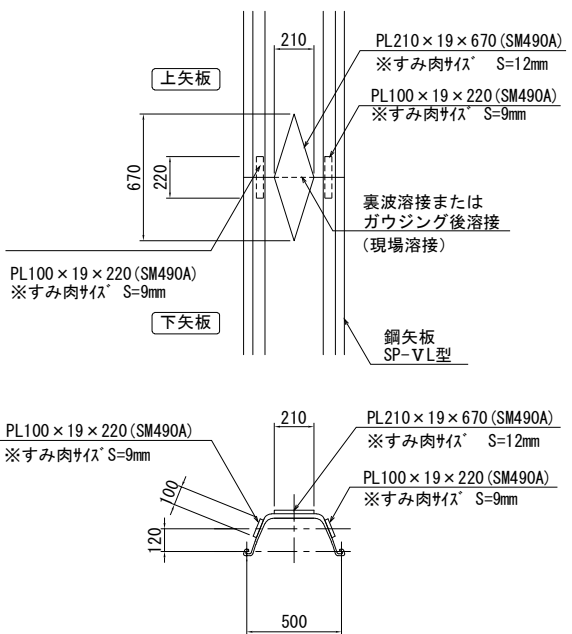
Bn・sf (盛土)  
N=7  $\gamma=18\text{kN/m}^3$   
 $\phi=0^\circ$   $C=41\text{kN/m}^2$

tg (砂礫)  
N=37  $\gamma=21\text{kN/m}^3$   
 $\phi=39^\circ$   $C=0\text{kN/m}^2$

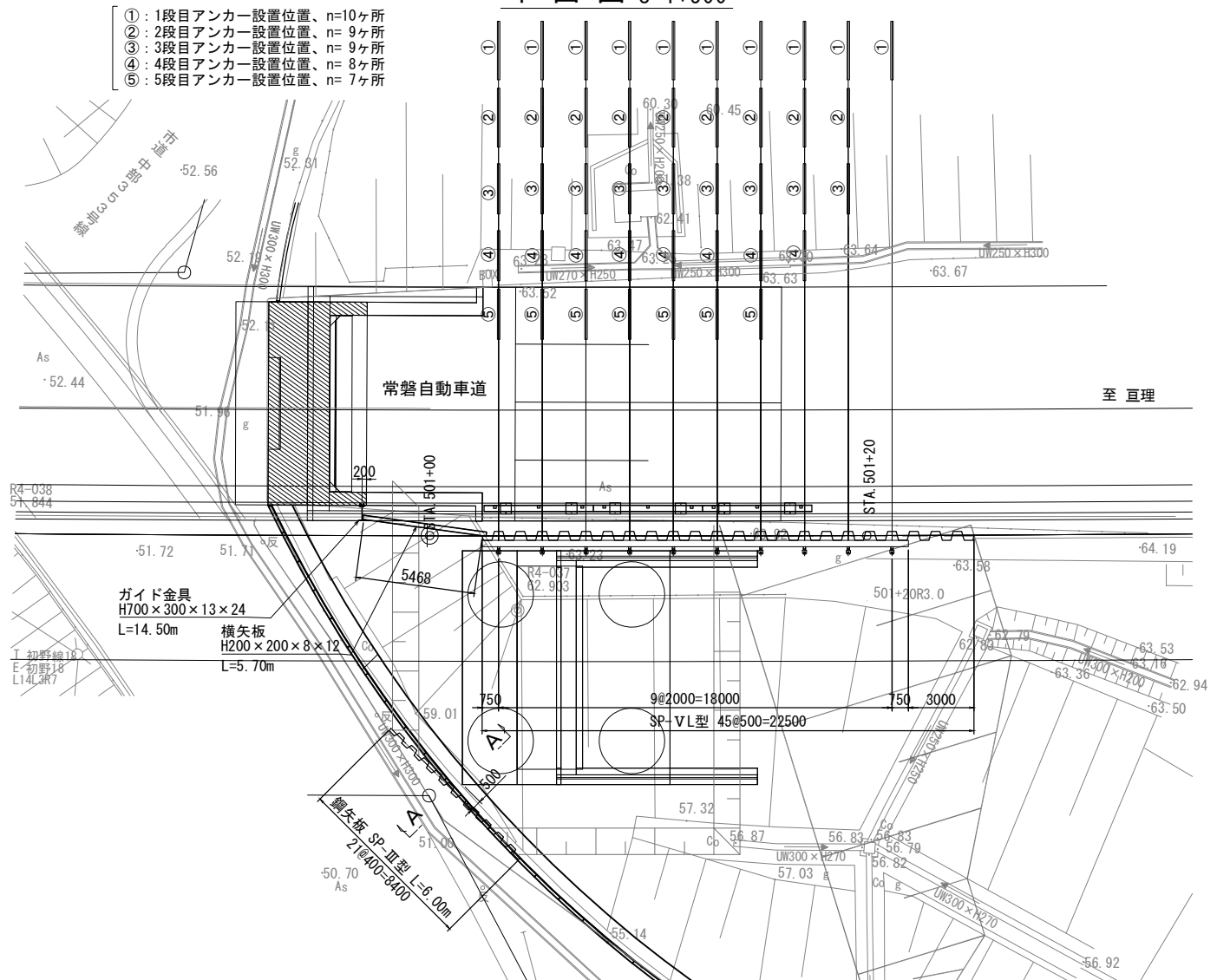
Mk (si) (シルト岩)  
N=132  $\gamma=17\text{kN/m}^3$   
 $\phi=21^\circ$   $C=3329\text{kN/m}^2$

鋼矢板現場建込み溶接継手 S=1:40

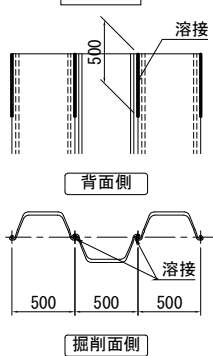
鋼矢板 SP-VL型



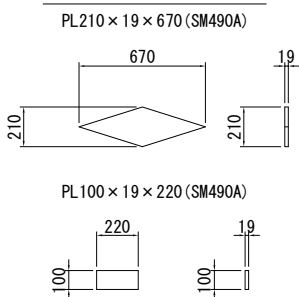
平面図 S=1:300



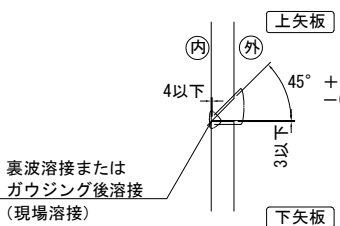
SP-VL型



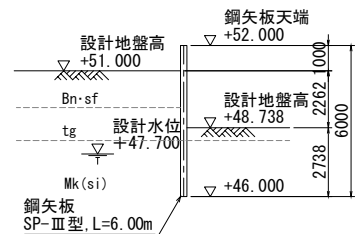
補強板 S=1:40



開先加工の形状 S=1:40



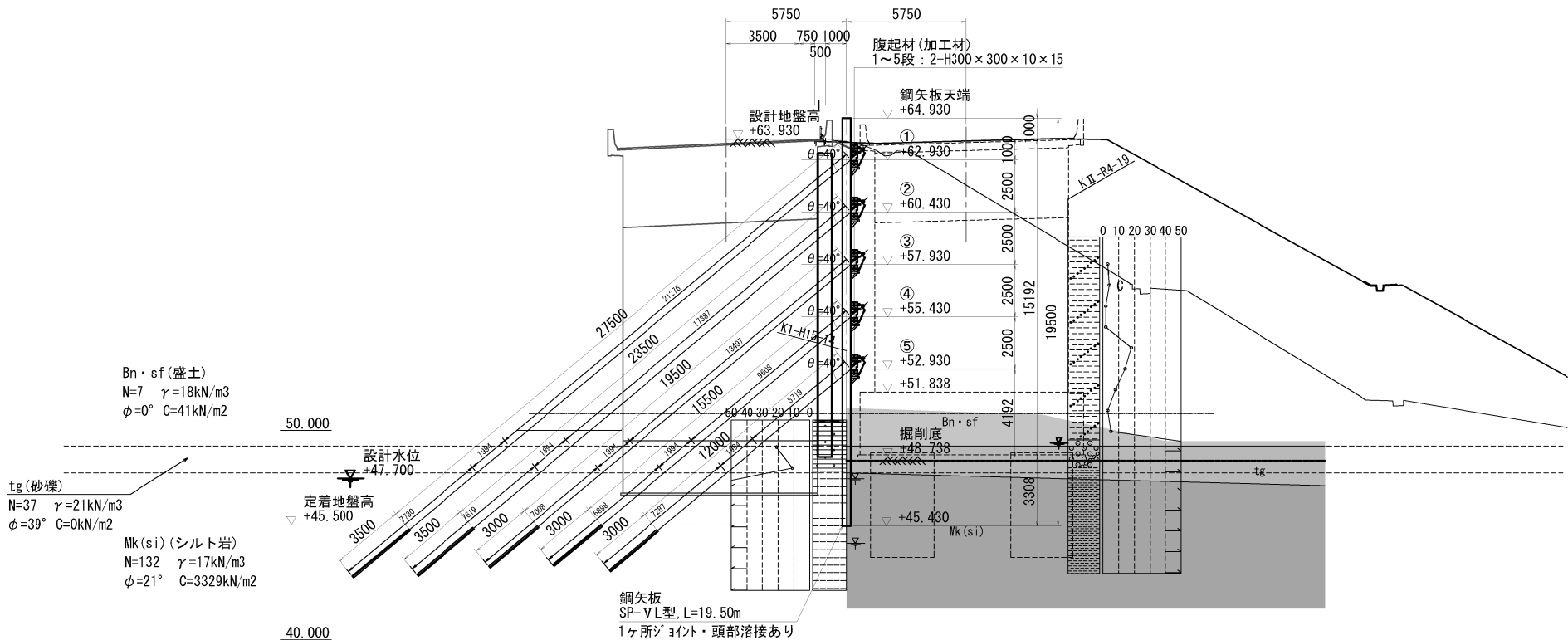
A-A断面図 S=1:300



常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし	A2橋台土留工構造図(1)	
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

かやぐらばし A2橋台土留工構造図(2)

断面図 S=1:300



・鋼矢板数量表

項 目	規格寸法 (mm)	長さ (本/m)	本数	単位質量 (kg/m)	単品質量 (kg/本)	質 量 (t)	摘 要
鋼矢板	SP-VL型	19.5	45	105.0	2047.5	92.138	SY295
	SP-Ⅲ型	6.0	21	60.0	360.0	7.560	
						99.698	
添接板	PL210×19×670		45		10.49	0.472	
	PL100×19×220		21		3.28	0.295	
						0.767	
杭材 合計質量:						100.465 t	
支保工材							
腹起 (1段目)	H-300×300×10×15	19.500	2	100.0	1950.0	3.900	SS400
腹起 (2段目)	H-300×300×10×15	17.500	2	100.0	1750.0	3.500	
腹起 (3段目)	H-300×300×10×15	17.500	2	100.0	1750.0	3.500	
腹起 (4段目)	H-300×300×10×15	15.500	2	100.0	1550.0	3.100	
腹起 (5段目)	H-300×300×10×15	13.500	2	100.0	1350.0	2.700	
支保工材 合計質量:						16.700 t	
副部材							
カバープレート (H-300)			28		17	0.476	SS400
消耗部材	(主部材質量×0.04)					0.668	SS400
支保工材 合計質量:						17.844 t	
プレート							
スチラー (1段目)	PL145×9×268		40		2.75	0.110	
スチラー (2段目)	PL145×9×268		36		2.75	0.099	
スチラー (3段目)	PL145×9×268		36		2.75	0.099	
スチラー (4段目)	PL145×9×268		32		2.75	0.088	
スチラー (5段目)	PL145×9×268		14		2.75	0.039	
プレート 合計質量:						0.435 t	
腹起ブラケット							
1段目	H350-L50×4		20		4.0	0.080	
	H350-L90×10B		20		21.5	0.430	
2段目	H300-L50×4		18		4.0	0.072	
	H350-L90×10B		18		21.5	0.387	
3段目	H300-L50×4		18		4.0	0.072	
	H300-L75×9		18		14.8	0.266	
4段目	H300-L50×4		16		4.0	0.064	
	H300-L75×9		16		14.8	0.237	
5段目	H300-L50×4		14		4.0	0.056	
	H300-L75×9		14		14.8	0.207	
ブラケット 合計質量:						1.871 t	
ガス切断工							
切断長さ2.0m/本		19.500	45	105.0	210	9.450	
合計質量:						9.450 t	スクラップ重量

・横矢板数量表

項 目	種別	規格寸法 (mm)	長さ (m)	数量	単位質量 (kg/m)	単品質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
H形鋼	H	H200×200×8×12	5.7	72	49.9	284.43	20479	SS400
合計質量:							20479	kg
ガイド金具	H	H700×300×13×24	1.200	11	182.0	218.40	2402	
ガイド金具	H	H700×300×13×24	1.300	1	182.0	236.60	237	
合計質量:							2639	kg
ワイヤープレート	PL	PL40×(t19～25)×200		72		1.38	99	
合計質量:							99	kg
打ち込み式アンカー	BN	M20(埋め込み長さ30mm)		144		0.5	72	
合計質量:							72	kg
総合計質量:							23289	kg

・グラウンドアンカー仕様

Level	打設角度		削孔径 (mm)	自由長 Lf (m)	定着長 La (m)	削孔長 (m)	分担幅 (m)	設計 アンカー力 Po (KN)	P C鋼 より線 (本)	設置数 (ヶ所)	サイズ	台座 板厚 (mm)	支圧板 板厚 (mm)	ﾌﾟﾚｰｸﾃｯﾄ		
	水平 (°)	垂直 (°)												ﾀｲﾌﾟ	脚長 (mm)	
①	0	40	φ115	27.500	3.500	31.200	2.000	421.78	K5-5	4	10	2-H300×300×10×15	16	22	H300-L90×10B	9
②	0	40	φ115	23.500	3.500	27.200	2.000	334.31	K5-3	3	9	2-H300×300×10×15	16	19	H300-L90×10B	9
③	0	40	φ115	19.500	3.000	22.700	2.000	221.97	K5-3	2	9	2-H300×300×10×15	16	16	H300-L75×9	6
④	0	40	φ115	15.500	3.000	18.700	2.000	128.61	K5-3	2	8	2-H300×300×10×15	16	16	H300-L75×9	6
⑤	0	40	φ115	12.000	3.000	15.200	2.000	40.00	K5-3	2	7	2-H300×300×10×15	16	16	H300-L75×9	6

<残置式アンカー> (参考)

- ・使用工法 : KTB・残置式アンカー (引張型)
- ・定着具 : クサビ定着方式
- ・使用鋼材 : PC鋼より線 (7本よりφ12.7mm)
- ・上表中の削孔長は、先端余長 (バインドキャップ) 分として0.20m) を考慮した長さ

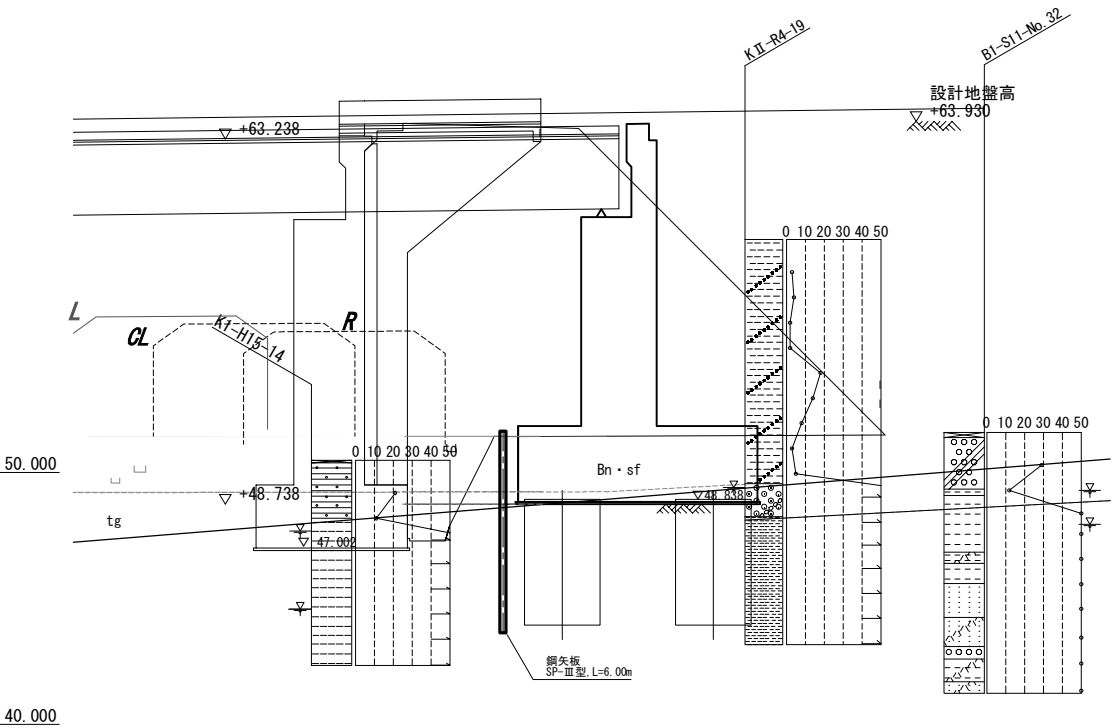
<注 記>

- ・鋼矢板天端 : +64.930
- ・設計地盤高 : +63.930
- ・設計水位 : +47.700
- ・掘削底 : +48.738
- ・定着地盤高 : +45.500
- ・掘削時の余堀り : 掘削時は支保工設置位置より1.00m下までとする。
- ・1次解体位置 : +51.838まで埋め戻して、十分締め固めた後解体する。
- ・2~5次解体位置 : 支保工設置位置より1.00m下まで埋め戻して、十分締め固めた後解体する。
- ・上載荷重 : 10.00kN/m<sup>2</sup> 考慮する。
- ・鋼矢板の施工方法 : 圧入工法とする。但し、施工条件による周面摩擦力度の係数βを0.5とする。
- ・鋼矢板の断面性能 : 右図に示すように 鋼矢板継手部の掘削面側を鋼矢板頭部から50cm程度溶接 するものとし、断面二次モーメントおよび断面係数は 全断面有効の80%とする。

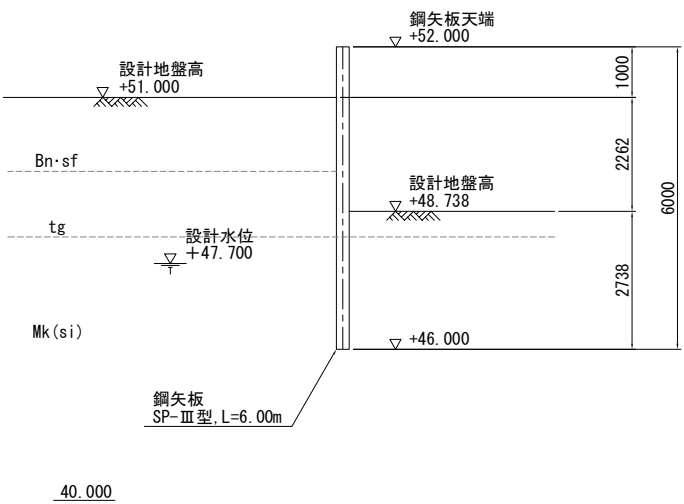
常 磐 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし	A2橋台土留工構造図(2)	
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		



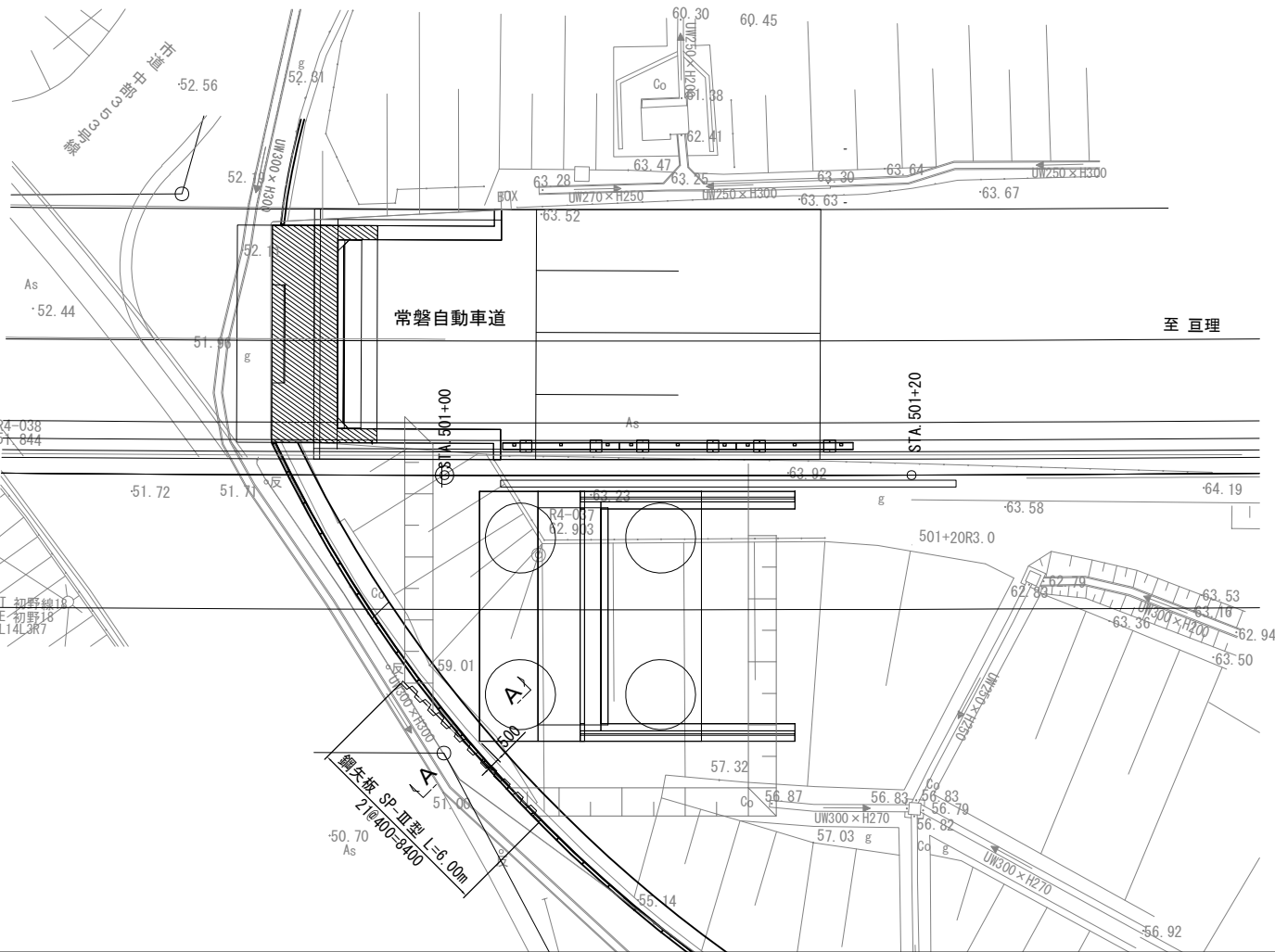
正面図 S=1:300



A-A断面図 S=1:150



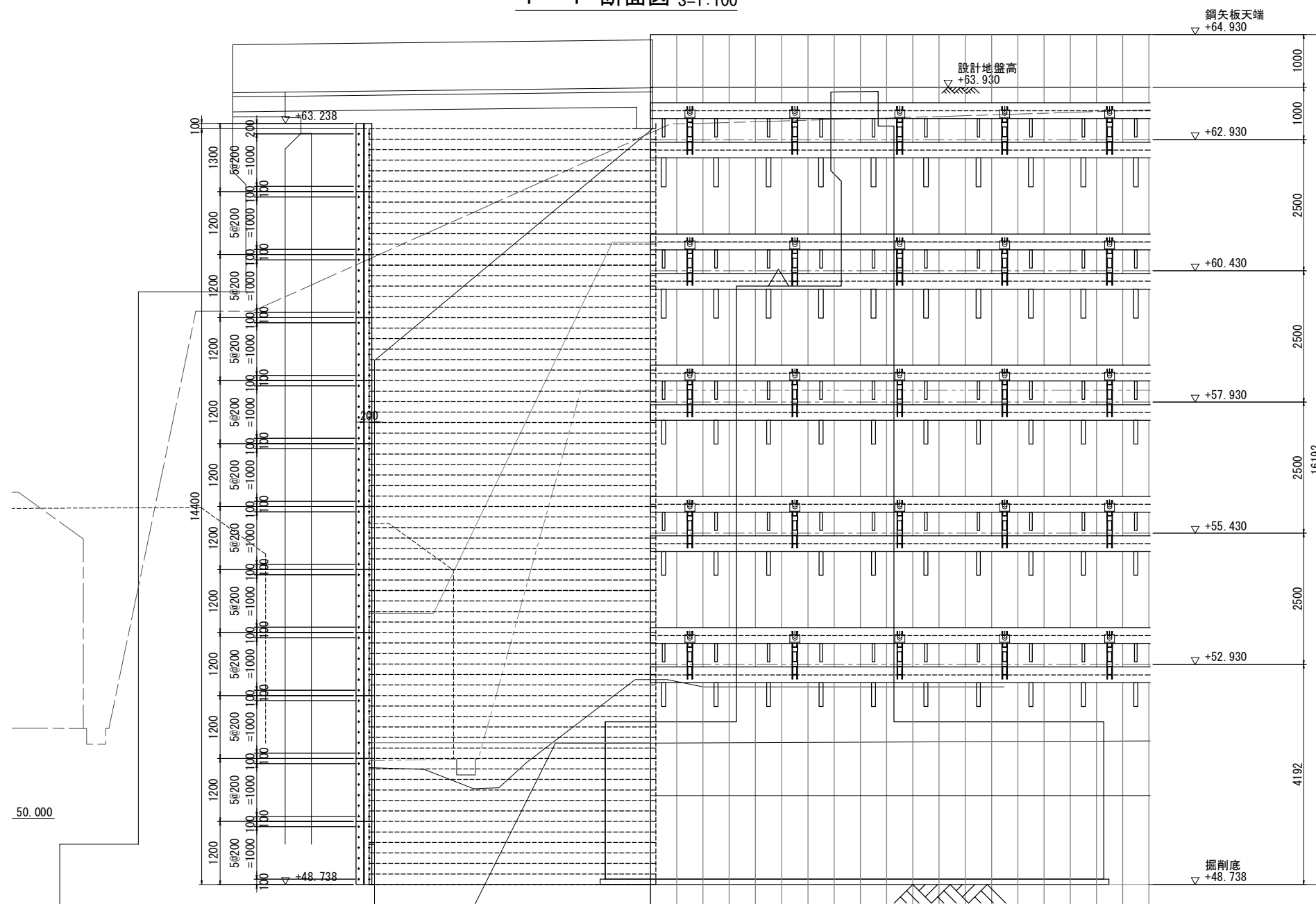
平面図 S=1:300



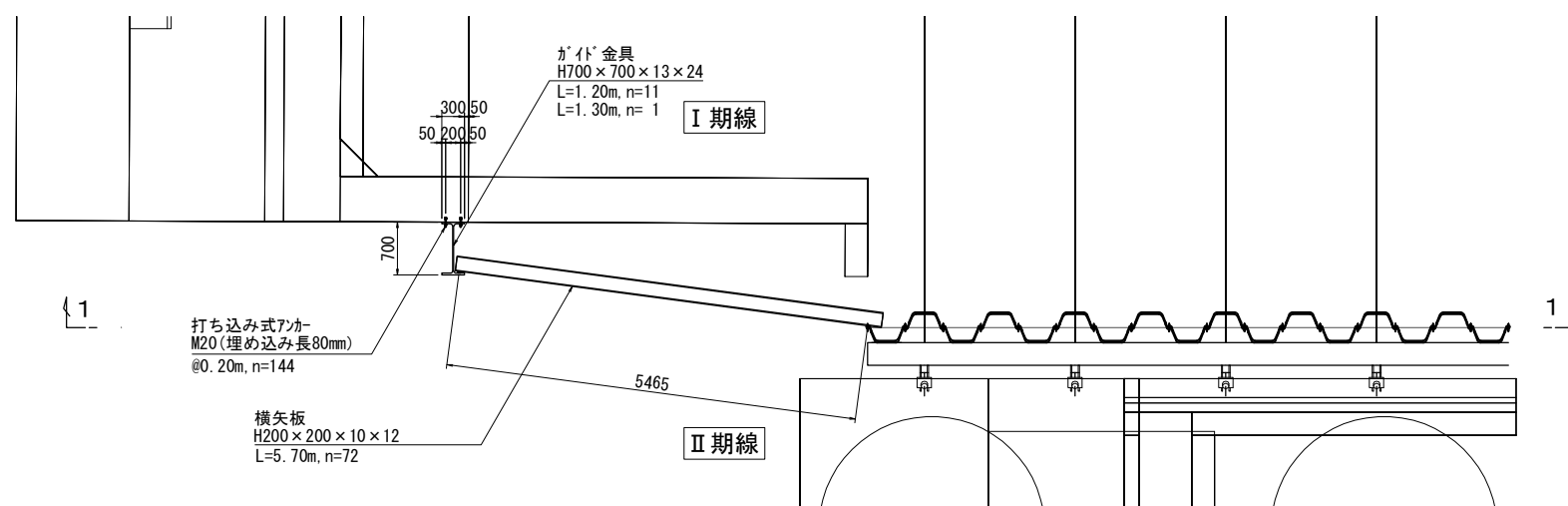
常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台土留工構造図(3)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		

かやぐらばし A2橋台横矢板詳細図

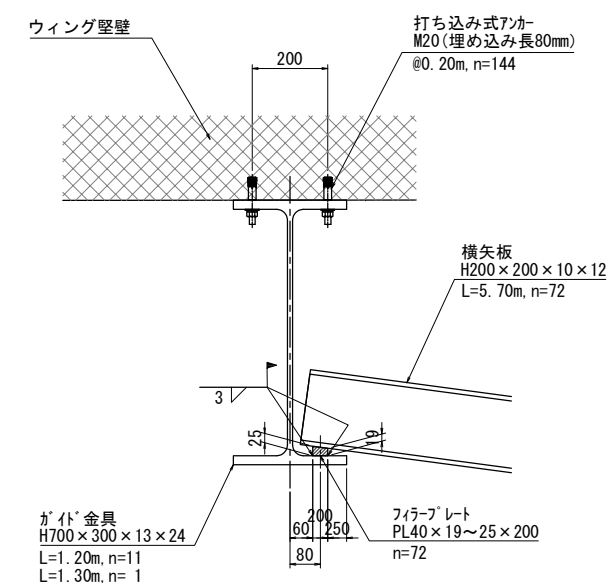
1-1 断面图 S=1:100



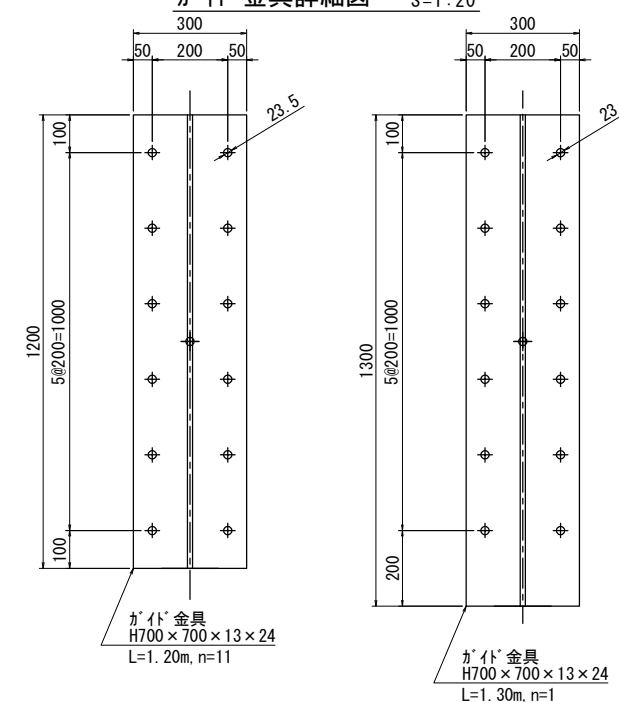
平面图 S=1:100



が 卜 金具取付詳細図 S=1:20



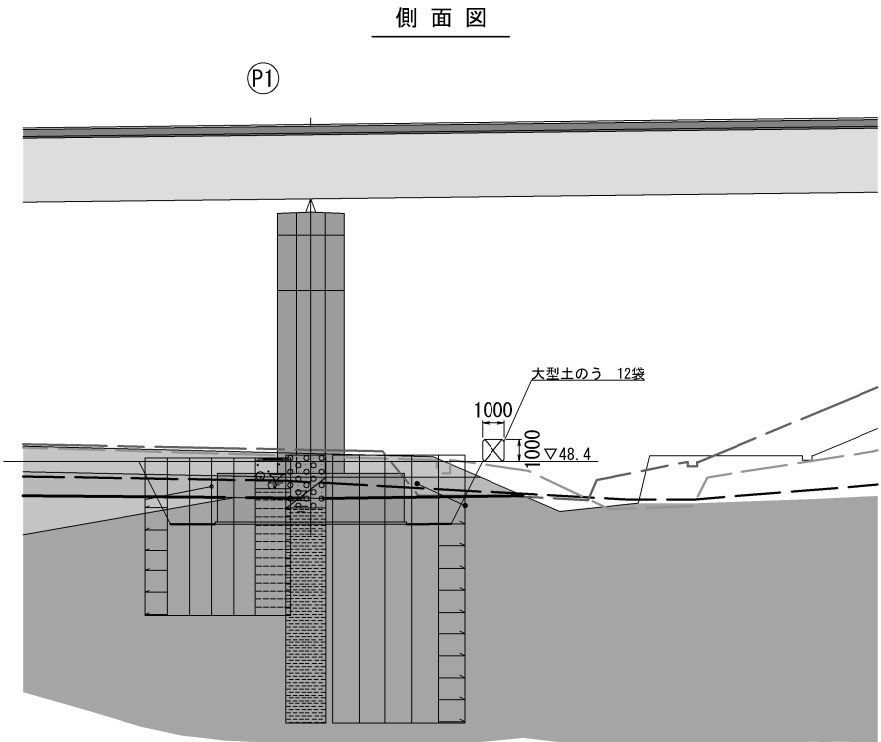
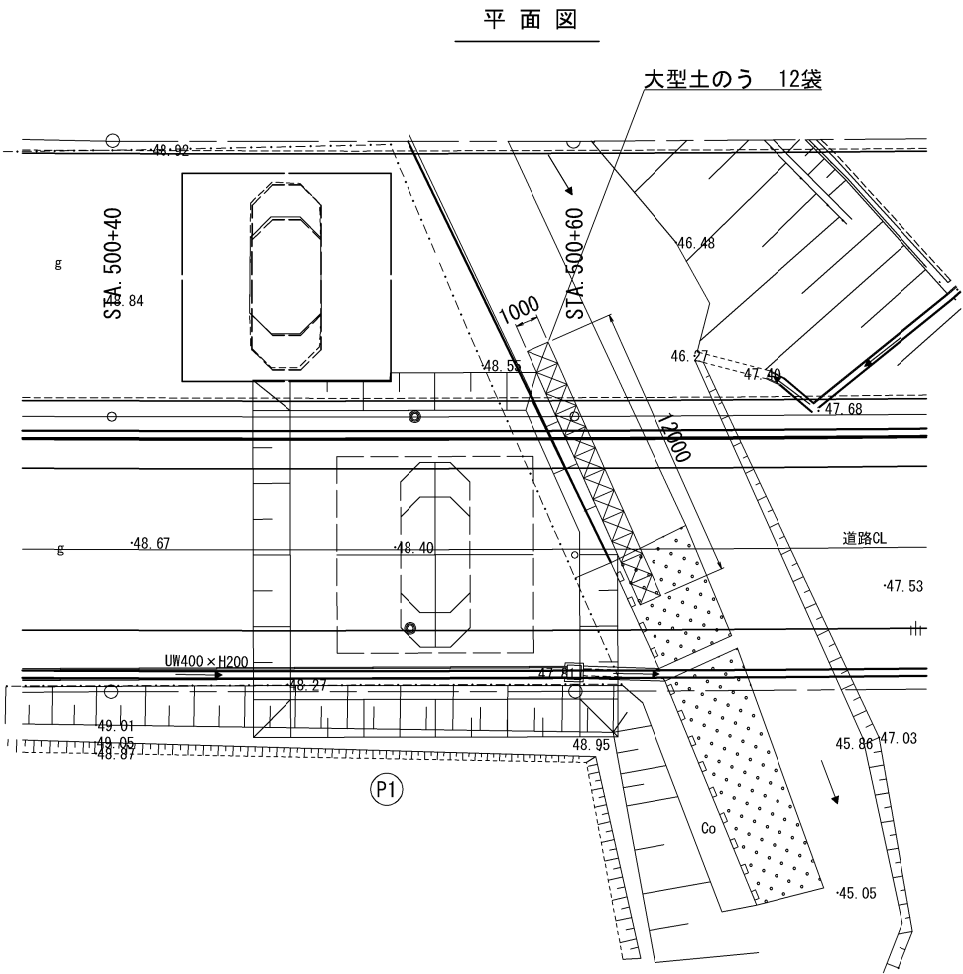
カト金具詳細図 S=1:20



・横矢板数量表

購入品数量表								
項 目	種別	規格寸法(mm)	長さ(m)	数量	単位質量 (kg/m)	単品質量 (kg)	質量 (kg)	摘 要
H形鋼	H	H200×200×8×12	5.7	72	49.9	284.43	20479	
合計質量:							20479	kg
ガイド金具	H	H700×300×13×24	1.200	11	182.0	218.40	2402	
ガイド金具	H	H700×300×13×24	1.300	1	182.0	236.60	237	
合計質量:							2639	kg
フィラープレート	PL	PL40×(t19～25)×200		72		1.38	99	
合計質量:							99	kg
打ち込み式フカ	BN	M20(埋め込み長さ80mm)		144		0.5	72	
合計質量:							72	kg
総合計質量:							23289	kg

常 登 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台横矢詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

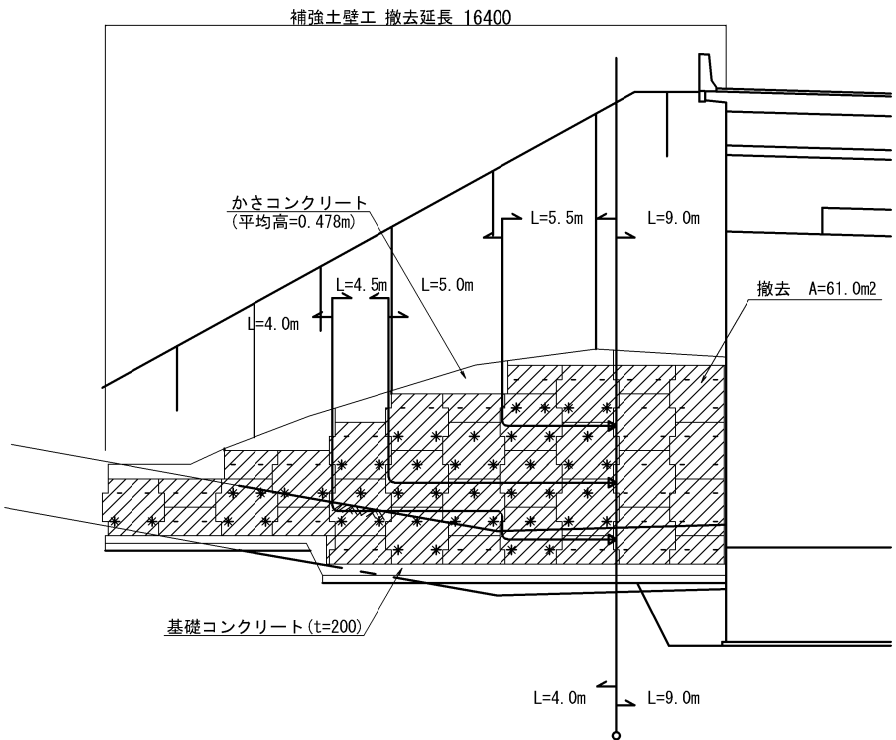


数量表

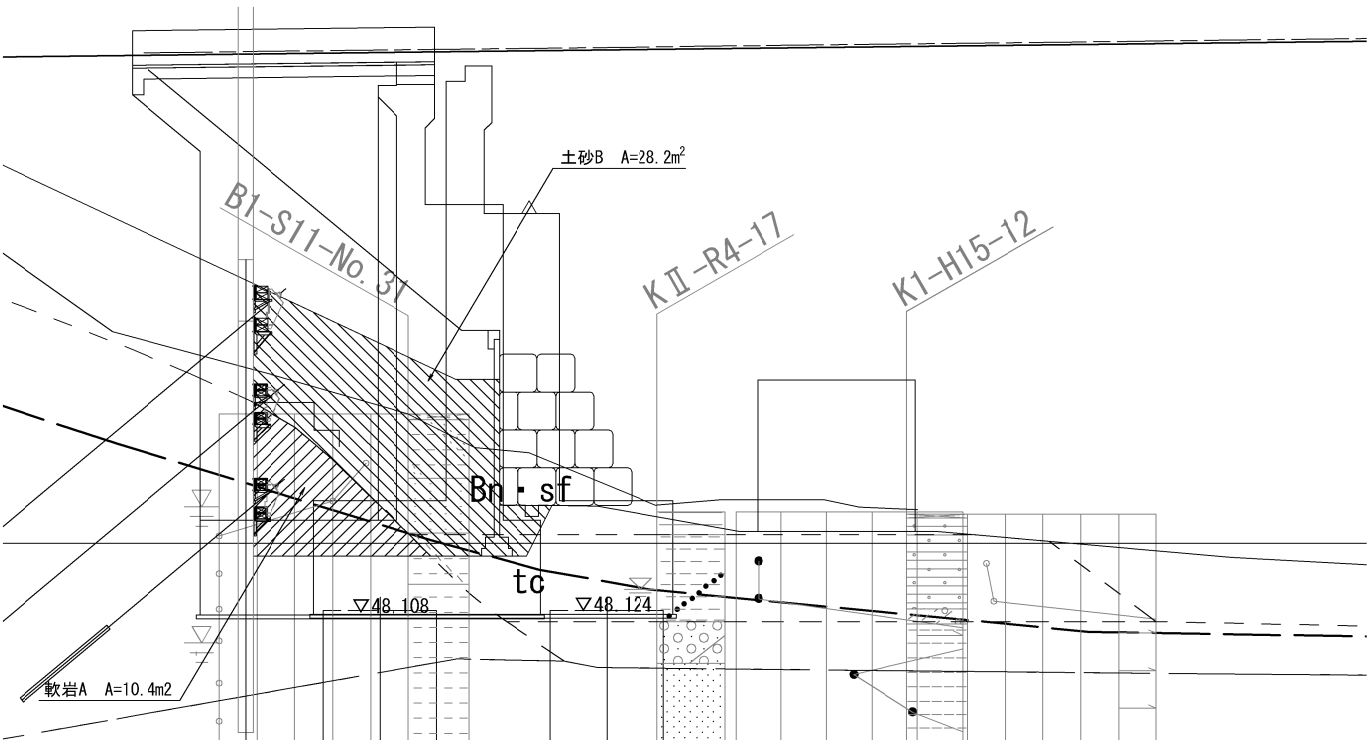
種 別	項 目	単 位	数 量	摘 要
工事用道路工	耐候性大型土のう (設置・撤去)	袋	12.0	

常 盤 自 動 車 道 相 馬 工 事			
図面の種類	かやぐらばし P1大型土のう配置図		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

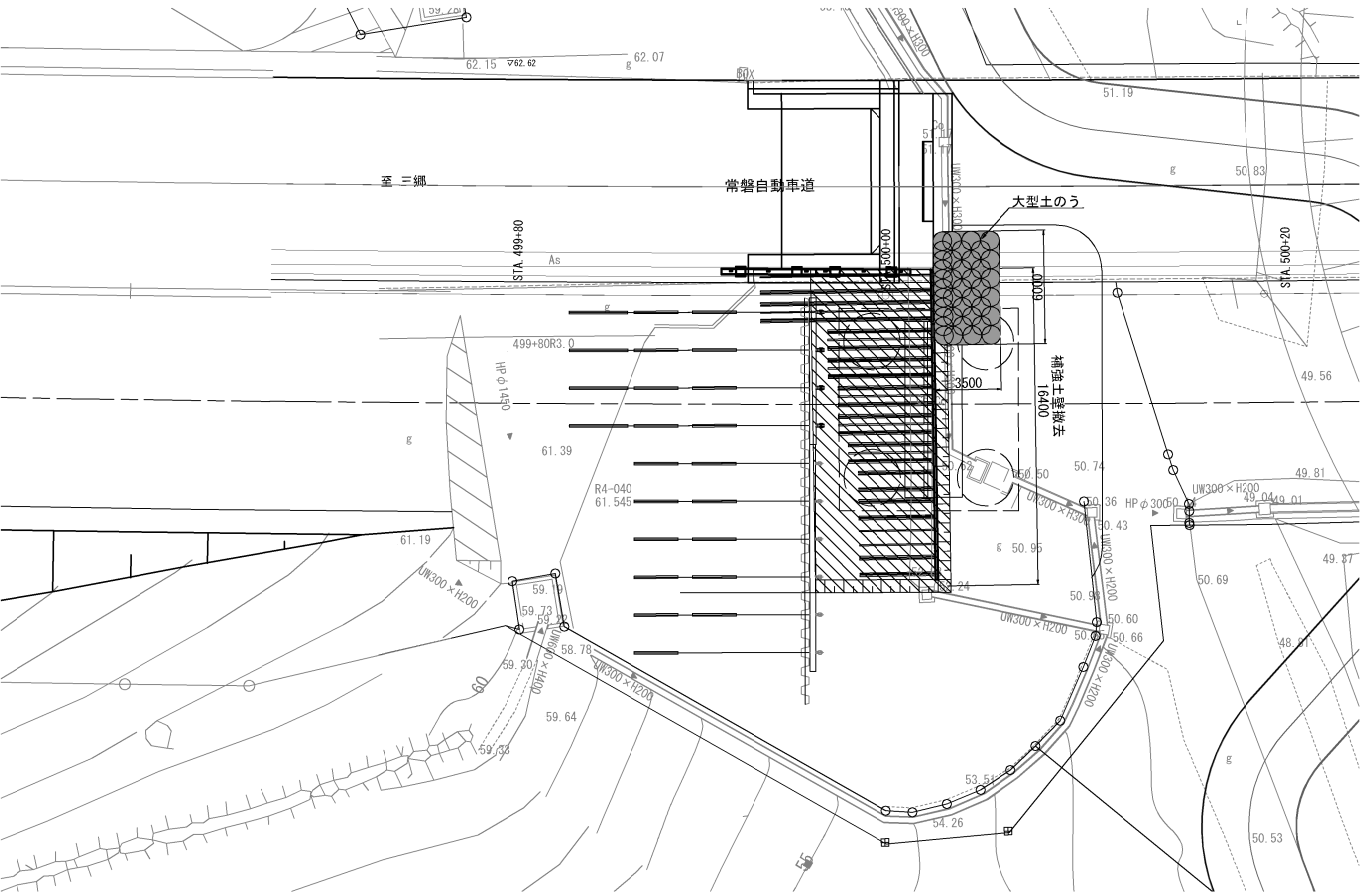
展開図 S=1:200



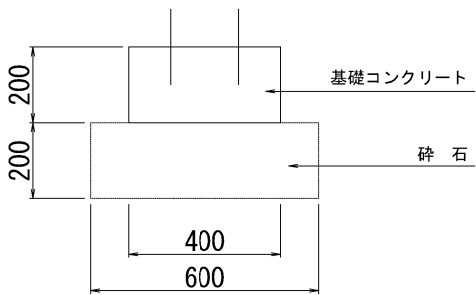
側面図 S=1:200



平面図 S=1:400



コンクリート基礎形状図 S=1:20

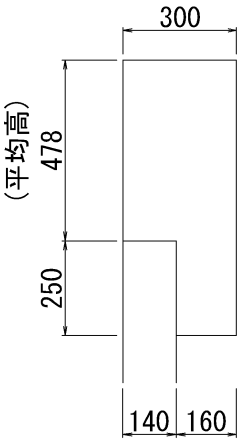


補強土壁撤去工 数量表

項目	区分	単位	数量
補強土壁撤去	撤去面積	m <sup>2</sup>	61.0
	補強材	m	552.0
	かさコンクリート	m <sup>3</sup>	3.0
	基礎コンクリート	m <sup>3</sup>	1.4
	大型土のう	袋	57

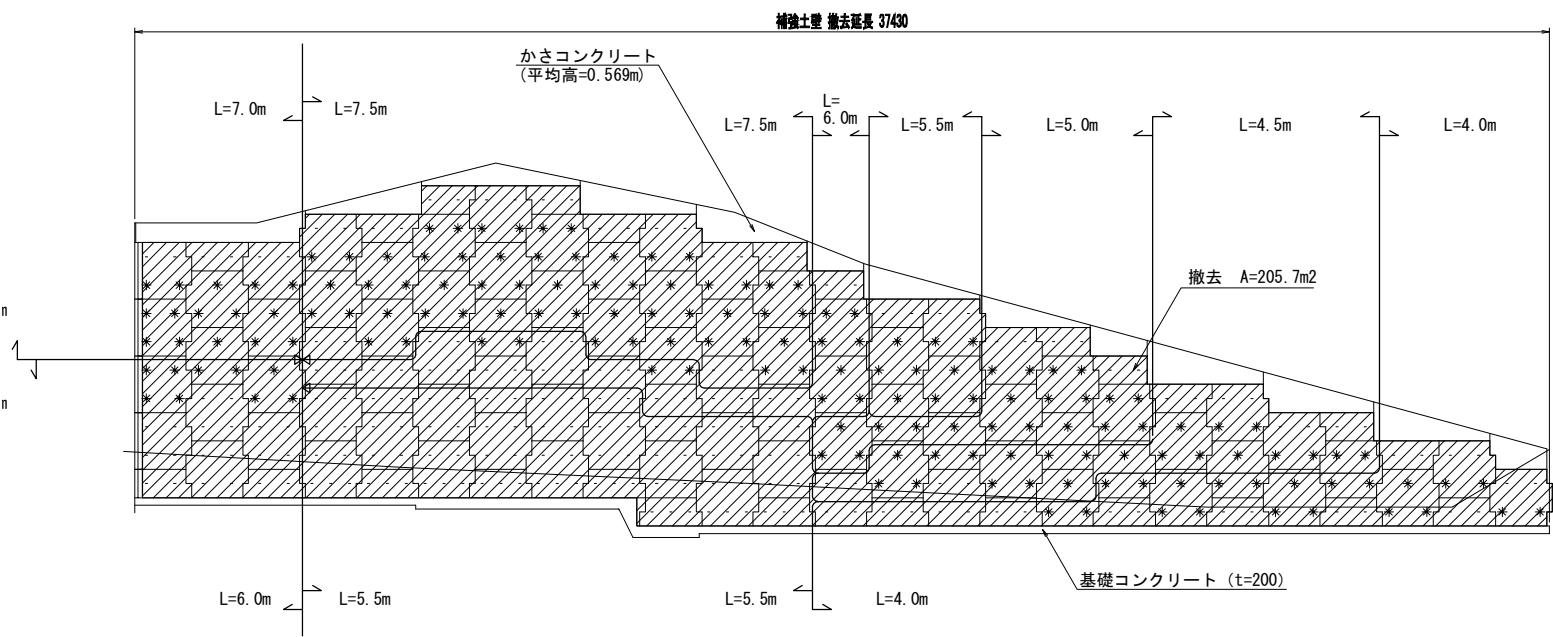
- ・Lは、ストリップの敷設長さを表す。
- ・＊印は、SS400 (80×4.0) の幅広ストリップを表す。他は、SS490A (60×4.0) のストリップを表す。

かさコンクリート形状図 S=1:20

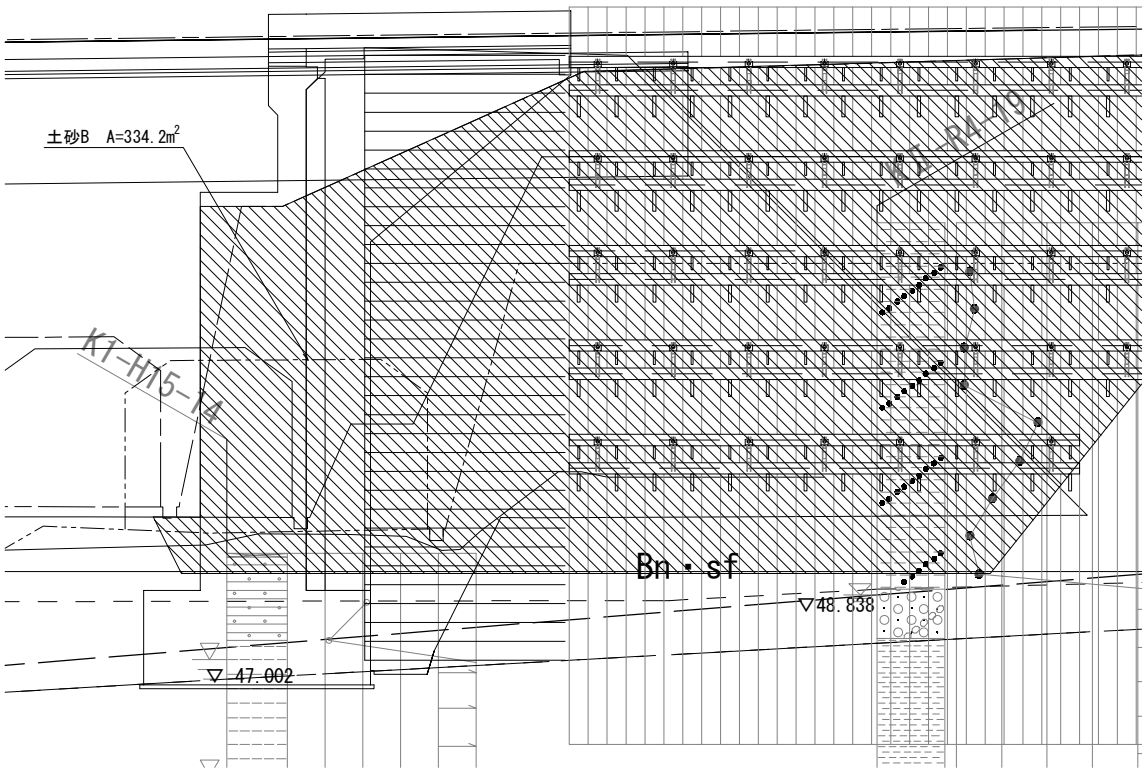


常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A1橋台既設補強土壁撤去図		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工事事務所		

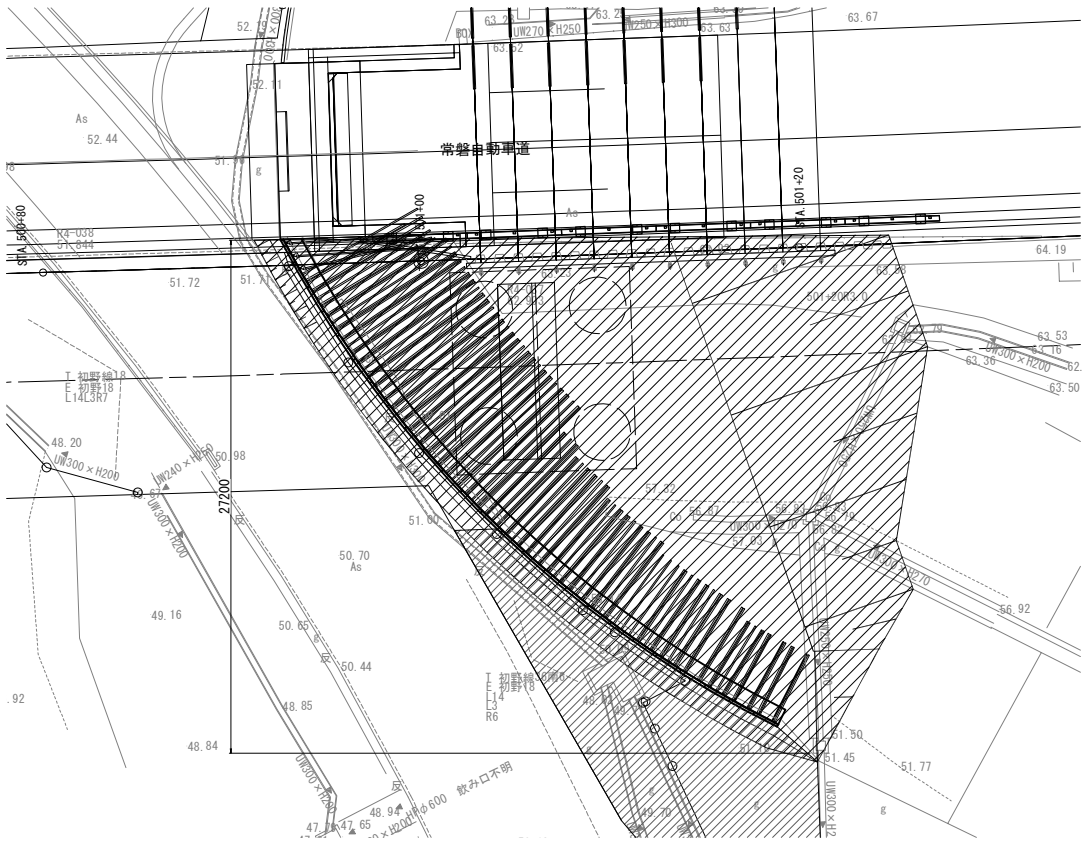
展開図 S=1:200



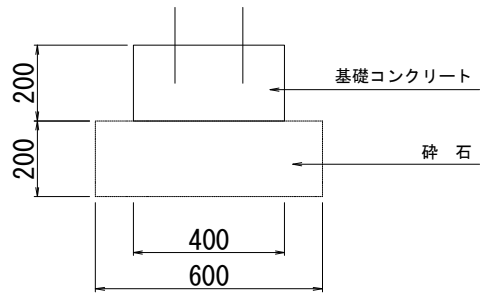
側面図 S=1:200



平面図 S=1:400



コンクリート基礎形状図 S=1:20

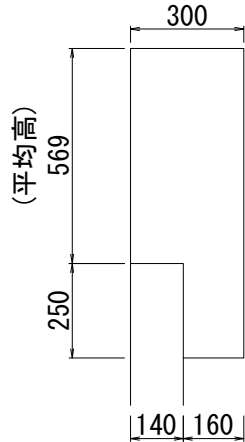


補強土壁撤去工 数量表

項目	区分	単位	数量
補強土壁撤去	撤去面積	m <sup>2</sup>	205.7
	補強材	m	2286.5
	かさコンクリート	m <sup>3</sup>	7.9
	基礎コンクリート	m <sup>2</sup>	3.1

- ・Lは、ストリップの敷設長さを表す。
- ・＊印は、SS400 (80×4.0) の幅広ストリップを表す。他は、SS490A (60×4.0) のストリップを表す。

かさコンクリート形状図 S=1:20



常磐自動車道 相馬工事			
図面の種類	かやぐらばし A2橋台既設補強土壁撤去図		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 東北支社 いわき工務事務所		